

電子フォームワークフローセット システム構築ガイド

解説・手引書

3020-3-N66-20

マニュアルの購入方法

このマニュアル，および関連するマニュアルをご購入の際は，
巻末の「ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内」をご参
照ください。

対象製品

P-2443-A274 電子フォームワークフローセット 07-61 (適用 OS : Windows Server 2003 , Windows Server 2003 R2 , Windows Server 2008 , Windows Server 2008 R2)

P-2643-A974 電子フォームワークフロー ディベロッパセット 07-61 (適用 OS : Windows Vista , Windows XP)

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

商標類

CORBA は、Object Management Group が提唱する分散処理環境アーキテクチャの名称です。

GIF は、米国 CompuServe Inc. が開発したフォーマットの名称です。

GIF は、米国 CompuServe Inc. のサービス名称です。

gzip は、米国 FSF(Free Software Foundation) が配布しているソフトウェアです。

Java は、米国オラクル・コーポレーション及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

JavaScript は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

JDK は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

JSTL は、The Jakarta Project のタグライブラリ名称です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft Internet Information Services は、米国 Microsoft Corp. の商品名称です。

Microsoft SQL Server は、米国 Microsoft Corp. の商品名称です。

MyEclipse は、米国 Genuitec 社の商品名称です。

Oracle は、米国オラクル・コーポレーション及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

Oracle 10g は、米国 Oracle Corporation の商標です。

SQL*Plus は、米国 Oracle Corporation の登録商標です。

Sun, Sun Microsystems は、米国 Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows 7 は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows XP は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Eclipse は、開発ツールプロバイダのオープンコミュニティである Eclipse Foundation, Inc. により構築された開発ツール統合のためのオープンプラットフォームです。

マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

製品名	表記	
Microsoft(R) Internet Information Services 6.0	IIS	
Microsoft(R) SQL Server 2005	SQL Server	
Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional Operating System	Windows 2000 Professional	
Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server Operating System	Windows 2000 Server	
Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate	Windows 7	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition Operating System Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition Operating System	Windows Server 2003	Windows Server 2003
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition Operating System Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition Operating System	Windows Server 2003 R2	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard Operating System Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise Operating System	Windows Server 2008	Windows Server 2008
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard Operating System Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise Operating System	Windows Server 2008 R2	
Microsoft (R) Windows Vista (R) Business Operating System Microsoft (R) Windows Vista (R) Enterprise Operating System Microsoft (R) Windows Vista (R) Ultimate Operating System	Windows Vista	
Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System	Windows XP	

Windows 7 , Windows Server 2003 , Windows Server 2003 R2 , Windows Server 2008 , Windows Server 2008 R2 , Windows Vista および Windows XP を総称して Windows と表記することがあります。

発行

2007年8月(第1版) 3020-3-N66

2010年5月(第3版) 3020-3-N66-20

著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2007, 2010, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容 (3020-3-N66-20) 電子フォームワークフローセット 07-61, 電子フォームワークフロー ディベロッパセット 07-61

追加・変更内容	変更箇所
外字を使用する場合は、構築後に UTF-8 環境に設定することを追記した。	1.3(2)
電子フォームワークフローセットの対応 OS に、Windows Server 2008, および Windows Server 2008 R2 を追加した。	2.1(1)
Web クライアントの対応 OS を変更した。また、Windows 7 を追加した。	2.1(1), 2.2(1), 4.7, 6.2(1)
ソフトウェアおよびデータベースのインストール時に、ファイアウォールの例外リストに登録することを追加した。	3.2, 3.2.1(3), 4.2, 5.2
データベースを Oracle にする場合、Shift_JIS 環境で波記号 (~) を利用するときは、データベース作成時に文字コードとして「JA16SJISTILDE」を指定することを追加した。	3.2.2
HiRDB の簡易セットアップ手順を変更した。	3.4.1
HiRDB にユーザを登録する場合、HiRDB SQL Executer に接続するときに使用する認識別子およびパスワードを記載した。	3.4.2
データベースに HiRDB を使用し、かつパスワード形式を MD5 または SHA-1 に変更した場合のサンプルユーザの登録手順を変更した。	3.4.6(2)
Web システムの構築の流れに、ビジネスプロセス定義を登録することを追加した。	4.6.2
Web システム定義の作成について、文字コードの互換オプションの設定を追加した。	4.6.3(4), 4.6.3(6)
次のコマンドの実行例に、実行結果の詳細を出力する「-verbose オプション」を追加した。 <ul style="list-style-type: none">cmx_build_system コマンドcmx_list_status コマンドcmx_start_target コマンドcmx_stop_target コマンド	4.6.4, 4.6.6(1), 4.6.6(2), 6.9.3(2), 付録 B(1)(a), 付録 B(1)(b), 付録 B(2)
対応するポータルフレームワークのバージョンを 08-01 に変更した。これに伴い、次の説明を追加、変更した。 <ul style="list-style-type: none">ポータル動作ファイルの編集内容に、次の記述をコメントアウトすることを追加した。 jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.uservalue=useridWeb 帳票アプリケーションの属性ファイルの編集例を変更した。	4.6.7(4), 付録 D.4
Windows Vista の場合、Hitachi Business Logic - Container - Script Generator のインストールディレクトリ下の、次のフォルダの場所が異なることを追加した。 <ul style="list-style-type: none">data フォルダoutput フォルダconf フォルダ	5.2, 5.4.1(1), 5.4.1(2)(a), 5.4.1(2)(c), 5.4.2(7)(b), 5.5(1), 5.5(2)(a), 5.5(2)(b)

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

なお、「はじめに」の記載の一部を「このマニュアルの参考情報」に移動しました。

変更内容 (3020-3-N66-11) 電子フォームワークフローセット 07-60, 電子フォームワークフロー ディベロッパセット 07-60

追加・変更内容

システムの構築には、セットアップされた環境が存在しない状態で実施する旨を追加した。

Web クライアントの対応 OS を変更した。

組み込みデータベースの構築, Eclipse のインストールで, マニュアル「Cosminexus アプリケーション開発ガイド」を参照する際は, Cosminexus のインスタントセットアップは使用してはいけない旨を追加した。

使用するデータベースが HiRDB 以外という条件を削除した。

ソフトウェアのインストールについて, プログラム動作確認環境とプログラム開発環境で分類し, インストール順番について追加した。

組み込みデータベースを使用する場合は, インストール作業が不要な旨を追加した。

簡易セットアップツールで障害が発生して回復する場合は, アンセットアップ機能を使用する旨を追加した。

KDLC6241-E のメッセージ, 要因を変更した。

変更内容 (3020-3-N66-10) 電子フォームワークフローセット 07-60, 電子フォームワークフロー ディベロッパセット 07-60

追加・変更内容

「簡易構築」を「簡易セットアップ」に変更した。

対象製品を変更した。

ポータルフレームワーク (uCosminexus Portal Framework) に対応した。

ソフトウェアの一覧を変更した。

SQL Server に対応した。

関連マニュアルのマニュアル体系変更に伴い, 参照先のマニュアル名を変更した。

開発環境で作成した Web 帳票アプリケーションを実行環境にコピーする手順を追加した。

簡易セットアップツールを使用した構築の流れの図を追加した。

LOB 列格納用 RD エリアの追加方法を追加した。

パスワード形式をデフォルトから変更した場合の手順を追加した。

システム管理者の権限を持つユーザを一人以上登録する必要があることを追加した。

アプリケーションサーバの構築に必要なシステム環境変数にシステム環境変数 TZ を追加した。

Management Server 作成時に簡易 Web サーバが自動的に作成されることを追加した。

BLC の設定手順を変更した。

リソースアダプタの変更に対応した。

Smart Composer 機能を使用した Web システムの構築手順を変更した。

追加・変更内容

SecurityManager 定義ファイルの編集手順を追加した。

CSCIWManagementServer アクセス用環境の設定手順を追加した。

セキュリティロールの設定手順を追加および変更した。

展開ディレクトリ形式のデプロイ方法に対応した。

リモート EJB を参照するための設定を追加した。

EUR Form Client のインストール手順を変更した。

かんたん開発機能に対応した。

開発環境で使用するソフトウェアのデフォルトのインストール先を追加した。

アプリケーションサーバの構築手順を変更した。

帳票ジェネレータ (BLSG) で生成したファイルのエンコードを設定する手順を変更した。

バッチファイルの実行方法の注意事項を変更した。

Web アプリケーションの作成手順を変更した。

バージョン 07-60 の簡易セットアップツールに対応した。

サンプルデータの内容および SQL 文の例を変更した。

かんたん帳票のサンプル業務の一覧を追加した。

フィルタリングによる HTTP レスポンスの実装例を変更した。

簡易セットアップ実行時に出力されるメッセージを追加した。

KDLC6008-I, KDLC6009-I, KDLC6086-I, KDLC6087-I, KDLC6088-I, KDLC6089-I, KDLC6090-I, KDLC6091-I, KDLC6092-I, KDLC6093-I, KDLC6094-I, KDLC6095-I, KDLC6096-I, KDLC6097-I, KDLC6098-I, KDLC6099-I, KDLC6100-I, KDLC6104-W, KDLC6105-W, KDLC6121-W, KDLC6122-W, KDLC6123-W, KDLC6124-W, KDLC6125-W, KDLC6126-W, KDLC6127-W, KDLC6128-W, KDLC6129-W, KDLC6130-W, KDLC6131-W, KDLC6220-E, KDLC6241-E, KDLC6242-E, KDLC6243-E, KDLC6244-E, KDLC6245-E, KDLC6246-E, KDLC6247-E, KDLC6248-E, KDLC6249-E, KDLC6250-E, KDLC6251-E, KDLC6252-E, KDLC6253-E, KDLC6254-E, KDLC6502-E, KDLC6503-E, KDLC6601-I, KDLC6602-I, KDLC6603-I, KDLC6604-I, KDLC6605-I, KDLC6606-I, KDLC6607-I, KDLC6608-I, KDLC6609-I, KDLC6610-I, KDLC6611-I, KDLC6612-I, KDLC6613-I, KDLC6614-I, KDLC6615-I, KDLC6616-I, KDLC6617-I, KDLC6618-I, KDLC6619-I, KDLC6620-I, KDLC6621-I, KDLC6622-I, KDLC6623-I, KDLC6624-I, KDLC6625-I, KDLC6626-I, KDLC6627-I, KDLC6628-I, KDLC6629-I, KDLC6630-I, KDLC6631-I, KDLC6632-I, KDLC6633-I, KDLC6634-I, KDLC6635-I, KDLC6636-I, KDLC6637-I, KDLC6638-I, KDLC6639-I, KDLC6640-I, KDLC6641-I, KDLC6642-I, KDLC6643-I, KDLC6644-I, KDLC6645-I, KDLC6646-I, KDLC6647-I, KDLC6648-I, KDLC6649-I, KDLC6650-I, KDLC6651-I, KDLC6652-I, KDLC6653-I, KDLC6654-I, KDLC6655-I

用語を追加および変更した。

バージョン 07-60 では、ログアウトすると自動的にログイン画面が表示されるため、ログアウト後にログイン画面を表示させる方法を削除した。

はじめに

このマニュアルは、次に示す製品を利用した電子フォームワークフローシステムの構築について説明したものです。

- 電子フォームワークフローセット
- 電子フォームワークフロー ディベロッパセット

なお、このマニュアルでは、「電子フォームワークフロー ディベロッパセット」を「ディベロッパセット」と表記します。

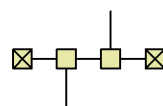
対象読者

電子フォームワークフローセットおよび電子フォームワークフロー ディベロッパセットを利用して、電子フォームワークフローシステムを構築する方を対象としています。また、システムを構成する各プログラムの基本的な知識を持っていることを前提としています。

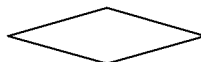
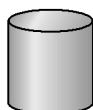
図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を、次のように定義します。

- クライアントマシン
- サーバマシン
- ネットワーク
- バス型のLAN



- データベース
- 処理の開始と終了
- 処理の分岐
- 処理



マニュアルで使用する記号

このマニュアルでは、次に示す記号を使用しています。

記号	意味
[]	メニュー、コマンド、ウィンドウ、ダイアログの名称、ボタン、およびキーボードのキーを示します。 (例) [ファイル]メニュー [OK] ボタン
[A] - [B]	- の前に示した [A] メニューから [B] コマンドを選択することを示します。
「 」	ウィンドウまたはダイアログ中に表示される項目を示します。

はじめに

記号	意味
... (リーダー)	記述が省略されていることを示します。

インストール先の表記

このマニュアルでは、Hitachi Business Logic - Container 2 および Hitachi Business Logic - Container - Script Generator のインストール先を次のように表記しています。

表記	意味
<BLC2のインストールディレクトリ>	Hitachi Business Logic - Container 2 を C ドライブにインストールした場合、デフォルトでは次のようになります。 Windows Server 2008 R2 以外の場合 C:¥Program Files¥HITACHI¥HBPM2 Windows Server 2008 R2 の場合 C:¥Program Files (x86)¥HITACHI¥HBPM2
<BLSGのインストールディレクトリ>	Hitachi Business Logic - Container - Script Generator を C ドライブにインストールした場合、デフォルトでは次のようになります。 C:¥Program Files¥HITACHI¥HBPM¥blsg

パスの表記について

このマニュアルでは、Program Files フォルダのパスを「C:¥Program Files」と表記しています。

Windows Server 2008 R2 の場合は「C:¥Program Files (x86)」と読み替えてください。

目次

1	電子フォームワークフローシステムの構築の概要	1
1.1	このマニュアルで取り上げるシステム	2
1.2	システムに必要なソフトウェア	3
1.3	システム構築の適用範囲と前提条件	6
2	電子フォームワークフローシステムの構成と構築の流れ	9
2.1	電子フォームワークフローセットを利用して構築するシステム	10
2.2	ディベロッパセットを利用して構築するシステム	14
3	データベースサーバの構築	19
3.1	データベースサーバの構築の流れ	20
3.2	データベースのインストール	21
3.2.1	HiRDB のインストール	21
3.2.2	Oracle のインストール	22
3.2.3	SQL Server のインストール	23
3.3	データベースのサービスの起動	24
3.4	HiRDB の設定	25
3.4.1	HiRDB の簡易セットアップ	25
3.4.2	ユーザの登録 (HiRDB)	27
3.4.3	スキーマの作成 (HiRDB)	28
3.4.4	ワーク管理テーブルの作成 (HiRDB)	28
3.4.5	BLC テーブルの作成 (HiRDB)	29
3.4.6	サンプルユーザの登録 (HiRDB)	32
3.5	Oracle の設定	35
3.5.1	Net Configuration Assistant の設定	35
3.5.2	表領域の作成とユーザの登録 (Oracle)	35
3.5.3	ワーク管理テーブルの作成 (Oracle)	36
3.5.4	BLC テーブルの作成 (Oracle)	37
3.5.5	サンプルユーザの登録 (Oracle)	39
3.6	SQL Server の設定	41
3.6.1	セキュリティ構成の設定 (SQL Server)	41
3.6.2	プロトコルの確認 (SQL Server)	41

3.6.3	データベースの設定 (SQL Server)	41
3.6.4	ワーク管理テーブルの作成 (SQL Server)	44
3.6.5	BLC テーブルの作成 (SQL Server)	45
3.6.6	サンプルユーザの登録 (SQL Server)	47

4

	アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定	49
4.1	アプリケーションサーバの構築の流れ	50
4.2	ソフトウェアのインストール	51
4.3	アプリケーションサーバの設定	53
4.3.1	システム環境変数の設定 (アプリケーションサーバ)	53
4.3.2	Management Server の設定	54
4.4	CSCIW のセットアップ	58
4.4.1	システム環境変数の設定 (CSCIW)	58
4.4.2	CSCIW のセットアッププロパティファイルの編集	58
4.4.3	CSCIW のコマンド用環境設定ファイルの編集	59
4.4.4	CSCIW の実行環境の初期化	60
4.5	BLC の設定	62
4.5.1	システム環境変数の確認	62
4.5.2	BLC プロパティファイルの編集	62
4.6	アプリケーションサーバの構築	65
4.6.1	CSCIW の設定	66
4.6.2	Web システムの構築の流れ	66
4.6.3	Web システム定義の作成	67
4.6.4	Web システムの構築	75
4.6.5	SecurityManager 定義ファイルの設定	75
4.6.6	Web システムの一括起動	76
4.6.7	Portal Framework の設定	77
4.6.8	CSCIWManagementServer アクセス用環境の設定	79
4.6.9	Web 帳票アプリケーションのコピー (開発環境から実行環境へのコピー)	79
4.6.10	リソースアダプタの設定	81
4.6.11	CSCIWManagementServer の設定	96
4.6.12	案件運用操作の設定	99
4.6.13	Web 帳票アプリケーションの設定	102
4.7	EUR Form Client のインストール	105
4.8	帳票の登録と確認	106
4.8.1	販売契約稟議 EUR で使用する帳票の登録と確認	106

4.8.2	かんたん帳票のサンプル業務の登録と確認	107
-------	---------------------	-----

5

開発環境の構築		109
5.1	開発環境の構築の流れ	110
5.2	開発環境のインストール	111
5.3	開発環境の設定	114
5.4	Web 帳票アプリケーションの作成	115
5.4.1	サンプル帳票の作成	115
5.4.2	Web 帳票アプリケーション (webSample) の作成	117
5.4.3	EUR Form Service の環境設定ファイルの設定	120
5.4.4	Portal Framework のプロパティファイルのコピー	121
5.5	ビジネスプロセス定義の登録	125
5.6	Web アプリケーションの作成	128
5.6.1	Eclipse の起動と設定	128
5.6.2	Web プロジェクトの作成	128
5.6.3	EAR プロジェクトの作成	136
5.6.4	Web アプリケーションの生成	138
5.7	J2EE サーバの設定	142
5.7.1	Management Server への接続 (開発環境)	142
5.7.2	リソースアダプタの設定 (開発環境)	144
5.7.3	CSCIWManagementServer の設定 (開発環境)	153
5.7.4	案件運用操作の設定 (開発環境)	154
5.7.5	Web 帳票アプリケーションの設定 (開発環境)	156
5.8	業務の開発とテスト	159

6

簡易セットアップツールを利用したシステム構築		161
6.1	簡易セットアップツールの概要	162
6.2	簡易セットアップツールを利用して構築するシステム	164
6.3	ソフトウェアのインストール (簡易セットアップツール)	167
6.4	システム環境変数の設定 (簡易セットアップツール)	169
6.5	簡易セットアップツールの実行とシステムの構築	171
6.5.1	簡易セットアップツールの起動	171
6.5.2	構築するシステムの情報の設定	171
6.5.3	簡易セットアップツール実行後の設定	179
6.6	プログラム動作確認環境の運用	185

6.7	プログラム開発環境の設定	187
6.8	構築したシステムの削除	188
6.9	簡易セットアップツール実行時に発生した障害の対策	194
6.9.1	障害対策の流れ	194
6.9.2	障害要因の特定に必要な情報	196
6.9.3	障害からの回復方法（システム構築時）	198
6.9.4	障害からの回復方法（システム削除時）	201
6.9.5	簡易セットアップメッセージログ	203
6.10	システム移行時の注意事項	205

付録		207
付録 A	BLC のサンプルデータ	208
付録 A.1	ユーザのサンプルデータ	208
付録 A.2	かんたん帳票のサンプル業務	216
付録 A.3	BLC サンプル帳票	217
付録 B	プログラムとサービスの起動順序	219
付録 C	メモリ使用量の測定方法	228
付録 D	システム構築時に使用する属性ファイル	231
付録 D.1	Connector 属性ファイル	231
付録 D.2	CSCIWManagementServer の属性ファイル	245
付録 D.3	案件運用操作の属性ファイル	249
付録 D.4	Web 帳票アプリケーションの属性ファイル	251
付録 E	フィルタリングによる HTTP レスポンスの圧縮	259
付録 F	Portal Framework のリポジトリファイル	264
付録 G	エラーコードの参照先	267
付録 H	簡易セットアップ時に出力されるメッセージ	268
付録 H.1	メッセージの形式	268
付録 H.2	KDLC6001 ~ KDLC6100	268
付録 H.3	KDLC6101 ~ KDLC6200	286
付録 H.4	KDLC6201 ~ KDLC6600	290
付録 H.5	KDLC6601 ~ KDLC6999	302
付録 I	このマニュアルの参考情報	313
付録 I.1	関連マニュアル	313
付録 I.2	このマニュアルでの表記	315
付録 I.3	英略語	316
付録 I.4	常用漢字以外の漢字の使用について	317

付録 I.5 KB (キロバイト) などの単位表記について	317
付録 J 用語解説	318

索引	323
-----------	-----

1

電子フォームワークフロー システムの構築の概要

この章では、電子フォームワークフローシステムの概要、前提ソフトウェア、適用範囲など、電子フォームワークフローシステムを構築する前に理解が必要な内容について説明します。

1.1 このマニュアルで取り上げるシステム

1.2 システムに必要なソフトウェア

1.3 システム構築の適用範囲と前提条件

1.1 このマニュアルで取り上げるシステム

電子フォームワークフローシステムとは、Web 上で使用できる帳票（Web 帳票）のやり取りをワークフローとして実現するシステムです。

電子フォームワークフローセットおよびディベロッパセットでは、電子フォームワークフローシステムの導入に必要なプログラムを組み合わせて提供しています。それぞれのセットの概要を次に示します。

- 電子フォームワークフローセット
電子フォームワークフローの実行環境を構築できます。電子フォームワークフローセットは、小規模システムの導入から利用できます。
- ディベロッパセット
電子フォームワークフローの開発環境を構築できます。ディベロッパセットは、Web 帳票アプリケーションの開発およびテストに利用できます。

このマニュアルでは、これらのセットを利用して、電子フォームワークフローシステムを構築し、サンプルプログラムを実行するまでの手順について説明します。

なお、ディベロッパセットでは、プログラム動作確認環境およびプログラム開発環境を容易に構築できる簡易セットアップツールを提供しています。簡易セットアップツールの概要および利用方法については、「6. 簡易セットアップツールを利用したシステム構築」を参照してください。

1.2 システムに必要なソフトウェア

電子フォームワークフローシステムの構築に必要なソフトウェアを示します。

(1) 構成ソフトウェア

電子フォームワークフローセットおよびディベロッパセットに含まれる構成ソフトウェアを次の表に示します。

表 1-1 構成ソフトウェア一覧

分類	製品名称	電子フォームワークフローセット	ディベロッパセット
電子フォーム基盤	Hitachi Business Logic - Container 2		
	uCosminexus EUR Form Service		
アプリケーションサーバエンジン	uCosminexus Application Server Standard		
	uCosminexus Developer Professional		
ワークフローエンジン	uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow		
ポータルフレームワーク	uCosminexus Portal Framework		
組み込みデータベース	HiRDB Embedded Server Version 8		1
アプリケーション開発ツール	Hitachi Business Logic - Container - Script Generator		
ワークフロー開発ツール	uCosminexus Interactive Workflow Development Plug-in		
電子フォーム開発ツール	EUR Professional Edition		
電子フォームクライアント	uCosminexus EUR Form Client	2	2

(凡例)

：構成ソフトウェアに含まれることを表します。

空欄：構成ソフトウェアに含まれないことを表します。

注 1

uCosminexus Developer Professional に含まれます。

注 2

uCosminexus EUR Form Service に含まれます。

(2) 前提となるデータベース

電子フォームワークフローシステムでは、HiRDB、Oracle、または SQL Server を利用できます。利用できるデータベースを次に示します。

1. 電子フォームワークフローシステムの構築の概要

HiRDB

次に示すデータベースを利用できます。

- HiRDB/Single Server Version 8¹
- HiRDB/Parallel Server Version 8¹
- 組み込みデータベース (HiRDB Embedded Server Version 8)²

Oracle

Oracle10g R2¹を利用できます。

SQL Server

Microsoft(R) SQL Server 2005¹を利用できます。

注 1

電子フォームワークフローセットおよびディベロッパセットとは別に入手する必要があります。

注 2

開発時に利用できるデータベースです。ディベロッパセットを利用する場合、構成ソフトウェアの uCosminexus Developer Professional に含まれます。

(3) 開発時に利用するソフトウェア

アプリケーション開発時に利用するソフトウェアを示します。

対話型 SQL 実行ユーティリティ

HiRDB SQL Executer (データベースに HiRDB を利用する場合)¹

Oracle SQL*Plus (データベースに Oracle を利用する場合)²

sqlcmd ユティリティ (データベースに SQL Server を利用する場合)²

JDBC ドライバ

HiRDB Type4 JDBC Driver (データベースに HiRDB を利用する場合)¹

Oracle JDBC Thin Driver (データベースに Oracle を利用する場合)²

Microsoft SQL Server 2005 JDBC Driver (データベースに SQL Server を利用する場合)²

プログラム開発ツール

Eclipse および MyEclipse を利用する場合、次のソフトウェアが必要になります。

- Eclipse Platform²
- Eclipse Java Development Tools²
- MyEclipse for Cosminexus¹

注 1

ディベロッパセットを利用する場合、構成ソフトウェアの uCosminexus Developer

Professional に含まれます。

注 2

電子フォームワークフローセットおよびディベロッパセットとは別に入手する必要があります。

1.3 システム構築の適用範囲と前提条件

電子フォームワークフローシステムの適用範囲および前提条件について説明します。

(1) システム構築の適用範囲

このマニュアルでは、電子フォームワークフローシステムを構築し、サンプルプログラム「販売契約稟議 EUR」を実行する手順について説明します。このマニュアルに記載されたシステムを構築する場合は、「(2) システム構築の前提条件」の条件を満たす必要があります。

ただし、システムの規模や運用形態によって、設定の変更が必要になります。個々のシステムで適用範囲を検討してから、必要に応じて各種設定を変更してください。

(2) システム構築の前提条件

電子フォームワークフローシステムを構築するときの前提条件を示します。

システムのホスト名

電子フォームワークフローシステムでは、ホスト名に「_ (アンダーバー)」を含めないでください。

JSP ファイルの文字コード体系

システムで利用する JSP ファイルの文字コードは Shift_JIS です。BLC では、次のように設定されています。

```
<%@ page contentType="text/html; charset=Shift_JIS"
pageEncoding="Shift_JIS" %>
```

ブラウザの表示に UTF-8 を使用する場合は、BLC で別途設定が必要です。設定方法については、マニュアル「Hitachi Business Logic - Container 2」を参照してください。

また、外字を使用する場合は、構築後に UTF-8 環境に設定してください。

データベースサーバ

HiRDB の構築手順は、HiRDB/Single Server Version 8 および組み込みデータベースを使用するものとして説明します。

Oracle の構築手順は、Oracle 10g を使用するものとして説明します。

SQL Server の構築手順は、Microsoft(R) SQL Server 2005 を使用するものとして説明します。

開発環境での EUR Form 帳票格納フォルダの指定

EUR Form 帳票格納フォルダは、EUR Form Service のプロパティファイル（環境設定ファイル）に相対パスで指定するものとして説明します。

ただし、ServletConfig オブジェクトを取得できない場所で EUR Form Service を初期化する場合は、EUR Form 帳票格納フォルダを絶対パスで指定してください。

(例) ServletConfig オブジェクトを取得できない場合

- BLSG で指定したユーザ定義クラス内の処理である場合
- EUR Form Service の初期化性能向上のためにイベントリスナ機能を使用する場合

EUR Form 帳票格納フォルダを相対パスで指定する場合、大量の EUR Form 帳票が Web アプリケーションに含まれていると、Web アプリケーションのサイズが大きくなりデプロイに失敗することがあります。大量の EUR Form 帳票を Web アプリケーションに含める場合は、EUR Form 帳票格納フォルダを絶対パスで指定してください。

EUR Form 帳票格納フォルダを絶対パスで指定する場合は、マニュアル「電子フォームシステム EUR Form uCosminexus EUR Form サーバプログラム開発」の EFormService クラスに関する内容を参照してください。また、EUR Form Service の初期化性能を向上するためにイベントリスナ機能を使用する場合、マニュアル「電子フォームシステム EUR Form uCosminexus EUR Form サーバプログラム開発」の業務アプリケーションを運用するときの注意に関する内容を参照してください。

2

電子フォームワークフローシステムの構成と構築の流れ

この章では、電子フォームワークフローのセット別に、システム構成例とシステム構築の流れについて説明します。なお、システム構築は、以下のようなセットアップ機能によってセットアップされた環境が存在しない状態で実施してください。

- ・ Cosminexus のインスタントセットアップ機能
- ・ Cosminexus のセットアップウィザードを使用したシステムのセットアップ機能

これらの機能でセットアップ済みの環境の場合は、各機能のアンセットアップで環境を削除しておく必要があります。

2.1 電子フォームワークフローセットを利用して構築するシステム

2.2 ディベロッパセットを利用して構築するシステム

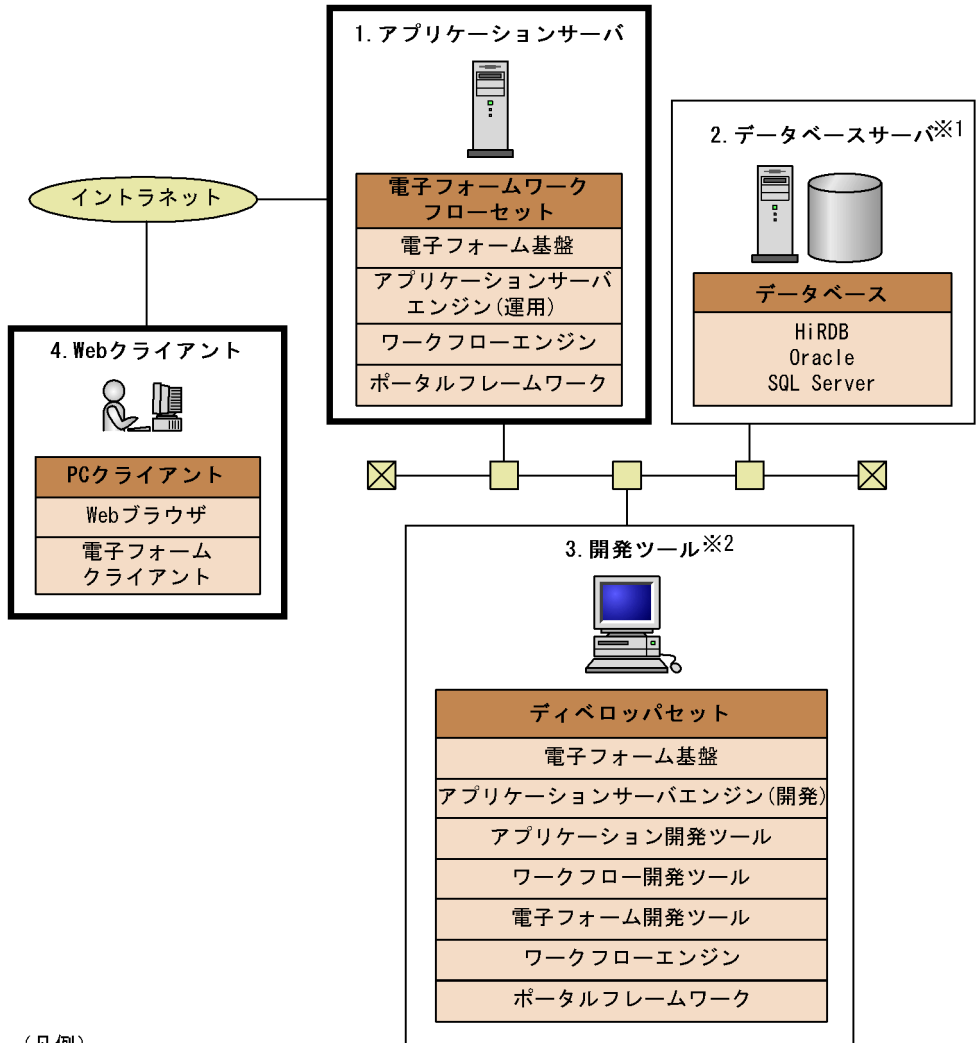
2.1 電子フォームワークフローセットを利用して構築するシステム

電子フォームワークフローセットは、電子フォームワークフローシステムの実行環境を構築できます。ここでは、電子フォームワークフローセットを利用して構築する場合のシステムの構成、およびシステム構築の流れを説明します。

(1) システム構成

電子フォームワークフローセットで構築するシステムの構成について説明します。ここでは、アプリケーションサーバが1台の場合を例に説明します。

図 2-1 システム構成例 (電子フォームワークフローセット)



(凡例)

: 電子フォームワークフローセットに含まれています。

注※1 電子フォームワークフローセットとは別に入手する必要があります。

注※2 Web帳票アプリケーションの開発時に必要です。

各マシンに必要なソフトウェアの分類を次に示します。なお、表中の項番は、図中の番号に対応しています。

2. 電子フォームワークフローシステムの構成と構築の流れ

表 2-1 ソフトウェアの分類 (電子フォームワークフローセット)

項番	マシンの役割	対応 OS	ソフトウェア	
			大分類	小分類
1	アプリケーションサーバ	<ul style="list-style-type: none"> Windows Server 2003 Windows Server 2003 R2 Windows Server 2008 Windows Server 2008 R2 	電子フォームワークフローセット	電子フォームワークフローセットに含まれるソフトウェア (「1.2(1) 構成ソフトウェア」を参照してください。)
2	データベースサーバ	使用しているデータベースに対応する OS	データベース	HiRDB Oracle SQL Server
3	開発ツール	<ul style="list-style-type: none"> Windows XP Windows Vista 	ディベロッパセット	ディベロッパセットに含まれるソフトウェア (「1.2(1) 構成ソフトウェア」を参照してください。)
4	Web クライアント	<ul style="list-style-type: none"> Windows XP Windows Vista Windows 7 	PC クライアント	<ul style="list-style-type: none"> Web ブラウザ EUR Form Client

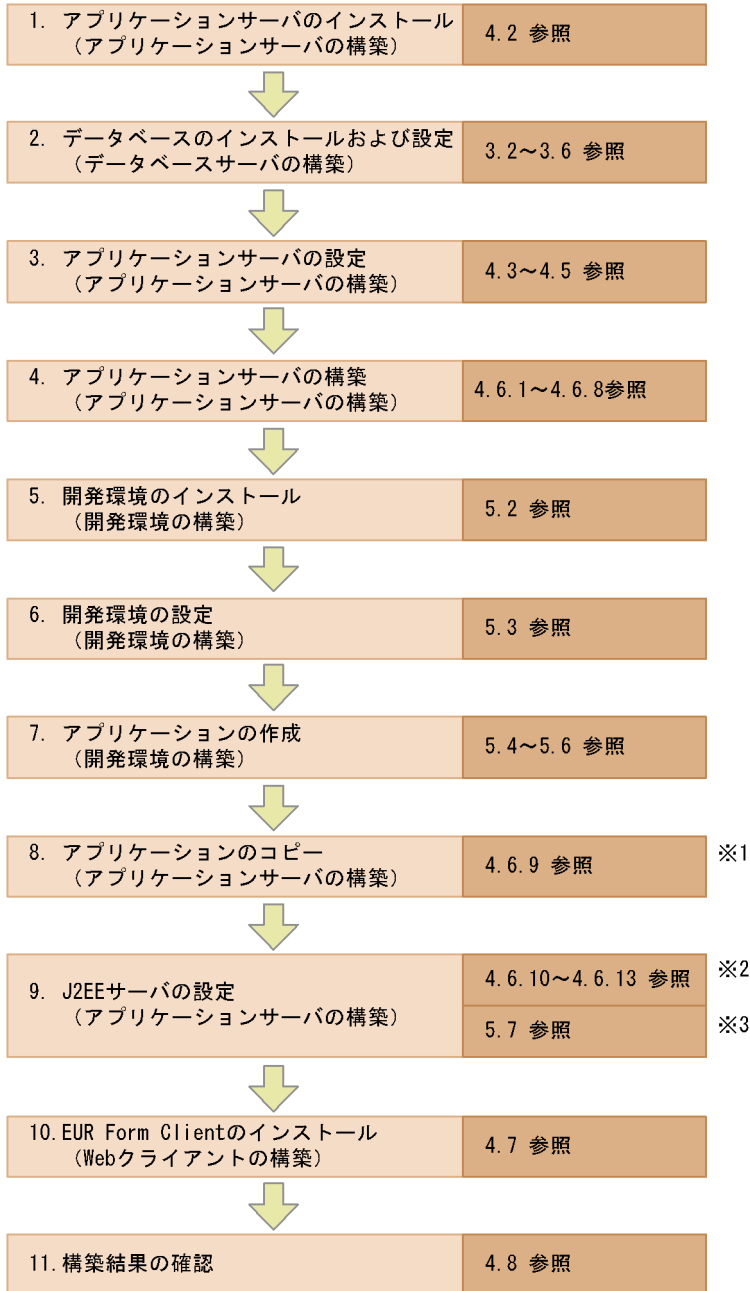
注

HiRDB, Oracle, および SQL Server は別に入手する必要があります。

(2) システム構築の流れ

電子フォームワークフローセットを利用する場合のシステム構築の流れを次に示します。

図 2-2 システム構築の流れ (電子フォームワークフローセット)



注※1 アプリケーションは、開発環境（開発クライアント）で作成済みであることを前提としています。

注※2 コマンドを使用して設定する場合の参照先

注※3 Server Plug-inを使用して設定する場合の参照先

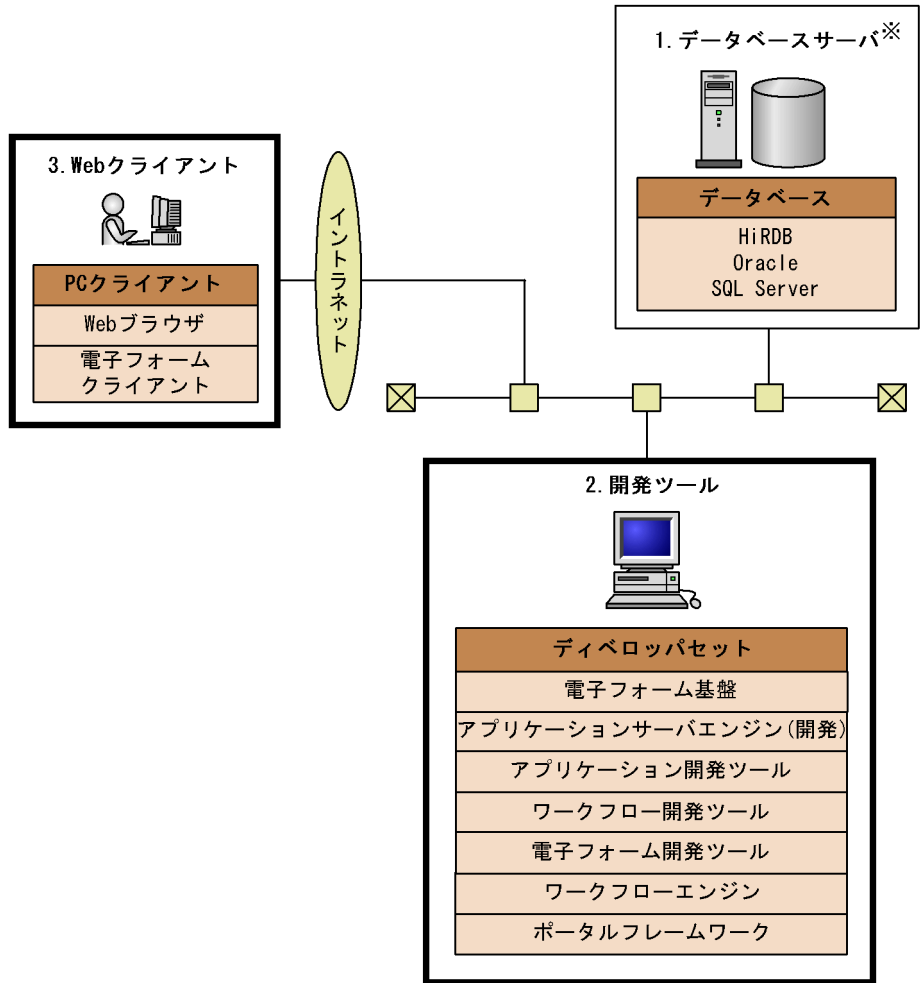
2.2 ディベロッパセットを利用して構築するシステム

ディベロッパセットでは、Web 帳票アプリケーションの開発 / テストで使用するシステムを構築できます。ここでは、ディベロッパセットを利用して構築するシステムの構成、およびシステム構築の流れを説明します。

(1) システム構成

ディベロッパセットで構築するシステムの構成について説明します。ここでは、開発用のマシンと、データベースをインストールするマシンを分けた場合を例に説明します。

図 2-3 システム構成例（ディベロッパセット）



(凡例)



: ディベロッパセットに含まれています。

注※ ディベロッパセットとは別に入手する必要があります。

各マシンに必要なソフトウェアの分類を次に示します。なお、表中の項番は、図中の番号に対応しています。

表 2-2 ソフトウェアの分類（ディベロッパセット）

項番	マシンの役割	対応 OS	ソフトウェア	
			大分類	小分類
1	データベースサーバ	使用しているデータベースに対応する OS	データベース	HiRDB Oracle SQL Server

2. 電子フォームワークフローシステムの構成と構築の流れ

項番	マシンの役割	対応 OS	ソフトウェア	
			大分類	小分類
2	開発ツール	<ul style="list-style-type: none"> Windows XP Windows Vista 	ディベロッパセット	ディベロッパセットに含まれるソフトウェア (「1.2(1) 構成ソフトウェア」を参照してください。)
3	Web クライアント	<ul style="list-style-type: none"> Windows XP Windows Vista Windows 7 	PC クライアント	<ul style="list-style-type: none"> Web ブラウザ EUR Form Client

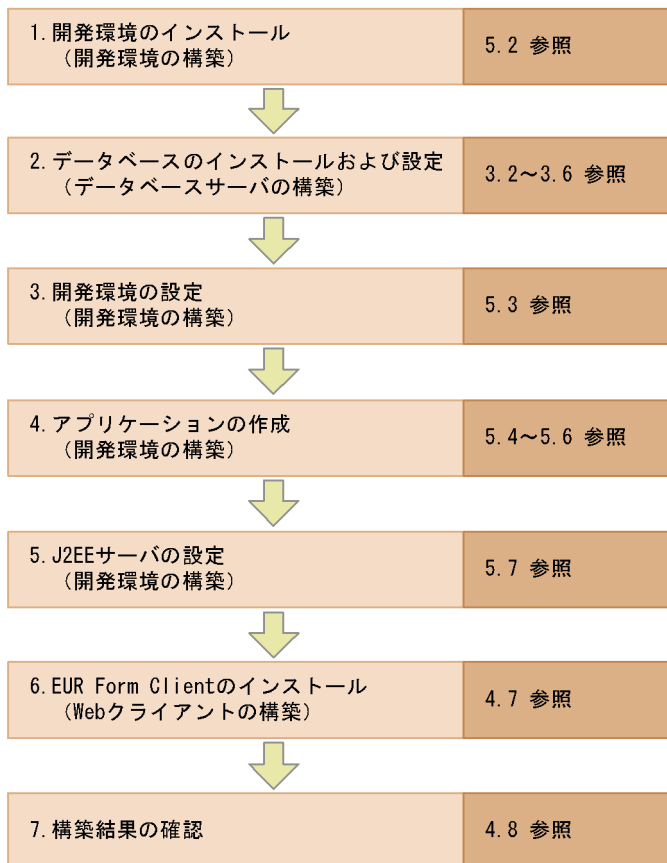
注

HiRDB, Oracle, および SQL Server は別に入手する必要があります。

(2) システム構築の流れ

ディベロッパセットを利用する場合のシステム構築の流れを次に示します。

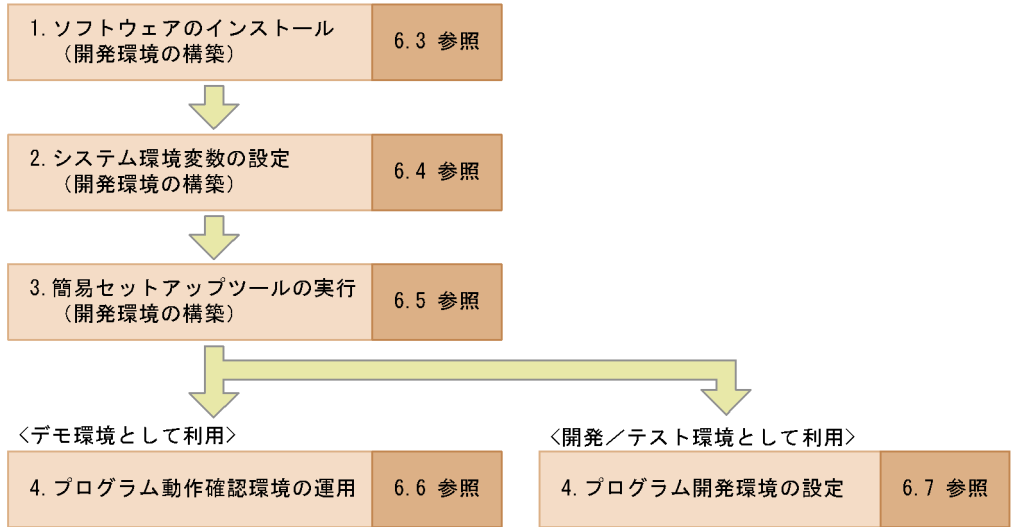
図 2-4 システム構築の流れ (ディベロッパセット)



データベースとして組み込みデータベースを使用する場合で、かつ1台のサーバで開発

環境を構成する場合は、簡易セットアップツールを使用できます。簡易セットアップツールを利用したシステム構築の流れを次に示します。簡易セットアップツールを使用した構築の詳細は、「6. 簡易セットアップツールを利用したシステム構築」を参照してください。

図 2-5 システム構築の流れ（簡易セットアップツール）



3

データベースサーバの構築

電子フォームワークフローシステムでは、HiRDB、Oracle、または SQL Server をインストールしたデータベースサーバでデータを管理します。

この章では、データベースサーバを構築する手順について説明します。

3.1 データベースサーバの構築の流れ

3.2 データベースのインストール

3.3 データベースのサービスの起動

3.4 HiRDB の設定

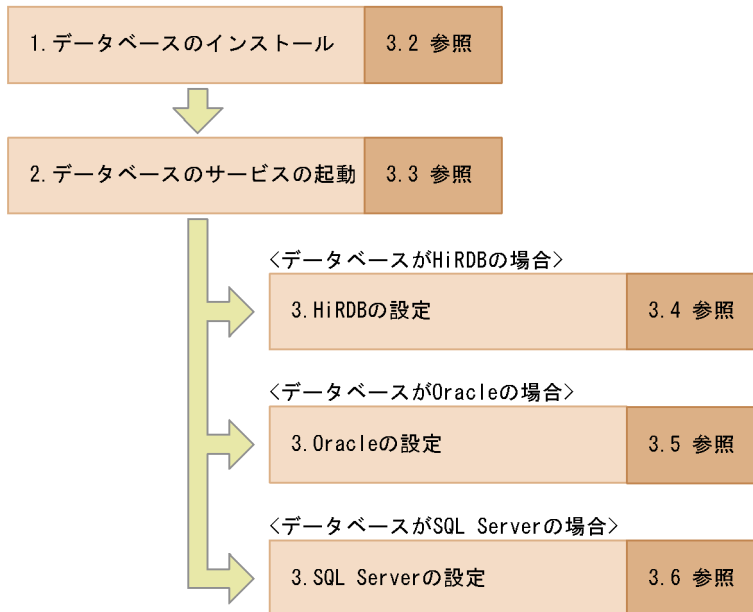
3.5 Oracle の設定

3.6 SQL Server の設定

3.1 データベースサーバの構築の流れ

電子フォームワークフローシステムを構成するデータベースサーバの構築の流れを次に示します。

図 3-1 データベースサーバの構築の流れ



この図に示した流れに沿って、データベースサーバの構築手順を説明します。

3.2 データベースのインストール

HiRDB, Oracle, および SQL Server の場合に分けて, データベースをインストールする手順を説明します。

なお, 次の場合は該当のデータベース製品のマニュアルを参照して, ファイアウォールの例外リストに必要なプログラムを登録してください。

- アプリケーションサーバとデータベースサーバを別マシンで構築し, かつデータベースサーバの Windows のファイアウォールを有効にしている場合

3.2.1 HiRDB のインストール

HiRDB (HiRDB/Single Server) および HiRDB SQL Executer をインストールします。組み込みデータベースを使用する場合, HiRDB/Single Server のインストールの説明は読み飛ばしてください。

なお, このマニュアルではインストールディレクトリはデフォルトを使用しています。また, システムドライブを C ドライブとして説明しています。

(1) インストール前の準備

タイムゾーンを示すシステム環境変数 TZ に JST-9 を追加します。

操作手順

1. [マイコンピュータ] を右クリックし, [プロパティ] を選択します。
[システムのプロパティ] ダイアログが表示されます。
2. [詳細設定] タブの [環境変数] ボタンをクリックします。
[環境変数] ダイアログが表示されます。
3. 「システム環境変数」で, [新規] ボタンをクリックし, 次のシステム変数を追加します。
変数名: TZ
変数値: JST-9
4. [OK] ボタンをクリックします。
システム環境変数 TZ が追加されます。

(2) HiRDB/Single Server のインストール

すべての Windows アプリケーションを終了し, HiRDB/Single Server をインストールします。

HiRDB/Single Server は, インストーラの指示に従ってインストールしてください。「TZ が設定されています」というメッセージが表示されたら, [OK] ボタンをクリック

3. データベースサーバの構築

してください。「TZ が設定されていません」というメッセージが表示されたら、システム環境変数 TZ に JST-9 を設定してください。

インストール完了後、マシンを再起動してください。

(3) HiRDB SQL Executer のインストール

HiRDB SQL Executer をインストールします。HiRDB SQL Executer は、HiRDB の設定、操作をする SQL 文の実行に使用します。

組み込みデータベースを使用する場合には、uCosminexus Developer Professional をインストールしたあとに、<Cosminexus のインストールディレクトリ>¥DB¥utility¥Executer からインストールしてください。

HiRDB SQL Executer は、インストーラの指示に従ってインストールしてください。ファイル上書きの確認メッセージが何回か表示されます。現在使用しているファイルのバージョンの方が新しい場合は、[いいえ] ボタンをクリックしてください。

注意事項

インストール時に Windows のファイアウォールへの登録を選択する画面が表示された場合は、「例外リストに登録する」を選択してください。

(4) システム環境変数 Path の確認

次の手順で、システム環境変数 Path が正しく設定されているか確認します。

操作手順

1. [マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
[システムのプロパティ] ダイアログが表示されます。
2. [詳細設定] タブの [環境変数] ボタンをクリックします。
[環境変数] ダイアログが表示されます。
3. 「システム環境変数」で [編集] ボタンをクリックします。
システム環境変数 Path に次の変数値が追加されているかどうかを確認してください。
変数名：Path
変数値：C:¥win32app¥hitachi¥hirdb_s¥CLIENT¥UTL
追加されていない場合は、手動で追加してください。

3.2.2 Oracle のインストール

データベースを Oracle にする場合、Oracle のマニュアルに従ってインストールしてください。なお、このマニュアルではインストールディレクトリはデフォルトを使用しています。また、システムドライブを C ドライブとしています。

このマニュアルで前提とするデータベースの設定情報を示します。

- グローバルデータベース名：BLCDB
- SID：BLCDB

注意事項

Shift_JIS 環境で波記号（～）を利用する場合は、データベース作成時に文字コードとして「JA16SJISTILDE」を指定してください。

3.2.3 SQL Server のインストール

データベースを SQL Server にする場合、SQL Server のマニュアルに従ってインストールしてください。なお、このマニュアルではインストールディレクトリはデフォルトを使用しています。また、システムドライブを C ドライブとしています。

このマニュアルで前提とするデータベースの設定情報を示します。

- インスタンス名：MSSQLSERVER（既定のインスタンス）
- 認証モード：混合モード

3.3 データベースのサービスの起動

データベースの設定をする前に、サービスが起動されているか確認します。サービスが起動されていない場合は、起動します。

操作手順

1. [スタート] - [コントロールパネル] を選択し、[管理ツール] にある [サービス] をクリックします。

[サービス] ウィンドウが表示されます。

デスクトップ上にサービスのショートカットを作成しておくと、[サービス] ウィンドウの表示がすばやくできます。

2. 使用しているデータベースのサービスが起動されているか確認します。

HiRDB の場合

次に示すサービスの状態が「開始」になっているかを確認してください。

- ・ HiRDB/SingleServer

組み込みデータベースの場合は、「HiRDB/EmbeddedEdition_CS0」です。

Oracle の場合

次に示すサービスの状態が「開始」になっているかを確認してください。

- ・ OracleOraDb10g_home1TNSListener

- ・ OracleServiceBLCDB

SQL Server の場合

次に示すサービスの状態が「開始」になっているかを確認してください。

- ・ SQL Server (MSSQLSERVER)

注 既定のインスタンスのインスタンス名です。

3. サービスが起動されていない場合、該当するサービスを右クリックして、「開始」を選択します。

状態が「開始」となり、サービスが起動されます。

3.4 HiRDB の設定

HiRDB を使用する場合のデータベースの設定について説明します。

組み込みデータベースを使用する場合の注意

組み込みデータベースを使用する場合の注意事項を示します。

- 組み込みデータベースの構築方法と操作方法については、マニュアル「Cosminexus アプリケーション開発ガイド」に記載されています。このマニュアルと合わせて参照してください。ただし、マニュアル「Cosminexus アプリケーション開発ガイド」にあるインスタントセットアップは使用しないでください。
- 構築時に組み込みデータベース用の設定ファイルでデータベースの領域サイズを "L" に指定すると、領域サイズは約 660MB になります。「3.4.1 HiRDB の簡易セットアップ」で指定する "大規模" とは対応しません。
- 作成するワークフローの内容によっては、RD エリアの空き領域が足りなくなる場合があります。必要に応じて、RD エリアを追加してください。RD エリアの追加については、マニュアル「Cosminexus アプリケーション開発ガイド」を参照してください。
- データベースの文字コードとして UTF-8 を使用する場合は、マニュアル「スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)」を参考に設定してください。

3.4.1 HiRDB の簡易セットアップ

HiRDB の簡易セットアップツールを使用して、HiRDB の設定をします。HiRDB の簡易セットアップツールでは、HiRDB ファイルシステム領域の作成、HiRDB システムファイルの作成、RD エリアの作成などができます。

注意事項

組み込みデータベースを使用する場合の構築方法は、マニュアル「Cosminexus アプリケーション開発ガイド」を参照して実行してください。

このマニュアルでは、簡易セットアップで環境定義をしていますが、システムに合わせて環境定義の詳細を検討してください。環境定義の詳細については、マニュアル「スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 UAP 開発ガイド」を参照してください。

操作手順

1. 「C:\win32app\hitachi\hirdb_s\PDISTUP\bin\pdistup.exe」をダブルクリックします。
組み込みデータベースの場合は、「<Cosminexus のインストールディレクトリ>\DB\PDISTUP\bin\pdistup.exe」になります。

3. データベースサーバの構築

[HiRDB セットアップツール - 開始] ウィンドウが表示されます。

2. 「セットアップ種別」で [カスタムセットアップ] ラジオボタンを選択し、次の項目の設定内容を確認してから、[次へ] ボタンをクリックします。

項目名	設定値
運用ディレクトリ	C:\win32app\hitachi\hirdb_s
セットアップディレクトリ	C:\win32app\hitachi\hirdb_s\area

3. 「HiRDB の規模」で [大規模] ラジオボタンを選択し、[サンプルデータベースの作成] チェックボックスのチェックを外します。

4. 次の項目の設定内容を確認します。

項目名	設定値
システムファイル格納先	C:\win32app\hitachi\hirdb_s\area
RD エリア格納先	C:\win32app\hitachi\hirdb_s\area

5. [詳細定義] ボタンをクリックします。

[HiRDB セットアップツール - 詳細定義 (セットアップ)] ウィンドウが表示されます。

6. 「pd_max_users」の値を設定します。

「pd_max_users」には、リソースアダプタのコネクションプール数などを考慮し、適切な値を設定してください。

なお、「pd_max_users」の値を大きくした場合（ユーザ数が増えた場合）の注意事項については、マニュアル「スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム定義 (Windows(R) 用)」を参照してください。

7. 「pd_mode_conf」の値を「AUTO」に変更します。

8. メニューから [ファイル] - [システム定義のチェック] を実行します。

システム定義チェック結果に次のメッセージが表示された場合は、[HiRDB セットアップツール - 詳細定義 (セットアップ)] ウィンドウを閉じてください。

KFPS05007-I System definition check ended. return code = 0

エラーが発生した場合は、メッセージに従って修正してから、再度システム定義のチェックを実行してください。

9. [セットアップ開始] ボタンをクリックします。

- 初めて実行する場合は、次のメッセージが表示されます。

「指定されたセットアップ先ディレクトリは存在しません。 < システムエリア > ディレクトリを作成しますか？」

[はい] ボタンをクリックしてください。

- 2 回目以降に実行した場合は、次のメッセージが表示されます。

「セットアップ先の HiRDB 環境にはシステム定義ファイルが存在します。既存ファ

イルのバックアップを作成しますか？」

既存ファイルのバックアップを作成する場合は [はい] ボタン, 作成しない場合は [いいえ] ボタンをクリックしてください。

- 次のメッセージが表示された場合は, [OK] ボタンをクリックしてください。
「HiRDB セットアップ処理を開始します。」

3.4.2 ユーザの登録 (HiRDB)

HiRDB SQL Executer を使用してユーザを登録します。また, 登録したユーザを通常使用するように設定します。

次の手順では, 認可識別子を「BLC」, パスワードを「BLC」として登録しています。

操作手順

1. [スタート] - [プログラム] - [HiRDB SQL Executer] - [GUI 版 HiRDB SQL Executer] を選択します。
[CONNECT] ダイアログが表示されます。
2. DBA 権限を持つ次の認可識別子で接続します。
 - 認可識別子
"root"
 - パスワード
"root"
3. [SQL 入力] ウィンドウに次のように SQL 文を入力して, [操作] - [SQL 実行] をクリックします。

```
GRANT DBA TO BLC IDENTIFIED BY BLC;
```

ユーザが登録されると「KFPX27001-I Processing of SQL completed」と表示されま
す。

4. SQL 実行後, HiRDB SQL Executer を終了します。
5. 「C:\WINDOWS\HiRDB.ini」¹ をテキストエディタで開き, 次のように変更します。

```
PDHOST= (DBホスト名)  
PDUSER=BLC/BLC  
PDNAMEPORT=222002
```

注 1 組み込みデータベースの場合は, 「<Cosminexus のインストールディレクトリ>\¥DB¥pdistup¥ini¥HiRDB.ini」になります。

注 2 Windows のデフォルト値です。

以降は, 作成したユーザを使用して HiRDB SQL Executer からデータベースに接続してください。

3.4.3 スキーマの作成 (HiRDB)

スキーマを新規に作成します。

操作手順

1. HiRDB SQL Executer を起動して、「BLC」ユーザで接続します。
2. [SQL 入力] ウィンドウに次のように SQL 文を入力して、[操作] - [SQL 実行] をクリックします。

```
CREATE SCHEMA;
```

スキーマが作成されると「KFPX27001-I Processing of SQL completed」と表示されます。

3. 実行後、HiRDB SQL Executer を終了します。

3.4.4 ワーク管理テーブルの作成 (HiRDB)

ワーク管理データベースにワーク管理テーブルを作成します。ワーク管理テーブルやインデクスは、次に示す SQL スクリプトファイルを編集して作成します。

<CSCIW のインストールディレクトリ>/sql/createtable_hirdb.sql

次の手順では、ワーク管理データベースに接続するための認可識別子を「BLC」としています。

操作手順

1. SQL スクリプトファイルを任意のディレクトリにコピーして、コピーしたファイルをテキストエディタで編集します。
編集する内容を次に示します。

表 3-1 SQL スクリプトファイルの変更内容 (HiRDB)

項番	変更前	変更後	説明
1	<SYSTEMID>	BLC	CSCIW のシステム ID を指定します。
2	<RDDATA>	RDDATA10	RD エリア名を指定します。
3	<RDINDEX>	RDINDEX10	RD エリア名を指定します。

ワーク管理テーブルごとに格納先の RD エリアを変えて指定するなど、格納する RD エリアをカスタマイズできます。RD エリアの指定方法については、マニュアル「スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 SQL リファレンス」を参照してください。

2. HiRDB SQL Executer を起動して、ユーザ「BLC」で接続します。
3. [ファイル] メニューから [ファイルから実行] を選択します。
4. 編集した SQL スクリプトファイルを選択して、[OK] ボタンをクリックします。

認可識別子の設定について

このマニュアルでは、ワーク管理データベースのテーブルやインデックスを作成した認可識別子と、Web 帳票アプリケーションがアクセスするための認可識別子が同じであることを前提としています。認可識別子が異なる場合、Web 帳票アプリケーションがアクセスするための認可識別子に、ワーク管理データベースにアクセスするための権限を与える必要があります。

ワーク管理データベースへのアクセス権限の付与については、マニュアル「uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow システム構築・運用ガイド」を参照してください。

3.4.5 BLC テーブルの作成 (HiRDB)

HiRDB を使用する場合は、BLC テーブルのほかに LOB 列格納用 RD エリアを追加する必要があります。ここでは、LOB 列格納用 RD エリアの追加および BLC テーブルの作成について説明します。

注意事項

BLC では明示的に RD エリアを指定していません。RD エリアを指定する場合は、BLC が提供するファイルを修正して指定してください。

(1) LOB 列格納用 RD エリアの追加

次のテーブルを作成する場合、LOB 列格納用 RD エリアを作成する必要があります。

表 3-2 LOB 列格納用 RD エリアが必要なテーブル

テーブル名	ファイル名	デフォルト LOB 用 RD エリア名
BLC_PORTAL_INFO_T	BLCPortalInfo.txt	RLOB1
BLC_FILE_T	BLCFile.txt	RLOB2

注

<BLC2 のインストールディレクトリ>¥blc¥setup¥sql¥hirdb フォルダ下に格納されています。

なお、このマニュアルでは、HiRDB /Single Server の簡易セットアップを使用しているため、LOB 列格納用 RD エリア「RLOB1」は自動的に追加されます。LOB 列格納用 RD エリア「RLOB2」については、次の手順で追加してください。なお、LOB 列格納用 RD エリアを追加する手順の詳細は、マニュアル「スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 SQL リファレンス」を参照してください。

3. データベースサーバの構築

操作手順

1. HiRDB ファイルシステム領域を作成します。

ここでは、容量 1GB、ファイル名「sys99」の HiRDB ファイルシステム領域を作成します。次のコマンドを実行してください。

```
pdfmkfs -n 1000 -l 10 -k DB -i C:¥win32app¥hitachi¥hirdb_s¥area¥sys99
```

2. pdmod コマンドの制御文ファイルを作成します。

制御文ファイルの例を次に示します。必要に応じて太字部分を編集してください。

例：C:¥temp¥RLOB2.txt

```
create rdarea RLOB2 ..... (1)
globalbuffer gbuf03
for LOB used by PUBLIC
page 8192 characters
storage control segment 1 pages
file name "C:¥win32app¥hitachi¥hirdb_s¥area¥sys99¥RLOB2" ..... (2)
initial 60000 segments; ..... (3)
```

- (1)：RD エリア名を指定します。
- (2)：手順 1. で作成したシステム領域のパスを指定します。
- (3)：セグメントを指定します。

3. pdmod コマンドを実行します。

コマンド (pdmod) の実行例を次に示します。コマンドを実行すると、RLOB2 が追加されます。

```
pdmod -a C:¥temp¥RLOB2.txt
```

(2) BLC テーブルの作成

バッチファイルを使用して、BLC テーブルを作成します。

操作手順

1. バッチファイル「<BLC2 のインストールディレクトリ

>¥bcl¥setup¥sql¥hirdb¥createTables.bat」をメモ帳などで編集します。

バッチファイルの編集内容を示します。

表 3-3 バッチファイル (createTables.bat) の編集内容 (HiRDB)

項番	変数名	設定値	説明
1	SQLExecuterDir	"C:¥Program Files¥HITACHI¥PDSQL"	HiRDB SQL Executer のインストールディレクトリを指定します。
2	USER_ID	BLC	「3.4.2 ユーザの登録 (HiRDB)」で登録したユーザ名を指定します。

項番	変数名	設定値	説明
3	PASSWORD	BLC	「3.4.2 ユーザの登録 (HiRDB)」で登録したパスワードを指定します。
4	HOST_NAME	<データベースサーバのホスト名>	データベースサーバのホスト名を指定します。
5	NAME_PORT	22200	データベースサーバのポート番号を指定します。

編集後の内容は次のようになります。太字部分は環境に合わせて変更してください。

```
setlocal
rem #####
rem ## Please modify following parameters. ##
rem #####
set SQLExecuterDir= "C:¥Program Files¥HITACHI¥PDSQL"
set PATH=%SQLExecuterDir%;%PATH%
set USER_ID=BLC
set PASSWORD=BLC
set HOST_NAME=<データベースサーバのホスト名>
set NAME_PORT=22200
```

注

このバッチファイルは、BLC に付属しています。同一マシンに BLC をインストールしていない場合は、インストールしているマシンから <BLC2 のインストールディレクトリ>¥blc¥setup¥sql¥hirdb フォルダ下のすべてのファイルをコピーしてください。

2. ログイン時のパスワードの形式をデフォルト (平文) から変更する場合は、BLC テーブルの定義ファイルを編集します。

パスワードの形式をデフォルト (平文) のままで使用する場合、この手順は読み飛ばしてください。

BLC テーブルの定義ファイルの格納先と編集内容を次に示します。

格納先

C:¥Program Files¥HITACHI¥HBPM2¥blc¥setup¥sql¥hirdb¥BLCUserInfo.txt

編集内容

太字部分を追加および変更してください。

3. データベースサーバの構築

```
CREATE TABLE BLC_USER_INFO T
(CDUSER          VARCHAR(128) NOT NULL PRIMARY KEY,
 CDLOGINPASSWORD BINARY(20),
 CDPERSONALNO   VARCHAR(128),
 NMLASTNAMEJ    VARCHAR(62),
 NMFIRSTNAMEJ   VARCHAR(62),
 NMLASTNAMEEK   VARCHAR(62),
 NMFIRSTNAMEEK  VARCHAR(62),
 NMLASTNAMEEE   VARCHAR(62),
 NMFIRSTNAMEEE  VARCHAR(62),
 CDBELONGTO     VARCHAR(128) NOT NULL,
 CDJOBTITLE     VARCHAR(128) NOT NULL,
 NMMAILADDRESS  VARCHAR(128),
 NMTELOUTSIDE   VARCHAR(128),
 NMTELEXTENSION VARCHAR(128),
 NUADMINAUTHORITY SMALLINT DEFAULT 0 NOT NULL,
 NUALTERNATEAUTHORITY SMALLINT DEFAULT 0 NOT NULL,
 CFLOGINSTATUS  SMALLINT DEFAULT 0 NOT NULL,
 CFSHARESTATUS  SMALLINT DEFAULT 0 NOT NULL
);

CREATE INDEX BLC_USER_INFO_NMLASTNAMEJ ON BLC_USER_INFO_T (NMLASTNAMEJ);
CREATE INDEX BLC_USER_INFO_NMFIRSTNAMEJ ON BLC_USER_INFO_T
(NMFIRSTNAMEJ);
CREATE INDEX BLC_USER_INFO_CDBELONGTO ON BLC_USER_INFO_T (CDBELONGTO);
```

3. 編集終了後、バッチファイルを起動（ダブルクリック）します。

「続行するには何かキーを押してください」というメッセージが表示されるので、何かキーを押してください。

3.4.6 サンプルユーザの登録（HiRDB）

サンプルユーザの登録方法は、ログイン時のパスワードの形式によって異なります。ここでは、パスワードの形式ごとにサンプルユーザの登録方法を説明します。

（1）平文（デフォルト値）の場合

パスワードの形式に平文（デフォルト値）を設定した場合は、「付録 A.1(7) サンプルデータを登録する SQL 文の例」を参考にして、「付録 A.1(2) 組織およびユーザのサンプルデータ」および「付録 A.1(3) 役職のサンプルデータ」を登録してください。サンプルユーザを使用しない場合でも、システム管理者の権限を持つユーザを必ず一人以上登録してください。

（2）MD5 または SHA-1 の場合

パスワード形式を MD5 または SHA-1 に変更した場合は、次に示すサンプルデータを使用します。

- <BLC2 のインストールディレクトリ
>¥tools¥sample¥sampleuser¥sql¥hirdb¥sample_MD5_SHA-1.txt

次の手順でサンプルデータを登録してください。なお、次の手順では、データベースに接続するための認可識別子を「BLC」としています。

操作手順

1. HiRDB SQL Executer を起動して、ユーザ「BLC」で接続します。
2. [ファイル]メニューから[ファイルから実行]を選択します。
3. サンプルデータを選択して、[OK]ボタンをクリックします。
4. 次に示すファイルを編集します。

ファイル名

<BLC2 のインストールディレクトリ

>%tools%sample%sampleuser%sql%hirdb%sample_Control.txt

編集内容

dat ファイルの格納先ディレクトリのパスを編集します。

パスワードの暗号化のタイプおよび文字コードの設定によって、指定する dat ファイルが異なります。次の表を参照して、編集してください。

表 3-4 指定する dat ファイル

暗号化のタイプ	文字コード	指定する dat ファイル
MD5	Shift-JIS	<BLC2 のインストールディレクトリ >%tools%sample%sampleuser%sql%hirdb%sample_MD5_SJIS.dat
	UTF-8	<BLC2 のインストールディレクトリ >%tools%sample%sampleuser%sql%hirdb%sample_MD5_UTF8.dat
SHA-1	Shift-JIS	<BLC2 のインストールディレクトリ >%tools%sample%sampleuser%sql%hirdb%sample_SHA-1_SJIS.dat
	UTF-8	<BLC2 のインストールディレクトリ >%tools%sample%sampleuser%sql%hirdb%sample_SHA-1_UTF8.dat

暗号化のタイプを「MD5」、文字コードを「Shift-JIS」に設定した場合の指定例を次に示します。太字部分を必要に応じて変更してください。

```
source "C:%Program
Files%HITACHI%HBPM2%tools%sample%sampleuser%sql%hirdb%sample_MD5_SJIS.dat"
```

5. 手順 2. で編集したファイルの SQL をコマンド (pdload) で実行します。
コマンドの実行例を次に示します。コマンドの実行には「HiRDB コマンドプロンプト」を使用します。組み込みデータベースを使用している場合は、uCosminexus Developer に含まれている「組み込み DB プロンプト」を使用してください。
なお、コマンドを実行するとパスワードの入力を求められるので、「BLC」を入力してください。

3. データベースサーバの構築

```
pdload -b -u BLC BLC_USER_INFO_T "C:¥Program  
Files¥HITACHI¥HBPM2¥tools¥sample¥sampleuser¥sql¥hirdb¥sample_Control.txt  
"
```

3.5 Oracle の設定

Oracle を使用する場合のデータベースの設定について説明します。

3.5.1 Net Configuration Assistant の設定

Net Configuration Assistant の設定をします。ただし、ローカル・ネット・サービス名が作成されている場合は、Net Configuration Assistant の設定は不要です。

操作手順

1. 次の環境変数が設定されているか確認します。設定されていない場合は、設定してください。
 - ORACLE_HOME
 - ORACLE_SID
2. [スタート] - [Oracle - OraClient10g_home1] - [コンフィグレーションおよび移行ツール] - [Net Configuration Assistant] を選択し、Net Configuration Assistant の設定をします。
次に示す内容に注意して設定してください。

Net Configuration Assistant の設定内容

- 実行する構成では「ローカル・ネット・サービス名構成」を選択してください。
- 実行する処理の選択では「追加」を選択してください。
- サービス名は「BLCDB」を設定してください。
- プロトコルは「TCP」を選択してください。
- ホスト名は「データベースサーバのホスト名」を設定してください。
- TCP/IP ポート番号は「標準ポート番号の 1521 を使用」を選択してください。
- 「データベースに接続できるかどうかテストしますか」は、「はい。テストを実行します。」を選択してください。
- ネット・サービス名は「BLCDB」を設定してください。
- 「ほかのネット・サービス名を構成しますか」は「いいえ」を選択してください。

3.5.2 表領域の作成とユーザの登録 (Oracle)

データベースに接続し、表領域の作成およびユーザの登録をします。

(1) データベースの接続

データベースに接続します。

操作手順

1. dbconsole および listener が起動済みか確認します。
 - 次のコマンドで dbconsole が起動済みか確認してください。

3. データベースサーバの構築

```
emctl status dbconsole
```

- 次のコマンドで listener が起動済みか確認してください。

```
lsnrctl status
```

データベースが起動していない場合は、Oracle Enterprise Manager でデータベースを起動してください。

2. 管理者権限でデータベースに接続します。

(2) 表領域の作成

次に示す表領域 (WCFDATA) を作成します。

- 表領域の名前：WCFDATA
- 物理ファイル名：WCFDATA.ora

記憶域がいっぱいになったときに自動的にデータファイル拡張する設定を推奨します。

(3) ユーザの登録

次に示すユーザを作成します。

- ユーザの名前：BLC
- ユーザのパスワード：BLC
- ロールに「DBA」を追加してください。

デフォルト表領域と一時表領域を設定します。

- デフォルト表領域：WCFDATA
- 一時表領域：TEMP

3.5.3 ワーク管理テーブルの作成 (Oracle)

ワーク管理データベースにワーク管理テーブルを作成します。ワーク管理テーブルやインデクスは、次に示す SQL スクリプトファイルを編集して作成します。

<CSCIW のインストールディレクトリ >/sql/createtable_oracle.sql

次の手順では、ワーク管理データベースに接続するためのユーザを「BLC」としていません。

操作手順

1. SQL スクリプトファイルを任意のディレクトリにコピーして、コピーしたファイルをテキストエディタで編集します。
編集する内容を次に示します。

表 3-5 SQL スクリプトファイルの変更内容 (Oracle)

項番	変更前	変更後	説明
1	<SYSTEMID>	BLC	CSCIW のシステム ID を指定します。
2	<DATASPACE>	WCFFDATA	表領域を指定します。
3	<INDEXSPACE>	WCFFDATA	表領域を指定します。

ワーク管理テーブルごとに格納先の表領域を変えて指定するなど、格納する表領域をカスタマイズできます。表領域の指定方法については、Oracle のマニュアルを参照してください。

2. SQL*Plus を使用して、編集した SQL スクリプトファイルを実行します。

sqlplus コマンドに編集した SQL スクリプトファイルを指定し、実行することで、接続するユーザのスキーマにテーブルを作成できます。

sqlplus コマンドの指定例を次に示します。

```
sqlplus <接続ユーザ名 >/<パスワード>@<Oracle Net 接続識別子> @<編集したSQLスクリプトファイルの絶対パス>
```

注

接続ユーザ名には、次に示す権限をすべて与えられているユーザを指定してください。

- ・CONNECT 権限
- ・CREATE TABLE システム権限
- ・CREATE VIEW システム権限

ユーザの設定について

このマニュアルでは、ワーク管理データベースのテーブルやインデックスを作成したユーザと、Web 帳票アプリケーションがアクセスするためのユーザが同じであることを前提としています。ユーザが異なる場合、Web 帳票アプリケーションがアクセスするためのユーザに、ワーク管理データベースにアクセスするための権限を与える必要があります。

ワーク管理データベースへのアクセス権限の付与については、マニュアル「uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow システム構築・運用ガイド」を参照してください。

3.5.4 BLC テーブルの作成 (Oracle)

バッチファイルを使用して、BLC テーブルを作成します。

注意事項

BLC では明示的に表領域を指定していません。表領域を指定する場合は、BLC が提供するファイルを修正して指定してください。

3. データベースサーバの構築

操作手順

1. バッチファイル「<BLC2のインストールディレクトリ

>¥blc¥setup¥sql¥oracle¥createTables.bat」をメモ帳などで編集します。
 バッチファイルの編集内容を示します。

表 3-6 バッチファイル (createTables.bat) の編集内容 (Oracle)

項番	変数名	設定値	説明
1	sqlplusDir	C:¥oracle¥product¥10.2.0¥Db_1¥BIN	SQL*Plus のインストールディレクトリを指定します。
2	USER_ID	BLC	「3.5.2(3) ユーザの登録」で登録したユーザを指定します。
3	PASSWORD	BLC	「3.5.2(3) ユーザの登録」で登録したパスワードを指定します。
4	CONNECT_STRING	BLCDB	サービス名を指定します。

編集後の内容は次のようになります。太字部分は環境に合わせて変更してください。

```

setlocal
rem #####
rem ## Please modify following parameters. ##
rem #####
set sqlplusDir=C:¥oracle¥product¥10.2.0¥Db_1¥BIN
set PATH=%sqlplusDir%;%PATH%
set USER_ID=BLC
set PASSWORD=BLC
set CONNECT_STRING=BLCDB
  
```

注

このバッチファイルは、BLC に付属しています。同一マシンに BLC をインストールしていない場合は、インストールしているマシンから <BLC2のインストールディレクトリ >¥blc¥setup¥sql¥oracle フォルダ下のすべてのファイルをコピーしてください。

2. ログイン時のパスワードの形式をデフォルト (平文) から変更する場合は、BLC テーブルの定義ファイルを編集します。

パスワードの形式をデフォルト (平文) のままで使用する場合、この手順は読み飛ばしてください。

BLC テーブルの定義ファイルの格納先と編集内容を次に示します。

格納先

C:¥Program Files¥HITACHI¥HBPM2¥blc¥setup¥sql¥oracle¥BLCUserInfo.txt

編集内容

太字部分を追加および変更してください。

```

CREATE TABLE BLC_USER_INFO T
(CDUSER          VARCHAR(128) NOT NULL PRIMARY KEY,
 CDLOGINPASSWORD RAW(20),
 CDPERSONALNO   VARCHAR(128),
 NMLASTNAMEJ   VARCHAR(62),
 NMFIRSTNAMEJ  VARCHAR(62),
 NMLASTNAMEK   VARCHAR(62),
 NMFIRSTNAMEK  VARCHAR(62),
 NMLASTNAMEE   VARCHAR(62),
 NMFIRSTNAMEE  VARCHAR(62),
 CDBELONGTO    VARCHAR(128) NOT NULL,
 CDJOBTITLE    VARCHAR(128) NOT NULL,
 NMMAILADDRESS VARCHAR(128),
 NMTELOUTSIDE  VARCHAR(128),
 NMTELEXTENSION VARCHAR(128),
 NUADMINAUTHORITY SMALLINT DEFAULT 0 NOT NULL,
 NUALTERNATEAUTHORITY SMALLINT DEFAULT 0 NOT NULL,
 CFLOGINSTATUS  SMALLINT DEFAULT 0 NOT NULL,
 CFSHARESTATUS  SMALLINT DEFAULT 0 NOT NULL
);

CREATE INDEX BLC_USER_INFO_NMLASTNAMEJ ON BLC_USER_INFO_T (NMLASTNAMEJ);
CREATE INDEX BLC_USER_INFO_NMFIRSTNAMEJ ON BLC_USER_INFO_T
(NMFIRSTNAMEJ);
CREATE INDEX BLC_USER_INFO_CDBELONGTO ON BLC_USER_INFO_T (CDBELONGTO);

```

3. 編集終了後、バッチファイルを起動（ダブルクリック）します。
BLC テーブルが作成されます。

3.5.5 サンプルユーザの登録（Oracle）

サンプルユーザの登録方法は、ログイン時のパスワードの形式によって異なります。ここでは、パスワードの形式ごとにサンプルユーザの登録方法を説明します。

（1）平文（デフォルト値）の場合

パスワードの形式に平文（デフォルト値）を設定した場合は、「付録 A.1(7) サンプルデータを登録する SQL 文の例」を参考にして、「付録 A.1(2) 組織およびユーザのサンプルデータ」および「付録 A.1(3) 役職のサンプルデータ」を登録してください。サンプルユーザを使用しない場合でも、システム管理者の権限を持つユーザを必ず一人以上登録してください。

（2）MD5 または SHA-1 の場合

パスワード形式に MD5 または SHA-1 を指定した場合は、次に示すサンプルデータを使用します。これらのファイルの SQL をコマンド（sqlplus）で実行してください。

MD5 の場合

<BLC2 のインストールディレクトリ

>¥tools¥sample¥sampleuser¥sql¥oracle¥sample_MD5.txt

SHA-1 の場合

3. データベースサーバの構築

<BLC2 のインストールディレクトリ

>¥tools¥sample¥sampleuser¥sql¥oracle¥sample_SHA-1.txt

3.6 SQL Server の設定

SQL Server を使用する場合のデータベースの設定について説明します。

3.6.1 セキュリティ構成の設定 (SQL Server)

SQL Server のリモート接続を有効にします。次の手順で設定してください。

操作手順

1. Windows の [スタート] メニューから [プログラム] - [Microsoft SQL Server 2005] - [構成ツール] - [SQL Server セキュリティ構成] を選択します。
2. 「サービスと接続のセキュリティ構成」を選択します。
3. [Database Engine] - [リモート接続] を選択します。
4. [ローカル接続およびリモート接続] - [TCP/IP のみを使用する] を選択して、[OK] ボタンをクリックします。

SQL Server のリモート接続が有効になります。すでに [TCP/IP のみを使用する] が選択されている場合は、設定は不要です。

3.6.2 プロトコルの確認 (SQL Server)

TCP/IP の設定が有効になっているかどうか確認します。次の手順で確認してください。

操作手順

1. Windows の [スタート] メニューから [プログラム] - [Microsoft SQL Server 2005] - [構成ツール] - [SQL Server 構成マネージャ] を選択します。
2. [SQL Server 2005 ネットワークの構成] - [MSSQLSERVER のプロトコル] を選択します。
3. 「TCP/IP」の状態が「有効」になっていることを確認します。
「無効」になっている場合は、次の手順で「有効」に変更します。
 1. 「TCP/IP」をダブルクリックします。
 2. [プロトコル] タブの「有効」欄で「はい」を選択します。
 3. [OK] を選択します。

3.6.3 データベースの設定 (SQL Server)

Microsoft SQL Server Management Studio を使用して、データベースを作成します。

3. データベースサーバの構築

(1) Microsoft SQL Server Management Studio の起動

Microsoft SQL Server Management Studio を起動します。

操作手順

1. Windows の [スタート] メニューから [プログラム] - [Microsoft SQL Server 2005] - [SQL Server Management Studio] を選択します。
2. 「サーバー名」に SQL Server を実行しているホスト名が表示されていることを確認します。
表示されていない場合は、SQL Server を実行しているホスト名を手動で入力するか一覧から選択するかしてください。
3. 「Windows 認証」が選択されていることを確認して、[接続] を選択します。
Microsoft SQL Server Management Studio が起動します。

(2) データベースの作成 (SQL Server)

Microsoft SQL Server Management Studio でデータベースを作成します。

操作手順

1. Microsoft SQL Server Management Studio の [オブジェクト エクスプローラ] ペインにある「データベース」を右クリックして、[新しいデータベース] を選択します。
2. 「データベース名」に「BLCDB」を入力して、[OK] を選択します。
データベース「BLCDB」が作成されます。

(3) ユーザの登録 (SQL Server)

Microsoft SQL Server Management Studio で SQL Server にログインするユーザを登録します。

操作手順

1. [オブジェクト エクスプローラ] ペインにある [セキュリティ] - [ログイン] を右クリックして、[新しいログイン] を選択します。
[全般] ダイアログが表示されます。
2. ログイン情報を設定します。
次のとおり設定してください。

表 3-7 ログイン情報の設定値 (SQL Server)

設定項目	設定値
ログイン名	BLC
パスワード	BLC
パスワードポリシーを適用する	チェックを外します。

設定項目	設定値
既定のデータベース	BLCDB
既定の言語	Japanese

注

[SQL Server 認証] を選択してから、パスワードを設定します。

3. [OK] を選択します。
4. [セキュリティ] - [ログイン] - [BLC] を右クリックして、[プロパティ] を選択します。
5. [ユーザーマッピング] のページを選択して、ユーザ情報を設定します。
次のとおり設定してください。
 - BLCDB のデータベースのマップ欄をチェックします。
 - 「データベース ロール メンバシップ」の「db_owner」をチェックして、データベースの管理者権限を追加します。
6. [OK] を選択します。
ログインユーザの設定が登録されます。

(4) スキーマの作成 (SQL Server)

Microsoft SQL Server Management Studio を使用して、スキーマを作成します。

操作手順

1. [データベース] - [BLCDB] - [セキュリティ] - [スキーマ] を右クリックして、[新しいスキーマ] を選択します。
「全般」のページが開きます。
2. 次の内容を設定します。
 - 「スキーマ名」: 「BLC」を入力します。
 - 「スキーマの所有者」: 「BLC」を入力します。
3. [OK] を選択します。
4. [データベース] - [BLCDB] - [セキュリティ] - [ユーザ] - [BLC] を右クリックして、[プロパティ] を選択します。
「全般」のページが開きます。
5. 「既定のスキーマ」に「BLC」を入力します。
6. [OK] を選択します。
設定した内容のスキーマが作成されます。

(5) ファイルグループの作成 (SQL Server)

Microsoft SQL Server Management Studio を使用して、ファイルグループを作成しま

3. データベースサーバの構築

す。

操作手順

1. [データベース] - [BLCDB] を右クリックして , [プロパティ] を選択します。
2. 「ファイルグループ」を選択します。
3. [追加] を選択し , 名前に 「WCFDATA」 を設定します。
4. 「ファイル」を選択します。
5. [追加] を選択して , 次の内容を設定します。
 - 「論理名」: 「WCFDATA」 を設定します。
 - 「ファイルグループ」: 「WCFDATA」 を設定します
6. [OK] を選択します。
設定した内容でファイルグループが作成されます。

(6) Microsoft SQL Server Management Studio の終了

Microsoft SQL Server Management Studio を終了する手順を説明します。

操作手順

1. [ファイル] - [オブジェクト エクスプローラを切断] を選択します。
2. [ファイル] - [終了] を選択します。
Microsoft SQL Server Management Studio が終了します。

3.6.4 ワーク管理テーブルの作成 (SQL Server)

ワーク管理データベースにワーク管理テーブルを作成します。ワーク管理テーブルやインデクスは , 次に示す SQL スクリプトファイルを編集して作成します。

```
<CSCIW のインストールディレクトリ>\¥sql¥createtable_sqlserver.sql
```

次の手順では , ワーク管理データベースに接続するための認可識別子を 「BLC」 としています。

操作手順

1. SQL スクリプトファイルを任意のディレクトリにコピーして , コピーしたファイルをテキストエディタで編集します。
編集する内容を次に示します。

表 3-8 SQL スクリプトファイルの変更内容 (SQL Server)

項番	変更前	変更後	説明
1	<SYSTEMID>	BLC	CSCIW のシステム ID を指定します。

項番	変更前	変更後	説明
2	<FILEGROUP>	WCFDATA	ファイルグループを指定します。
3	<INDEXFILEGROUP >	WCFDATA	ファイルグループを指定します。

ワーク管理テーブルごとに格納先のファイルグループを変えて指定するなど、格納するファイルグループをカスタマイズできます。ファイルグループの指定方法については、SQL Server のマニュアルを参照してください。

- sqlcmd ユティリティを使用して、編集した SQL スクリプトファイルを実行します。sqlcmd ユティリティに編集した SQL スクリプトファイルを指定し、実行することで、接続するユーザのスキーマにテーブルを作成できます。sqlcmd ユティリティの指定例を次に示します。

```
sqlcmd -S <DBホスト名> -U <ユーザ名> -P <パスワード> -i <編集したSQLスクリプトファイルの絶対パス>
```

注

ユーザ名およびパスワードには、「3.6.3(3) ユーザの登録 (SQL Server)」で設定したログインユーザのユーザ名とパスワードを指定します。

ユーザの設定について

このマニュアルでは、ワーク管理データベースのテーブルやインデックスを作成したユーザと、Web 帳票アプリケーションがアクセスするためのユーザが同じであることを前提としています。ユーザが異なる場合、Web 帳票アプリケーションがアクセスするためのユーザに、ワーク管理データベースにアクセスするための権限を与える必要があります。ワーク管理データベースへのアクセス権限の付与については、マニュアル「uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow システム構築・運用ガイド」を参照してください。

3.6.5 BLC テーブルの作成 (SQL Server)

バッチファイルを使用して、BLC テーブルを作成します。

注意事項

BLC では明示的にファイルグループを指定していません。ファイルグループを指定する場合は、BLC が提供するファイルを修正して指定してください。

- バッチファイル「<BLC2 のインストールディレクトリ>%blc%setup%sql%sqlserver%createTables.bat」をメモ帳などで編集します。バッチファイルの編集内容を示します。

3. データベースサーバの構築

表 3-9 バッチファイル (createTables.bat) の編集内容 (SQL Server)

項番	変数名	設定値	説明
1	sqlcmdDir	C:\Program Files\Microsoft SQL Server\90\Tools\Binn	sqlcmd ユティリティのインストールディレクトリを指定します。
2	USER_ID	BLC	「3.6.3(3) ユーザの登録 (SQL Server)」で登録したユーザを指定します。
3	PASSWORD	BLC	「3.6.3(3) ユーザの登録 (SQL Server)」で登録したパスワードを指定します。
4	SERVER	<データベースサーバのホスト名>	データベースサーバのホスト名を指定します。

編集後の内容は次のようになります。太字部分は環境に合わせて変更してください。

```
setlocal
rem #####
rem ## Please modify following parameters. ##
rem #####
set sqlcmdDir=C:\Program Files\Microsoft SQL Server\90\Tools\Binn
set PATH=%sqlcmdDir%;%PATH%
set USER_ID=BLC
set PASSWORD=BLC
set SERVER=<データベースサーバのホスト名>
```

注

このバッチファイルは、BLC に付属しています。同一マシンに BLC をインストールしていない場合は、インストールしているマシンから <BLC2 のインストールディレクトリ>\%blc%\setup\sql\sqlserver フォルダ下のすべてのファイルをコピーしてください。

2. ログイン時のパスワードの形式をデフォルト (平文) から変更する場合は、BLC テーブルの定義ファイルを編集します。

パスワードの形式をデフォルト (平文) のままで使用する場合、この手順は読み飛ばしてください。

BLC テーブルの定義ファイルの格納先と編集内容を次に示します。

格納先

C:\Program

Files\HITACHI\HBPM2\blc\setup\sql\sqlserver\BLCUserInfo.txt

編集内容

太字部分を追加および変更してください。

```

CREATE TABLE BLC_USER_INFO T
(CDUSER          VARCHAR(128) COLLATE Japanese_CS_AS_KS_WS NOT NULL
PRIMARY KEY,
CDLOGINPASSWORD  VARBINARY(20) NULL,
CDPERSONALNO     VARCHAR(128) COLLATE Japanese_CS_AS_KS_WS NULL,
NMLASTNAMEJ      VARCHAR(62) COLLATE Japanese_CS_AS_KS_WS NULL,
NMFIRSTNAMEJ     VARCHAR(62) COLLATE Japanese_CS_AS_KS_WS NULL,
NMLASTNAMEK      VARCHAR(62) COLLATE Japanese_CS_AS_KS_WS NULL,
NMFIRSTNAMEK     VARCHAR(62) COLLATE Japanese_CS_AS_KS_WS NULL,
NMLASTNAMEE      VARCHAR(62) COLLATE Japanese_CS_AS_KS_WS NULL,
NMFIRSTNAMEE     VARCHAR(62) COLLATE Japanese_CS_AS_KS_WS NULL,
CDBELONGTO       VARCHAR(128) COLLATE Japanese_CS_AS_KS_WS NOT NULL,
CDJOBTITLE       VARCHAR(128) COLLATE Japanese_CS_AS_KS_WS NOT NULL,
NMMAILADDRESS    VARCHAR(128) COLLATE Japanese_CS_AS_KS_WS NULL,
NMTELOUTSIDE     VARCHAR(128) COLLATE Japanese_CS_AS_KS_WS NULL,
NMTELEXTENSION   VARCHAR(128) COLLATE Japanese_CS_AS_KS_WS NULL,
NUADMINAUTHORITY SMALLINT DEFAULT 0 NOT NULL,
NUALTERNATEAUTHORITY SMALLINT DEFAULT 0 NOT NULL,
CFLOGINSTATUS    SMALLINT DEFAULT 0 NOT NULL,
CFSHARESTATUS    SMALLINT DEFAULT 0 NOT NULL);

CREATE INDEX BLC_USER_INFO_NMLASTNAMEJ ON BLC_USER_INFO_T (NMLASTNAMEJ);
CREATE INDEX BLC_USER_INFO_NMFIRSTNAMEJ ON BLC_USER_INFO_T
(NMFIRSTNAMEJ);
CREATE INDEX BLC_USER_INFO_CDBELONGTO ON BLC_USER_INFO_T (CDBELONGTO);

```

3. 編集終了後、バッチを起動（ダブルクリック）します。

「続行するには何かキーを押してください」というメッセージが表示されるので、何かキーを押してください。

3.6.6 サンプルユーザの登録（SQL Server）

サンプルユーザの登録方法は、ログイン時のパスワードの形式によって異なります。ここでは、パスワードの形式ごとにサンプルユーザの登録方法を説明します。

（1）平文（デフォルト値）の場合

パスワードの形式に平文（デフォルト値）を設定した場合は、「付録 A.1(7) サンプルデータを登録する SQL 文の例」を参考にして、「付録 A.1(2) 組織およびユーザのサンプルデータ」および「付録 A.1(3) 役職のサンプルデータ」を登録してください。サンプルユーザを使用しない場合でも、システム管理者の権限を持つユーザを必ず一人以上登録してください。

（2）MD5 または SHA-1 の場合

パスワード形式に MD5 を指定した場合は、次に示すサンプルデータを使用します。これらのファイルの SQL を SQL Server Management Studio または コマンドプロンプト (sqlcmd) で実行してください。

MD5 の場合

<BLC2 のインストールディレクトリ

>¥tools¥sample¥sampleuser¥sql¥sqlserver¥sample_MD5.txt

3. データベースサーバの構築

SHA-1 の場合

<BLC2 のインストールディレクトリ

>¥tools¥sample¥sampleuser¥sql¥sqlserver¥sample_SHA-1.txt

4

アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

電子フォームワークフローの実行環境を構築するために、アプリケーションサーバの構築が必要です。また、電子フォームワークフローを利用する Web クライアントにも設定が必要です。

この章では、アプリケーションサーバを構築する手順および Web クライアントを設定する方法について説明します。

4.1 アプリケーションサーバの構築の流れ

4.2 ソフトウェアのインストール

4.3 アプリケーションサーバの設定

4.4 CSCIW のセットアップ

4.5 BLC の設定

4.6 アプリケーションサーバの構築

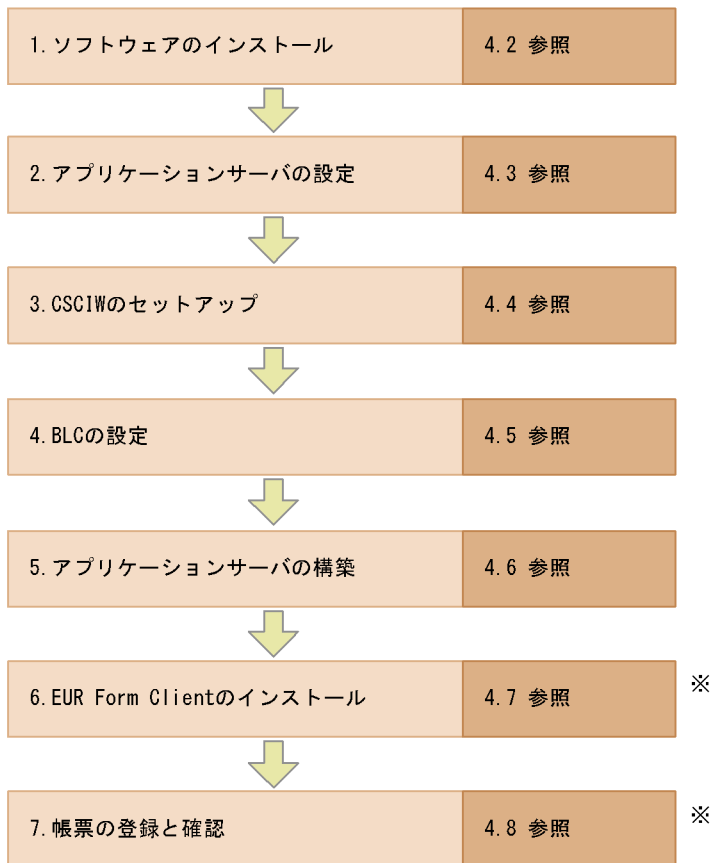
4.7 EUR Form Client のインストール

4.8 帳票の登録と確認

4.1 アプリケーションサーバの構築の流れ

アプリケーションサーバの構築，および Web クライアントの設定の流れを次に示します。

図 4-1 アプリケーションサーバの構築の流れ



注※ Webクライアントで実施します。

この図に示した流れに沿って，アプリケーションサーバの構築手順を説明します。

4.2 ソフトウェアのインストール

アプリケーションサーバの構築に必要なソフトウェアをインストールします。次に示すソフトウェアを、上から順番にインストーラの指示に従ってインストールしてください。

- uCosminexus Application Server Standard
- uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow
- uCosminexus Portal Framework
- Hitachi Business Logic - Container 2
- uCosminexus EUR Form Service

データベースを別マシンにインストールする場合は、JDBC ドライバを用意してください。ただし、SQL Server をインストールする場合は、インストール先に関係なく、必ず JDBC ドライバを用意してください。また、データベースサーバが Oracle の場合は、Oracle Client もインストールしてください。

- HiRDB の場合：HiRDB Type4 JDBC Driver
- Oracle の場合：Oracle JDBC Thin Driver
- SQL Server の場合：Microsoft SQL Server 2005 JDBC Driver

Windows のファイアウォールを有効にしている場合の注意

ソフトウェアのインストール後、DOS プロンプトを開いて次のコマンドを実行し、ファイアウォールの例外リストに登録してください。

表 4-1 例外リスト登録コマンド (Windows Server 2008 R2 以外の場合)

項番	実行コマンド
1	<pre>netsh firewall add allowedprogram program="%COSMINEXUS_HOME%\CC\server\bin\cjstartsv.exe" name="Cosminexus Component Container" mode=ENABLE</pre>
2	<pre>netsh firewall add allowedprogram program="%COSMINEXUS_HOME%\httpsd\httpsd.exe" name="Cosminexus (Hitachi Web Server)" mode=ENABLE</pre>

表 4-2 例外リスト登録コマンド (Windows Server 2008 R2 の場合)

項番	実行コマンド
1	<pre>netsh advfirewall firewall add rule name="CosminexusComponent Container" dir=in program="%COSMINEXUS_HOME%\CC\server\bin\cjstartsv.exe" action=allow</pre>
2	<pre>netsh advfirewall firewall add rule name="Cosminexus (Hitachi Web Server)" dir=in program="%COSMINEXUS_HOME%\httpsd\httpsd.exe" action=allow</pre>

4. アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

また、データベースに HiRDB を使用し、かつデータベースサーバとアプリケーションサーバのマシンが異なる場合、Java を使用してデータベースサーバに接続するための例外リスト登録が必要です。

例として、java.exe プログラムを例外リストに登録する方法を次に示します。

DOS プロンプトを開き、次のコマンドを実行してください。

- Windows Server 2008 R2 以外の場合

```
netsh firewall add allowedprogram  
program="%COSMINEXUS_HOME%¥jdk¥bin¥java.exe" name="Java" mode=ENABLE
```

- Windows Server 2008 R2 の場合

```
netsh advfirewall firewall add rule name="Java" dir=in  
program="%COSMINEXUS_HOME%¥jdk¥bin¥java.exe" action=allow
```

また、必要に応じて、ファイアウォールの設定の「スコープの変更」で、接続を許可するマシンをデータベースサーバの IP アドレスに限定してください。

なお、ここでは、電子フォームワークフローセットを利用する上で最低限の設定についてだけ説明しています。例外リストの詳細な設定については、各ソフトウェアのファイアウォールに関する説明を参照してください。

4.3 アプリケーションサーバの設定

アプリケーションサーバを構築する前に、システム環境変数の設定および Management Server の設定をします。

4.3.1 システム環境変数の設定 (アプリケーションサーバ)

アプリケーションサーバの構築に必要なシステム環境変数を設定します。

操作手順

- [マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
[システムのプロパティ] ダイアログが表示されます。
 - [詳細設定] タブの [環境変数] ボタンをクリックします。
[環境変数] ダイアログが表示されます。
 - 「システム環境変数」でシステム変数を追加します。
[新規] ボタンをクリックし、次のシステム変数を追加します。
 - JAVA_HOME
変数名: JAVA_HOME
変数値: <Cosminexus のインストールディレクトリ>%jdk
 - TZ
変数名: TZ
変数値: JST-9
注 この設定は、組み込みデータベースを使用する場合に必要です。すでにシステム環境変数 TZ が設定されている場合は、設定は不要です。
- [編集] ボタンをクリックし、次のシステム変数を追加します。
- Path
変数名: Path
変数値: %JAVA_HOME%\bin;<Cosminexus のインストールディレクトリ>%CC%\admin\bin;<Cosminexus のインストールディレクトリ>%DAB%\lib
注 パスの間は、「;(セミコロン)」で区切ってください。なお、<Cosminexus のインストールディレクトリ>%DAB%\lib は、Oracle を使用する場合に必要となる値です。HiRDB または SQL Server を使用する場合は不要です。
- [OK] ボタンをクリックします。
システム環境変数が追加されます。

注意事項

システム環境変数の設定後は、マシンを再起動してください。

4.3.2 Management Server の設定

アプリケーションサーバの運用管理をする Management Server の設定をします。

(1) Management Server のセットアップ

次のコマンド (mngsvrctl) を実行して、Management Server をセットアップします。
次の例では、Management Server の管理ユーザ ID に「admin」、管理ユーザパスワードに「admin」を指定しています。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\manager\bin\mngsvrctl" setup -u admin -p admin
```

注

Management Server を作成すると、自動的に簡易 Web サーバが作成されます。これは内部管理用のサーバです。

(2) Management Server の自動起動の設定

次のコマンド (mngautorun) を実行して、Management Server の自動起動を設定します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\manager\bin\mngautorun" both
```

(3) Management Server のプロパティファイルの編集

Server Plug-in から Management Server にリモート管理機能で接続する場合、接続先の Management Server のプロパティファイルを編集します。Server Plug-in を使用しない場合、プロパティファイルの編集は不要です。

プロパティファイルの格納先

<Cosminexus のインストールディレクトリ>%manager%\config\msserver.properties

編集内容

プロパティファイルに次の内容を追加してください。

```
com.cosminexus.mngsvr.management.enabled=true  
com.cosminexus.mngsvr.management.connector.enabled=true  
com.cosminexus.mngsvr.management.port=28099
```

(4) コンフィグレーションファイルの設定 (JAAS)

ポータルで JAAS を使用したユーザ管理をする場合、JAAS のコンフィグレーションファイル (jaas.conf) を編集します。

コンフィグレーションファイルの格納先

<Cosminexus のインストールディレクトリ>%manager%\config\jaas.conf

編集内容

コンフィグレーションファイルに次の内容を追加してください。

```
Portal {
com.cosminexus.admin.auth.login.WebPasswordJDBCLoginModule required
  com.cosminexus.admin.auth.realm="Portal"
  com.cosminexus.admin.auth.jdbc.r="0"
;
};
```

(5) コンフィグレーションファイルの設定 (統合ユーザ管理フレームワーク)

ポータルで次の機能を使用する場合は、統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイル (ua.conf) を編集します。

- JAAS を使用してユーザ管理をする。
- シングルサインオンの機能を使用する。

コンフィグレーションファイルの格納先

<Cosminexus のインストールディレクトリ >¥manager¥config¥ua.conf

編集内容

コンフィグレーションファイルに次の内容を追加してください。

HiRDB を使用する場合

```
com.cosminexus.admin.auth.jdbc.conn.user.0=BLC
com.cosminexus.admin.auth.jdbc.conn.password.0=BLC
com.cosminexus.admin.auth.jdbc.sql.0=SELECT CDLOGINPASSWORD FROM
BLC_USER_INFO_T WHERE CDUSER=? AND CFLOGINSTATUS<>1 AND CFSHARESTATUS<>1
com.cosminexus.admin.auth.jdbc.conn.url.0 = jdbc¥:hitachi¥:dbplib¥://
DB¥=HiRDB,DBID¥=22200,DBHOST¥=<データベースサーバのホスト名>
```

Oracle を使用する場合

コンフィグレーションファイルの編集の前に、次の内容を設定してください。

1. Cosminexus DABroker Library の環境設定

システム環境変数 Path に「<Cosminexus のインストールディレクトリ >¥DAB¥lib」が含まれていることを確認してから、次の内容を設定します。含まれていない場合は、追加してから設定してください。

[スタート] - [プログラム] - [Cosminexus] - [DABrokerLibrary] - [環境設定] を選択して、[共通設定] タブの「使用する ORACLE のバージョン」を「ORACLE10g」に設定します。

2. Oracle Client によるサービスの登録

[スタート] - [プログラム] から OracleClient のコンフィグレーション、および移行ツールにある [Net Configuration Assistant], または [Net Manager] を起動して、データベース接続用のサービスを作成します。

4. アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

ここでは、作成したネット・サービス名を「BLCDB」とします。

データベース接続用のサービスの登録が終了したら、コンフィグレーションファイルに次の内容を追加します。「DBID¥=」には作成したネット・サービス名を指定します。

```
com.cosminexus.admin.auth.jdbc.conn.user.0=BLC
com.cosminexus.admin.auth.jdbc.conn.password.0=BLC
com.cosminexus.admin.auth.jdbc.sql.0=SELECT CDLOGINPASSWORD FROM
BLC_USER_INFO_T WHERE CDUSER=? AND CFLOGINSTATUS<>1 AND CFSHARESTATUS<>1
com.cosminexus.admin.auth.jdbc.conn.url.0=jdbc¥:hitachi¥:dbplib¥://
DB¥=ORACLE,DBID¥=BLCDB
```

SQL Server を使用する場合

```
com.cosminexus.admin.auth.jdbc.conn.user.0=BLC
com.cosminexus.admin.auth.jdbc.conn.password.0=BLC
com.cosminexus.admin.auth.jdbc.sql.0=SELECT CDLOGINPASSWORD FROM
BLC_USER_INFO_T WHERE CDUSER=? AND CFLOGINSTATUS<>1 AND CFSHARESTATUS<>1
com.cosminexus.admin.auth.jdbc.conn.url.0=jdbc:sqlserver://<データベース
サーバのホスト名>:1433;databaseName=BLCDB
com.cosminexus.admin.auth.jdbc.driver.0=com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQL
ServerDriver
```

また、ログインのパスワードに平文以外を使用する場合は、次の内容を追加してください。

表 4-3 統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイルの設定（ログインパスワード）

追加項目	設定値		
	平文（デフォルト）を使用する場合	MD5を使用する場合	SHA-1を使用する場合
com.cosminexus.admin.auth.jdbc.password.type.0	string （省略可）	byte	byte
com.cosminexus.admin.auth.jdbc.password.encrypt.0	none （省略可）	md5	sha1

（6）Management Server の起動

運用管理エージェントおよび Management Server を起動します。

起動時のコマンドの実行例を示します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%¥manager¥bin¥adminagentctl" start
"%COSMINEXUS_HOME%¥manager¥bin¥mngsvrctl" start
```


Management Server を停止する場合は、起動の順序と逆になります。

停止時のコマンドの実行例を示します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\manager\bin\mngsvrctl" stop  
"%COSMINEXUS_HOME%\manager\bin\adminagentctl" stop
```

4.4 CSCIW のセットアップ

ワークフローシステムのエンジンである CSCIW をセットアップします。

注意事項

このマニュアルでは、各設定値の見積もりは説明しませんが、必要に応じてシステムに合わせた見積もりをしてください。システムの見積もりについては、マニュアル「uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow システム構築・運用ガイド」を参照してください。

4.4.1 システム環境変数の設定 (CSCIW)

CSCIW の設定に必要なシステム環境変数を設定します。

システム環境変数 COSMINEXUS_HOME の確認

システム環境変数 COSMINEXUS_HOME に、Cosminexus のインストールディレクトリが正しく設定されていることを確認してください。

システム環境変数 CSCIW_HOME の設定

システム環境変数 CSCIW_HOME に、CSCIW のインストールディレクトリを設定してください。

CSCIW_HOME=<CSCIW のインストールディレクトリ>

注意事項

システム環境変数の設定後は、マシンを再起動してください。

4.4.2 CSCIW のセットアッププロパティファイルの編集

CSCIW のセットアッププロパティファイルを編集します。セットアッププロパティファイルの格納パスと編集内容は、次のとおりです。

セットアッププロパティファイルの格納パス

<CSCIW のインストールディレクトリ>%conf%csciwsetup.properties

編集内容

次の変数を設定します。

変数名：SystemID

変数値：BLC

セットアッププロパティファイルの設定内容の詳細については、マニュアル「uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow システム構築・運用ガイド」を参照してください。

4.4.3 CSCIW のコマンド用環境設定ファイルの編集

CSCIW のコマンド用環境設定ファイルを編集します。CSCIW のコマンド用環境設定ファイルは、環境に合わせて編集してください。CSCIW のコマンド用環境設定ファイルの格納パスと編集内容は、次のとおりです。

CSCIW のコマンド用環境設定ファイルの格納パス

<CSCIW のインストールディレクトリ>%conf%\csciwcmdconf.bat

編集内容

使用しているデータベースによって編集内容が異なります。HiRDB、Oracle、または SQL Server を使用する場合に分けて、編集内容を示します。

HiRDB の場合

CSCIWCMD_JVM_CLPATH に HiRDB Type4 Driver のパス（太字部分）を指定します。HiRDB Type4 Driver のパスはシステムに合わせて変更してください。

```
rem All Rights Reserved. Copyright (C) 2007, Hitachi, Ltd.
set CSCIWCMD_JVM_ARGS=

set CSCIWCMD_JVM_CLPATH=<HiRDBのインストールディレクトリ>
¥CLIENT¥UTL¥pdjdbc2.jar

set CSCIWCMD_JVM_LIBPATH=
```

注

<HiRDB のインストールディレクトリ> のデフォルトは、次のとおりとなります。

HiRDB : C:\¥win32app¥hitachi¥hirdb_s

HiRDB Runtime : C:\¥Program Files¥HITACHI¥HiRDB

組み込みデータベース : C:\¥Program Files¥HITACHI¥Cosminexus¥DB

Oracle の場合

CSCIWCMD_JVM_CLPATH に Oracle Thin Driver のパス（太字部分）を指定します。Oracle Thin Driver のパスはシステムに合わせて変更してください。

```
rem All Rights Reserved. Copyright (C) 2007, Hitachi, Ltd.
set CSCIWCMD_JVM_ARGS=

set CSCIWCMD_JVM_CLPATH=<Oracleのインストールディレクトリ>
¥jdbc¥lib¥ojdbc14.jar

set CSCIWCMD_JVM_LIBPATH=
```

SQL Server の場合

CSCIWCMD_JVM_CLPATH に Microsoft SQL Server 2005 JDBC Driver のパス（太

4. アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

字部分)を指定します。Microsoft SQL Server 2005 JDBC Driver のパスはシステムに合わせて変更してください。

```
rem All Rights Reserved. Copyright (C) 2007, Hitachi, Ltd.
set CSCIWCMD_JVM_ARGS=
set CSCIWCMD_JVM_CLPATH=<SQL Serverのインストールディレクトリ>¥sqljdbc_1.1¥jpn¥sqljdbc.jar
set CSCIWCMD_JVM_LIBPATH=
```

なお、日立ネットワークオブジェクトプラザトレース共通ライブラリのインストール先を変更している場合は、CSCIWCMD_JVM_CLPATH に変更したインストールディレクトリにある hntrlib2j.jar を追加します。編集内容を次に示します。

```
set CSCIWCMD_JVM_CLPATH=<JDBCのクラスパス>;C:¥Program
Files¥HITACHI¥HNTRLlib2¥classes¥hntrlib2j.jar
```

CSCIW のコマンド用環境設定ファイルの設定項目については、マニュアル「uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow システム構築・運用ガイド」を参照してください。

4.4.4 CSCIW の実行環境の初期化

環境の構築および削除をするコマンド (ciwsetenv) を使用して、CSCIW の実行環境を初期化します。

(1) CSCIW の環境構築ファイルの編集

コマンドを実行する前に、CSCIW の環境構築ファイルをコピーして編集します。環境構築ファイルの格納パスと編集内容は、次のとおりです。

CSCIW の環境構築ファイルの格納パス (コピー元)
<CSCIW のインストールディレクトリ>¥sample¥ciwsetenvInputInfo.properties

編集内容

HiRDB, Oracle, または SQL Server で編集内容が異なります。それぞれの場合に分けて、編集内容を示します。

HiRDB の場合

CSCIW の環境構築ファイルを任意のディレクトリにコピーして編集してください。

```
SystemDBType=HiRDB
SystemDBURL=jdbc:hitachi:hirdb://DBID=22200,DBHOST=<DBホスト名
>,ENCODELANG=MS932
SystemDBDriverName=JP.co.Hitachi.soft.HiRDB.JDBC.HiRDBDriver
SystemDBUser=BLC
SystemDBPassword=BLC
DBCharacterName=MS932
```

Oracle の場合

CSCIW の環境構築ファイルを任意のディレクトリにコピーして編集してください。

```
SystemDBType=Oracle
SystemDBURL=jdbc:oracle:thin:@<Oracle のホスト名称,またはIP アドレス
>:1521:BLCDB
SystemDBDriverName=oracle.jdbc.driver.OracleDriver
SystemDBUser=BLC
SystemDBPassword=BLC
DBCharacterName=MS932
```

SQL Server の場合

CSCIW の環境構築ファイルを任意のディレクトリにコピーして編集してください。

```
SystemDBType=SQLServer
SystemDBURL=jdbc:sqlserver://<データベースサーバのホスト名
>:1433;DatabaseName=BLCDB;
selectMethod=cursor
SystemDBDriverName=com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver
SystemDBUser=BLC
SystemDBPassword=BLC
DBCharacterName=MS932
```

(2) コマンドの実行

次のコマンドを実行して、実行環境を初期化します。

```
"%CSCIW_HOME%\bin\ciwsetenv" -sid BLC -f ciwsetenvInputInfo.properties
(編集したファイル名)
```

4.5 BLC の設定

電子フォームシステムの基盤である BLC の設定をします。ここでは、システム環境変数で確認する内容、および BLC プロパティファイルの編集内容について説明します。

4.5.1 システム環境変数の確認

次のシステム環境変数が設定されているか確認します。設定されていない場合は、追加してください。

変数名

BLC2_HOME

変数値

BLC2 のインストールディレクトリのパス

4.5.2 BLC プロパティファイルの編集

BLC の設定では、BLC プロパティファイルを利用します。次に示す格納パスに、BLC プロパティファイルのサンプルが提供されています。このファイルを利用して、次のプロパティファイルを作成および編集します。

BLC プロパティファイルのサンプルの格納パス

<BLC2 のインストールディレクトリ>¥conf¥BLC.BLCproperties.sam

(1) BLC.BLCproperties の作成と編集

BLC.BLCproperties の作成手順および編集内容を示します。

作成手順

BLC.BLCproperties.sam ファイルをコピーして、BLC.BLCproperties ファイルを作成します。作成した BLC.BLCproperties ファイルは、コピー元と同じフォルダに格納してください。

編集内容

次の内容を編集してください。なお、プロパティの詳細は、マニュアル「Hitachi Business Logic -Container 2」の BLC のプロパティファイルを参照してください。

デプロイメントディレクトリのパスの設定

DeploymentDirectory キーにデプロイメントディレクトリのパスを設定します。

設定例を次に示します。

設定例

```
DeploymentDirectory= C:¥¥Program
Files¥¥HITACHI¥¥HBPM2¥¥blc¥¥simpleform¥¥deploy¥¥BLC2Sample
```

かんたん開発で使用する作業ディレクトリのパスの設定

SimpleFormWorkDirectory キーにかんたん開発で使用する作業ディレクトリのパスを設定します。設定例を次に示します。

設定例

```
SimpleFormWorkDirectory= C:¥¥Program
Files¥¥HITACHI¥¥HBPM2¥¥blc¥¥simpleform¥¥work
```

必要に応じて、次の内容を編集してください。

トレースファイルの出力先を変更する場合

BLC が出力するトレースファイルの出力先を変更したい場合は、TracePath キーを変更してください。

ユーザ情報のパスワードの形式を変更する場合

BLC が管理するユーザ情報のパスワードの形式を変更する場合は、PasswordType キーを変更してください。PasswordType キーに設定できる値は次のとおりです。なお、運用開始以降は、パスワード形式を変更できません。

表 4-4 PasswordType の設定値

設定値	設定されるパスワードの形式
なし (デフォルト)	平文 入力されたままのデータになります。
md5	MD5 Message Digest Algorithm 5 の略です。与えられた入力に対して 128 ビットのハッシュ値を出力するハッシュです。
sha1	SHA-1 Secure Hash Algorithm の略です。与えられた入力に対して 160 ビットのハッシュ値を出力するハッシュです。

(2) BLCcommand.BLCproperties の作成および編集

BLCcommand.BLCproperties の作成手順および編集内容を示します。

作成手順

BLCcommand.BLCproperties.sam ファイルをコピーして、BLCcommand.BLCproperties ファイルを作成します。作成した BLCcommand.BLCproperties ファイルは、コピー元と同じフォルダに格納してください。

編集内容

必要に応じて、次の内容を編集してください。なお、プロパティの詳細は、マニュアル「Hitachi Business Logic -Container 2」の BLC のプロパティファイルを参照してください。

トレースファイルの出力先を変更する場合

4. アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

BLC が出力するトレースファイルの出力先を変更したい場合は、TracePath の値を変更してください。

4.6 アプリケーションサーバの構築

アプリケーションサーバを構築し、アプリケーションを実行します。

この節では、次の内容を前提として説明します。

Smart Composer 機能の使用

Cosminexus が提供する Smart Composer 機能を使用して Web システムを構築します。Smart Composer 機能とは、Web システムを簡単に構築および運用できるよう支援するための機能です。Smart Composer 機能を使用した構築の流れについては、「4.6.2 Web システムの構築の流れ」を参照してください。

使用する設定値

次の値を使用してアプリケーションサーバを構築します。

表 4-5 アプリケーションサーバ構築時の設定値一覧

項目	設定値	備考
ドメイン名	DefaultDomain	省略値です。
Web システム名	BLC2	Web システムを識別する名称です。
パフォーマンスストレサの論理サーバ名	PRF	-
J2EE サーバの論理サーバ名	J2EE_SERV	-
Web サーバの論理サーバ名	Web_SERV	-
リソースアダプタ名	DB_Connector_for_Executer	Web 帳票アプリケーション用のリソースアダプタ名です。
	DB_Connector_for_Manager	CSCIWManagementServer 用のリソースアダプタ名です。
Web 帳票アプリケーション名	BLC2Sample	-

(凡例)

- : 備考がないことを表します。

システム構築中のエラーの発生について

アプリケーションサーバの構築時にエラーが発生した場合は、<Cosminexus のインストールディレクトリ>¥manager¥log フォルダの下のログ（運用管理エージェント、運用監視エージェント、および Management Server のログ）を参照してください。各ログの詳細については、マニュアル「Cosminexus システム運用ガイド」を参照してください。

エラーの詳細については、マニュアル「Cosminexus メッセージ 2 KEOS / KEUC / KFCB 編」を参照してください。

4.6.1 CSCIW の設定

Cosminexus 上で CSCIW を使用するために、サーバ管理コマンド用オプション定義ファイルを編集します。

サーバ管理コマンド用オプション定義ファイルの格納パスと編集内容は、次のとおりです。

サーバ管理コマンド用オプション定義ファイルの格納パス

<Cosminexus のインストールディレクトリ>%CC%admin%usrconf%usrconf.bat

編集内容

USRCONF_JVM_CLASSPATH に、CSCIW のクラスパス（太字部分）を追加します。

```
rem All Rights Reserved. Copyright (C) 2000, 2002, Hitachi, Ltd.
set USRCONF_JVM_ARGS=
set USRCONF_JVM_CLASSPATH=<CSCIWのインストールディレクトリ>%lib%csciw.jar
set USRCONF_JVM_LIBPATH=
```

4.6.2 Web システムの構築の流れ

Smart Composer 機能では、次の手順でアプリケーションサーバを構築します。

1. Management Server を起動します。
「4.3.2(6) Management Server の起動」を参照してください。すでに起動している場合は、この手順は読み飛ばしてください。
2. 構築するシステムのタイプ（物理ティア）を決定します。
「2.1(1) システム構成」に示すシステム構成例と異なる構成で構築する場合は、マニュアル「Cosminexus 簡易構築・運用ガイド」の Web システムの構成に関する説明を参照してください。
3. 決定した物理ティアに対応するテンプレートを使用して、Smart Composer 機能の簡易構築定義ファイルを作成します。
「4.6.3 Web システム定義の作成」を参照してください。
4. 作成した Smart Composer の簡易構築定義ファイルを使用してシステムを構築します。
「4.6.4 Web システムの構築」を参照してください。
5. SecurityManager 定義ファイルを編集します。
「4.6.5 SecurityManager 定義ファイルの設定」を参照してください。
6. アプリケーションサーバを起動します。
「4.6.6 Web システムの一括起動」を参照してください。

7. Portal Framework を使用するための環境を設定します。
「4.6.7 Portal Framework の設定」を参照してください。
8. CSCIWManagementServer のアクセス用環境を設定します。
「4.6.8 CSCIWManagementServer アクセス用環境の設定」を参照してください。
9. リソースアダプタの設定およびデプロイをして、開始します。
「4.6.10 リソースアダプタの設定」を参照してください。
10. ビジネスプロセス定義を登録します。
「5.5 ビジネスプロセス定義の登録」を参照してください。
開発環境と同じデータベースサーバを使用している場合、この手順は省略できます。
11. J2EE アプリケーションの設定およびデプロイをして、開始します。
次の内容を参照してください。
「4.6.11 CSCIWManagementServer の設定」
「4.6.12 案件運用操作の設定」
「4.6.13 Web 帳票アプリケーションの設定」

4.6.3 Web システム定義の作成

Smart Composer 機能で使用する簡易構築定義ファイルを作成し、Web システム定義を作成します。Smart Composer 機能の簡易構築定義ファイルについては、マニュアル「Cosminexus 簡易構築・運用ガイド」を参照してください。

簡易構築定義ファイルのテンプレートが用意されているので、そのファイルをコピーして作成します。簡易構築定義ファイルのテンプレートの格納パスと編集内容は、次のとおりです。

簡易構築定義ファイルのテンプレートの格納パス（コピー元）
<Cosminexus のインストールディレクトリ
>%manager%\config\templates\cmxdefcombinedmodel.xml

編集内容

次の編集前のファイルを基に、編集内容を示します。

4. アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

図 4-2 簡易構築定義ファイルのテンプレート (cmxdefcombinedmodel.xml)

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!-- All Rights Reserved. Copyright (C) 2002, 2007, Hitachi, Ltd. -->
<model-definition xmlns="http://www.cosminexus.com/mngsvr/schema/ModelDefinition-2.5">
  <web-system>
    <name>sample-system</name> ..... (a)
    <display-name>Sample System</display-name> ..... (b)
    <description>This is a sample.</description> ..... (1)
  </web-system>

  <!--Specify the settings of load balancer.-->
  <load-balancer>
    <name>BIG-IP-1</name>
    <load-balancer-type>BIG-IPv9</load-balancer-type>
    <management-host>192.168.1.100</management-host> ..... (2)
    <virtual-server>
      <virtual-server-name>vs100</virtual-server-name>
      <ip-address>192.168.0.100</ip-address>
      <http-port>80</http-port>
    </virtual-server>
  </load-balancer>

  <!--Specify the configurations for the Tier.-->
  <tier>
    <tier-type>combined-tier</tier-type>
    <!--combined-tier includes a Web Server (HWS), a J2EE Server (CCG)
    and a Performance Tracer on a host.--> ..... (3)
  </tier>

  <!--Specify the hosts for each Service Unit.-->
  <unit>
    <name>unit1</name>
    <allocated-host> ..... (c)
      <host-ref>192.168.2.1</host-ref>
      <hosts-for>combined-tier</hosts-for> ..... (d)
    </allocated-host>
  </unit>
  <unit>
    <name>unit2</name>
    <allocated-host> ..... (e)
      <host-ref>192.168.2.2</host-ref>
      <hosts-for>combined-tier</hosts-for>
    </allocated-host>
  </unit>
</web-system>

  <!--Specify the settings for the host.-->
  <host>
    <host-name>192.168.2.1</host-name> ..... (f)
    <agent-host>192.168.1.1</agent-host> ..... (g)
  </host>
  <host>
    <host-name>192.168.2.2</host-name> ..... (h)
    <agent-host>192.168.1.2</agent-host>
  </host>
</model-definition>

```

次の (1) ~ (5) の番号は図中の番号と対応しています。(6) に編集後のファイルを示します。

(1) Web システムの属性定義

(a) の内容を次のとおり変更します。

表 4-6 Web システムの属性定義の設定値

タグ名称	内容	変更前	変更後 (設定値)
Name	Web システムを識別するための名称	sample-system	BLC2

(b) のタグ (<display-name> および <description>) は使用しないので削除します。

(2) 負荷分散機の定義

負荷分散機は使用しないので、図中の (2) のタグはすべて削除します。

(3) 物理ティアの定義

物理ティアの定義は「combined-tier」とします。「combined-tier」は、サービスユニット内の Web サーバと J2EE サーバを 1 ホストとする構成です。

(4) サービスユニットの定義

(c)(d)(e) の内容に対して、追加および変更をします。

- (c) の内容を次のとおり変更します。

表 4-7 サービスユニットの定義の属性値 (c)

タグ名称	変更前	変更後 (設定値)	内容
name	unit1	BLC2_Unit	サービスユニットを識別するための名称
allocated-host	-	-	サービスユニットを構成するホストのリファレンスを定義
host-ref	192.168.2.1	@myhost	ホスト定義の <name> タグに指定したホスト名、または構築済みの Web システムで定義されているホスト名
hosts-for	combined-tier	combined-tier	<host-ref> タグで指定したホストが属する物理ティアの種類

(凡例)

- : 該当しません。

4. アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

- (d) の部分に次のタグと設定値を追加します。

表 4-8 サービスユニットの定義の属性値 (d)

タグ名称	設定値	内容
define-server	-	J2EE サーバのコンフィグレーションを定義
logical-server-name	J2EE_SERV	サーバの名称
logical-server-type	j2ee-server	サーバの種類
configuration	-	-
param	-	-
param-name	ex.param	-
param-value	add.class.path=<BLC2 のインストールディレクトリ >¥conf	-
	add.class.path= <CSCIW のインストールディレクトリ >¥lib¥csciw.jar	-
	add.class.path=<HiRDB のインストールディレクトリ >¥CLIENT¥UTL¥pdjdbc2.jar	HiRDB を使用する場合。HiRDB Type4 Driver のパスを指定します。 ¹
	add.class.path=C:¥oracle¥product ¥10.2.0¥Client_1¥jdbc¥lib¥ojdbc14.jar	Oracle を使用する場合。Oracle JDBC Thin Driver のパスを指定します。
	add.class.path=C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server 2005 JDBC Driver¥sqljdbc_1.1¥jpn¥sqljdbc.jar	SQL Server を使用する場合。Microsoft SQL Server 2005 JDBC Driver のパスを指定します。
	add.class.path=<Portal Framework のインストールディレクトリ >¥lib¥castor.jar	-
	add.class.path=<Portal Framework のインストールディレクトリ >¥lib¥ecs.jar	-
	add.class.path=<Portal Framework のインストールディレクトリ >¥lib¥hitachiportal.jar	-
	add.class.path=<Portal Framework のインストールディレクトリ >¥lib¥jakarta-oro.jar	-

タグ名称		設定値	内容
		add.class.path=<Portal Framework のインストールディレクトリ >¥lib¥portletwebsolib.jar	-
		add.class.path=<Portal Framework のインストールディレクトリ >¥lib¥velocity.jar	-
		add.class.path=<Portal Framework のインストールディレクトリ >¥lib¥village.jar	-
		add.class.path=<Portal Framework のインストールディレクトリ >¥lib¥portlet.jar	-
		add.class.path=<Portal Framework のインストールディレクトリ >¥conf	-
		add.class.path=<Portal Framework のインストールディレクトリ >¥xsd	-
	param	-	-
	param-name	ex.properties	-
	param-value	java.security.auth.login.config=<Cosminexus のインストールディレクトリ >/manager/config/jaas.conf	-
		com.cosminexus.admin.auth.config=<Cosminexus のインストールディレクトリ >/manager/config/ua.conf	-
	param	-	-
	param-name	ejbserver.http.port	簡易 Web サーバのポート
	param-value	8080	
	param	-	-
	param-name	webserver.connector.ajp13.port	Web サーバとの通信に使用するポート
	param-value	8007	
	param	-	-
	param-name	ejbserver.naming.port	J2EE サーバがネーミングサービスとして利用する CORBA ネーミングサービスのポート
	param-value	900 ²	

4. アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

タグ名称	設定値	内容		
param	-	-		
	param-name	ejbserver.rmi.naming.port	J2EE サーバが利用する RMI レジストリのポート	
	param-value	23152		
param ³	-	-		
	param-name	add.jvm.arg	Shift_JIS と Windows-31J の互換オプション	
	param-value	-Dsun.nio.cs.map=Windows-31J/Shift_JIS		
define-server	-	Web サーバのコンフィグレーションを定義		
logical-server-name	Web_SERV	サーバの名称		
logical-server-type	web-server	サーバの種類		
configuration	-	-		
	param	-	-	
		param-name	urlmap.m	マッピングの定義
		param-value	./blc/*	
			./CSCIWAdminServlet/*	案件運用操作を使用する場合に指定してください。
	param	-	-	
		param-name	Listen	Web サーバがリクエストを受け付けるポート番号
param-value		80		
define-server	-	PRF サーバのコンフィグレーションを定義		
logical-server-name	PRF	サーバの名称		
logical-server-type	performance-tracer	サーバの種類		

(凡例)

- : 該当しません。

注 1

組み込みデータベースを使用する場合は、「<Cosminexus のインストールディレクトリ>¥DB¥CLIENT¥UTL¥pdjdb2.jar」を指定します。

注 2

ポート番号を変更した場合、Cosminexus のサーバ管理コマンドを使用するときは、-nameserver オプションが必要になります。Cosminexus のサーバ管理コマンドについては、マニュアル「Cosminexus リファレンス コマンド編」を参照してください。

注 3

画面表示を MS932 に変更する場合に設定してください。このタグの設定を省略した場合は、Shift_JIS が設定されます。

- (e) のタグは使用しないので削除します。

(5) ホストの定義

(f) の内容を次のとおり追加，変更してください。

表 4-9 ホストの定義の設定値

タグ名称	変更前	変更後（設定値）	内容
host-name	192.168.2.1	@myhost	サービスユニットを識別するための名称
agent-port	記載なし	20295	Cosminexus 運用管理エージェントのポート番号

(g) および (h) のタグは使用しないので削除します。

(6) 編集後の簡易構築定義ファイル

(1) ~ (5) の追加，変更を反映したあとの簡易構築定義ファイルを示します。

なお，ここで示す簡易構築定義ファイルは，HiRDB を使用した場合の例です。太字部分が編集箇所になります。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!--All Rights Reserved. Copyright (C) 2007, 2008, Hitachi, Ltd.-->
<model-definition xmlns="http://www.cosminexus.com/mngsvr/schema/
ModelDefinition-2.5">
  <!-- Web System -->
  <web-system>
    <!-- Web System Property -->
    <name>BLC2</name>
    <!-- tier -->
    <tier>
      <tier-type>combined-tier</tier-type>
    </tier>

    <!-- Service Unit -->
    <unit>
      <name>BLC2_Unit</name>
      <allocated-host>
        <host-ref>@myhost</host-ref>
        <hosts-for>combined-tier</hosts-for>
      <define-server>
        <logical-server-name>J2EE_SERV</logical-server-name>
        <logical-server-type>j2ee-server</logical-server-type>
        <configuration>
          <param>

            <param-name>ex.param</param-name>
            <param-value>add.class.path=C:%Program
Files%HITACHI%HBPM2%conf</param-value>
            <param-value>add.class.path=C:%Program
Files%HITACHI%CSCIW%lib%csciw.jar</param-value>
            <param-value>add.class.path=C:%Program
Files%HITACHI%Cosminexus%DB%CLIENT%UTL%pdjdbc2.jar</param-value>
            <param-value>add.class.path=C:%Program
Files%HITACHI%CosmiPortal%lib%castor.jar</param-value>
            <param-value>add.class.path=C:%Program
Files%HITACHI%CosmiPortal%lib%ecsc.jar</param-value>
            <param-value>add.class.path=C:%Program
Files%HITACHI%CosmiPortal%lib%hitachiportal.jar</param-value>
            <param-value>add.class.path=C:%Program
Files%HITACHI%CosmiPortal%lib%jakarta-oro.jar</param-value>
```

4. アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

```
        <param-value>add.class.path=C:\Program
Files\HITACHI\CosmiPortal\lib\portletwebssolib.jar</param-value>
        <param-value>add.class.path=C:\Program
Files\HITACHI\CosmiPortal\lib\velocity.jar</param-value>
        <param-value>add.class.path=C:\Program
Files\HITACHI\CosmiPortal\lib\village.jar</param-value>
        <param-value>add.class.path=C:\Program
Files\HITACHI\CosmiPortal\lib\portlet.jar</param-value>
        <param-value>add.class.path=C:\Program
Files\HITACHI\CosmiPortal\conf</param-value>
        <param-value>add.class.path=C:\Program
Files\HITACHI\CosmiPortal\xsd</param-value>

    </param>
    <param>
        <param-name>ex.properties</param-name>
        <param-value>java.security.auth.login.config=C:/Program
Files/HITACHI/Cosminexus/manager/config/jaas.conf</param-value>
        <param-value>com.cosminexus.admin.auth.config=C:/Program
Files/HITACHI/Cosminexus/manager/config/ua.conf</param-value>
    </param>

    <param>
        <param-name>ejbserver.http.port</param-name>
        <param-value>8080</param-value>
    </param>
    <param>
        <param-name>webserver.connector.ajp13.port</param-name>
        <param-value>8007</param-value>
    </param>
    <param>
        <param-name>ejbserver.naming.port</param-name>
        <param-value>900</param-value>
    </param>

    <param>
        <param-name>ejbserver.rmi.naming.port</param-name>
        <param-value>23152</param-value>
    </param>
    <param>
        <param-name>add.jvm.arg</param-name>
        <param-value>-Dsun.nio.cs.map=Windows-31J/Shift_JIS</
param-value>
    </param>
</configuration>
</define-server>
<define-server>
    <logical-server-name>Web_SERV</logical-server-name>
    <logical-server-type>web-server</logical-server-type>

    <configuration>
        <param>
            <param-name>Listen</param-name>
            <param-value>80</param-value>
        </param>
        <param>
            <param-name>urlmap.m</param-name>
            <param-value>./blc/*</param-value>
            <param-value>./CSCIWAdminServlet/*</param-value>
        </param>
    </configuration>
```

```

</define-server>
<define-server>
  <logical-server-name>PRF</logical-server-name>
  <logical-server-type>performance-tracer</logical-server-type>
</define-server>
</allocated-host>
</unit>
</web-system>
<!-- hosts -->
<host>
  <host-name>@myhost</host-name>
  <agent-port>20295</agent-port>
</host>
</model-definition>

```

4.6.4 Web システムの構築

作成した簡易構築定義ファイルを使用して、Web システムを構築します。次のコマンド (cmx_build_system) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\manager\bin\cmx_build_system" -m localhost -u admin -p
admin -verbose -f 簡易構築定義ファイル名
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、Web システムの構築が完了します。

```
KEOS24406-I The operation was executed successfully.
```

4.6.5 SecurityManager 定義ファイルの設定

ポータルおよび展開ディレクトリ形式でのデプロイを使用するために、SecurityManager 定義ファイル (server.policy) を編集します。

プロパティファイルの格納パス

<Cosminexus のインストールディレクトリ

>%CC%\server\usrconf\ejb\J2EE_SERV\server.policy

編集内容

次の内容を追加します。

4. アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

```
grant codeBase"file:C:/Program Files/HITACHI/HBPM2/blc/simpleform/
deploy/BLC2Sample/-"{
  permission java.lang.RuntimePermission "accessDeclaredMembers";
  permission java.lang.RuntimePermission "modifyThread";
  permission java.lang.RuntimePermission "modifyThreadGroup";
  permission java.lang.RuntimePermission "stopThread";
  permission java.lang.RuntimePermission "getenv.COSMINEXUS_HOME";
  permission java.net.SocketPermission "*", "connect,resolve";
  permission java.io.FilePermission "<<ALL FILES>>",
"read,write,delete,execute";
  permission java.util.PropertyPermission "*", "read, write";
  permission javax.security.auth.AuthPermission
"createLoginContext.Portal";
};

grant codeBase
"file:C:/Program Files/HITACHI/CosmiPortal/lib/*"{
  permission java.lang.RuntimePermission "setFactory";
  permission java.lang.RuntimePermission "accessClassInPackage.sun.misc";
  permission java.lang.RuntimePermission "loadLibrary.*";
  permission java.lang.RuntimePermission "queuePrintJob";
  permission java.lang.RuntimePermission "accessDeclaredMembers";
  permission java.lang.RuntimePermission "modifyThread";
  permission java.lang.RuntimePermission "modifyThreadGroup";
  permission java.lang.RuntimePermission "stopThread";
  permission java.net.SocketPermission "*", "connect";
  permission java.io.FilePermission "<<ALL FILES>>", "read,write,delete";
  permission java.lang.reflect.ReflectPermission "suppressAccessChecks";
  permission java.util.PropertyPermission "*", "read, write";
  permission javax.security.auth.AuthPermission
"createLoginContext.Portal";
};
```

定義ファイル内の太字部分には、次の内容を設定してください。

- C:/Program Files/HITACHI/HBPM2/blc/simpleform/deploy/BLC2Sample/
プロパティファイルの DeploymentDirectory キーに指定したデプロイメントディレクトリのパスを設定します。「4.5.2(1) BLC.BLCpropertiesの作成と編集」で設定した値と同じパスを設定してください。
- C:/Program Files/HITACHI/CosmiPortal/
Portal Framework のインストールディレクトリを設定してください。

注

パス区切り文字は、「¥」ではなく「/」を使用してください。

4.6.6 Web システムの一括起動

構築した Web システムを一括起動し、稼働状態を確認します。

(1) Web システムの起動

次のコマンド (cmx_start_target) を実行して、Web システム内のすべてのサービスユニットを稼働状態で起動します。稼働状態にするには、-mode オプションに「ALL」を指定します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%¥manager¥bin¥cmx_start_target" -m localhost -u admin -p
admin -verbose -mode ALL -s BLC2
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、Web システムのすべてのサービスユニットが稼働状態になります。

```
KEOS24401-I The operation on the Web system (Web system name = BLC2) was successful.
```

(2) Web システムの稼働状態の確認

次のコマンド (cmx_list_status) を実行して、Web システム内のすべてのサービスユニットが稼働状態かどうか確認します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\manager\bin\cmx_list_status" -m localhost -u admin -p admin -verbose -s BLC2
```

コマンド実行後、次のように表示されれば、問題なく稼働しています。

```
BLC2_Unit, BLC2, done, working
```

4.6.7 Portal Framework の設定

Portal Framework を利用するための環境を設定します。

(1) 接続先リポジトリファイルの編集

BLC が提供するサンプルファイルを使用して、Portal Framework のリポジトリファイル (Repository.xml) を編集します。Portal Framework のリポジトリファイルの詳細については「付録 F Portal Framework のリポジトリファイル」を参照してください。

サンプルファイルのコピー

次に示すファイルをコピーします。

コピー元のファイル

```
<BLC2 のインストールディレクトリ>
>%blc%\setup\blc2easyssetup\template\Repository.xml
```

コピー先のフォルダ

```
<Portal Framework のインストールディレクトリ>\conf フォルダ下
```

編集内容

使用するデータベースサーバが Oracle または SQL Server の場合は、コピーしたファイルの <connection-info> タグ内の「dbms=」に次の値を追加します。

- Oracle を使用する場合：Oracle
- SQL Server を使用する場合：SQLServer

(2) コントローラ定義ファイルのコピー

BLC が提供するサンプルファイルを使用して、Portal Framework のコントローラ定義

4. アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

ファイル (controllers.xml) を作成します。次に示すファイルをコピーしてください。

コピー元のファイル

```
<BLC2 のインストールディレクトリ  
>%blc%setup%blc2easyssetup%template%controllers.xml
```

コピー先のフォルダ

```
<Portal Framework のインストールディレクトリ >%conf フォルダ下
```

(3) ポートレット配置情報ファイルのコピー

BLC が提供するサンプルファイルを使用して、Portal Framework のポートレット配置情報ファイル (homeHTML.psm) を作成します。次に示すファイルをコピーしてください。

コピー元のファイル

```
<BLC2 のインストールディレクトリ  
>%blc%setup%blc2easyssetup%template%homeHTML.psm
```

コピー先のフォルダ

```
<Portal Framework のインストールディレクトリ >%psml%group%default フォルダ  
下
```

(4) ポータル動作ファイルの設定

ポータル動作ファイル (PortalResources.properties) を編集します。ポータル動作ファイルの詳細は、マニュアル「uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド」を参照してください。

ポータル動作ファイルの格納パスと編集内容は、次のとおりです。

ポータル動作ファイルの格納パス

```
<Portal Framework のインストールディレクトリ  
>%conf%PortalResources.properties
```

編集内容

次の内容に変更してください。

```
jp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.WelcomeScreen.show  
false に変更してください。
```

```
jp.co.hitachi.soft.portal.portal.controls.NavigationPanedPortletControl.NavigationPortlet  
Name=navigationmenu  
コメントアウトしてください。
```

```
jp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.uservalue=userid  
コメントアウトしてください。
```

設定例を次に示します。

```

jpp.co.hitachi.soft.portal.modules.screens.WelcomeScreen.show=false
#jpp.co.hitachi.soft.portal.portal.controls.NavigationPanedPortletControl
.NavigationPortletName=navigationmenu
#jpp.co.hitachi.soft.portal.services.repository.uservalue=userid

```

(5) 統合ユーザ管理機能のインポート

次のコマンド (cjimportapp) を実行して、統合ユーザ管理機能をインポートします。

```

"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjimportapp" J2EE_SERV -f
"%COSMINEXUS_HOME%\manager\config\uastartup.ear"

```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、インポートが完了します。

```

KDJE37048-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37050-I Importing uastartup...
KDJE37041-I Application has been imported successfully. Name=[uastartup]

```

4.6.8 CSCIWManagementServer アクセス用環境の設定

CSCIWManagementServer にアクセスするために、ユーザが関連づけたロールに対応するユーザ ID とパスワードを、BLC から設定します。次の例では、ユーザ名に「admin」、パスワードに「admin」を設定します。

次のコマンド (blcsetenviw) を実行してください。

```

"C:\Program Files\HITACHI\HBPM2\blc\bin\blcsetenviw" -u admin -p admin

```

4.6.9 Web 帳票アプリケーションのコピー (開発環境から実行環境へのコピー)

開発環境で作成した Web 帳票アプリケーションを実行環境にコピーします。

次の手順で Web 帳票アプリケーションを実行環境にコピーしてください。

(1) Web 帳票アプリケーションのコピー

開発環境で構築した Web 帳票アプリケーションをアプリケーションディレクトリごと実行環境のマシンにコピーします。コピー先は、開発環境と同じディレクトリです。

コピーするアプリケーションディレクトリ

<BLC2 のインストールディレクトリ>\%blc%\simpleform\deploy\BLC2Sample

(2) Portal Framework の設定ファイルのコピー

開発環境で構築した Portal Framework の設定を実行環境にコピーします。次のファイルを開発環境と同じディレクトリにコピーします。

4. アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

- <Portal Framework のインストールディレクトリ >%conf%\jetspeed-config.jcfg
- <Portal Framework のインストールディレクトリ >%conf%\controllers.xml
- <Portal Framework のインストールディレクトリ
>%conf%\PortalResources.properties
- <Portal Framework のインストールディレクトリ >%psml フォルダ

(3) コピーしたファイルの編集

開発環境と実行環境で Cosminexus または Portal Framework のインストールディレクトリが異なる場合は、開発環境から実行環境へコピーしたファイルを編集する必要があります。

実行環境にコピーしたファイルのうち、次に示すファイルを編集してください。

表 4-10 実行環境で編集するファイル

編集対象ファイル	編集内容
<Portal Framework のインストールディレクトリ >%conf%\PortalResources.properties	開発環境でのインストールディレクトリが設定されているので、実行環境でのインストールディレクトリに書き換えてください。
<Web 帳票アプリケーションのコピー先ディレクトリ >%blc_war%\WEB-INF%\web.xml	
<Web 帳票アプリケーションのコピー先ディレクトリ >%blc_war%\WEB-INF%\sysconf%\env.file	

また、トレース出力先のパスが開発環境と実行環境で異なる場合は、EUR Form Service の環境設定ファイルを編集する必要があります。トレース出力先のパスを指定しているキーを適切な値に編集してください。

編集対象ファイル

<Web 帳票アプリケーションのコピー先ディレクトリ
>%blc_war%\WEB-INF%\classes%\eformservice.properties

編集対象キー

- TraceErrorFileDir
- TraceFileDir

(4) EUR Form 連携帳票ファイルの送信ユニット情報の変更

「(1) Web 帳票アプリケーションのコピー」でコピーした Web 帳票アプリケーション内に EUR Form 連携帳票（拡張子が efd のファイル）がある場合は、送信ユニット情報を実行環境マシンのホスト名に合わせて変更してください。送信ユニット情報の変更については、「5.4.1(2)(a) 送信ユニット情報の変更」を参照してください。

(5) Web システムの再起動

実行環境の Web システムがすでに稼働している場合は、ファイルを編集したあとに Web

システムを再起動してください。

また、開発環境からコピーした帳票に対応するビジネスプロセス、および振り分けルールを実行環境側でも同様に登録してください。

4.6.10 リソースアダプタの設定

Web 帳票アプリケーションと CSCIWManagementServer それぞれで使用するリソースアダプタに必要な設定をします。リソースアダプタの設定は、Connector 属性ファイルと呼ばれる属性ファイルを使用します。

使用しているデータベースによって、コマンドの指定内容および実行結果が異なります。HiRDB、Oracle、または SQL Server を使用する場合に分けて、リソースアダプタの設定方法を説明します。

(1) HiRDB の場合

HiRDB を使用している場合のリソースアダプタの設定方法について説明します。

(a) リソースアダプタのインポート

次のコマンド (cjimportres) を実行して、HiRDB Type4 Driver に対応するリソースアダプタをインポートします。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjimportres" J2EE_SERV -type rar -f
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\DBConnector\DBConnector_HiRDB_Type4_CP.rar"
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、リソースアダプタのインポートが完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37404-I Importing DB_Connector_for_HiRDB_Type4...
KDJE37501-I RAR has been imported successfully. (name =
[DB_Connector_for_HiRDB_Type4])
```

(b) Connector 属性ファイルの取得

次に示す Connector 属性ファイルをカレントディレクトリに取得します。

Web 帳票アプリケーション用リソースアダプタの Connector 属性ファイル

名称

次に示す名称で取得します。

MyDBConnector_Executer_Attr.xml

コマンドの実行例

次のコマンド (cjgetresprop) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjgetresprop" J2EE_SERV -type rar
-resname DB_Connector_for_HiRDB_Type4 -c MyDBConnector_Executer_Attr.xml
```

4. アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

コマンドの実行結果

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、Connector 属性ファイルの取得が完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_HiRDB_Type4...
KDJE37408-I Acquiring DB_Connector_for_HiRDB_Type4...
KDJE37505-I RAR has been obtained successfully. (name =
[DB_Connector_for_HiRDB_Type4])
```

CSCIWManagementServer 用リソースアダプタの Connector 属性ファイル
取得した Web 帳票アプリケーション用リソースアダプタの Connector 属性ファイル
(MyDBConnector_Executer_Attr.xml) をコピーして、次の名称に変更します。

名称

MyDBConnector_Manager_Attr.xml

(c) Connector 属性ファイルの編集

取得した Connector 属性ファイルを次のとおり編集します。

表 4-11 Connector 属性ファイルの設定値 (HiRDB)

設定項目	設定値		設定内容
	Web 帳票アプリケーション用リソースアダプタの場合	CSCIWManagementServer 用リソースアダプタの場合	
display-name	DB_Connector_for_Executer	DB_Connector_for_Manager	リソースアダプタの表示名
description	<HiRDB のポート番号 >		HiRDB のポート番号
DBHostName	<HiRDB のホスト名 >		HiRDB のホスト名
encodeLang	1		文字コード
LONGVARIABLE_ACCESS	LOCATOR ²		データベースアクセスの型
User	BLC		ユーザ名
Password	BLC		パスワード
MinPoolSize	20 ³	1	コネクションプールの最小値
MaxPoolSize	20 ³	1	コネクションプールの最大値

注 1

データベースで UTF-8 を使用する場合は、UTF-8 を指定します。

注 2

添付ファイルを利用する場合の設定については、マニュアル「Hitachi Business Logic - Container 2」を参照してください。

注 3

環境のシステムリソースに合わせて設定してください。

なお、コネクション枯渇時の動作は、リソースアダプタの Connector 属性ファイルの property タグの設定値に依存します。

コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列を有効にするかどうか

RequestQueueEnable (デフォルト: True)

コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列のとどまることのできる時間の最大値

RequestQueueTimeout (デフォルト: 30 秒)

デフォルトの設定では、データベースアクセス処理でコネクションが枯渇した場合、コネクションが取得できるまで最大 30 秒の待ちが発生します。30 秒以内にコネクションが取得できない場合は SQL エラーが発生します。

設定値の詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」の <property> タグに指定できるプロパティについて記載されている箇所を参照してください。

また、Cosminexus の同時実行スレッド数についても適切に設定してください。

同時実行スレッド数の詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」の usrconf.properties (J2EE サーバ用ユーザプロパティファイル) の

webserver.connector.ajp13.max_threads について記載されている箇所を参照してください。

Connector 属性ファイルの編集例については、「付録 D.1(1) Connector 属性ファイル (HiRDB)」を参照してください。

(d) Connector 属性ファイルの反映

編集した Connector 属性ファイルの内容をリソースアダプタに反映します。Connector 属性ファイルの反映が一つ終わったら、リソースアダプタを再度インポートしてください。リソースアダプタのインポート手順については、「(a) リソースアダプタのインポート」を参照してください。

Web 帳票アプリケーション用リソースアダプタの Connector 属性ファイル

コマンドの実行例

次のコマンド (cjsetresprop) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjsetresprop" J2EE_SERV -type rar
-resname DB_Connector_for_HiRDB_Type4 -c MyDBConnector_Executer_Attr.xml
```

コマンドの実行結果

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、リソースアダプタへの反映が完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_HiRDB_Type4...
KDJE37409-I Setting DB_Connector_for_HiRDB_Type4...
KDJE37506-I RAR has been set successfully. (name =
[DB_Connector_for_HiRDB_Type4])
```

CSCIWManagementServer 用リソースアダプタの Connector 属性ファイル

4. アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

コマンドの実行例

次のコマンド (cjsetresprop) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjsetresprop" J2EE_SERV -type rar  
-resname DB_Connector_for_HiRDB_Type4 -c MyDBConnector_Manager_Attr.xml
```

コマンドの実行結果

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、リソースアダプタへの反映が完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...  
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_HiRDB_Type4...  
KDJE37409-I Setting DB_Connector_for_HiRDB_Type4...  
KDJE37506-I RAR has been set successfully. (name =  
[DB_Connector_for_HiRDB_Type4])
```

(e) リソースアダプタのデプロイ

リソースアダプタをそれぞれデプロイします。

Web 帳票アプリケーション用リソースアダプタ

コマンドの実行例

次のコマンド (cjdeployrar) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjdeployrar" J2EE_SERV -resname  
DB_Connector_for_Executer
```

コマンドの実行結果

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、デプロイが完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...  
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_Executer...  
KDJE37421-I Deploying DB_Connector_for_Executer...  
KDJE37521-I RAR has been deployed successfully. (name =  
[DB_Connector_for_Executer])
```

CSCIWManagementServer 用リソースアダプタ

コマンドの実行例

次のコマンド (cjdeployrar) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjdeployrar" J2EE_SERV -resname  
DB_Connector_for_Manager
```

コマンドの実行結果

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、デプロイが完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...  
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_Manager...  
KDJE37421-I Deploying DB_Connector_for_Manager...  
KDJE37521-I RAR has been deployed successfully. (name =  
[DB_Connector_for_Manager])
```

(f) リソースアダプタの接続テスト

リソースアダプタが正常に接続できるかテストします。

Web 帳票アプリケーション用リソースアダプタ

コマンドの実行例

次のコマンド (cjtestres) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjtestres" J2EE_SERV -type rar -resname
DB_Connector_for_Executer
```

コマンドの実行結果

コマンド実行後、次のように表示されれば、正常に接続できています。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_Executer...
KDJE37411-I Testing RAR of DB_Connector_for_Executer...
KDJE37510-I RAR of DB_Connector_for_Executer has been tested
successfully. Name= [DB_Connector_for_Executer]
```

CSCIWManagementServer 用リソースアダプタ

コマンドの実行例

次のコマンド (cjtestres) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjtestres" J2EE_SERV -type rar -resname
DB_Connector_for_Manager
```

コマンドの実行結果

コマンド実行後、次のように表示されれば、正常に接続できています。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_Manager...
KDJE37411-I Testing RAR of DB_Connector_for_Manager...
KDJE37510-I RAR of DB_Connector_for_Manager has been tested successfully.
Name= [DB_Connector_for_Manager]
```

(g) リソースアダプタの開始

接続テストまで完了したら、次のコマンド (cjstartrar) を実行して、リソースアダプタを開始します。

Web 帳票アプリケーション用リソースアダプタ

コマンドの実行例

次のコマンド (cjstartrar) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjstartrar" J2EE_SERV -resname
DB_Connector_for_Executer
```

コマンドの実行結果

コマンド実行後、次のように表示されれば、正常に接続できています。

4. アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_Executer...
KDJE37423-I Starting DB_Connector_for_Executer...
KDJE37523-I RAR has started successfully. (name =
[DB_Connector_for_Executer])
```

CSCIWManagementServer 用リソースアダプタ

コマンドの実行例

次のコマンド (cjstartrar) 実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjstartrar" J2EE_SERV -resname
DB_Connector_for_Manager
```

コマンドの実行結果

コマンド実行後、次のように表示されれば、正常に接続できています。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_Manager...
KDJE37423-I Starting DB_Connector_for_Manager...
KDJE37523-I RAR has started successfully. (name =
[DB_Connector_for_Manager])
```

(2) Oracle の場合

Oracle を使用している場合のリソースアダプタの設定方法について説明します。

(a) リソースアダプタのインポート

次のコマンド (cjimportres) を実行して、Oracle JDBC Thin Driver に対応するリソースアダプタをインポートします。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjimportres" J2EE_SERV -type rar -f
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\DBConnector\DBConnector_Oracle_CP.rar"
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、リソースアダプタのインポートが完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37404-I Importing DB_Connector_for_Oracle...
KDJE37501-I RAR has been imported successfully. (name =
[DB_Connector_for_Oracle])
```

(b) Connector 属性ファイルの取得

次に示す Connector 属性ファイルをカレントディレクトリに取得します。

Web 帳票アプリケーション用リソースアダプタの Connector 属性ファイル

名称

次に示す名称で取得します。

MyDBConnector_Executer_Attr.xml

コマンドの実行例

次のコマンド (cjgetresprop) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjgetresprop" J2EE_SERV -type rar
-resname DB_Connector_for_Oracle -c MyDBConnector_Executer_Attr.xml
```

コマンドの実行結果

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、Connector 属性ファイルの取得が完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_Oracle...
KDJE37408-I Acquiring DB_Connector_for_Oracle...
KDJE37505-I RAR has been obtained successfully. (name =
[DB_Connector_for_Oracle])
```

CSCIWManagementServer 用リソースアダプタの Connector 属性ファイル

取得した Web 帳票アプリケーション用リソースアダプタの Connector 属性ファイル (MyDBConnector_Executer_Attr.xml) をコピーして、次の名称に変更します。

名称

MyDBConnector_Manager_Attr.xml

(c) Connector 属性ファイルの編集

取得した Connector 属性ファイルを次のとおり編集します。リソースアダプタに Oracle Thin Driver を使用する場合の設定については、マニュアル「Cosminexus 簡易構築・運用ガイド」を参照してください。

表 4-12 Connector 属性ファイルの設定値 (Oracle)

設定項目	設定値		設定内容
	Web 帳票アプリケーション用リソースアダプタの場合	CSCIWManagementServer 用リソースアダプタの場合	
display-name	DB_Connector_for_Executer	DB_Connector_for_Manager	リソースアダプタの表示名
databaseName	BLCDB		データベース名
serverName	<Oracle のホスト名または IP アドレス >		Oracle のホスト名
portNumber	1521		Oracle のポート番号
User	BLC		ユーザ名
Password	BLC		パスワード
MinPoolSize	20	1	コネクションプールの最小値
MaxPoolSize	20	1	コネクションプールの最大値

4. アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

注

環境のシステムリソースに合わせて設定してください。

なお、コネクション枯渇時の動作は、リソースアダプタの Connector 属性ファイルの property タグの設定値に依存します。

コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列を有効にするかどうか

RequestQueueEnable (デフォルト : True)

コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列のとどまることのできる時間の最大値

RequestQueueTimeout (デフォルト : 30 秒)

デフォルトの設定では、データベースアクセス処理でコネクションが枯渇した場合、コネクションが取得できるまで最大 30 秒の待ちが発生します。30 秒以内にコネクションが取得できない場合は SQL エラーが発生します。

設定値の詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」の <property> タグに指定できるプロパティについて記載されている個所を参照してください。

また、Cosminexus の同時実行スレッド数についても適切に設定してください。

同時実行スレッド数の詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」の `usrconf.properties` (J2EE サーバ用ユーザプロパティファイル) の

`webserver.connector.ajp13.max_threads` について記載されている個所を参照してください。

Connector 属性ファイルの編集例については、「付録 D.1(2) Connector 属性ファイル (Oracle)」を参照してください。

(d) Connector 属性ファイルの反映

編集した Connector 属性ファイルの内容をリソースアダプタに反映します。Connector 属性ファイルの反映が一つ終わったら、リソースアダプタを再度インポートしてください。リソースアダプタのインポート手順については、「(a) リソースアダプタのインポート」を参照してください。

Web 帳票アプリケーション用リソースアダプタの Connector 属性ファイル

コマンドの実行例

次のコマンド (`cjsetresprop`) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjsetresprop" J2EE_SERV -type rar  
-resname DB_Connector_for_Oracle -c MyDBConnector_Executer_Attr.xml
```

コマンドの実行結果

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、リソースアダプタへの反映が完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...  
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_Oracle...  
KDJE37409-I Setting DB_Connector_for_Oracle...  
KDJE37506-I RAR has been set successfully. (name =  
[DB_Connector_for_Oracle])
```

CSCIWManagementServer 用リソースアダプタの Connector 属性ファイル

コマンドの実行例

次のコマンド (`cjsetresprop`) を実行します。


```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjsetresprop" J2EE_SERV -type rar
-resname DB_Connector_for_Oracle -c MyDBConnector_Manager_Attr.xml
```

コマンドの実行結果

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、リソースアダプタへの反映が完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_Oracle...
KDJE37409-I Setting DB_Connector_for_Oracle...
KDJE37506-I RAR has been set successfully. (name =
[DB_Connector_for_Oracle])
```

(e) リソースアダプタのデプロイ

リソースアダプタをそれぞれデプロイします。

Web 帳票アプリケーション用リソースアダプタ

コマンドの実行例

次のコマンド (cjdeployrar) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjdeployrar" J2EE_SERV -resname
DB_Connector_for_Executer
```

コマンドの実行結果

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、デプロイが完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_Executer...
KDJE37421-I Deploying DB_Connector_for_Executer...
KDJE37521-I RAR has been deployed successfully. (name =
[DB_Connector_for_Executer])
```

CSCIWManagementServer 用リソースアダプタ

コマンドの実行例

次のコマンド (cjdeployrar) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjdeployrar" J2EE_SERV -resname
DB_Connector_for_Manager
```

コマンドの実行結果

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、デプロイが完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_Manager...
KDJE37421-I Deploying DB_Connector_for_Manager...
KDJE37521-I RAR has been deployed successfully. (name =
[DB_Connector_for_Manager])
```

4. アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

(f) リソースアダプタの接続テスト

リソースアダプタが正常に接続できるかテストします。

Web 帳票アプリケーション用リソースアダプタ

コマンドの実行例

次のコマンド (cjtestres) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjtestres" J2EE_SERV -type rar -resname DB_Connector_for_Executer
```

コマンドの実行結果

コマンド実行後、次のように表示されれば、正常に接続できています。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_Executer...
KDJE37411-I Testing RAR of DB_Connector_for_Executer...
KDJE37510-I RAR of DB_Connector_for_Executer has been tested
successfully. Name= [DB_Connector_for_Executer]
```

CSCIWManagementServer 用リソースアダプタ

コマンドの実行例

次のコマンド (cjtestres) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjtestres" J2EE_SERV -type rar -resname DB_Connector_for_Manager
```

コマンドの実行結果

コマンド実行後、次のように表示されれば、正常に接続できています。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_Manager...
KDJE37411-I Testing RAR of DB_Connector_for_Manager...
KDJE37510-I RAR of DB_Connector_for_Manager has been tested successfully.
Name= [DB_Connector_for_Manager]
```

(g) リソースアダプタの開始

接続テストまで完了したら、次のコマンド (cjstartrar) を実行して、リソースアダプタを開始します。

Web 帳票アプリケーション用リソースアダプタ

コマンドの実行例

次のコマンド (cjstartrar) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjstartrar" J2EE_SERV -resname DB_Connector_for_Executer
```

コマンドの実行結果

コマンド実行後、次のように表示されれば、正常に接続できています。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_Executer...
KDJE37423-I Starting DB_Connector_for_Executer...
KDJE37523-I RAR has started successfully. (name =
[DB_Connector_for_Executer])
```

CSCIWManagementServer 用リソースアダプタ

コマンドの実行例

次のコマンド (cjstartrar) 実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjstartrar" J2EE_SERV -resname
DB_Connector_for_Manager
```

コマンドの実行結果

コマンド実行後、次のように表示されれば、正常に接続できています。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_Manager...
KDJE37423-I Starting DB_Connector_for_Manager...
KDJE37523-I RAR has started successfully. (name =
[DB_Connector_for_Manager])
```

(3) SQL Server の場合

SQL Server を使用している場合のリソースアダプタの設定方法について説明します。

(a) リソースアダプタのインポート

次のコマンド (cjimportres) を実行して、Microsoft SQL Server 2005 JDBC Driver に対応するリソースアダプタをインポートします。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjimportres" J2EE_SERV -type rar -f
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\%DBConnector\DBConnector_SQLServer2005_CP.rar"
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、リソースアダプタのインポートが完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37404-I Importing DBConnector_for_SQLServer2005...
KDJE37501-I RAR has been imported successfully. (name =
[DBConnector_for_SQLServer2005])
```

(b) Connector 属性ファイルの取得

次に示す Connector 属性ファイルをカレントディレクトリに取得します。

Web 帳票アプリケーション用リソースアダプタの Connector 属性ファイル

名称

次に示す名称で取得します。

MyDBConnector_Executer_Attr.xml

4. アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

コマンドの実行例

次のコマンド (cjgetresprop) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjgetresprop" J2EE_SERV -type rar
-resname DB_Connector_for_SQLServer2005 -c
MyDBConnector_Executer_Attr.xml
```

コマンドの実行結果

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、Connector 属性ファイルの取得が完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching DBConnector_for_SQLServer2005...
KDJE37408-I Acquiring DBConnector_for_SQLServer2005...
KDJE37505-I RAR has been obtained successfully. (name =
[DB_Connector_for_SQLServer2005])
```

CSCIWManagementServer 用のリソースアダプタの Connector 属性ファイル

取得した Web 帳票アプリケーション用リソースアダプタの Connector 属性ファイル (MyDBConnector_Executer_Attr.xml) をコピーして、次の名称に変更します。

名称

MyDBConnector_Manager_Attr.xml

(c) Connector 属性ファイルの編集

取得した Connector 属性ファイルを次のとおり編集します。

表 4-13 Connector 属性ファイルの設定値 (SQL Server)

設定項目	設定値		設定内容
	Web 帳票アプリケーション用リソースアダプタの場合	CSCIWManagementServer 用リソースアダプタの場合	
display-name	DB_Connector_for_Executer	DB_Connector_for_Manager	リソースアダプタの表示名
databaseName	BLCDB		データベース名
serverName	<SQL Server のホスト名または IP アドレス >		SQL Server のホスト名
portNumber	1433		SQL Server のポート番号
User	BLC		ユーザ名
Password	BLC		パスワード
MinPoolSize	20	1	コネクションプールの最小値
MaxPoolSize	20	1	コネクションプールの最大値

注

環境のシステムリソースに合わせて設定してください。

なお、コネクション枯渇時の動作は、リソースアダプタの Connector 属性ファイルの property タグの設定値に依存します。

コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列を有効にするかどうか

RequestQueueEnable (デフォルト: True)

コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列のとどまることのできる時間の最大値

RequestQueueTimeout (デフォルト: 30 秒)

デフォルトの設定では、データベースアクセス処理でコネクションが枯渇した場合、コネクションが取得できるまで最大 30 秒の待ちが発生します。30 秒以内にコネクションが取得できない場合は SQL エラーが発生します。

設定値の詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」の <property> タグに指定できるプロパティについて記載されている箇所を参照してください。

また、Cosminexus の同時実行スレッド数についても適切に設定してください。

同時実行スレッド数の詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」の usrconf.properties (J2EE サーバ用ユーザプロパティファイル) の

webserver.connector.ajp13.max_threads について記載されている箇所を参照してください。

Connector 属性ファイルの編集例については、「付録 D.1(3) Connector 属性ファイル (SQL Server)」を参照してください。

(d) Connector 属性ファイルの反映

編集した Connector 属性ファイルの内容をリソースアダプタに反映します。Connector 属性ファイルの反映が一つ終わったら、リソースアダプタを再度インポートしてください。リソースアダプタのインポート手順については、「(a) リソースアダプタのインポート」を参照してください。

Web 帳票アプリケーション用リソースアダプタの Connector 属性ファイル

コマンドの実行例

次のコマンド (cjsetresprop) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjsetresprop" J2EE_SERV -type rar
-resname DB_Connector_for_SQLServer2005 -c
MyDBConnector_Executer_Attr.xml
```

コマンドの実行結果

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、リソースアダプタへの反映が完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_SQLServer2005...
KDJE37409-I Setting DB_Connector_for_SQLServer2005...
KDJE37506-I RAR has been set successfully. (name =
[DB_Connector_for_SQLServer2005])
```

CSCIWManagementServer 用リソースアダプタの Connector 属性ファイル

コマンドの実行例

4. アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

次のコマンド (cjsetresprop) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjsetresprop" J2EE_SERV -type rar  
-resname DB_Connector_for_SQLServer2005 -c  
MyDBConnector_Manager_Attr.xml
```

コマンドの実行結果

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、リソースアダプタへの反映が完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...  
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_SQLServer2005...  
KDJE37409-I Setting DB_Connector_for_SQLServer2005...  
KDJE37506-I RAR has been set successfully. (name =  
[DB_Connector_for_SQLServer2005])
```

(e) リソースアダプタのデプロイ

リソースアダプタをそれぞれデプロイします。

Web 帳票アプリケーション用リソースアダプタ

コマンドの実行例

次のコマンド (cjdeployrar) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjdeployrar" J2EE_SERV -resname  
DB_Connector_for_Executer
```

コマンドの実行結果

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、デプロイが完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...  
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_Executer...  
KDJE37421-I Deploying DB_Connector_for_Executer...  
KDJE37521-I RAR has been deployed successfully. (name =  
[DB_Connector_for_Executer])
```

CSCIWManagementServer 用リソースアダプタ

コマンドの実行例

次のコマンド (cjdeployrar) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjdeployrar" J2EE_SERV -resname  
DB_Connector_for_Manager
```

コマンドの実行結果

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、デプロイが完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...  
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_Manager...  
KDJE37421-I Deploying DB_Connector_for_Manager...  
KDJE37521-I RAR has been deployed successfully. (name =  
[DB_Connector_for_Manager])
```

(f) リソースアダプタの接続テスト

リソースアダプタが正常に接続できるかテストします。

Web 帳票アプリケーション用リソースアダプタ

コマンドの実行例

次のコマンド (cjtestres) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjtestres" J2EE_SERV -type rar -resname
DB_Connector_for_Executer
```

コマンドの実行結果

コマンド実行後、次のように表示されれば、正常に接続できています。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_Executer...
KDJE37411-I Testing RAR of DB_Connector_for_Executer...
KDJE37510-I RAR of DB_Connector_for_Executer has been tested
successfully. Name= [DB_Connector_for_Executer]
```

CSCIWManagementServer 用リソースアダプタ

コマンドの実行例

次のコマンド (cjtestres) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjtestres" J2EE_SERV -type rar -resname
DB_Connector_for_Manager
```

コマンドの実行結果

コマンド実行後、次のように表示されれば、正常に接続できています。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_Manager...
KDJE37411-I Testing RAR of DB_Connector_for_Manager...
KDJE37510-I RAR of DB_Connector_for_Manager has been tested successfully.
Name= [DB_Connector_for_Manager]
```

(g) リソースアダプタの開始

接続テストまで完了したら、次のコマンド (cjstartrar) を実行して、リソースアダプタを開始します。

Web 帳票アプリケーション用リソースアダプタ

コマンドの実行例

次のコマンド (cjstartrar) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjstartrar" J2EE_SERV -resname
DB_Connector_for_Executer
```

コマンドの実行結果

コマンド実行後、次のように表示されれば、正常に接続できています。

4. アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_Executer...
KDJE37423-I Starting DB_Connector_for_Executer...
KDJE37523-I RAR has started successfully. (name =
[DB_Connector_for_Executer])
```

CSCIWManagementServer 用リソースアダプタ

コマンドの実行例

次のコマンド (cjstartrar) 実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjstartrar" J2EE_SERV -resname
DB_Connector_for_Manager
```

コマンドの実行結果

コマンド実行後、次のように表示されれば、正常に接続できています。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching DB_Connector_for_Manager...
KDJE37423-I Starting DB_Connector_for_Manager...
KDJE37523-I RAR has started successfully. (name =
[DB_Connector_for_Manager])
```

4.6.11 CSCIWManagementServer の設定

CSCIWManagementServer は、ワークフローシステムの運用を支援する機能です。Web 帳票アプリケーションや案件運用操作を実行するには、CSCIWManagementServer の設定が必要です。CSCIWManagementServer の設定は、CSCIWManagementServer の属性ファイルを使用します。

(1) セキュリティロールの設定

CSCIWManagementServer で使用するセキュリティロールを設定します。セキュリティロールは、セキュリティロールの登録、ユーザの登録、セキュリティロールとユーザの関連づけという手順で設定します。

セキュリティロールの登録

次のコマンド (cjaddsec) を実行して、セキュリティロールを登録します。セキュリティロール名は「csciwdef」を設定します。

```
cjaddsec J2EE_SERV -type role -name csciwdef
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、セキュリティロールの登録が完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37406-I Adding csciwdef...
KDJE37503-I Role has been added successfully. (name = [csciwdef])
```


ユーザの登録

次のコマンド (cjaddsec) を実行して、ユーザを登録します。次の例では、ユーザ名に「admin」、パスワードに「admin」を設定します。

```
cjaddsec J2EE_SERV -type user -name admin -password admin
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、ユーザの登録が完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37406-I Adding admin...
KDJE37503-I User has been added successfully. (name = [admin])
```

セキュリティロールとユーザの関連づけ

次のコマンド (cjmapsec) を実行して、セキュリティロールとユーザを関連づけます。

```
cjmapsec J2EE_SERV -role csciwdef -user admin
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、セキュリティロールとユーザの関連づけが完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching csciwdef...
KDJE37401-I Searching admin...
KDJE37415-I Mapping admin...
KDJE37514-I User has been mapped successfully. (name = [admin])
```

(2) CSCIWManagementServer のインポート

次のコマンド (cjimportapp) を実行して、CSCIWManagementServer をインポートします。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjimportapp" J2EE_SERV -f
"%CSCIW_HOME%\lib\csciw.ear"
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、CSCIWManagementServer のインポートが完了します。

```
KDJE37048-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37050-I Importing CSCIWManagementServer...
KDJE37041-I Application has been imported successfully.
Name=[CSCIWManagementServer]
```

(3) CSCIWManagementServer の属性ファイルの取得

CSCIWManagementServer の属性ファイルを「MyCSCIW_Attr.xml」という名前でクライアントディレクトリに取得します。次のコマンド (cjgetappprop) を実行します。

4. アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjgetappprop" J2EE_SERV -name  
CSCIWManagementServer -type all -c MyCSCIW_Attr.xml
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、CSCIWManagementServer の属性ファイルの取得が完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...  
KDJE37401-I Searching CSCIWManagementServer...  
KDJE37408-I Acquiring CSCIWManagementServer...  
KDJE37505-I Application has been obtained successfully. (name =  
[CSCIWManagementServer])
```

(4) CSCIWManagementServer の属性ファイルの編集

取得した CSCIWManagementServer の属性ファイルを次のとおり編集します。

表 4-14 CSCIWManagementServer の属性ファイルの設定値

設定項目	設定値
開始順位	0
セキュリティロール名	csciwdef
リソース参照のリンク先	DB_Connector_for_Manager (リソースアダプタの表示名)

CSCIWManagementServer の属性ファイルの編集例については、「付録 D.2 CSCIWManagementServer の属性ファイル」を参照してください。

(5) CSCIWManagementServer の属性ファイルの反映

次のコマンド (cjsetappprop) を実行して、編集した CSCIWManagementServer の属性ファイルの内容を反映します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjsetappprop" J2EE_SERV -name  
CSCIWManagementServer -type all -c MyCSCIW_Attr.xml
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、反映が完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...  
KDJE37401-I Searching CSCIWManagementServer...  
KDJE37409-I Setting CSCIWManagementServer...  
KDJE37506-I Application has been set successfully. (name =  
[CSCIWManagementServer])
```

(6) CSCIWManagementServer の開始

次のコマンド (cjstartapp) を実行して、CSCIWManagementServer を開始します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjstartapp" J2EE_SERV -name
CSCIWManagementServer
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、CSCIWManagementServer が開始されます。

```
KDJE37048-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37049-I Searching CSCIWManagementServer...
KDJE37054-I Starting CSCIWManagementServer...
Creation of the configuration for the J2EE application
"CSCIWManagementServer" is in progress.
Loading of the EJB-JAR deployment descriptors in the J2EE application
"CSCIWManagementServer" is in progress.
The deployment environment will now be set.
Deployment of the EJB "IDStoreEJB" is in progress.
Instantiating home for IDStoreEJB
Deployment of all the web components for the J2EE Application
"CSCIWManagementServer" is in progress.
Exporting of the client files is in progress.
Starting IDStoreEJB
Binding Home interfaces for IDStoreEJB
Creating Environment Naming Context for IDStoreEJB
IDStoreEJB started
The home interface for IDStoreEJB will now be published.
The Web component CSCIWManagementServer will now be started.
KDJE37045-I Application has been started successfully.
Name=[CSCIWManagementServer]
```

4.6.12 案件運用操作の設定

案件運用操作の設定をすることで、案件の運用状況の確認、案件の一時停止、案件の削除などができるようになります。案件運用操作の設定は、案件運用操作の属性ファイルを使用します。

案件運用操作をしない場合は、ここで説明する設定は不要です。

(1) セキュリティロールの設定

案件運用操作で使用するセキュリティロールを設定します。セキュリティロールは、セキュリティロールの登録、ユーザの登録、およびセキュリティロールとユーザの関連づけという手順で設定します。

セキュリティロールの登録

次のコマンド (cjaddsec) を実行して、セキュリティロールを登録します。セキュリティロール名は「csciwadmin」を設定します。

```
cjaddsec J2EE_SERV -type role -name csciwadmin
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、セキュリティロールの登録が完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37406-I Adding csciwadmin...
KDJE37503-I Role has been added successfully. (name = [csciwadmin])
```

4. アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

ユーザの登録

すでに「4.6.11(1) セキュリティロールの設定」で CSCIWManagementServer のセキュリティロールのユーザ登録をしている場合は、この手順は不要です。

次のコマンド (cjaddsec) を実行して、ユーザを登録します。ユーザ名とパスワードには、「4.6.8 CSCIWManagementServer アクセス用環境の設定」で登録した値を指定します。

```
cjaddsec J2EE_SERV -type user -name admin -password admin
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、ユーザの登録が完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37406-I Adding admin...
KDJE37503-I User has been added successfully. (name = [admin])
```

セキュリティロールとユーザの関連づけ

次のコマンド (cjmapsec) を実行して、セキュリティロールとユーザを関連づけます。

```
cjmapsec J2EE_SERV -role csciadmin -user admin
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、セキュリティロールとユーザの関連づけが完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching csciadmin...
KDJE37401-I Searching admin...
KDJE37415-I Mapping admin...
KDJE37514-I User has been mapped successfully. (name = [admin])
```

(2) 案件運用操作のインポート

次のコマンド (cjimportapp) を実行して、案件運用操作を実行するアプリケーションをインポートします。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjimportapp" J2EE_SERV -f
"%CSCIW_HOME%\lib\csciadmin.ear"
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、案件運用操作を実行するアプリケーションのインポートが完了します。

```
KDJE37048-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37050-I Importing CSCIWAdminServlet...
KDJE37041-I Application has been imported successfully.
Name=[CSCIWAdminServlet]
```

(3) 案件運用操作の属性ファイルの取得

案件運用操作の属性ファイルを「MyCSCIWAdmin_Attr.xml」という名前でカレント

ディレクトリに取得します。次のコマンド (cjgetappprop) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjgetappprop" J2EE_SERV -name
CSCIWAdminServlet -type all -c MyCSCIWAdmin_Attr.xml
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、案件運用操作の属性ファイルの取得が完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching CSCIWAdminServlet...
KDJE37408-I Acquiring CSCIWAdminServlet...
KDJE37505-I Application has been obtained successfully. (name =
[CSCIWAdminServlet])
```

(4) 案件運用操作の属性ファイルの編集

取得した案件運用操作の属性ファイルを次のとおり編集します。

表 4-15 案件運用操作の属性ファイルの設定値

設定項目	設定値
セキュリティロール名	csciadmin
リソース参照のリンク先	DB_Connector_for_Executer (リソースアダプタの表示名)

案件運用操作の属性ファイルの編集例については、「付録 D.3 案件運用操作の属性ファイル」を参照してください。

(5) 案件運用操作の属性ファイルの反映

次のコマンド (cjsetappprop) を実行して、編集した案件運用操作の属性ファイルの内容を反映します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjsetappprop" J2EE_SERV -name
CSCIWAdminServlet -type all -c MyCSCIWAdmin_Attr.xml
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、反映が完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching CSCIWAdminServlet...
KDJE37409-I Setting CSCIWAdminServlet...
KDJE37506-I Application has been set successfully. (name =
[CSCIWAdminServlet])
```

(6) 案件運用操作の開始

次のコマンド (cjstartapp) を実行して、案件運用操作を開始します。

4. アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjstartapp" J2EE_SERV -name  
CSCIWAdminServlet
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、案件運用操作が開始されます。

```
KDJE37048-I Connecting to J2EE_SERV...  
KDJE37049-I Searching CSCIWAdminServlet...  
KDJE37054-I Starting CSCIWAdminServlet...  
Creation of the configuration for the J2EE application "CSCIWAdminServlet"  
is in progress.  
Deployment of all the web components for the J2EE Application  
"CSCIWAdminServlet" is in progress.  
The Web component CSCIWAdminServlet will now be started.  
KDJE37045-I Application has been started successfully.  
Name=[CSCIWAdminServlet]
```

4.6.13 Web 帳票アプリケーションの設定

Web 帳票アプリケーション (BLC2Sample) の設定をして、開始します。Web 帳票アプリケーションの作成方法については、「5.4 Web 帳票アプリケーションの作成」を参照してください。

(1) Web 帳票アプリケーションのインポート

コマンドを実行して、Web 帳票アプリケーションをインポートします。次の手順でインポートしてください。

1. 次に示すファイルを編集します。

編集するファイルのパスと編集する内容を次に示します。

• 編集するファイルのパス

<BLC2 のインストールディレクトリ

>%blc%\simpleform\deploy\BLC2Sample\META-INF\application.xml

• 編集内容

<web-uri> タグ内の値を次のとおり変更してください。

変更前 : blc_war

変更後 : blc_war.war

2. コマンド (cjimportapp) を実行して、Web 帳票アプリケーションをインポートします。

コマンドの実行例を次に示します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjimportapp" J2EE_SERV -a "C:\Program  
Files\HITACHI\HBPM2\blc\simpleform\deploy\BLC2Sample"
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、Web 帳票アプリケーションのインポートが完了します。

```
KDJE37048-I Connecting to J2EE_SERV...  
KDJE37050-I Importing BLC2Sample...  
KDJE37041-I Application has been imported successfully. Name=[BLC2Sample]
```

インポートした Web 帳票アプリケーションを削除して、リデプロイしたあとに再度インポートする場合にも、上記の手順 1. にある application.xml の編集を実施してから、インポートを実行してください。

(2) Web 帳票アプリケーションの属性ファイルの取得

Web 帳票アプリケーションの属性ファイルを「MyAppAttr.xml」という名前でカレントディレクトリに取得します。次のコマンド (cjgetappprop) を実行します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjgetappprop" J2EE_SERV -name BLC2Sample
-type all -c MyAppAttr.xml
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、Web 帳票アプリケーションの属性ファイルの取得が完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...
KDJE37401-I Searching BLC2Sample...
KDJE37408-I Acquiring BLC2Sample...
KDJE37505-I Application has been obtained successfully. (name =
[BLC2Sample])
```

(3) Web 帳票アプリケーションの属性ファイルの編集

取得した Web 帳票アプリケーションの属性ファイルを次のとおり編集します。

表 4-16 Web 帳票アプリケーションの属性ファイルの設定値

設定項目	設定値
コンテキストルート	/blc
リソース参照のリンク先	DB_Connector_for_Executer (リソースアダプタの表示名)
リモート EJB への参照	CSCIW へ接続するための設定をします。必要に応じて、太字部分を変更します。 ネーミングサービスのアドレスに「localhost:900」を、J2EE サーバ名を「J2EE_SERV」を指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> CSCIWAuthenticationManager の場合 corbaname::localhost:900#HITACHI_EJB/SERVERS/ J2EE_SERV/EJB/CSCIWManagementServer/ CSCIWAuthenticationManager CSCIWDefinitionServer の場合 corbaname::localhost:900#HITACHI_EJB/SERVERS/ J2EE_SERV/EJB/CSCIWManagementServer/ CSCIWDefinitionServer

Web 帳票アプリケーションの属性ファイルの編集例については、「付録 D.4 Web 帳票アプリケーションの属性ファイル」を参照してください。

4. アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

(4) Web 帳票アプリケーションの属性ファイルの反映

次のコマンド (cjsetappprop) を実行して、編集した Web 帳票アプリケーションの属性ファイルの内容を反映します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjsetappprop" J2EE_SERV -name BLC2Sample  
-type all -c MyAppAttr.xml
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、反映が完了します。

```
KDJE37400-I Connecting to J2EE_SERV...  
KDJE37401-I Searching BLC2Sample...  
KDJE37409-I Setting BLC2Sample...  
KDJE37506-I Application has been set successfully. (name = [BLC2Sample])
```

(5) Web 帳票アプリケーションの開始

次のコマンド (cjstartapp) を実行して、Web 帳票アプリケーションを開始します。

```
"%COSMINEXUS_HOME%\CC\admin\bin\cjstartapp" J2EE_SERV -name BLC2Sample
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、Web 帳票アプリケーションが開始されます。

```
KDJE37048-I Connecting to J2EE_SERV...  
KDJE37049-I Searching BLC2Sample...  
KDJE37054-I Starting BLC2Sample...  
Creation of the configuration for the J2EE application "BLC2Sample" is in  
progress.  
Deployment of all the web components for the J2EE Application "BLC2Sample"  
is in progress.  
The Web component BLC2Sample will now be started.  
KDJE37045-I Application has been started successfully. Name=[BLC2Sample]
```


4.7 EUR Form Client のインストール

クライアントからも EUR Form 連携帳票が参照できるように、EUR Form Client をクライアントにインストールします。

EUR Form Client は、MSI ファイルをダウンロードしてからインストールします。MSI ファイルを使用したインストールの詳細は、マニュアル「電子フォームシステム EUR Form uCosminexus EUR Form システム設計・管理」を参照してください。

注意事項

Windows XP を使用する場合

EUR Form Client をインストールおよびアンインストールする場合は、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

Windows Vista，または Windows 7 を使用する場合

EUR Form Client をインストールおよびアンインストールする場合は、「管理者」または「標準ユーザ」として作成されたユーザで実行してください。ただし、「標準ユーザ」の場合には、権限を昇格させて「管理者」としてインストールを実行してください。

また、どのユーザの場合でもユーザアカウント制御（UAC）によりインストーラの実行に制限があるため、インストールを許可する操作が必要です。

EUR Form Client をバージョンアップする場合

バージョン 5 以前の EUR Form Client がインストールされていた環境にバージョン 7 の EUR Form Client をインストールする場合は、必ず古いバージョンをアンインストールしてから新しいバージョンをインストールしてください。

4.8 帳票の登録と確認

「販売契約稟議 EUR」で使用する帳票およびかんたん帳票のサンプル業務を登録して、正常に登録されているか確認します。ここでは、それぞれの登録方法について説明します。

「付録 B プログラムとサービスの起動順序」に記載されているすべてのサービスが起動していることを確認し、Web ブラウザを起動します。次に示す URL に「ユーザ ID：A07001」「パスワード：P_A07001」でログインしてください。

http:// ホスト名 /bhc/

帳票の登録、宛先の登録、および申請の手順について説明します。

なお、販売契約稟議 EUR およびかんたん帳票のサンプル業務以外の BLC サンプル帳票を利用する場合の手順については、「付録 A.3 BLC サンプル帳票」を参照してください。

4.8.1 販売契約稟議 EUR で使用する帳票の登録と確認

「販売契約稟議 EUR」で使用する帳票を登録し、正常に登録されているか確認します。

(1) 帳票の登録

次の手順で帳票を登録します（管理者の作業です）。

1. BLC のメニューポートレットの [帳票の登録 / 削除] アンカーをクリックします。
2. [登録済み帳票一覧] 画面で [新規登録] をクリックします。
3. [帳票登録用定義選択] 画面で「販売契約稟議 EUR」を選択して、[設定] をクリックします。
4. [帳票登録] 画面で、「頭文字（ソート用）」欄に「は」を入力します。
5. 「運用」欄で「許可」が選択されていることを確認し、[新規登録] ボタンをクリックします。
6. 「帳票ファイル<ファイル名>の登録を行います。よろしいですか?」というメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックします。

登録済み帳票一覧に「販売契約稟議 EUR」が表示されたら帳票の登録が完了です。

(2) 宛先の登録

次の手順で宛先を登録します（エンドユーザの作業です）。

1. BLC のメニューポートレットの [宛先管理] アンカーをクリックします。
2. ユーザ選択用のフレーム（組織）で、宛先に追加するユーザが所属する組織を選択し

ます。

3. ユーザ選択用のフレーム（ユーザ情報）で宛先に追加するユーザをチェックし、[追加]をクリックします。
4. 「指定したユーザを追加しました。」というメッセージが表示されたら [OK] ボタンをクリックします。
宛先一覧の表に選択したユーザが表示されたら、宛先の登録が完了です。

(3) 申請

次の手順で申請します（エンドユーザの作業です）。

1. BLC のメニューポートレットの [名称別帳票一覧] アンカーをクリックします。
2. 申請する帳票のアンカーをクリックします。
ここでは、[販売契約稟議 EUR] アンカーをクリックします。
3. 別画面に帳票が表示されるので、入力項目に申請データを入力します。
4. 承認する人を宛先選択用のドロップダウンリストから選択します。
5. [申請] ボタンをクリックします。
6. 「申請しました」というメッセージが表示されたら [OK] ボタンをクリックします。
これで申請が完了です。

4.8.2 かんたん帳票のサンプル業務の登録と確認

かんたん帳票のサンプル業務を登録し、正常に登録されているか確認します。

(1) 帳票の登録

次の手順で帳票を登録します（帳票を管理している担当者の作業です）。各画面で設定する内容および設定方法については、マニュアル「電子フォームワークフローセット 作ってみよう かんたん帳票」を参照してください。

1. BLC のメニューポートレットから [かんたん開発] アンカーを選択します。
[かんたん帳票一覧] 画面が表示され、サンプル業務が一時保存された状態になっています。
2. 使用するサンプル業務を選択して、[複製] ボタンをクリックします。
3. [かんたん帳票登録] 画面で帳票の基本情報を設定し、[次へ] ボタンをクリックします。
4. [帳票設定] 画面で帳票のパーツを設定し、[次へ] ボタンをクリックします。
5. [申請ルート設定] 画面で帳票の申請ルートを設定し、[次へ] ボタンをクリックします。
6. [かんたん帳票内容確認] 画面で登録する内容を確認し、[登録] ボタンをクリックし

4. アプリケーションサーバの構築と Web クライアントの設定

ます。

7. [登録結果確認]画面に「公開しますか?」というメッセージ表示されるので,[はい]ボタンをクリックします。

これで帳票の登録は完了です。

注意事項

簡易セットアップツールを使用しないで環境を構築した場合、サンプル業務はかたん帳票一覧に一時保存されていません。

次の SQL を実行してサンプル業務を一時保存状態にしてから、登録作業をしてください。

- HiRDB を利用する場合

```
<BLC2のインストールディレクトリ  
>%tools%sample%simpleform%sql%hirdb%sampleddata.txt
```

- Oracle を利用する場合

```
<BLC2のインストールディレクトリ  
>%tools%sample%simpleform%sql%oracle%sampleddata.txt
```

- SQL Server を利用する場合

```
<BLC2のインストールディレクトリ  
>%tools%sample%simpleform%sql%sqlserver%sampleddata.txt
```

(2) 宛先の登録

宛先を登録します(エンドユーザの作業です)。登録の手順については、「4.8.1(2) 宛先の登録」を参照してください。

(3) 申請

登録したかたん帳票のサンプル業務を使って、申請します(エンドユーザの作業です)。申請手順については、「4.8.1(3) 申請」を参照してください。

5

開発環境の構築

電子フォームワークフロー ディベロッパセットでは、電子フォームワークフローの開発環境を構築できます。この章では、電子フォームワークフローの開発環境を構築する手順について説明します。

-
- 5.1 開発環境の構築の流れ

 - 5.2 開発環境のインストール

 - 5.3 開発環境の設定

 - 5.4 Web 帳票アプリケーションの作成

 - 5.5 ビジネスプロセス定義の登録

 - 5.6 Web アプリケーションの作成

 - 5.7 J2EE サーバの設定

 - 5.8 業務の開発とテスト
-

5.1 開発環境の構築の流れ

電子フォームワークフローの開発環境を構築する流れを次に示します。開発環境にはプログラム動作確認環境と、プログラム開発環境があります。プログラム動作確認環境は、かんたん開発によってかんたん帳票を作成したり、作成した帳票を使ってワークフローの動作確認をする環境です。プログラム開発環境は、BLC 帳票や EUR Form 連携帳票を開発するために利用します。

図 5-1 開発環境の構築の流れ



この図に示した流れに沿って、開発環境の構築手順を説明します。

5.2 開発環境のインストール

最初に、開発環境の中のプログラム動作確認環境の構築に必要なソフトウェアをインストールします。次に示すソフトウェアを、上から順番にインストーラの指示に従ってインストールしてください。

- データベース ¹
- uCosminexus Developer Professional
- Hitachi Business Logic - Container ²
- uCosminexus EUR Form Service
- uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow
- uCosminexus Portal Framework
- Eclipse Platform および MyEclipse for Cosminexus ²

注 1

uCosminexus Developer Professional では、開発環境で使用できる組み込みデータベースを標準で提供しています。組み込みデータベースを使用する場合は、インストール作業は不要です。組み込みデータベースの設定については、「3.4 HiRDB の設定」を参照してください。また、組み込みデータベースの設定および操作に HiRDB SQL Executer を使用する場合は、「3.2.1(3) HiRDB SQL Executer のインストール」を参照して、インストールしてください。データベースを別マシンにインストールする場合は、JDBC ドライバを用意してください。ただし、SQL Server をインストールする場合は、インストール先に関係なく、必ず JDBC ドライバを用意してください。

- HiRDB の場合：HiRDB Type4 JDBC Driver
- Oracle の場合：Oracle JDBC Thin Driver
- SQL Server の場合：Microsoft SQL Server 2005 JDBC Driver

注 2

Eclipse Platform および MyEclipse for Cosminexus をインストールしたあとに、プラグインの組み込みが必要になります。Eclipse Platform および MyEclipse for Cosminexus のインストール、およびプラグインの組み込みについては、マニュアル「Cosminexus アプリケーション開発ガイド」を参照してください。ただし、マニュアル「Cosminexus アプリケーション開発ガイド」にあるインスタントセットアップは使用しないでください。

次に、BLC 帳票や EUR Form 連携帳票を開発する場合は、プログラム開発環境として下記ソフトウェアをインストールしてください。

- uCosminexus Interactive Workflow Development Plug-in
- Hitachi Business Logic - Container - Script Generator ³
- EUR Professional Edition

5. 開発環境の構築

注 3

Windows Vista で BLSG の条件定義機能を利用する場合、環境設定ファイル格納フォルダに環境設定ファイル (blsgsqlparts.csv) が格納されている必要があります。Windows Vista で、BLSG を Program Files フォルダ以下にインストールしている場合、blsgsqlparts.csv を次のフォルダへコピーしてください。なお、システムドライブを C ドライブとして示しています。

コピー元

<¥Program Files¥HITACHI¥HBPM¥blsg¥conf

コピー先

C:¥ProgramData¥HITACHI¥HBPM¥blsg¥conf

また、blsgsqlparts.csv は BLSG 起動時に利用します。そのため、blsgsqlparts.csv をコピーする前に BLSG を起動していた場合は、コピー後に BLSG を再起動してください。なお、ProgramData フォルダは、デフォルトでは非表示となっています。

なお、以降では、各ソフトウェアを次に示すデフォルトのインストール先にインストールしたものとして説明します。なお、システムドライブを C ドライブとして示していません。

表 5-1 ソフトウェアのデフォルトのインストール先（開発環境）

ソフトウェア名		インストール先（デフォルト）
uCosminexus Developer Professional		C:¥Program Files¥HITACHI¥Cosminexus
Eclipse		C:¥eclipse
Hitachi Business Logic - Container 2		C:¥Program Files¥HITACHI¥HBPM2
uCosminexus EUR Form Service		C:¥Program Files¥HITACHI¥EUR Form Service
uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow		C:¥Program Files¥HITACHI¥CSCIW
uCosminexus Interactive Workflow Development Plug-in		C:¥Program Files¥HITACHI¥CSCIWClient
uCosminexus Portal Framework		C:¥Program Files¥HITACHI¥CosmiPortal
Hitachi Business Logic - Container - Script Generator		C:¥Program Files¥HITACHI¥HBPM¥blsg
EUR Professional Edition		C:¥Program Files¥HITACHI¥EUR Pro
データベース	HiRDB	C:¥win32app¥hitachi¥hirdb_s
	Oracle	C:¥oracle¥product¥10.2.0¥db_1
	SQL Server	C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server
JDBC ドライバ	SQL Server	C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server 2005 JDBC Driver

Windows のファイアウォールを有効にしている場合の注意

ソフトウェアのインストール後、DOS プロンプトを開いて次のコマンドを実行し、

ファイアウォールの例外リストに登録してください。

表 5-2 例外リスト登録コマンド

項番	実行コマンド
1	netsh firewall add allowedprogram program="%COSMINEXUS_HOME%\CC\server\bin\cjstartsv.exe" name="Cosminexus Component Container" mode=ENABLE
2	netsh firewall add allowedprogram program="%COSMINEXUS_HOME%\httpsd\httpsd.exe" name="Cosminexus (Hitachi Web Server)" mode=ENABLE

また、データベースに HiRDB を使用し、かつデータベースサーバとアプリケーションサーバのマシンが異なる場合、Java を使用してデータベースサーバに接続するための例外リスト登録が必要です。

例として、java.exe プログラムを例外リストに登録する方法を次に示します。

DOS プロンプトを開き、次のコマンドを実行してください。

```
netsh firewall add allowedprogram program="%COSMINEXUS_HOME%\jdk\bin\java.exe" name="Java" mode=ENABLE
```

また、必要に応じて、ファイアウォールの設定の「スコープの変更」で、接続を許可するマシンをデータベースサーバの IP アドレスに限定してください。

なお、ここでは、電子フォームワークフローセットを利用する上で最低限の設定についてだけ説明しています。例外リストの詳細な設定については、各ソフトウェアのファイアウォールに関する説明を参照してください。

5.3 開発環境の設定

開発環境で使用するデータベースサーバおよびアプリケーションサーバを構築します。

(1) データベースの設定

「3. データベースサーバの構築」を参照して、開発環境で使用するデータベースの設定をします。

(2) CSCIW のセットアップ

「4.4 CSCIW のセットアップ」を参照して、ワークフローエンジンである CSCIW のセットアップをします。

(3) アプリケーションサーバおよび BLC の設定

アプリケーションサーバを構築する前に、アプリケーションサーバの設定および BLC の設定をします。システム環境変数の設定方法については、「4.3.1 システム環境変数の設定 (アプリケーションサーバ)」を参照してください。アプリケーションサーバの設定については「4.3 アプリケーションサーバの設定」を、BLC の設定については「4.5 BLC の設定」を参照してください。

(4) アプリケーションサーバの構築

アプリケーションサーバの構築では、次の作業をします。なお、リソースアダプタおよび J2EE アプリケーションの設定は、「5.7 J2EE サーバの設定」で実施するため必要ありません。

- 「4.6.1 CSCIW の設定」の作業
- 「4.3.2(6) Management Server の起動」の作業 ¹
- 構築するシステムのタイプ (物理ティア) を決める作業 ²
- 「4.6.3 Web システム定義の作成」の作業
- 「4.6.4 Web システムの構築」の作業
- 「4.6.5 SecurityManager 定義ファイルの設定」の作業
- 「4.6.6 Web システムの一括起動」の作業
- 「4.6.7 Portal Framework の設定」の作業
- 「4.6.8 CSCIWManagementServer アクセス用環境の設定」の作業

注 1

すでに起動している場合は、この手順は不要です。

注 2

マニュアル「Cosminexus 簡易構築・運用ガイド」の Web システムの構成に関する説明を参照してください。

5.4 Web 帳票アプリケーションの作成

電子フォームワークフローで動作する Web 帳票アプリケーションを作成します。

5.4.1 サンプル帳票の作成

開発環境でサンプル帳票を作成します。サンプル帳票は、紙帳票の形式で Web ブラウザに表示できる EUR Form 連携帳票を使用します。かんたん帳票のサンプルの作成手順については、マニュアル「電子フォームワークフローセット 作ってみよう かんたん帳票」を参照してください。

なお、次に示す (2) の作業が完了しているサンプル帳票が提供されています。このサンプル帳票を使用する場合は、(1) の作業だけ実施してください。ただし、アプリケーションサーバ以外からアクセスするときは、「(2)(a) 送信ユニット情報の変更」を参照して、送信ユニット情報の送信先 URL を変換してください。変換対象ファイルは、次に示すフォルダ内の拡張子が efd のファイルです。

<BLC2 のインストールディレクトリ >¥tools¥sample¥sampleform¥webhome¥efd

(1) サンプル帳票のコピー

次に示すコピー元のフォルダをコピー先にコピーします。「上書きしますか?」というメッセージが表示されたら、[すべて上書き]を選択してください。

コピー元

<BLSG のインストールディレクトリ >¥sample¥data フォルダ

コピー先

Windows XP の場合

BLSG のインストールディレクトリの直下

Windows Vista の場合

C:¥ProgramData¥HITACHI¥HBPM¥blsg の直下

注 ProgramData フォルダは、デフォルトでは非表示となっています。

(2) サンプル帳票ファイルの生成

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能を使用して、サンプル帳票ファイルを生成します。サンプル帳票ファイルを生成する前に、送信ユニット情報を変更する必要があります。

(a) 送信ユニット情報の変更

サンプル帳票では、送信ユニット情報の送信先 URL が、デフォルトの localhost に設定されています。バッチファイル (replaceurl.bat) を使用して、この送信先 URL の設定をアプリケーションサーバの URL に変更する必要があります。

5. 開発環境の構築

バッチファイルの格納パス、変換対象ファイル、および置換文字列を示します。

バッチファイルの格納パス

C:\Program Files\HITACHI\EUR Form Service\Sample\replaceurl.bat

変更対象ファイル

Windows XP の場合

<BSLG のインストールディレクトリ

>\data\eurform\SellingAgreementEUR.efd

Windows Vista の場合

C:\ProgramData\HITACHI\HBPM\blsg\data\eurform\SellingAgreement

EUR.efd

注 ProgramData フォルダは、デフォルトでは非表示となっています。

置換文字列

置換対象 URL 文字列：http://localhost/blc/

設定値（置換後の URL）：http://<アプリケーションサーバのホスト名> /blc/

注

Web 帳票アプリケーションにログインするときのホスト名と同じ名前にしてください。IP アドレスでログインしたときは IP アドレスを設定してください。また、ポート番号を指定する場合は、ポート番号を含んで設定してください。

バッチファイルの実行について

- バッチファイルを実行する前に、バッチファイルの中身を修正する必要があります。設定内容については、マニュアル「電子フォームシステム EUR Form uCosminexus EUR Form サーバプログラム開発」にある EFormReplaceURL クラスの URL、および変換ツール起動サンプルの説明を参照してください。
- バッチファイル（replaceurl.bat）は、フォルダ単位で変換されます。適宜、変更後のフォルダを作成してください。正しく変更されたあとに、変更後のフォルダから変更前のフォルダへファイルをコピーしてください。

なお、送信ユニット情報の変更には、EUR Form 帳票定義（.efs）ファイルを編集し、「送信ユニットのプロパティ」の「送信先 URL」の値を変更する方法もあります。この場合は、BSLG で送信ユニット情報の一覧ファイル、または EUR Form 帳票の定義ファイルを読み込み直してから、「(b) 帳票ファイル生成時のエンコードの設定」および「(c) 帳票ジェネレータ（BSLG）を利用したサンプル帳票ファイルの生成」を実施します。

(b) 帳票ファイル生成時のエンコードの設定

帳票ジェネレータ（BSLG）で生成するファイルのエンコードを事前に設定します。

操作手順

1. [スタート] - [プログラム] - [Hitachi Business Logic - Container] - [BLSG] を選択します。

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能が起動し、メイン画面が表示されます。

2. メニューから [ツール] - [オプション] を選択します。
[開発環境設定] ダイアログが表示されます。
3. [生成オプション] タブを選択し、[追加] ボタンをクリックします。
[生成オプションの編集] ダイアログが表示されます。
4. 次の値を設定します。

変数名	設定値
EXECN2ASC	yes
N2ASCOPT	-encoding Shift_JIS

5. [OK] ボタンをクリックします。
[生成オプションの編集] ダイアログの「生成オプション一覧」に設定した内容が追加されます。
6. [保存] ボタンをクリックします。
設定した内容が保存されます。

(c) 帳票ジェネレータ (BLSG) を利用したサンプル帳票ファイルの生成

帳票ジェネレータ (BLSG) を起動して、サンプル帳票ファイルを生成します。

操作手順

1. [スタート] - [プログラム] - [Hitachi Business Logic - Container] - [BLSG] を選択します。
帳票ジェネレータ (BLSG) 機能が起動し、メイン画面が表示されます。
2. メニューから [ファイル] - [開く] を選択し、サンプル帳票ファイル (SampleConsultationEUR 販売契約稟議 EUR) を選択します。
3. メニューから [生成] - [帳票ファイル生成] を選択します。
出力先フォルダパスに設定したフォルダに、フォルダとファイルが生成されます。ここでは、次のフォルダ下に生成されます。

Windows XP の場合

<BLSG のインストールディレクトリ >¥output

Windows Vista の場合

C:¥ProgramData¥HITACHI¥HBPM¥blsg¥output

注 ProgramData フォルダは、デフォルトでは非表示となっています。

5.4.2 Web 帳票アプリケーション (webSample) の作成

Web 帳票アプリケーションを作成します。ここでは、提供されているサンプルを利用して、Web 帳票アプリケーションを作成する方法について説明します。

(1) 作業ディレクトリの作成

Web 帳票アプリケーションの作成で使用する作業ディレクトリを作成します。

Web 帳票アプリケーション用作業ディレクトリの作成

Web 帳票アプリケーションの開発用に、「webSample」という名前の作業フォルダを作成します。次のコマンド (makepj) を実行して、作業フォルダを作成してください。

```
"C:¥Program Files¥HITACHI¥CosmiPortal¥bin¥makepj" -a -p "C:¥Program Files¥HITACHI¥HBPM2¥webSample"
```

Portal Framework 用作業ディレクトリの作成

Portal Framework で使用する「work」という名前の作業ディレクトリを作成します。次のとおり作成してください。

<BLC2 のインストールディレクトリ >¥work

(2) ポートレットのサンプルファイルのコピー

BLC が提供するサンプルファイルを作業ディレクトリにコピーします。次に示すフォルダまたはファイルを作業ディレクトリにコピーしてください。

Web 帳票アプリケーションの開発用作業ディレクトリのコピー

コピー元

<BLC2 のインストールディレクトリ >¥blc¥portal¥template フォルダ下のフォルダおよびファイル

コピー先

<BLC2 のインストールディレクトリ >¥webSample フォルダ下

Portal Framework 用作業ディレクトリのコピー

コピー元

<BLC2 のインストールディレクトリ >¥blc¥portal¥portlet フォルダ

コピー先

<BLC2 のインストールディレクトリ >¥work フォルダ下

(3) ポートレットの作成 (blcmenu ポートレット・blcworkflow ポートレット)

ポートレット (blcmenu ポートレット・blcworkflow ポートレット) を作成します。

Portal Framework 用作業ディレクトリ下にある portlet フォルダ (<BLC2 のインストールディレクトリ >¥work¥portlet) に移動して、次のコマンドを実行してください。

```
jar -cf blcmenu.par -C blcmenu .
```

```
jar -cf blcworkflow.par -C blcworkflow .
```

(4) ポートレットのデプロイ (blcmenu ポートレット・blcworkflow ポートレット)

作成したポートレット (blcmenu ポートレット・blcworkflow ポートレット) をデプロイします。次のコマンドを実行してください。

```
"C:¥Program Files¥HITACHI¥CosmiPortal¥bin¥adportlet.bat" -a -p  
"C:¥Program Files¥HITACHI¥HBPM2¥webSample" blcmenu.par
```

```
"C:¥Program Files¥HITACHI¥CosmiPortal¥bin¥adportlet.bat" -a -p  
"C:¥Program Files¥HITACHI¥HBPM2¥webSample" blcworkflow.par
```

(5) BLC が提供しているファイルのコピー

次に示すコピー元のフォルダおよびファイルを、コピー先にコピーします。

コピー元

<BLC2 のインストールディレクトリ >¥blc¥webhome フォルダ下のフォルダおよび
ファイル

コピー先

<BLC2 のインストールディレクトリ >¥webSample フォルダ下

(6) JAR ファイルのコピー

次に示すコピー元のファイルをコピー先にコピーします。

コピー元

C:¥Program Files¥HITACHI¥EUR Form Service¥Java¥EURForm.jar

コピー先

<BLC2 のインストールディレクトリ >¥webSample¥WEB-INF¥lib

(7) サンプル帳票の追加

提供されているサンプル帳票、または BLSG で生成した帳票を追加します。

(a) 提供されているサンプル帳票を使用する場合

次に示すコピー元のフォルダをコピー先にコピーします。

コピー元

<BLC2 のインストールディレクトリ >¥tools¥sample¥sampleform¥webhome フォ
ルダ下

コピー先

<BLC2 のインストールディレクトリ >¥webSample フォルダ下

5. 開発環境の構築

(b) BLSG で生成した帳票を使用する場合

作成したファイルを次のフォルダにコピーします。「上書きしますか?」というメッセージが表示されたら、「すべて上書き」を選択してください。

表 5-3 BLSG で生成した帳票のコピー先

コピー元 (開発環境)	コピー先
Windows XP の場合 <BLSG のインストールディレクトリ >%output フォルダ下 Windows Vista の場合 C:%ProgramData%HITACHI\HBPM\blsg %output フォルダ下	<BLC2 のインストールディレクトリ >%webSample フォルダ下
Windows XP の場合 <BLSG のインストールディレクトリ >%data%usersource%SampleConsultationE UR_1_userServerSideClass.java ファイル Windows Vista の場合 C:%ProgramData%HITACHI\HBPM\blsg %data%usersource%SampleConsultationEU R_1_userServerSideClass.java ファイル	<BLC2 のインストールディレクトリ >%webSample%\WEB-INF\src\jp\co\Hit achi\soft\blc\Hitachi フォルダ下
Windows XP の場合 <BLSG のインストールディレクトリ >%data%eurform%SellingAgreementEUR.e fd ファイル Windows Vista の場合 C:%ProgramData%HITACHI\HBPM\blsg %data%eurform%SellingAgreementEUR.e fd ファイル	<BLC2 のインストールディレクトリ >%webSample%\efd フォルダ下

注 ProgramData フォルダは、デフォルトでは非表示となっています。

5.4.3 EUR Form Service の環境設定ファイルの設定

EUR Form Service の環境設定ファイル (eformservice.properties) をコピーし、編集します。次の手順で環境設定ファイルをコピーおよび編集してください。

- 次に示すコピー元のファイルをコピー先にコピーします。
 - コピー元
C:%Program Files%HITACHI\EUR Form
Service%sample%eformservice.properties ファイル
 - コピー先
<BLC2 のインストールディレクトリ >%webSample%\WEB-INF\classes フォルダ
下
- 環境設定ファイルの trace フォルダおよび error フォルダの絶対パスを次のとおり指定します。


```
EFormDir=efd
TraceFileDir=C:\Program Files\HITACHI\HBPM2\logs\EForm\trace
TraceErrorFileDir=C:\Program Files\HITACHI\HBPM2\logs\EForm\error
```

3. 次のフォルダ下に編集後のファイルをコピーします。
 <BLC2 のインストールディレクトリ >\webSample\WEB-INF\src

参考

Eclipse でのビルド時にファイルが削除される場合があるため、編集後のファイルを Web サンプル帳票アプリケーションのフォルダにコピーします。

5.4.4 Portal Framework のプロパティファイルのコピー

Portal Framework のプロパティファイルを Web 帳票アプリケーション開発用の作業ディレクトリにあるソースファイル用のフォルダにコピーします。

次に示すファイルをコピーしてください。

コピー元ファイルの格納先

<BLC2 のインストールディレクトリ >\webSample\WEB-INF\classes

コピー元ファイル名

- hptl_common_en.properties
- hptl_common_ja.properties
- hptl_customizer_en.properties
- hptl_customizer_ja.properties
- hptl_navigationmenu_resource_en.properties
- hptl_navigationmenu_resource_ja.properties
- hptl_resources.properties

コピー先

<Web 帳票アプリケーション開発用作業ディレクトリ >\WEB-INF\src フォルダ下

Portal Framework のプロパティファイルをコピーしたあとの Web 帳票アプリケーション開発用の作業ディレクトリの構成は次のとおりです。

```
webSample
  /adportlets ..... ポータルのデプロイ済みポートレット用格納ファイル
  /blcmenu ..... blcmenuポートレット用フォルダ
    /css
    /image
  /PORTLET-INF
    /log
  /blcworkflow ..... blcworkflowポートレット用フォルダ
    /css
  /PORTLET-INF
    /log
```

5. 開発環境の構築

```

/app
  /css ..... スタイルシート
    /en ..... 英語用スタイルシート
    /ja ..... 日本語用スタイルシート
  /images ..... イメージファイル
  /include ..... インクルード部品
  /js ..... JavaScriptファイル格納フォルダ
  /main ..... ページファイル
/contents ..... ポータルのコンテンツフォルダ
  /image
  /jsp
/css ..... ポータルのスタイルシート格納フォルダ
  /en
  /ja
/efd 1 ..... EUR Form帳票ファイル：
                          SellingAgreementEUR.efd
/form
  /_entryinfo 1 ..... 帳票登録情報ファイル：
                          SampleConsultationEUR_def.dat
  /common ..... 帳票共通部品 ウィジェット
  /Hitachi 1
    /SampleConsultationEUR .... 自動生成帳票ファイル：
                                  SampleConsultationEUR_1.jsp
                                  SampleConsultationEUR_1_d.dat
  /include ..... 帳票用部品
/html ..... ポータルのHTMLファイル格納フォルダ
/images ..... ポータルのGIFイメージファイル
  /casual
    /skyblue
      /head
      /tab
      /win
/js ..... ポータルのJavaScriptファイル格納フォルダ
/manual ..... ポータルのマニュアルファイル格納フォルダ
  /EH40
    /ja
      /html
        /FIGURE
/portlets ..... ポータルのポートレット格納ファイル
  /defedit
  /device
  /navigationmenu
    /css
    /images
  /portaloperation
    /css
    /images
    /js
    /jsp_group
    /jsp_portletgroup
    /jsp_user
    /manual
      /ja
        /FIGURE
  /sample
  /sample1

```

```

/WEB-INF ..... web.xml
/cache ..... ポータル キャッシュフォルダ
/classes 2 .. EUR Form Service環境設定ファイル:
    eformservice.propertiesファイル
    Portal Frameworkのプロパティファイル:
    hptl_common_en.propertiesファイル
    hptl_common_ja.propertiesファイル
    hptl_customizer_en.propertiesファイル
    hptl_customizer_ja.propertiesファイル
    hptl_navigationmenu_resource_en.propertiesファイル
    hptl_navigationmenu_resource_ja.propertiesファイル
    hptl_resources.propertiesファイル
/jp ..... (Eclipseでビルドします 3)
/co ..... (Eclipseでビルドします 3)
/Hitachi ..... (Eclipseでビルドします 3)
/soft ..... (Eclipseでビルドします 3)
    /blc ..... (Eclipseでビルドします 3)
        /Hitachi ... 自動生成帳票クラス(classファイル)
            (Eclipseでビルドします 3)
/conf ..... ポータル 環境設定ファイル格納フォルダ
/cosmi
    /dtds ..... web.xmlのDTD格納フォルダ
    /portal
        /tablib
    /webpage
        /cache
/lib ..... blc.jar
    EURForm.jar
    hitachiportalctn.jarファイル
/log ..... ログファイル格納フォルダ
/psml
/src 2 .... EUR Form Service環境設定ファイル:
    eformservice.propertiesファイル
    Portal Frameworkのプロパティファイル:
    hptl_common_en.propertiesファイル
    hptl_common_ja.propertiesファイル
    hptl_customizer_en.propertiesファイル
    hptl_customizer_ja.propertiesファイル
    hptl_navigationmenu_resource_en.propertiesファイル
    hptl_navigationmenu_resource_ja.propertiesファイル
    hptl_resources.propertiesファイル
/jp
/co
/Hitachi
/soft
/blc
/Hitachi 1 ...
    自動生成帳票クラス (Javaソースファイル):
    SampleConsultationEUR_1_Class.java
    SampleConsultationEUR_1_userServerSideClass.java
/sysconf
/templates .... ポータル 画面テンプレート
/jsp
    /actions
    /controllers

```

5. 開発環境の構築

```
    /hdml
  /controls
    /html
      /default
  /customizer
    /html
  /errors
    /chtml
    /hdml
    /html
  /layouts
    /chtml
    /hdml
    /html
  /login-logout
    /entry
  /navigations
  /screens
    /chtml
    /hdml
    /html
  /tld
  /webapi
    /html
  /tmp
  /xsl
  /xslt ..... システム共通スタイルシート格納フォルダ
```

注 1

提供されているサンプル帳票を使用した場合、ファイルまたはフォルダが増えます。

注 2

classes フォルダの直下にあるファイルと src フォルダの直下にあるファイルは、すべて同一ファイルです。

注 3

コンパイル時にフォルダやファイルが生成されます。

5.5 ビジネスプロセス定義の登録

ワーク管理データベースに、ビジネスプロセス定義を登録します。ビジネスプロセス定義の登録後、振り分けルール定義を登録します。

ビジネスプロセス定義を登録する前に、データベースサーバでデータベースが起動されていることを確認してください。

(1) ビジネスプロセス定義の登録

次のコマンド (ciwmngbp) を実行して、ワーク管理データベースに、ビジネスプロセス定義を登録します。

なお、ビジネスプロセス定義をワーク管理データベースに登録するときに、「ビジネスプロセス定義名+バージョン」ごとに一意となる識別子が付けられます。登録したビジネスプロセス定義は、この識別子で管理されます。

ciwmngbp コマンドについては、マニュアル「uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow コマンド」を参照してください。

提供されているサンプル帳票を使用する場合
次のコマンドを実行します。

```
"%CSCIW_HOME%\bin\ciwmngbp" -sid BLC -reg -bpf "C:\Program Files\HITACHI\HBPM2\tools\sample\sampleform\bp\販売契約稟議EUR.hbx"
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、ビジネスプロセスの登録が完了します。

```
KDIW20000-I The command has ended. command = ciwmngbp
```

BLSG で生成した帳票を使用する場合
次のコマンドを実行します。

Windows XP の場合

```
"%CSCIW_HOME%\bin\ciwmngbp" -sid BLC -reg -bpf "C:\Program Files\HITACHI\HBPM\blsg\data\bp\販売契約稟議EUR.hbx"
```

Windows Vista の場合

```
"%CSCIW_HOME%\bin\ciwmngbp" -sid BLC -reg -bpf "C:\ProgramData\HITACHI\HBPM\blsg\data\bp\販売契約稟議EUR.hbx"
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、ビジネスプロセスの登録が完了します。

```
KDIW20000-I The command has ended. command = ciwmngbp
```

(2) 振り分けルール定義の登録

ワーク管理データベースに振り分けルール定義を登録します。登録する振り分けルール定義は、「sample_rule.hcx」、「申請者振り分けルール.hcx」、および「simpleFormCR.hcx」です。

なお、振り分けルール定義をワーク管理データベースに登録するときに、「振り分けルール定義名+バージョン」ごとに一意となる識別子が付けられます。登録した振り分けルール定義は、この識別子で管理されます。

ciwmngr コマンドについては、マニュアル「uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow コマンド」を参照してください。

(a) sample_rule.hcx の登録

次のコマンド (ciwmngr) を実行して、ワーク管理データベースに振り分けルール定義 (sample_rule.hcx) を登録します。

提供されているサンプル帳票を使用する場合
次のコマンドを実行します。

```
"%CSCIW_HOME%\bin\ciwmngr" -sid BLC -reg -crf "C:\Program Files\HITACHI\HBPM2\tools\sample\sampleform\bp\sample_rule.hcx"
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、sample_rule.hcx の登録が完了します。

```
KDIW20000-I The command has ended. command = ciwmngr
```

BLSG で生成した帳票を使用する場合
次のコマンドを実行します。

Windows XP の場合

```
"%CSCIW_HOME%\bin\ciwmngr" -sid BLC -reg -crf "C:\Program Files\HITACHI\HBPM\blsg\data\bp\sample_rule.hcx"
```

Windows Vista の場合

```
"%CSCIW_HOME%\bin\ciwmngr" -sid BLC -reg -crf "C:\ProgramData\HITACHI\HBPM\blsg\data\bp\sample_rule.hcx"
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、sample_rule.hcx の登録が完了します。

```
KDIW20000-I The command has ended. command = ciwmngr
```

(b) 申請者振り分けルール.hcx の登録

次のコマンド (ciwmngr) を実行して、ワーク管理データベースに振り分けルール定義

(申請者振り分けルール .hcx) を登録します。

提供されているサンプル帳票を使用する場合
次のコマンドを実行します。

```
"%CSCIW_HOME%\bin\ciwmngcr" -sid BLC -reg -crf "C:\Program
Files\HITACHI\HBPM2\tools\sample\sampleform\bp\申請者振り分けルール.hcx"
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、申請者振り分けルール .hcx の登録が完了します。

```
KDIW20000-I The command has ended. command = ciwmngcr
```

BLSG で生成した帳票を使用する場合
次のコマンドを実行します。

Windows XP の場合

```
"%CSCIW_HOME%\bin\ciwmngcr" -sid BLC -reg -crf "C:\Program
Files\HITACHI\HBPM\blsg\data\bp\申請者振り分けルール.hcx"
```

Windows Vista の場合

```
"%CSCIW_HOME%\bin\ciwmngcr" -sid BLC -reg -crf
"C:\ProgramData\HITACHI\HBPM\blsg\data\bp\申請者振り分けルール.hcx"
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、申請者振り分けルール .hcx の登録が完了します。

```
KDIW20000-I The command has ended. command = ciwmngcr
```

(c) simpleFormCR.hcx の登録

次のコマンド (ciwmngcr) を実行して、ワーク管理データベースに振り分けルール定義 (simpleFormCR.hcx) を登録します。なお、このファイルはかんたん開発を利用する場合に必要です。

```
"%CSCIW_HOME%\bin\ciwmngcr" -sid BLC -reg -crf "C:\Program
Files\HITACHI\HBPM2\blc\setup\simpleform\simpleFormCR.hcx"
```

コマンドを実行すると、次の実行結果が表示され、simpleFormCR.hcx の登録が完了します。

```
KDIW20000-I The command has ended. command = ciwmngcr
```

5.6 Web アプリケーションの作成

Web アプリケーションを作成し、Web 帳票アプリケーションをアプリケーションサーバ上で実行できるようにします。

Web アプリケーションの作成は、MyEclipse を使用します。Web アプリケーションを作成する前に、「5.2 開発環境のインストール」を参照して、Eclipse、MyEclipse、およびプラグインのインストールと設定が完了していることを確認してください。

5.6.1 Eclipse の起動と設定

MyEclipse を使用する前に、利用する JRE および JDK 準拠レベルが Eclipse に正しく設定されているかを確認します。

操作手順

1. Eclipse を起動し、ワークスペースを指定します。
ワークスペースは任意の場所に作成してください。
2. Eclipse のメニューから [ウィンドウ] - [設定] を選択します。
[設定] ダイアログが表示されます。
3. 左ペインで [Java] - [インストール済みの JRE] を選択します。
右ペインに [インストール済みの JRE] ページが表示されます。次の設定になっているか確認します。
名前：jdk
ロケーション：<Cosminexus のインストールディレクトリ>\%jdk
4. 左ペインで [Java] - [コンパイラー] を選択します。
「コンパイラー準拠レベル」が 5.0 になっているか確認します。

5.6.2 Web プロジェクトの作成

MyEclipse を使用して Web プロジェクトを作成し、Web プロジェクト内のフォルダに Web 帳票アプリケーションをコピーして、WAR を作成します。

(1) Web プロジェクトの生成

新規 Web プロジェクトを生成します。

操作手順

1. Eclipse のメニューから [ファイル] - [新規] - [プロジェクト] を選択します。
[新規プロジェクト] ダイアログが表示されます。
2. [MyEclipse] - [Java エンタープライズ・プロジェクト] - [Web プロジェクト]

を選択して,[次へ]ボタンをクリックします。
[Webプロジェクトの作成]ページが表示されます。

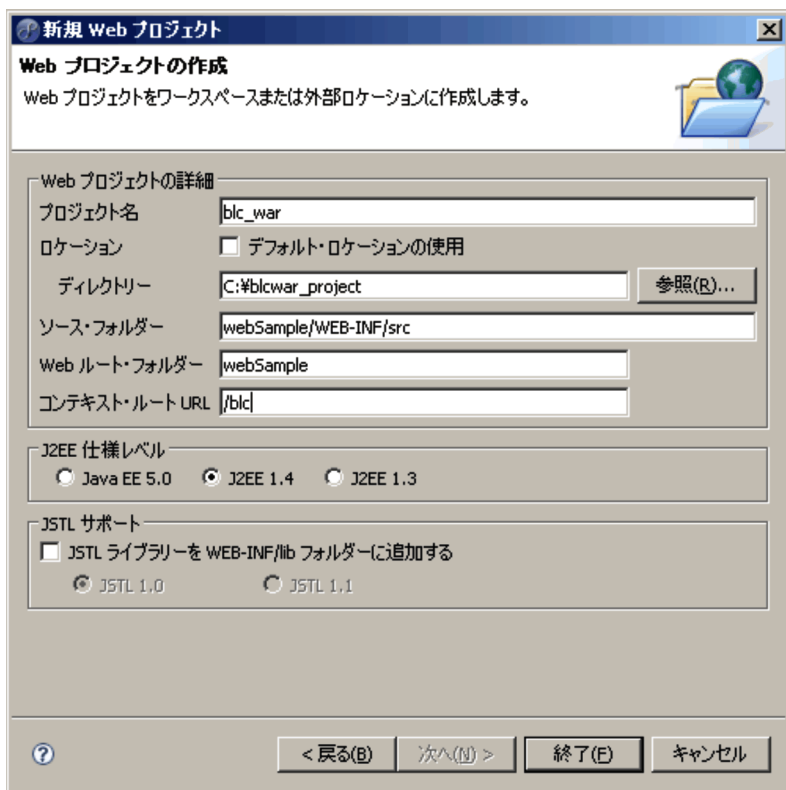
- Webプロジェクトのプロパティを設定します。
次のとおり設定してください。

表 5-4 Webプロジェクトのプロパティの設定値

設定項目	設定値
プロジェクト名	blc_war
ロケーション	[デフォルト・ロケーションの使用]のチェックを外します。
ディレクトリー	C:\¥blcwar_project
ソース・フォルダー	webSample/WEB-INF/src
Webルート・フォルダー	webSample
コンテキスト・ルート URL	/blc
J2EE仕様レベル	[J2EE 1.4]を選択します。
JSTLサポート	[JSTLライブラリーをWEB-INF/libフォルダーに追加する]のチェックを外します。

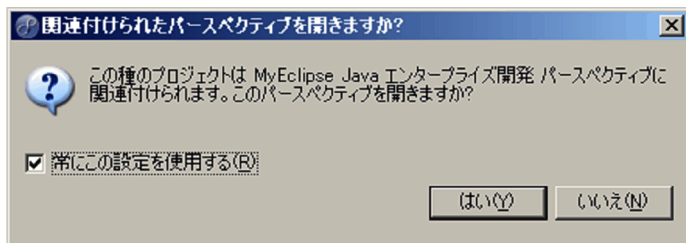
各項目を設定したあとの画面は、次のようになります。

5. 開発環境の構築



4. [終了] ボタンをクリックします。

Web プロジェクトが作成されます。このとき、次のダイアログが表示されることがあります。パースペクティブを関連づけたくない場合は、チェックを外して、[はい] ボタンをクリックしてください。



(2) Web 帳票アプリケーションのコピー

Web プロジェクトの作成によって生成されたフォルダに、Web 帳票アプリケーションのファイルを配置します。

Web プロジェクトを作成したあとは、次のようなフォルダ構成になっています。

```

/blcwar_project
  /.myeclipse
  /webSample
    /META-INF
    /WEB-INF
      /classes
      /lib
      /src

```

<Web ルート・フォルダー> 下に，Web 帳票アプリケーションをコピーします。

「5.4.2 Web 帳票アプリケーション (webSample) の作成」で作成した作業ディレクトリを webSample フォルダ下にコピーしてください。コピー元とコピー先を示します。

コピー元

<BLC2 のインストールディレクトリ>¥webSample フォルダ下のファイル，フォルダ

ただし，簡易セットアップツールで構築した場合は，次のようになります。

<BLC2 のインストールディレクトリ

>¥blc¥setup¥blc2easysetup¥work¥webSample フォルダ下のファイル，フォルダ

コピー先

C:¥blcwar_project¥webSample フォルダ下

Web 帳票アプリケーションをコピーしたあとのフォルダ構成は，次のようになります。

```

/blcwar_project
  /.myeclipse
  /webSample
    /adportlets
    /app
    /contents
    /css
    /efd
    /form
    /html
    /images
    /js
    /manual
    /META-INF
    /portlets
    /WEB-INF
      /classes
      /lib
      /src

```

ファイルをコピーしたあとに，Eclipse 上でフォルダの状態を更新するため，[パッケージ・エクスプローラー] タブ で Web プロジェクトを選択し，右クリックで [更新] を選択してください。

注

[パッケージ・エクスプローラー] タブが表示されていない場合は，Eclipse のメ

5. 開発環境の構築

ニューから [ウィンドウ] - [ビューの表示] - [パッケージ・エクスプローラー] を選択してください。

(3) Web プロジェクトの設定

Web プロジェクトのプロパティを確認し、Web 帳票アプリケーションのコンパイルに必要なライブラリを追加します。

操作手順

1. [パッケージ・エクスプローラー] 上で、作成した Web プロジェクト (webSample) を選択し、メニューから [プロジェクト] - [プロパティ] を選択します。
[プロパティ : <Web プロジェクト名>] ウィンドウが表示されます。
2. 左ペインで [Java のビルド・パス] を選択し、右ペインで [ソース] タブを選択します。
3. 「ビルド・パス上のソース・フォルダー」に "blc_war/webSample/WEB-INF/src" が設定されていることを確認します。
4. Eclipse のメニューから [ウィンドウ] - [設定] を選択します。
[設定] ダイアログが表示されます。
5. 左ペインで [MyEclipse] - [Java エンタープライズ・プロジェクト] - [ライブラリ・セット] を選択し、[J2EE 1.4] タブで JAR ファイルのシステムドライブを確認します。
次に示す JAR ファイルを確認してください。ファイルがない場合は、[JAR/ZIP の追加] ボタンをクリックして追加してください。

表 5-5 確認する JAR ファイル

JAR ファイル名	格納フォルダ
j2ee-javax.jar	<Cosminexus のインストールディレクトリ>\¥CC¥client¥lib
csmjaxp.jar	<Cosminexus のインストールディレクトリ>\¥jaxp¥lib

注

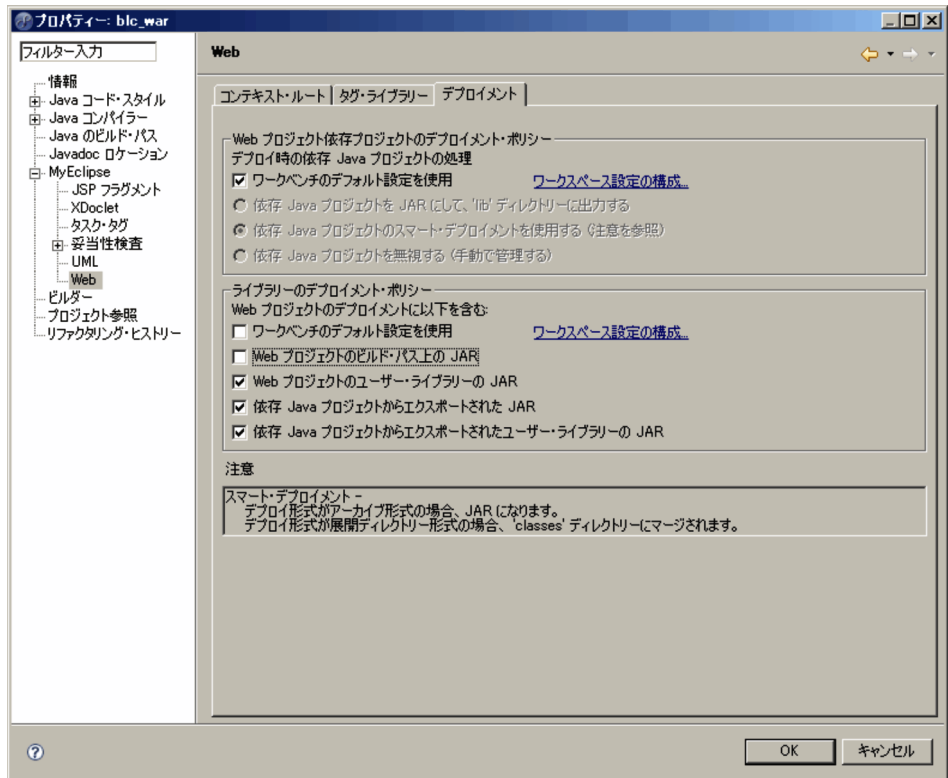
「5.2 開発環境のインストール」でインストールした環境とシステムドライブが異なる場合は、環境に合わせて再登録してください。詳細は、マニュアル「Cosminexus アプリケーション開発ガイド」のライブラリパスの設定について記載されている個所を参照してください。

6. [プロパティ : <Web プロジェクト名>] ウィンドウの左ペインで [MyEclipse] - [Web] を選択し、右ペインで [デプロイメント] タブを選択します。
7. デプロイメント・ポリシーを設定して、[OK] ボタンをクリックします。
次のとおり設定してください。

表 5-6 デプロイメント・ポリシーの設定値

設定項目	設定値
ライブラリーのデプロイメント・ポリシー	[ワークベンチのデフォルト設定を使用]のチェックを外します。
	[Web プロジェクトのビルド・パス上の JAR]のチェックを外します。

各項目を設定したあとの画面は、次のようになります。



- [プロパティ：<Web プロジェクト名>] ウィンドウの左ペインで [Java のビルド・パス] を選択し、右ペインで [ライブラリー] タブを選択します。
- [外部 JAR の追加] ボタンをクリックして、JAR ファイルを追加します。
次に示すライブラリ（外部 JAR ファイル）を追加してください。

表 5-7 追加するライブラリ（外部 JAR ファイル）

JAR ファイル名	格納先
csciw.jar	<CSCIW のインストールディレクトリ>¥lib
hitj2ee.jar	<Cosminexus のインストールディレクトリ>¥CC¥lib

5. 開発環境の構築

JAR ファイル名	格納先
hntrlib2j.jar	C:\Program Files\HITACHI\HNTRLib2\classes
castor.jar	<Portal Framework のインストールディレクトリ>\lib
ecs.jar	<Portal Framework のインストールディレクトリ>\lib
hitachiportal.jar	<Portal Framework のインストールディレクトリ>\lib
jakarta-oro.jar	<Portal Framework のインストールディレクトリ>\lib
portlet.jar	<Portal Framework のインストールディレクトリ>\lib
portletwebsso.jar	<Portal Framework のインストールディレクトリ>\lib
portletwebsso.lib.jar	<Portal Framework のインストールディレクトリ>\lib
velocity.jar	<Portal Framework のインストールディレクトリ>\lib
village.jar	<Portal Framework のインストールディレクトリ>\lib
pdjdbc2.jar (HiRDB を使用する場合)	<Cosminexus のインストールディレクトリ>\DB\CLIENT\UTL
ojdbc14.jar (Oracle を使用する場合)	C:\Oracle\product\10.2.0\Client_1\jdbc\lib\ojdbc14.jar
sqljdbc.jar (SQL Server を使用する場合)	C:\Program Files\Microsoft SQL Server 2005 JDBC Driver\sqljdbc_1.1\jpn

注

システムドライブにインストールされます。システムドライブが C ドライブの場合を記載しています。

10.[ライブラリー] タブの「ビルド・パス上の JAR およびクラス・フォルダー」に次の JAR ファイルがあることを確認します。

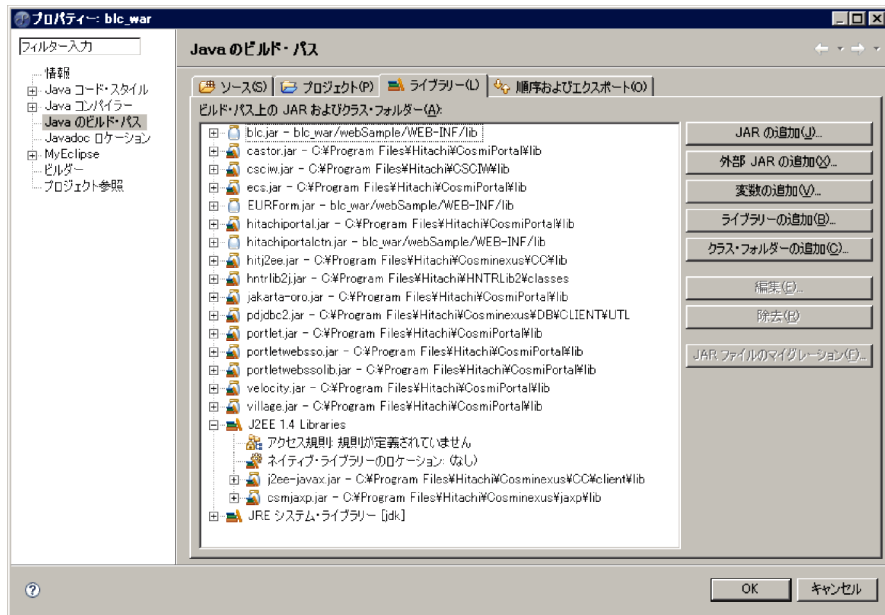
ファイルがない場合は、[JAR の追加] ボタンをクリックして追加してください。

表 5-8 追加または確認するライブラリ (JAR ファイル)

JAR ファイル名	格納先
EURForm.jar	<Web プロジェクトのディレクトリ>\webSample\WEB-INF\lib
blc.jar	<Web プロジェクトのディレクトリ>\webSample\WEB-INF\lib
hitachiportalctn.jar	<Web プロジェクトのディレクトリ>\webSample\WEB-INF\lib

11.[ライブラリー] タブの「J2EE 1.4 Libraries」を選択します。

外部 JAR ファイルおよび JAR ファイルを追加したあとの [ライブラリー] タブが次のように表示されることを確認してください。



注

HiRDB を利用する場合の例です。

12.[プロパティ - <Web プロジェクト名 >] ウィンドウで [OK] ボタンをクリックします。

13.「blc_war」プロジェクトを選択します。

14.右クリックで [MyEclipse] - [検査実行] を選択します。

Web プロジェクトがビルドされます。Web プロジェクトのビルド結果は、[コンソール] ビューに表示されます。[コンソール] ビューが表示されていない場合は、Eclipse のメニューから [ウィンドウ] - [ビューの表示] - [コンソール] を選択してください。

なお、[問題] ビューにはエラーが表示されますが、次に示す方法で解除できます。

14-1 エラーの発生しているリソース (ファイルまたはフォルダ) を選択します。

表 5-9 対象リソース

ファイル格納場所	ファイル名 / フォルダ名
C:\blcwar_project\webSample\form\include	BLCFCMconst.inc
	BLCFCMbaseTag.inc
C:\blcwar_project\webSample\portlets	portaloperation フォルダ
C:\blcwar_project\webSample	js フォルダ
C:\blcwar_project\webSample\WEB-INF	templates フォルダ

5. 開発環境の構築

14-2 右クリックで [MyEclipse] - [検査から除外] を選択します。

選択したリソース (ファイルまたはフォルダ) を検査対象外にできます。対象リソースのうち、templates フォルダ下のファイルだけがカスタマイズできます。カスタマイズするファイルを検査対象にする場合は、次の手順で検査を実行してください。

14-3 カスタマイズ前に、対象ファイルを選択し、右クリックで [MyEclipse] - [検査から除外] を選択します。

「検査から除外」のチェックが外れて、検査対象に戻ります。問題ビューにエラーが表示されるファイルについては、そのエラーを覚えておいてください。

14-4 カスタマイズ後、対象ファイルを選択し、右クリックで [MyEclipse] - [検査実行] を選択します。

対象ファイルの検査が実行されます。カスタマイズ前に問題ビューに表示されていたエラー以外のエラーが表示された場合は、対処してください。

5.6.3 EAR プロジェクトの作成

MyEclipse を使用して EAR プロジェクト (エンタープライズ・アプリケーション・プロジェクト) を作成します。作成する EAR プロジェクトに、「5.6.2 Web プロジェクトの作成」で作成した Web プロジェクトを組み込みます。

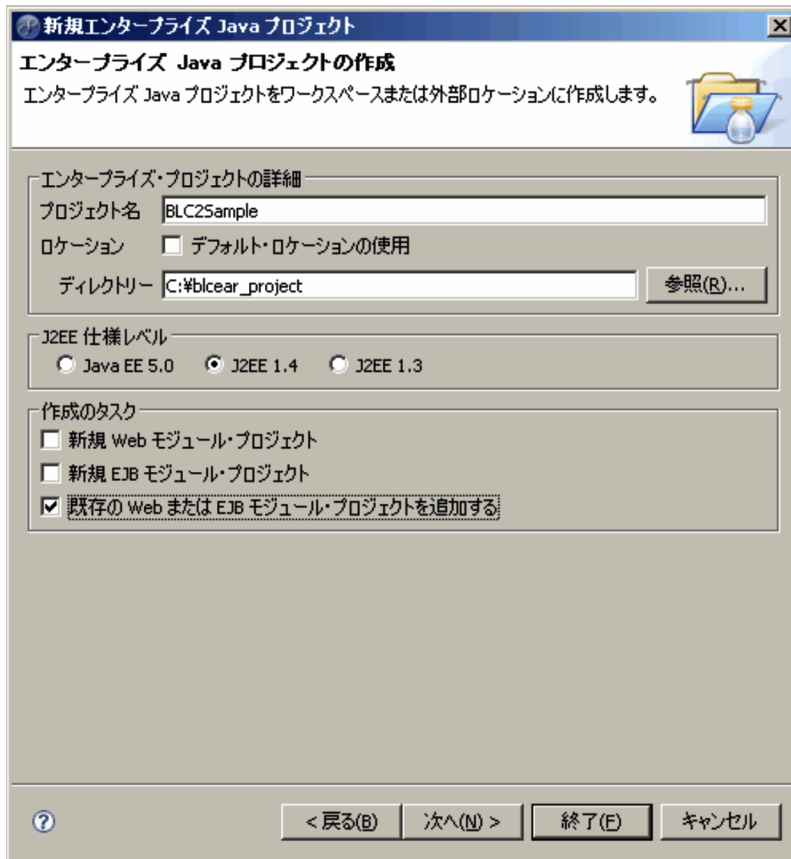
操作手順

1. Eclipse のメニューから [ファイル] - [新規] - [プロジェクト] を選択します。
[新規プロジェクト] ダイアログが表示されます。
2. [MyEclipse] - [Java エンタープライズ・プロジェクト] - [エンタープライズ・アプリケーション・プロジェクト] を選択して、[次へ] ボタンをクリックします。
[エンタープライズ Java プロジェクトの作成] ページが表示されます。
3. EAR プロジェクトのプロパティを設定します。
次のとおり設定してください。

表 5-10 EAR プロジェクトのプロパティの設定値

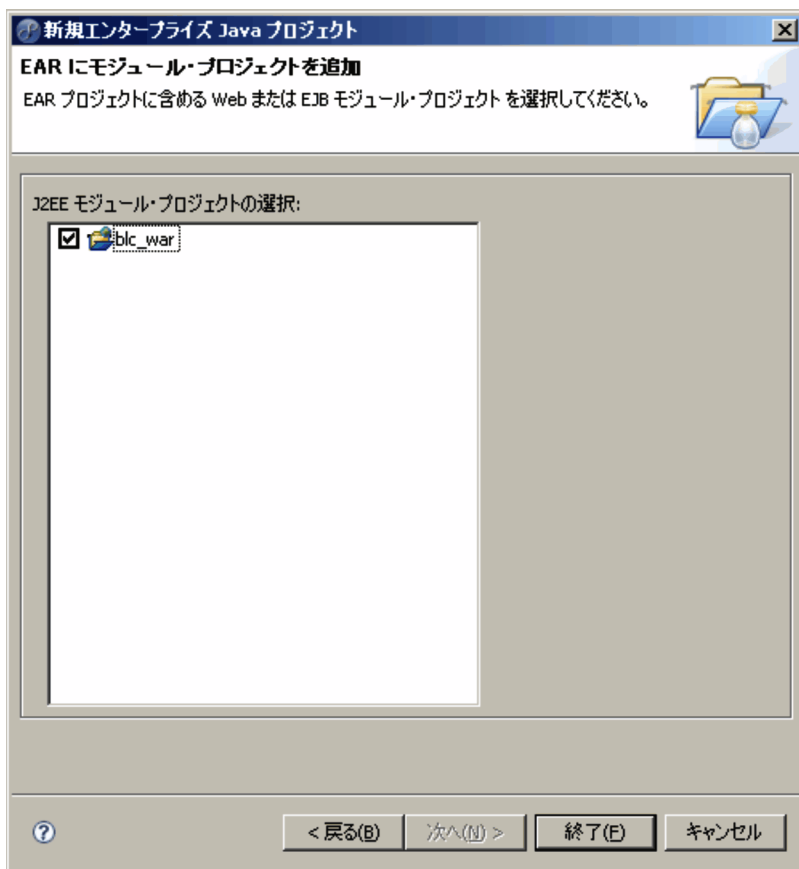
設定項目	設定値
プロジェクト名	BLC2Sample
ロケーション	[デフォルト・ロケーションの使用] のチェックを外します。
ディレクトリー	C:\¥blclear_project
J2EE 仕様レベル	[J2EE 1.4] を選択します。
利用可能なタスク	[既存の Web または EJB モジュール・プロジェクトを追加する] をチェックします。

各項目を設定したあとの画面は、次のようになります。



- [次へ] ボタンをクリックします。
[EAR にモジュール・プロジェクトを追加] ページが表示されます。
- [J2EE モジュール・プロジェクトの選択] で, [blc_war] をチェックします。

5. 開発環境の構築




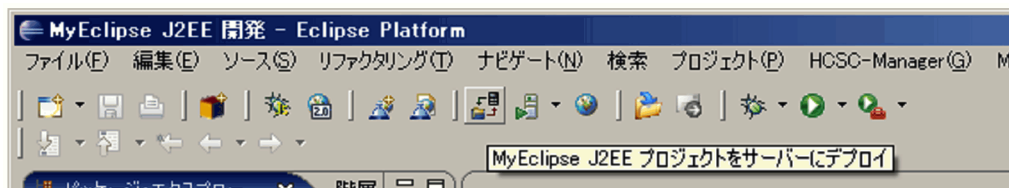
6. [終了] ボタンをクリックします。
EAR プロジェクトが作成されます。

5.6.4 Web アプリケーションの生成

EAR プロジェクトにデプロイ情報を設定し、Web アプリケーションを生成します。

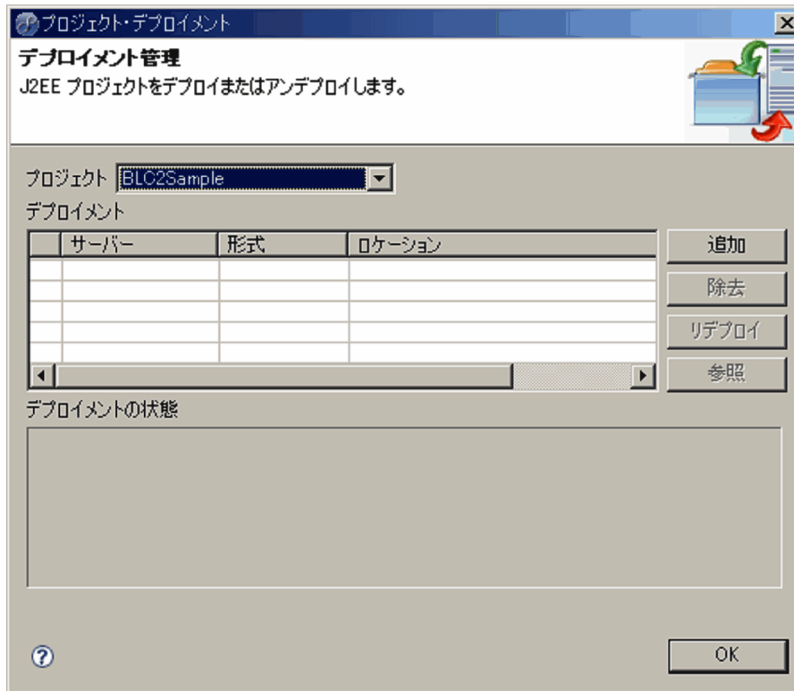
操作手順

1. Eclipse のツールバーから、[ (MyEclipse J2EE プロジェクトをサーバーにデプロイ)] を選択します。



[プロジェクト・デプロイメント] ダイアログが表示されます。

2. 「プロジェクト」で [BLC2Sample] を選択し, [追加] ボタンをクリックします。



[新規デプロイメント] ダイアログが表示されます。

3. デプロイ情報を設定します。
次のとおり設定してください。

表 5-11 Web アプリケーションのデプロイ情報の設定値

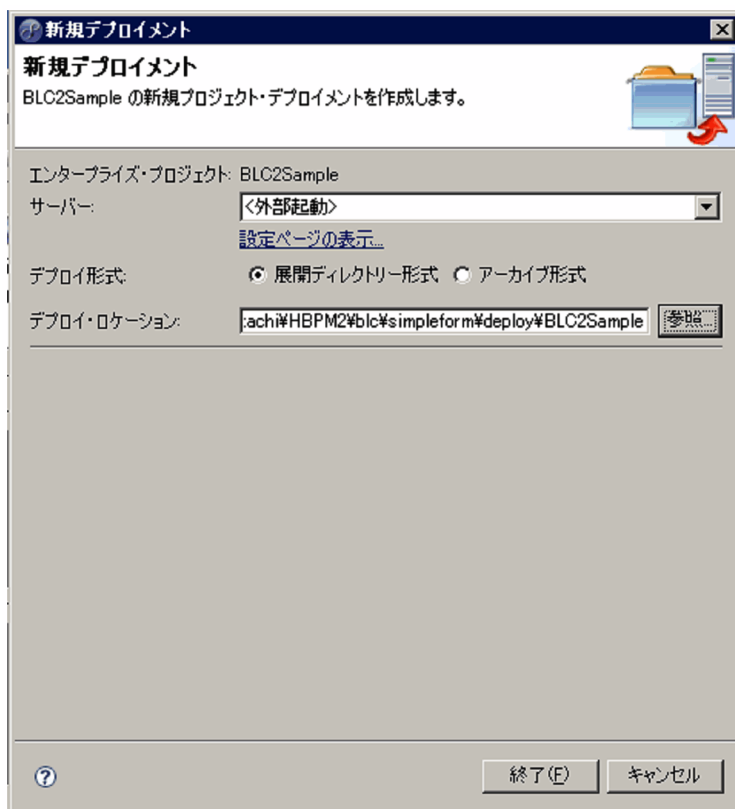
設定項目	設定値
サーバー	< 外部起動 >
デプロイ形式	展開ディレクトリー形式
デプロイ・ロケーション	<BLC2 のインストールディレクトリ >¥blc¥simpleform¥deploy¥BLC2Sample

注

デプロイ・ロケーションを [参照] ボタンから選択する場合は, deploy フォルダまでを指定して [OK] ボタンをクリックしてください。「¥BLC2Sample」の部分は「<BLC2 のインストールディレクトリ>¥blc¥simpleform¥deploy」のあとに自動で表示されます。

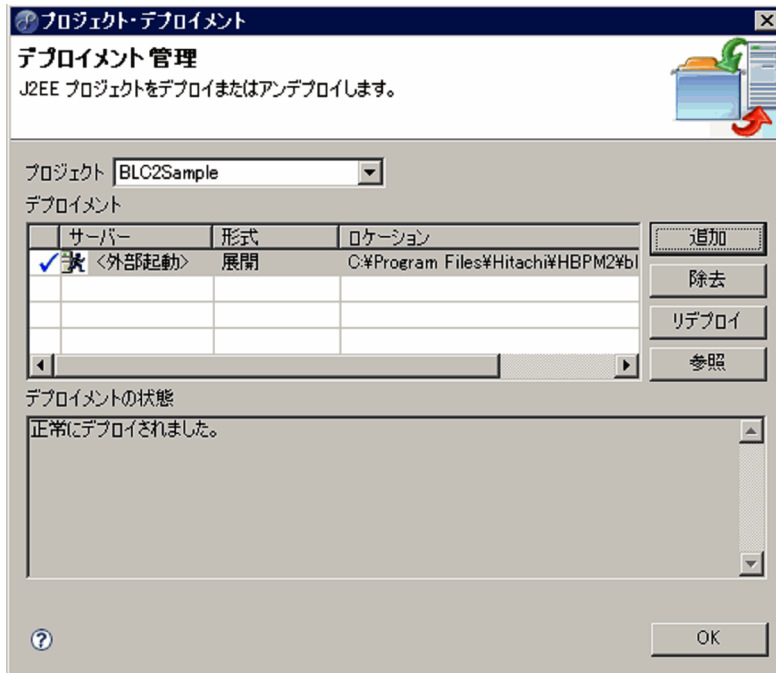
各項目を設定したあとの画面は, 次のようになります。

5. 開発環境の構築



4. [終了] ボタンをクリックします。

Web アプリケーションが生成されます。正常に Web アプリケーションが生成されると、[プロジェクト・デプロイメント] ダイアログの「デプロイメントの状態」が「正常にデプロイされました。」になります。



5. [OK] ボタンをクリックします。

ここまでの作業で、<BLC2 のインストールディレクトリ>\¥blc¥simpleform¥deploy フォルダに BLC2Sample フォルダが作成されているか確認してください。

5.7 J2EE サーバの設定

開発環境で使用する J2EE サーバを設定し、Web 帳票アプリケーションを開始します。ここでは、Server Plug-in を使用して、J2EE サーバに必要な設定をする方法について説明します。

5.7.1 Management Server への接続（開発環境）

J2EE サーバの運用管理をする Management Server の設定をします。

この作業をする前に、Management Server が起動されていることを確認してください。また、システム管理者の権限を持つユーザを必ず一人以上登録してください。

Management Server のセットアップおよび起動方法については、「4.3.2 Management Server の設定」を参照してください。また、Server Plug-in の詳細は、マニュアル「Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド」の Server Plug-in による操作について記載されている箇所を参照してください。

（1）Server Plug-in のパースペクティブの表示

J2EE サーバの設定に使用する Server Plug-in のパースペクティブを表示します。

操作手順

1. Eclipse のメニューから [ウィンドウ] - [パースペクティブを開く] - [その他] を選択します。
[パースペクティブの選択] ダイアログが表示されます。
2. [Cosminexus Server Plug-in] を選択し、[OK] ボタンをクリックします。
[Cosminexus Server Plug-in] パースペクティブが表示されます。

（2）接続先 Management Server の設定

Management Server の接続が正しく設定されているかを確認します。

操作手順

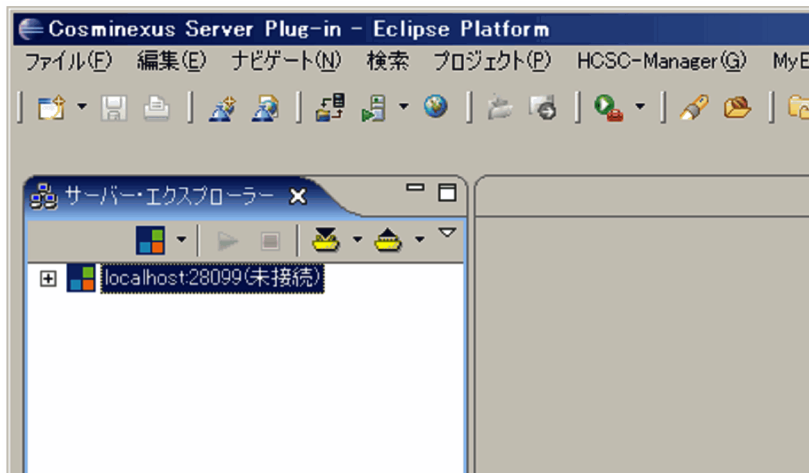
1. Eclipse のメニューから [ウィンドウ] - [設定] を選択します。
[設定] ダイアログが表示されます。
2. 左ペインで、[Cosminexus Server Plug-in] を選択し、右ペインで [接続ホスト] タブを選択します。
3. 「接続ホスト一覧」に接続先のホストが設定されているか確認します。
接続先のホストがチェックされているか確認してください。MyEclipse を起動しているマシンと同じマシン上に Management Server を起動している場合は、「localhost」となります。

(3) Management Server へのログイン

Server Plug-in を使用して、Management Server にログインします。

操作手順

1. [サーバー・エクスプローラー] ビューで「localhost:28099(未接続)」をダブルクリックします。

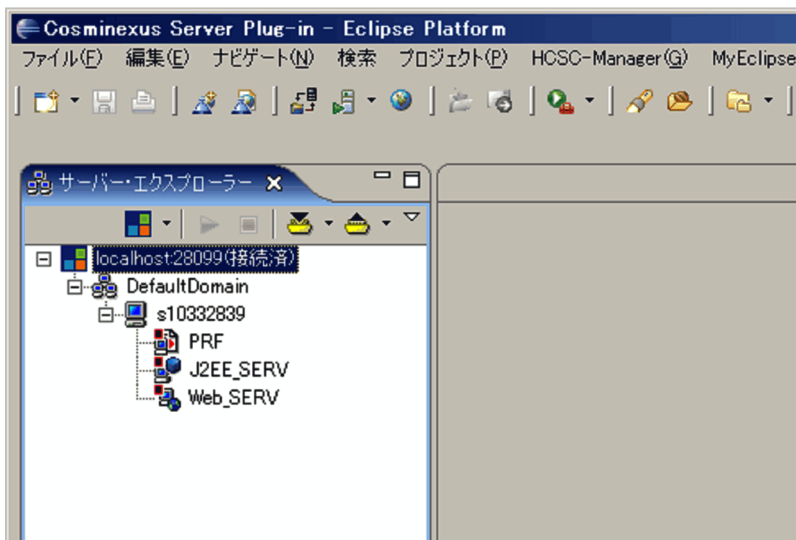


[Cosminexus Management Server リモート管理機能へログイン] ダイアログが表示されます。

注

`%COSMINEXUS_HOME%\manager\config\mserver.properties` ファイルの `com.cosminexus.mngsvr.management.port` キーをデフォルト (28099) から変更した場合は、Eclipse のメニューから [ウィンドウ] - [設定] - [Cosminexus Server Plug-in] を選択して、「接続ポート番号」に変更したポート番号を設定してください。

2. ユーザ ID とパスワードを入力して [OK] ボタンをクリックします。
ユーザ ID とパスワードは、「4.3.2(1) Management Server のセットアップ」で設定した管理ユーザ ID と管理ユーザパスワードになります。
ログインに成功すると、Management Server が管理する論理サーバが [サーバー・エクスプローラー] ビューで確認できます。



5.7.2 リソースアダプタの設定（開発環境）

Server Plug-in を使用して、リソースアダプタをデプロイし、必要な設定をします。リソースアダプタの設定が完了したら、リソースアダプタを開始します。

作業を開始する前に、Web システム内のすべてのサービスユニットが起動していることを確認してください。起動していなければすべてのサービスユニットを起動してください。

（1）リソースアダプタのインポート

Server Plug-in を使用して、リソースアダプタをインポートします。

操作手順

1. [サーバー・エクスプローラー] ビューのツリーを展開し、[J2EE サーバ] - [J2EE リソース] フォルダ下の [リソース・アダプター] フォルダを選択します。
2. 右クリックで [リソース・アダプターのインポート] を選択します。
[リソース・アダプターのインポート] のファイルダイアログが表示されます。
3. インポートするリソースアダプタを選択します。
インポートするリソースアダプタは、使用するデータベースによって異なります。インポートする RAR ファイルを次の表に示します。

表 5-12 インポートする RAR ファイル

使用する DB の種別	リソースアダプタ名	RAR ファイル
HiRDB	HiRDB Type4 Driver	<Cosminexus のインストールディレクトリ>¥CC¥DBConnector¥DBConnector_HiRDB_Type4_CP.rar
Oracle	Oracle JDBC Thin Driver	<Cosminexus のインストールディレクトリ>¥CC¥DBConnector¥DBConnector_Oracle_CP.rar
SQL Server	Microsoft SQL Server 2005 JDBC Driver	<Cosminexus のインストールディレクトリ>¥CC¥DBConnector¥DBConnector_SQLServer2005_CP.rar

4. ファイルダイアログで [開く] を選択します。
リソースアダプタのインポートが開始されます。経過表示のダイアログが表示されるので、完了するまで待ってください。インポートに成功すると、[リソース・アダプター] フォルダの下に DBConnector が表示されます。
5. インポートした DBConnector を右クリックして [プロパティ] を選択します。
6. [ソース] タブの <display-name> タグを次のとおり変更して、保存します。
<display-name xml:lang="en">DB_Connector_for_Manager</display-name>
変更すると、DBConnector 名が「DB_Connector_for_Manager」になります。
7. 再度、手順 2. から実行して、<display-name> タグを次のとおり変更して、保存します。
<display-name xml:lang="en">DB_Connector_for_Executer</display-name>
変更を保存すると、DBConnector 名が「DB_Connector_for_Executer」になります。

(2) リソースアダプタのデプロイ

Server Plug-in を使用して、インポートしたリソースアダプタをデプロイします。

操作手順

DB_Connector_for_Executer および DB_Connector_for_Manager に対して、次の操作をしてください。

1. [サーバー・エクスプローラー] ビューのツリーを展開し、デプロイする DBConnector を選択します。
[J2EE サーバ] - [J2EE リソース] - [リソース・アダプター] フォルダの下に表示されている DBConnector を選択してください。
2. 右クリックで [デプロイ] を選択します。
リソースアダプタのデプロイが開始されます。インポートに成功すると、[J2EE サーバ] - [J2EE リソース・アダプター] フォルダの下に選択した DBConnector が表示されます。

(3) リソースアダプタのプロパティの設定

Server Plug-in を使用して、デプロイしたリソースアダプタのプロパティを設定します。

注意事項

リソースアダプタのプロパティを設定したあとは、必ず保存してください。保存しないと設定した内容が反映されません。

操作手順

1. [サーバー・エクスプローラー] ビューのツリーを展開し、デプロイした DBConnector を選択します。
[J2EE サーバ] - [J2EE リソース・アダプター] フォルダの下に表示された DBConnector を選択してください。
2. 右クリックで [プロパティ] を選択します。
[プロパティ] は、リソースアダプタが停止していないと選択できません。
[プロパティ] を選択したあとに、経過表示のダイアログが表示されるので、完了するまで待ってください。
リソースアダプタの属性編集画面が表示されます。
3. プロパティを設定します。
[Connector 属性] タブおよび [ソース] タブの設定について示します。
 - [Connector 属性] タブ
使用しているデータベースによって設定内容が異なります。HiRDB, Oracle, または SQL Server を使用する場合の設定項目および設定値を次の三つの表に示します。

表 5-13 [Connector 属性] タブでの設定値 (HiRDB)

設定項目 (Connector 属性のツリー)	Web 帳票アプリケーション用 (DB_Connector_for_Executer)	CSCIWManagementServer 用 (DB_Connector_for_Manager)
DBConnector 名	DB_Connector_for_Executer	DB_Connector_for_Manager
リソース・アダプター		

設定項目 (Connector 属性のツリー)		Web 帳票アプリケーション用 (DB_Connector_for_Executer)	CSCIWManagementServer 用 (DB_Connector_for_Manager)
アウトバンド・リソース・アダプター			
コネクション定義			
javax.sql.DataSource			
コンフィグレーション・プロパティ			
description	HiRDB のポート番号 (デフォルト: 22200)	HiRDB のポート番号 (デフォルト: 22200)	HiRDB のポート番号 (デフォルト: 22200)
DBHostName	HiRDB のホスト名	HiRDB のホスト名	HiRDB のホスト名
encodeLang	- 1	- 1	- 1
LONGVARBINARY_Access	LOCATOR ²	LOCATOR ²	LOCATOR ²
databaseName			
serverName			
portNumber			
コネクター・ランタイム			
プロパティ			
ユーザ名	BLC	BLC	BLC
パスワード	BLC	BLC	BLC
コネクションプールの最小値	20 ³	1	1
コネクションプールの最大値	20 ³	1	1

(凡例)

空欄: 設定しないことを表します。

注 1

データベースで UTF-8 を使用する場合は, UTF-8 を指定します。

注 2

添付ファイルを利用する場合の設定については, マニュアル「Hitachi Business Logic - Container 2」を参照してください。

注 3

環境のシステムリソースに合わせて設定してください。

なお, コネクション枯渇時の動作は, リソースアダプタの Connector 属性ファイルの property タグ設定値に依存します。

5. 開発環境の構築

コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列を有効にするかどうか

- ・ RequestQueueEnable (デフォルト : True)

コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列のとどまることのできる時間の最大値

- ・ RequestQueueTimeout (デフォルト : 30 秒)

デフォルトの設定では、データベースアクセス処理でコネクションが枯渇した場合、コネクションが取得できるまで最大 30 秒の待ちが発生します。30 秒以内にコネクションが取得できない場合は SQL エラーが発生します。

設定値の詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」の <property> タグに指定できるプロパティについて記載されている個所を参照してください。

また、Cosminexus の同時実行スレッド数についても適切に設定してください。

同時実行スレッド数の詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」の `usrconf.properties` (J2EE サーバ用ユーザプロパティファイル) の `webserver.connector.ajp13.max_threads` について記載されている個所を参照してください。

[ソース] タブ

[ソース] タブで設定する項目はありません。ただし、DBConnector の表示名を変更する場合は、[ソース] タブで XML を変更する必要があります。DBConnector の表示名の変更方法については、マニュアル「Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド」を参照してください。

表 5-14 [Connector 属性] タブでの設定値 (Oracle)

設定項目 (Connector 属性のツリー)	Web 帳票アプリケーション用 (DB_Connector_for_Executer)	CSCIWManagementServer 用 (DB_Connector_for_Manager)
DBConnector 名	DB_Connector_for_Executer	DB_Connector_for_Manager
リソース・アダプター		

設定項目 (Connector 属性のツリー)	Web 帳票アプリケーション用 (DB_Connector_for_Executer)	CSCIWManagementServer 用 (DB_Connector_for_Manager)
アウトバンド・リソース・アダプター		
コネクション定義		
javax.sql.DataSource		
コンフィグレーション・プロパティ		
description		
DBHostName		
encodeLang		
LONGVARBINARY_Access		
databaseName	BLCDB	BLCDB
serverName	Oracle のホスト名または IP アドレス	Oracle のホスト名または IP アドレス
portNumber	1521	1521
コネクター・ランタイム		
プロパティ		
ユーザ名	BLC	BLC
パスワード	BLC	BLC
コネクションプールの最小値	20 ³	1
コネクションプールの最大値	20 ³	1

(凡例)

空欄：設定しないことを表します。

注 1

データベースで UTF-8 を使用する場合は、UTF-8 を指定します。

注 2

添付ファイルを利用する場合の設定については、マニュアル「Hitachi Business Logic - Container 2」を参照してください。

注 3

環境のシステムリソースに合わせて設定してください。

なお、コネクション枯渇時の動作は、リソースアダプタの Connector 属性ファイルの property タグ設定値に依存します。

コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列を有効にするかどうか

・RequestQueueEnable (デフォルト：True)

5. 開発環境の構築

コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列のとどまることのできる時間の最大値

・ RequestQueueTimeout (デフォルト : 30 秒)

デフォルトの設定では、データベースアクセス処理でコネクションが枯渇した場合、コネクションが取得できるまで最大 30 秒の待ちが発生します。30 秒以内にコネクションが取得できない場合は SQL エラーが発生します。

設定値の詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」の <property> タグに指定できるプロパティについて記載されている個所を参照してください。

また、Cosminexus の同時実行スレッド数についても適切に設定してください。

同時実行スレッド数の詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」の `usrconf.properties` (J2EE サーバ用ユーザプロパティファイル) の

`webserver.connector.ajp13.max_threads` について記載されている個所を参照してください。

[ソース] タブ

[ソース] タブで設定する項目はありません。ただし、DBConnector の表示名を変更する場合は、[ソース] タブで XML を変更する必要があります。DBConnector の表示名の変更方法については、マニュアル「Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド」を参照してください。

表 5-15 [Connector 属性] タブでの設定値 (SQL Server)

設定項目 (Connector 属性のツリー)	Web 帳票アプリケーション用 (DB_Connector_for_Executer)	CSCIWManagementServer 用 (DB_Connector_for_Manager)
DBConnector 名	DB_Connector_for_Executer	DB_Connector_for_Manager
リソース・アダプター		

設定項目 (Connector 属性のツリー)	Web 帳票アプリケーション用 (DB_Connector_for_Executer)	CSCIWManagementServer 用 (DB_Connector_for_Manager)
アウトバンド・リソース・アダプター		
コネクション定義		
javax.sql.DataSource		
コンフィグレーション・プロパティ		
description		
DBHostName		
encodeLang		
LONGVARBINARY_Access		
databaseName	BLCDB	BLCDB
serverName	SQL Server のホスト名または IP アドレス	SQL Server のホスト名または IP アドレス
portNumber	1433	1433
コネクター・ランタイム		
プロパティ		
ユーザ名	BLC	BLC
パスワード	BLC	BLC
コネクションプールの最小値	20 ³	1
コネクションプールの最大値	20 ³	1

(凡例)

空欄：設定しないことを表します。

注 1

データベースで UTF-8 を使用する場合は、UTF-8 を指定します。

注 2

添付ファイルを利用する場合の設定については、マニュアル「Hitachi Business Logic - Container 2」を参照してください。

注 3

環境のシステムリソースに合わせて設定してください。

なお、コネクション枯渇時の動作は、リソースアダプタの Connector 属性ファイルの property タグ設定値に依存します。

コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列を有効にするかどうか

・RequestQueueEnable (デフォルト：True)

5. 開発環境の構築

コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列のとどまることのできる時間の最大値

・ RequestQueueTimeout (デフォルト: 30 秒)

デフォルトの設定では、データベースアクセス処理でコネクションが枯渇した場合、コネクションが取得できるまで最大 30 秒の待ちが発生します。30 秒以内にコネクションが取得できない場合は SQL エラーが発生します。

設定値の詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」の <property> タグに指定できるプロパティについて記載されている個所を参照してください。

また、Cosminexus の同時実行スレッド数についても適切に設定してください。

同時実行スレッド数の詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」の `usrconf.properties` (J2EE サーバ用ユーザプロパティファイル) の

`webserver.connector.ajp13.max_threads` について記載されている個所を参照してください。

[ソース] タブ

[ソース] タブで設定する項目はありません。ただし、DBConnector の表示名を変更する場合は、[ソース] タブで XML を変更する必要があります。DBConnector の表示名の変更方法については、マニュアル「Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド」を参照してください。

(4) リソースアダプタの接続テスト

Server Plug-in を使用して、リソースアダプタの接続テストを実行します。

操作手順

DB_Connector_for_Executer および DB_Connector_for_Manager に対して、次の操作をしてください。

1. [サーバー・エクスプローラー] ビューのツリーを展開し、接続テストをする DBConnector を選択します。
[J2EE サーバ] - [J2EE リソース・アダプター] フォルダの下に表示されている DBConnector を選択してください。
2. 右クリックで [接続テスト] を選択します。
経過表示のダイアログが表示されるので、完了するまで待ってください。接続テストに成功すると、接続テスト成功のメッセージダイアログが表示されます。

(5) リソースアダプタの開始

Server Plug-in を使用して、リソースアダプタを開始します。

操作手順

DB_Connector_for_Executer および DB_Connector_for_Manager に対して、次の操作をしてください。

1. [サーバー・エクスプローラー] ビューのツリーを展開し、デプロイした DBConnector を選択します。

[J2EE サーバ] - [J2EE リソース・アダプター] フォルダの下に表示されているものを選択してください。

2. 右クリックで [開始] を選択します。
経過表示のダイアログが表示されるので、完了するまで待ってください。リソースアダプタが開始されます。

5.7.3 CSCIWManagementServer の設定 (開発環境)

Server Plug-in を使用して、CSCIWManagementServer をインポートし、必要な設定をします。CSCIWManagementServer の設定が完了したら、CSCIWManagementServer を開始します。

(1) セキュリティロールの設定

CSCIWManagementServer で使用するセキュリティロールを設定します。「4.6.11(1) セキュリティロールの設定」を参照して、セキュリティロール「csciwdef」を設定してください。

(2) CSCIWManagementServer のインポート

Server Plug-in を使用して、CSCIWManagementServer をインポートします。

操作手順

1. [サーバー・エクスプローラー] ビューのツリーを展開し、[J2EE サーバ] - [J2EE アプリケーション] フォルダを選択します。
2. 右クリックで [J2EE アプリケーション (アーカイブ形式) のインポート] を選択します。
[J2EE アプリケーション (アーカイブ形式) のインポート] のファイルダイアログが表示されます。
3. 次に示す EAR ファイルを選択します。
<CSCIW のインストールディレクトリ >¥lib¥csciw.ear
4. ファイルダイアログで、[開く] を選択します。
CSCIWManagementServer のインポートが開始されます。経過表示のダイアログが表示されるので、完了するまで待ってください。インポートに成功すると、[J2EE アプリケーション] フォルダの下に EAR 名が表示されます。

(3) CSCIWManagementServer のプロパティの設定

Server Plug-in を使用して、インポートした CSCIWManagementServer のプロパティを設定します。プロパティの設定例は、「付録 D.2 CSCIWManagementServer の属性ファイル」を参照してください。

注意事項

5. 開発環境の構築

CSCIWManagementServer のプロパティを設定したあとは、必ず保存してください。保存しないと設定した内容が反映されません。

操作手順

1. [サーバー・エクスプローラー] ビューのツリーを展開し、インポートした CSCIWManagementServer を選択します。
[J2EE サーバ] - [J2EE アプリケーション] フォルダの下に表示された EAR を選択してください。
2. 右クリックで [プロパティ] を選択します。
[プロパティ] は、CSCIWManagementServer が停止していないと選択できません。
[プロパティ] を選択したあとに、経過表示のダイアログが表示されるので、完了するまで待ってください。
J2EE アプリケーションの属性編集画面が表示されます。
3. プロパティを設定します。
[アプリケーション属性] タブおよび [WAR] タブの項目に設定します。
 - [アプリケーション属性] タブ
開始・停止順に「0」を設定します。
 - [WAR] タブ
[CSCIW Web] - [リソース参照] - [jdbc/CSCIWDataSource] フォルダ下のリンク先に、「DB_Connector_for_Manager」を設定します。
 - [ソース] タブ
<security-role> タグ内の <linked-to> タグに「csciwdef」を設定します。

(4) CSCIWManagementServer の開始

Server Plug-in を使用して、CSCIWManagementServer を開始します。

操作手順

1. [サーバー・エクスプローラー] ビューのツリーを展開し、インポートした CSCIWManagementServer を選択します。
[J2EE サーバ] - [J2EE アプリケーション] フォルダの下に表示された EAR を選択してください。
2. 右クリックで [開始] を選択します。
経過表示のダイアログが表示されるので、完了するまで待ってください。
CSCIWManagementServer が開始されます。

5.7.4 案件運用操作の設定 (開発環境)

Server Plug-in を使用して、案件運用操作をインポートし、必要な設定をします。案件運用操作の設定が完了したら、案件運用操作を開始します。

(1) セキュリティロールの設定

案件運用操作で使用するセキュリティロールを設定します。「4.6.12(1) セキュリティロールの設定」を参照して、セキュリティロール「csciwadmin」を設定してください。

(2) 案件運用操作のインポート

Server Plug-in を使用して、案件運用操作をインポートします。

操作手順

1. [サーバー・エクスプローラー] ビューのツリーを展開し、[J2EE サーバ] - [J2EE アプリケーション] フォルダを選択します。
2. 右クリックで [J2EE アプリケーション (アーカイブ形式) のインポート] を選択します。
[J2EE アプリケーション (アーカイブ形式) のインポート] のファイルダイアログが表示されます。
3. 次に示す EAR ファイルを選択します。
<CSCIW のインストールディレクトリ >¥lib¥csciwadmin.ear
4. ファイルダイアログで、[開く] を選択します。
案件運用操作のインポートが開始されます。経過表示のダイアログが表示されるので、完了するまで待ってください。インポートに成功すると、[J2EE アプリケーション] フォルダの下に EAR 名が表示されます。

(3) 案件運用操作のプロパティの設定

Server Plug-in を使用して、インポートした案件運用操作のプロパティを設定します。

プロパティの設定例は、「付録 D.3 案件運用操作の属性ファイル」を参照してください。

注意事項

案件運用操作のプロパティを設定したあとは、必ず保存してください。保存しないと設定した内容が反映されません。

操作手順

1. [サーバー・エクスプローラー] ビューのツリーを展開し、インポートした案件運用操作を選択します。
[J2EE サーバ] - [J2EE アプリケーション] フォルダの下に表示された EAR を選択してください。
2. 右クリックで [プロパティ] を選択します。
[プロパティ] は、案件運用操作が停止していないと選択できません。
[プロパティ] を選択したあとに、経過表示のダイアログが表示されるので、完了するまで待ってください。

5. 開発環境の構築

J2EE アプリケーションの属性編集画面が表示されます。

3. プロパティを設定します。

[WAR] タブおよび [ソース] タブの項目に設定します。

• [WAR] タブ

[CSCIW Admin] - [リソース参照] - [jdbc/CSCAdminIWDDataSource] フォルダ下のリンク先に、「DB_Connector_for_Executer」を設定します。

• [ソース] タブ

<security-role> タグ内の <linked-to> タグに「csciwadmin」を設定します。

詳細は「付録 D.4 Web 帳票アプリケーションの属性ファイル」を参照してください。

(4) 案件運用操作の開始

Server Plug-in を使用して、案件運用操作を開始します。

操作手順

1. [サーバー・エクスプローラー] ビューのツリーを展開し、インポートした案件運用操作を選択します。

[J2EE サーバ] - [J2EE アプリケーション] フォルダの下に表示された EAR を選択してください。

2. 右クリックで [開始] を選択します。

経過表示のダイアログが表示されるので、完了するまで待ってください。案件運用操作が開始されます。

5.7.5 Web 帳票アプリケーションの設定 (開発環境)

Server Plug-in を使用して、Web 帳票アプリケーションをインポートし、必要な設定をします。Web 帳票アプリケーションの設定が完了したら、Web 帳票アプリケーションを開始します。

(1) Web 帳票アプリケーションのインポート

Server Plug-in を使用して、Web 帳票アプリケーションをインポートします。

操作手順

1. 次に示すファイルを編集します。

編集するファイルのパスと編集する内容を次に示します。

• 編集するファイルのパス

<BLC2 のインストールディレクトリ

>¥ble¥simpleform¥deploy¥BLC2Sample¥META-INF¥application.xml

• 編集内容

<web-uri> タグ内の値を次のとおり変更してください。

変更前 : blc_war
 変更後 : blc_war.war

2. [サーバー・エクスプローラー] ビューのツリーを展開し, [<J2EE サーバ名>] - [J2EE アプリケーション] フォルダを選択します。
3. 右クリックで [J2EE アプリケーション (展開ディレクトリー形式) のインポート] を選択します。
 [J2EE アプリケーション (展開ディレクトリー形式) のインポート] のファイルダイアログが表示されます。
4. EAR プロジェクトのフォルダから, <BLC2 のインストールディレクトリ>¥blc¥simpleform¥deploy¥BLC2Sample フォルダを選択します。
5. ファイルダイアログで, [開く] を選択します。
 Web 帳票アプリケーションのインポートが開始されます。経過表示のダイアログが表示されるので, 完了するまで待ってください。インポートに成功すると, [J2EE アプリケーション] フォルダの下に EAR 名が表示されます。

インポートした Web 帳票アプリケーションを削除して, リデプロイしたあとに再度インポートする場合にも, 上記の手順 1. にある application.xml の編集を実施してから, インポートを実行してください。

(2) Web 帳票アプリケーションのプロパティの設定

Server Plug-in を使用して, インポートした Web 帳票アプリケーションのプロパティを設定します。

注意事項

Web 帳票アプリケーションのプロパティを設定したあとは, 必ず保存してください。
 保存しないと設定した内容が反映されません。

操作手順

1. [サーバー・エクスプローラー] ビューのツリーを展開し, インポートした Web 帳票アプリケーションを選択します。
 [<J2EE サーバ名>] - [J2EE アプリケーション] フォルダの下に表示された Web 帳票アプリケーションを選択してください。
2. 右クリックで [プロパティ] を選択します。
 [プロパティ] は, Web 帳票アプリケーションが停止していないと選択できません。
 [プロパティ] を選択したあとに, 経過表示のダイアログが表示されるので, 完了するまで待ってください。
 J2EE アプリケーションの属性編集画面が表示されます。
3. プロパティを設定します。
 [WAR] タブの項目に設定します。

5. 開発環境の構築

- [WAR] - [<WAR の表示名 >] - [コンテキストルート]:
「/blc」を設定します。
- [WAR] - [<WAR の表示名 >] - [リモート EJB への参照
(CSCIWAuthenticationManager)] - [リンク先の EJB 名]:
次の内容を設定します。

```
corbaname::localhost:900#HITACHI_EJB/SERVERS/J2EE_SERV/EJB/  
CSCIWManagementServer/CSCIWAuthenticationManager
```

- [WAR] - [<WAR の表示名 >] - [リモート EJB への参照
(CSCIWDefinitionServer)] - [リンク先の EJB 名]:
次の内容を設定します。

```
corbaname::localhost:900#HITACHI_EJB/SERVERS/J2EE_SERV/EJB/  
CSCIWManagementServer/CSCIWDefinitionServer
```

- [WAR] - [<WAR の表示名 >] - [リソース参照]:
フォルダ下のリンク先に、次の値を設定します。
DB_Connector_for_Executer

(3) Web 帳票アプリケーションの開始

Server Plug-in を使用して、Web 帳票アプリケーションを開始します。

操作手順

1. [サーバー・エクスプローラー] ビューのツリーを展開し、インポートした Web 帳票アプリケーションを選択します。
[J2EE サーバ] - [J2EE アプリケーション] フォルダの下に表示された EAR を選択してください。
2. 右クリックで [開始] を選択します。
経過表示のダイアログが表示されるので、完了するまで待ってください。Web 帳票アプリケーションが開始されます。
Web 帳票アプリケーションが起動したら、Web 帳票アプリケーションにログインし、正常に動作するか確認してください。


5.8 業務の開発とテスト

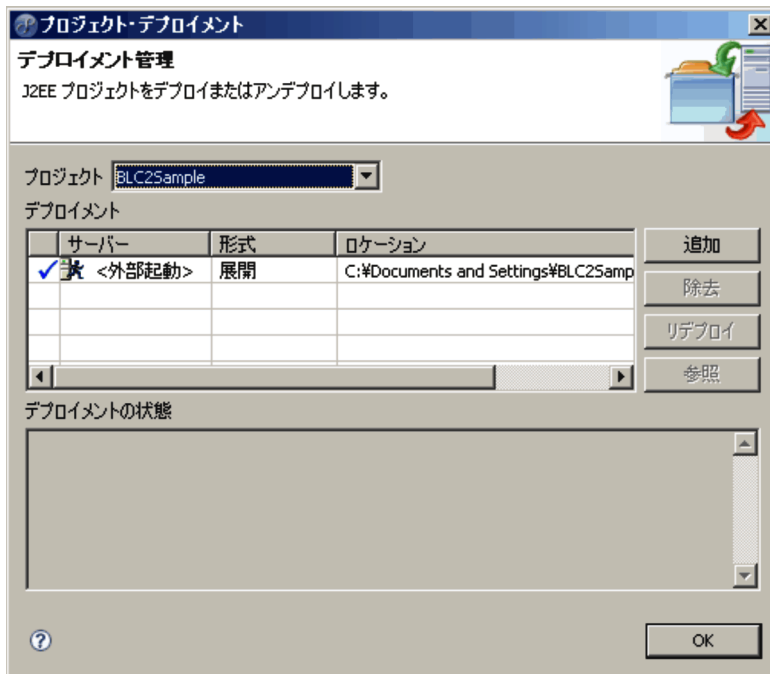
作成した Web 帳票アプリケーションを変更する場合、アプリケーションのリロードが必要になります。ここでは、Web 帳票アプリケーションのリロード方法、および作成した Web 帳票アプリケーションのデバッグについて説明します。

(1) Web 帳票アプリケーションのリロード

Web 帳票アプリケーションの帳票や JSP ファイルを新規に追加したり、変更したりする場合のリロード方法を説明します。

操作手順

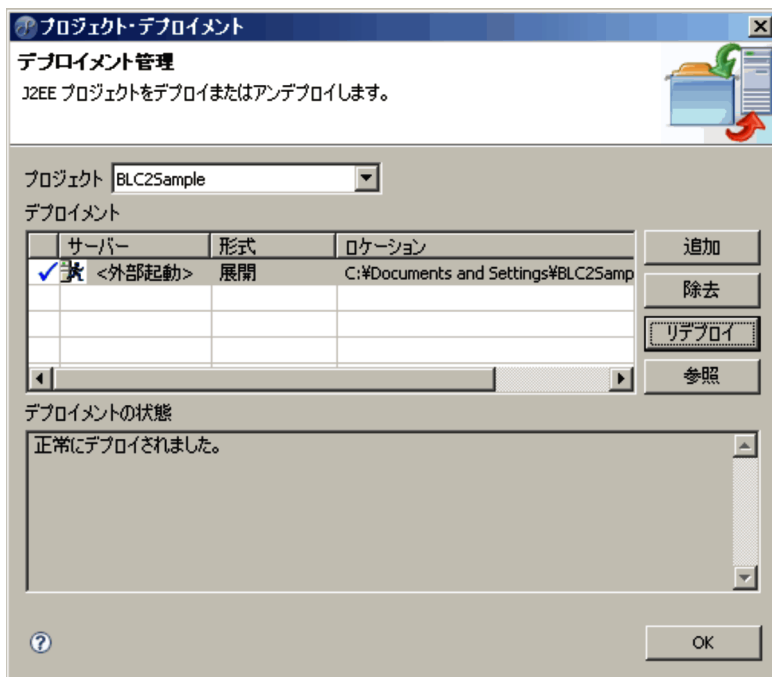
1. <Web ルート・フォルダー> 下のフォルダに、追加または変更になったファイルを配置します。
変更前のフォルダは、別途バックアップしてください。
2. Eclipse のメニューから [ファイル] - [更新] を選択し、変更したファイルを Eclipse に反映します。
3. Eclipse のツールバーから  (MyEclipse J2EE プロジェクトをサーバーにデプロイ) を選択します。
[プロジェクト・デプロイメント] ダイアログが表示されます。
4. BLC2Sample プロジェクトを選択します。



5. 開発環境の構築

5. [リデプロイ] ボタンをクリックします。

リデプロイが終了すると、「デプロイメントの状態」に「正常にデプロイされました。」と表示されます。



6. Server Plug-in のパースペクティブを選択します。

7. [サーバー・エクスプローラー] ビューのツリーを展開し、[J2EE サーバ] - [J2EE アプリケーション] フォルダ下の Web 帳票アプリケーションを選択します。

8. 右クリックで [リロード] を選択します。

アプリケーションのリロードが実行されます。

注意事項

アプリケーションおよびリソースアダプタの設定を変更するために、アプリケーション内の XML ファイルを変更した場合、アプリケーションの入れ替え（リロード）では、サーバに反映されません。一度アプリケーションを削除して、再度インポートする必要があります。

(2) デバッグ

MyEclipse を使用して、Java のデバッグができます。デバッグの設定方法および使用方法については、マニュアル「Cosminexus アプリケーション開発ガイド」を参照してください。

6

簡易セットアップツールを利用したシステム構築

電子フォームワークフローセット ディベロッパセットでは、システムの構築を容易にする簡易セットアップツールを提供しています。

この章では、簡易セットアップツールを使用してシステムを構築する手順、および構築した環境を削除する手順について説明します。

-
- 6.1 簡易セットアップツールの概要

 - 6.2 簡易セットアップツールを利用して構築するシステム

 - 6.3 ソフトウェアのインストール（簡易セットアップツール）

 - 6.4 システム環境変数の設定（簡易セットアップツール）

 - 6.5 簡易セットアップツールの実行とシステムの構築

 - 6.6 プログラム動作確認環境の運用

 - 6.7 プログラム開発環境の設定

 - 6.8 構築したシステムの削除

 - 6.9 簡易セットアップツール実行時に発生した障害の対策

 - 6.10 システム移行時の注意事項
-

6.1 簡易セットアップツールの概要

簡易セットアップツールの目的および提供する機能について説明します。

(1) 簡易セットアップツールの目的

簡易セットアップツールは、プログラムの動作確認や開発で利用するシステムの一括構築および一括削除を実現するツールです。簡易セットアップツールを実行することで、前提ソフトウェアのセットアップや、Web 帳票アプリケーションのデプロイ / 開始などが一括ででき、サンプルプログラム「販売契約稟議 EUR」および「かんたん帳票のサンプル業務」が実行できる状態になります。

簡易セットアップツールは、次の用途で利用できます。

プログラム動作確認環境の構築

サンプルプログラムの動作を確認できるデモ環境が構築できます。

プログラム開発環境の構築

サンプルプログラムを基に、Web 帳票アプリケーションを開発できる開発 / テスト環境が構築できます。

簡易セットアップツールで構築した環境の削除

簡易セットアップツールを利用して、環境を削除できます。ただし、削除できる環境は、電子フォームワークフロー ディベロッパセットのバージョン 07-60 の簡易セットアップツールで構築した環境だけです。

(2) 簡易セットアップツールが提供する機能

簡易セットアップツールでは、システムを構築するセットアップ機能およびシステムを削除するアンセットアップ機能を提供しています。それぞれの機能は、[簡易セットアップ] 画面から実行できます。それぞれの機能で実行できる内容を次に示します。

セットアップ機能

次の設定および操作を実行します。

- データベースサーバの構築
- Management Server の構築
- 論理サーバのセットアップ
- CSCIW の構築
- Portal Framework の構築
- Web 帳票アプリケーションのデプロイ / 開始 (サンプルプログラムの実行)

アンセットアップ機能

次の操作を実行します。

- 論理サーバのアンセットアップ
- Management Server の削除
- CSCIW の削除

- Portal Framework の削除
- Web 帳票アプリケーションを展開したディレクトリの削除
- データベースの削除

注

Web 帳票アプリケーションを展開したディレクトリ下にある EAR のルートディレクトリ、およびかんたん開発用作業ディレクトリ下にある form ディレクトリと WEB-INF ディレクトリも削除されます。このため、かんたん開発で生成される帳票ファイルも削除されます。必要に応じて、システムの削除を実行する前にバックアップをとっておいてください。

なお、簡易セットアップ実行時の情報、および障害発生時の情報については、[簡易セットアップ] 画面のコンソールに出力されます。

また、プログラム開発環境で使用するファイル群を提供しています。このファイル群を Eclipse プロジェクトにインポートすることで、プログラム開発環境のプロジェクトが作成できます。

6.2 簡易セットアップツールを利用して構築するシステム

簡易セットアップツールを利用して構築するシステムの構成，システム構築の流れ，および前提条件について説明します。

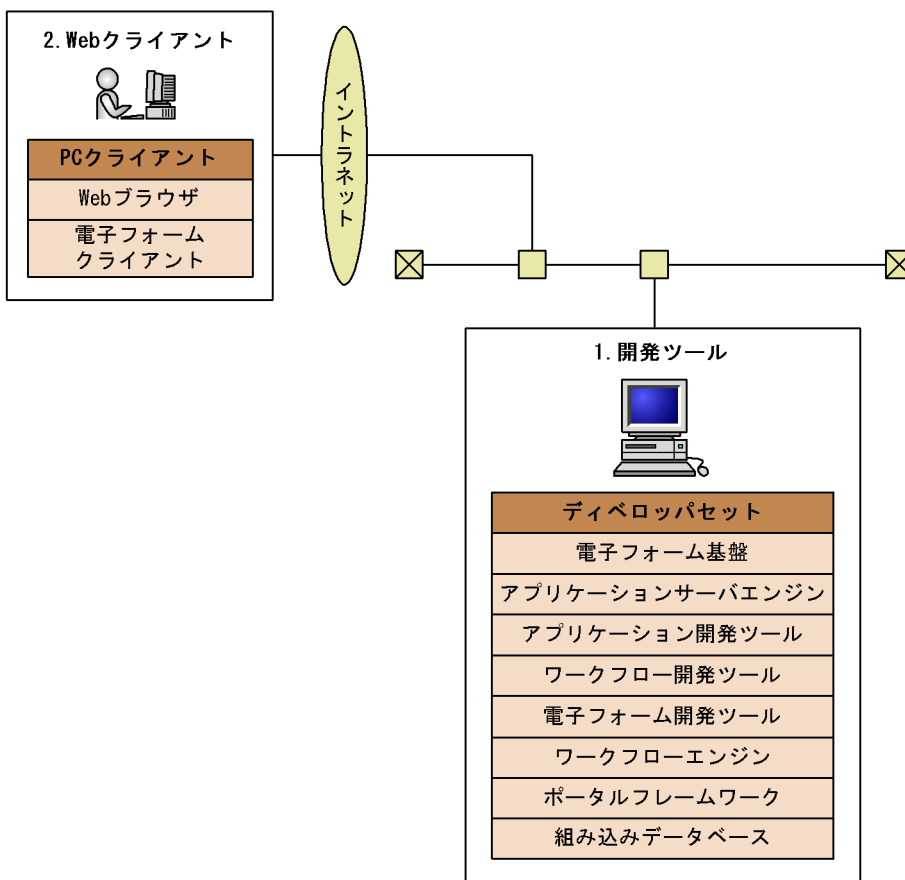
簡易セットアップツールを利用してシステムを構築する前に，必ずお読みください。

(1) システム構成

簡易セットアップツールを利用する場合には，アプリケーションサーバ，データベース，および開発ツールをすべて1台のマシンにインストールする必要があります。また，データベースは，組み込みデータベースを使用します。

簡易セットアップツールを利用して構築するシステムの構成を次に示します。

図 6-1 システム構成（簡易セットアップツール）



各マシンに必要なソフトウェアの分類を次に示します。

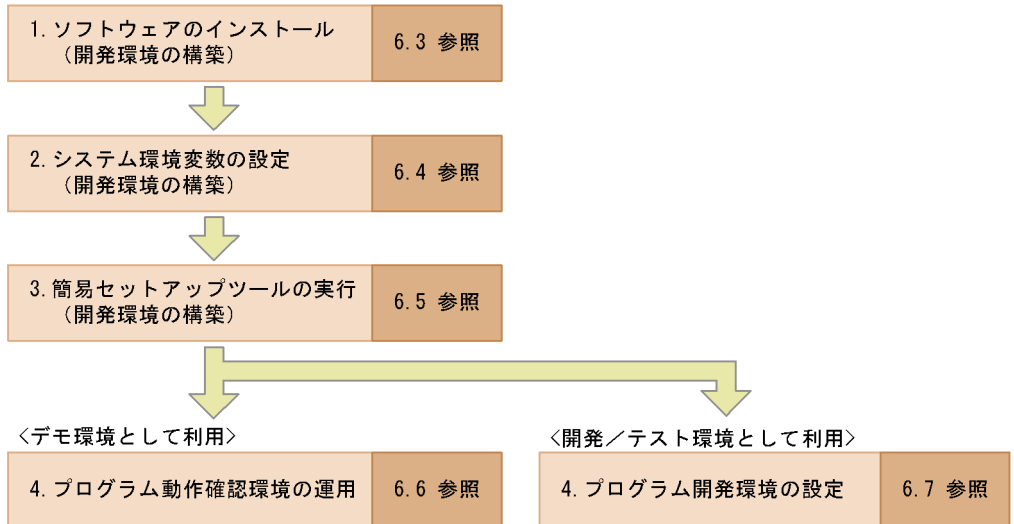
表 6-1 ソフトウェアの分類（簡易セットアップツール）

項番	マシンの役割	対応 OS	ソフトウェア	
			大分類	小分類
1	開発ツール	<ul style="list-style-type: none"> Windows XP Windows Vista 	ディベロッパセット	ディベロッパセットに含まれるソフトウェア (「1.2(1) 構成ソフトウェア」を参照してください。)
2	Web クライアント	<ul style="list-style-type: none"> Windows XP Windows Vista Windows 7 	PC クライアント	Web ブラウザ EUR Form Client

(2) システム構築の流れ

簡易セットアップツールを利用したシステム構築の流れを次に示します。

図 6-2 システム構築の流れ（簡易セットアップツール）



(3) 簡易セットアップツールの前提条件（システム構築時）

簡易セットアップツールを利用して、システムを構築するときの前提条件を示します。

- 簡易セットアップツールの実行ユーザは、Administrator 権限または管理者特権を持っていること。
- 簡易セットアップツール実行対象のマシンのロケールは日本語環境（JA）であること。
- 前提製品のインストールディレクトリ、および各機能で使用または生成されるディレクトリのパスが次の条件を満たしていること。

6. 簡易セットアップツールを利用したシステム構築

ディレクトリのパスの中で使用できる文字列

半角英数字, スペース, 「_ (アンダーバー)」, 「- (ハイフン)」, 「. (ドット)」

ディレクトリのパスの条件

- ・「. (ドット)」から始まるディレクトリを含まないこと
- ・ネットワークドライブ以下のパスを使用しないこと
- ・RD エリアをドライブ直下に作成しないこと
- ・簡易セットアップツール実行対象のマシンは, Cosminexus などの前提ソフトウェアが使用されていない状態であること (前提ソフトウェアをインストールする前のマシンは, 簡易セットアップに関係する設定などが何もされていない状態であること)
- ・1 台のマシンでプログラム開発環境またはプログラム動作確認環境を実現する構成となること。
- ・簡易セットアップツールを利用して構築したシステムで使用するポート番号は, 別のプログラムで使用されていないこと。
- ・前提ソフトウェアのインストール時に生成されるファイルを削除しないこと。
- ・前提ソフトウェアは, 電子フォームワークフローのディベロッパセットからインストールすること。
- ・Eclipse による開発環境の構築は, 簡易セットアップ実行後に手動で実施すること。
- ・簡易セットアップツールによるシステム構築の過程で障害が発生した場合, 「6.9 簡易セットアップツール実行時に発生した障害の対策」に従って対処すること。

6.3 ソフトウェアのインストール（簡易セットアップツール）

簡易セットアップツールを実行する前に、システムの構築に必要なソフトウェアをインストールします。次に示すソフトウェアを上から順番にインストールしてください。

<プログラム動作確認環境とプログラム開発環境に共通に必要なソフトウェア>

- uCosminexus Developer Professional
- HiRDB SQL Executer ³
- uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow
- uCosminexus Portal Framework
- Hitachi Business Logic - Container 2
- uCosminexus EUR Form Service ¹
- uCosminexus EUR Form Client ²

注 1

EUR Form 連携帳票を利用しない場合でも、EUR Form Service は簡易セットアップツールの実行に必要なため、インストールしてください。

注 2

EUR Form Client は、EUR Form 連携帳票を表示するクライアントにインストールします。

注 3

uCosminexus Developer Professional に含まれ、uCosminexus Developer Professional のインストール後に、インストーラ（<Cosminexus のインストールディレクトリ>¥DB¥utility¥Executer）が生成されます。

なお、HiRDB SQL Executer のインストール方法については、「3.2.1(3) HiRDB SQL Executer のインストール」を参照してください。

<プログラム開発環境に必要なソフトウェア> ¹

- Eclipse Platform および MyEclipse for Cosminexus ²
- uCosminexus Interactive Workflow Development Plug-in
- Hitachi Business Logic - Container - Script Generator
- EUR Professional Edition

注 1

BLC 帳票や EUR Form 連携帳票の開発などをする場合にインストールしてください。

注 2

Eclipse Platform および MyEclipse for Cosminexus をインストールしたあとに、ブ

6. 簡易セットアップツールを利用したシステム構築

プラグインの組み込みが必要になります。Eclipse Platform および MyEclipse for Cosminexus のインストール、およびプラグインの組み込みについては、マニュアル「Cosminexus アプリケーション開発ガイド」を参照してください。ただし、マニュアル「Cosminexus アプリケーション開発ガイド」にあるインスタントセットアップは使用しないでください。

6.4 システム環境変数の設定（簡易セットアップツール）

簡易セットアップツールを実行する前に、次に示すシステム環境変数を設定します。システム環境変数が異なる値で設定されている場合は、次に示す設定値に変更してください。

JAVA_HOME

<Cosminexus のインストールディレクトリ >%jdk

（例）

C:\Program Files\HITACHI\Cosminexus\jdk

CSCIW_HOME

<CSCIW のインストールディレクトリ >

（例）

C:\Program Files\HITACHI\CSCIW

TZ

JST-9

（例）

JST-9

Path

すでに設定されているパスの前に次に示すパスを追加します。

- <Cosminexus のインストールディレクトリ >%jdk\bin
- <Cosminexus のインストールディレクトリ >%CC%\admin\bin
- <Cosminexus のインストールディレクトリ >%DB%\CLIENT\UTL

（例）

C:\Program Files\HITACHI\Cosminexus\jdk\bin;C:\Program Files\HITACHI\Cosminexus\CC%\admin\bin;C:\Program Files\HITACHI\Cosminexus\DB%\CLIENT\UTL;<すでに設定されているパス>

また、次の表に示すシステム環境変数の設定値が正しいかどうか確認してください。

表 6-2 システム環境変数の確認（簡易セットアップツール使用時）

環境変数名	設定値（デフォルト値）	説明
COSMINEXUS_HOME	C:\Program Files\HITACHI\Cosminexus	Cosminexus のインストールディレクトリが設定されます。
BLC2_HOME	C:\Program Files\HITACHI\HBPM2	BLC2 のインストールディレクトリが設定されます。

6. 簡易セットアップツールを利用したシステム構築

環境変数名	設定値 (デフォルト値)	説明
PORTAL_INSTAL LDIR	C:\Program Files\HITACHI\CosmiPortal	Portal Framework のインストールディレクトリが設定されます。
COSMINEXUS_P ORTAL_CLASSPA TH	C:\Program Files\HITACHI\HNTRLib2\classes\h ntrlib2j.jar;C:\Program Files\HITACHI\CosmiPortal\lib\ecastor .jar;C:\Program Files\HITACHI\CosmiPortal\lib\ecs.jar ;C:\Program Files\HITACHI\CosmiPortal\lib\hitach iportal.jar;C:\Program Files\HITACHI\CosmiPortal\lib\veloci ty.jar;C:\Program Files\HITACHI\CosmiPortal\lib\villag e.jar;C:\Program Files\HITACHI\CosmiPortal\lib\jakart a-oro.jar;C:\Program Files\HITACHI\HNTRLib\classes\hntr libj.jar;	Portal Framework ツール起動用パスが設定されま す。

注

C:\Program Files\HITACHI\HNTRLib\classes\hntrlibj.jar は HNTRLib がインストールされている場合に追加されます。

注意事項

- システム環境変数の設定後は、マシンを再起動してください。また、システム環境変数の値を変更した場合も、マシンを再起動してください。
- システム環境変数 JAVA_HOME および CSCIW_HOME の値には、%PROGRAMFILES% などのシステム環境変数ではなく、直接値を指定してください。

6.5 簡易セットアップツールの実行とシステムの構築

簡易セットアップツールを実行してシステムを構築する手順について説明します。また、簡易セットアップツールを実行したときのシステムの設定内容についても説明します。

6.5.1 簡易セットアップツールの起動

簡易セットアップツールを起動するには、次のファイルをダブルクリックします。

```
<BLC2のインストールディレクトリ
>¥b1c¥setup¥b1c2easysetup¥bin¥b1c2easysetup.bat
```

注意事項

簡易セットアップツールを実行する前に、前提製品のインストールディレクトリのパスに使用している文字が正しいかどうかなどの前提条件を満たしていることを確認してください。前提条件を満たしていない場合、正しく環境設定ができないことがあります。

簡易セットアップツールを利用してシステムを構築する場合の前提条件については「6.2(3) 簡易セットアップツールの前提条件（システム構築時）」を、簡易セットアップツールを利用してシステムを削除する場合の前提条件については「6.8(1) 簡易セットアップツールの前提条件（システム削除時）」を参照してください。

Windows のファイアウォールの設定によっては、簡易セットアップツール実行中にセキュリティ警告画面が出力されますが、処理は正常に続行されます。

6.5.2 構築するシステムの情報の設定

簡易セットアップツールを利用してシステムを構築する場合、構築するシステムの情報を簡易セットアップツールの画面上で設定できます。

構築するシステムの情報の設定手順、および情報を設定する画面の構成について説明します。

(1) システムの構築手順（簡易セットアップツール）

簡易セットアップツールを利用して、システムを構築する手順を説明します。なお、簡易セットアップツールで構築したシステムは、簡易セットアップツールを利用して削除できます。削除方法については、「6.8 構築したシステムの削除」を参照してください。

構築手順

1. 簡易セットアップツールを起動します。
起動方法については、「6.5.1 簡易セットアップツールの起動」を参照してください。

6. 簡易セットアップツールを利用したシステム構築

2. 構築するシステムの情報を設定します。

[簡易セットアップ]画面および[簡易セットアップ・その他の設定]画面で設定します。

簡易セットアップツール起動時は、各設定項目にデフォルト値が設定されています。必要に応じて、設定値を変更してください。なお、IISなどのWebサーバが、デフォルトのポート番号(80(http))で起動している場合に簡易セットアップツールを実行すると、Hitachi Web Serverのポート番号と重複し、構築に失敗します。この場合は、次のどちらかの対処をしてください。

- IISなどのWebサーバを停止する。
- [簡易セットアップ・その他の設定]画面の[Web Server]タブにある[Webブラウザからのリクエスト受付ポート番号]の値を変更してから、簡易セットアップツールを実行する。

[簡易セットアップ]画面の設定項目については「(2) [簡易セットアップ]画面の構成」を、[簡易セットアップ・その他の設定]画面の設定項目については「(3) [簡易セットアップ・その他の設定]画面の構成」を参照してください。

3. [簡易セットアップ]画面の[セットアップ]ボタンをクリックします。

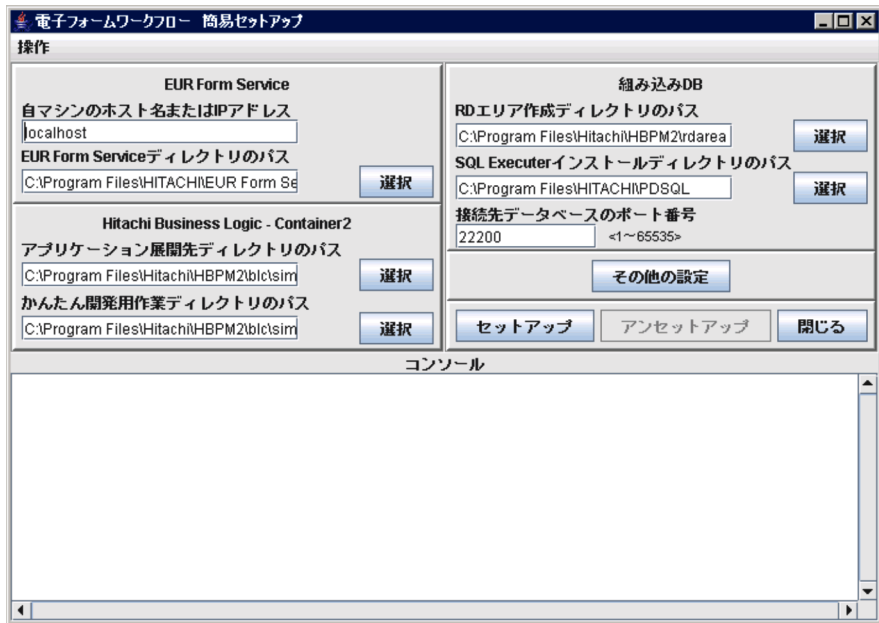
設定した情報でシステムが構築されます。[操作]メニューの[セットアップ]からもシステムの構築を実行できます。

なお、構築に失敗した場合は、「6.9 簡易セットアップツール実行時に発生した障害の対策」を参照して対処してください。

(2) [簡易セットアップ]画面の構成

構築するシステムの情報を設定する[簡易セットアップ]画面の構成を説明します。

[簡易セットアップ]画面を次に示します。



[簡易セットアップ] 画面の構成を説明します。

EUR Form Service

自マシンのホスト名または IP アドレス

簡易セットアップを実行する自マシンのホスト名または IP アドレスを直接入力で指定します。EUR Form 連携帳票の [送信ユニットのプロパティ] - [送信先 URL] で指定するホスト名または IP アドレスを指定してください。

注意事項

- 「localhost」を指定した場合、大文字と小文字は区別されません。
- 「localhost」を指定した場合、ほかのマシンから EUR 連携帳票にアクセスできません。ほかのマシンから EUR 連携帳票にアクセスしたい場合は、必ず自マシンのホスト名か IP アドレスに変更してください。
- 設定項目の詳細については、マニュアル「帳票作成機能 EUR EUR 帳票設計 (EUR Form 帳票)」の [送信ユニット] タブの送信先 URL について記載されている個所を参照してください。

EUR Form Service ディレクトリのパス

EUR Form Service のインストールディレクトリのパスを直接入力または [選択] ボタンで指定します。

EUR Form Service をデフォルトのディレクトリ以外にインストールした場合は、変更したディレクトリを指定してください。

注意事項

- 絶対パスで指定してください。
- ディレクトリの区切り文字に使用できる文字は、「 \ 」(バックスラッシュ)

6. 簡易セットアップツールを利用したシステム構築

だけです。

Hitachi Business Logic - Container2

アプリケーション展開先ディレクトリのパス

展開ディレクトリ形式でアプリケーションをデプロイする場合に使用する、展開先ディレクトリのパスを指定します。直接入力、または [選択] ボタンで指定してください。

注意事項

- ディレクトリの区切り文字に使用できる文字は、「 \ 」(バックスラッシュ)だけです。

かんたん開発用作業ディレクトリのパス

かんたん開発の作業時に使用するディレクトリのパスを指定します。直接入力、または [選択] ボタンで指定してください。

注意事項

- ディレクトリの区切り文字に使用できる文字は、「 \ 」(バックスラッシュ)だけです。

組み込み DB

RD エリア作成ディレクトリのパス

組み込みデータベースの RD エリアおよびシステムファイルを作成するディレクトリを直接入力または [選択] ボタンで指定します。

注意事項

- 作成するディレクトリの容量は、660MB 以上にしてください。
- BLC を 42 バイト以上のディレクトリ、または半角英数字以外のディレクトリにインストールした場合は、ディレクトリのパスを 48 バイト以内の半角英数字で指定してください。
- 絶対パスで指定してください。指定した絶対パスにディレクトリがない場合は、組み込みデータベースの構築時に、組み込みデータベース側でディレクトリを作成します。
- ディレクトリの区切り文字に使用できる文字は、「 \ 」(バックスラッシュ)だけです。
- 設定項目の詳細については、マニュアル「Cosminexus アプリケーション開発ガイド」の組み込みデータベース用の設定ファイルの設定項目(コマンド)の RDAREA_DIR (RD エリアを作成するディレクトリ)について記載されている箇所を参照してください。

SQL Executer インストールディレクトリのパス

HiRDB SQL Executer のインストールディレクトリを直接入力または [選択] ボタンで指定します。

HiRDB SQL Executer をデフォルトのディレクトリ以外にインストールした場合は、変更したディレクトリを指定してください。

注意事項

- 絶対パスで指定してください。
- ディレクトリの区切り文字に使用できる文字は、「 \ 」(バックスラッシュ)だけです。

接続先データベースのポート番号

使用するデータベースの接続ポート番号を 1 ~ 65535 の整数で指定します。

注意事項

- 組み込みデータベースで指定できる範囲は、5,001 ~ 65,535 です。
- 設定項目の詳細については、マニュアル「Cosminexus アプリケーション開発ガイド」の組み込みデータベース用の設定ファイルの設定項目(コマンド)の DB_PORT (ポート番号)について記載されている個所を参照してください。

[その他の設定] ボタン

クリックすると [簡易セットアップ - その他の設定] 画面が表示され、Management Server、Web サーバ、および J2EE サーバで使用するポート番号を設定できます。デフォルト値から変更したい場合は、このボタンをクリックして設定してください。

[簡易セットアップ - その他の設定] 画面の設定内容については、「(3) [簡易セットアップ - その他の設定] 画面の構成」を参照してください。

[セットアップ] ボタン

クリックすると、設定した内容でシステムが構築されます。なお、[簡易セットアップ] 画面の設定欄に空欄があると、エラーダイアログが表示されます。

[アンセットアップ] ボタン

クリックすると、システム削除の確認ダイアログが表示されます。確認ダイアログの [OK] ボタンをクリックすると、設定した内容のシステムが削除されます。なお、[簡易セットアップ] 画面の設定欄に空欄があると、エラーダイアログが表示されます。

[閉じる] ボタン

クリックすると、[簡易セットアップ] 画面が閉じます。変更した内容はすべて無効になり、次回起動時はデフォルト値が入力された状態になります。

(3) [簡易セットアップ - その他の設定] 画面の構成

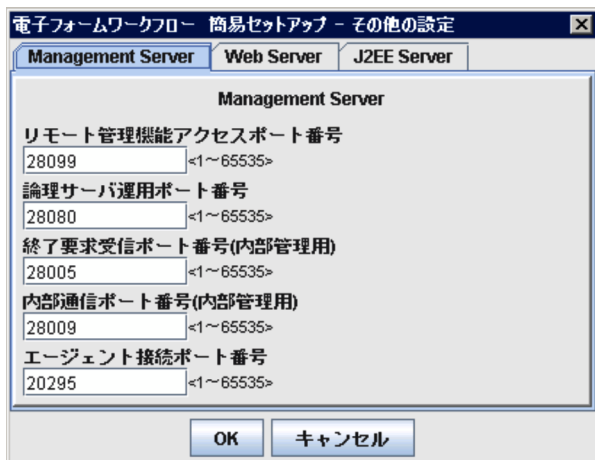
[簡易セットアップ - その他の設定] 画面は、[簡易セットアップ] 画面の [その他の設定] ボタンをクリックすると表示されます。必要に応じて設定値を変更し、[OK] ボタンをクリックしてください。なお、[簡易セットアップ - その他の設定] 画面の設定欄に空欄がある場合、[OK] ボタンをクリックするとエラーダイアログが表示されます。画面構成をタブごとに説明します。

[Management Server] タブの画面の構成

[Management Server] タブを選択した場合の [簡易セットアップ - その他の設定] 画面

6. 簡易セットアップツールを利用したシステム構築

を次に示します。



[Management Server] タブを選択した場合の [簡易セットアップ - その他の設定] 画面の構成を説明します。

リモート管理機能アクセスポート番号

リモート管理機能への外部接続ポート番号を 1 ~ 65535 の整数で指定します。
設定項目の詳細については、マニュアル「Cosminexus アプリケーション開発ガイド」の Management Server のリモート管理機能の設定の `com.cosminexus.mngsvr.management.port` について記載されている個所を参照してください。

論理サーバ運用ポート番号

Management Server への接続用 HTTP ポート番号を 1 ~ 65535 の整数で指定します。
設定項目の詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」の `mserver.properties` (Management Server 環境設定ファイル) の `webservice.connector.http.port` について記載されている個所を参照してください。

終了要求受信ポート番号 (内部管理用)

Management Server の終了要求受信時に使用するポート番号を 1 ~ 65535 の整数で指定します。
設定項目の詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」の `mserver.properties` (Management Server 環境設定ファイル) の `webservice.shutdown.port` について記載されている個所を参照してください。

内部通信ポート番号 (内部管理用)

Management Server の内部で通信用として使用するポート番号を 1 ~ 65535 の整数で指定します。
設定項目の詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」の

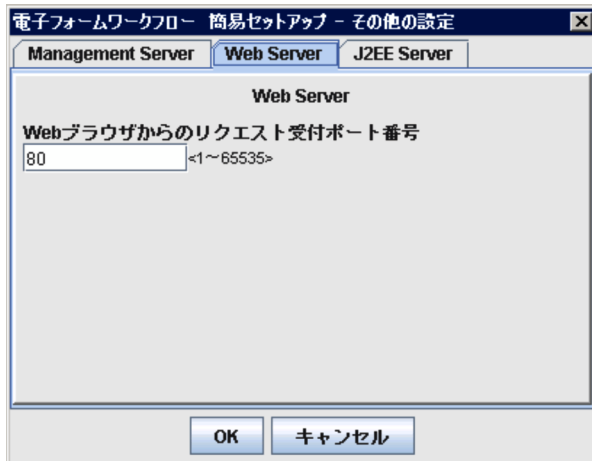
mserver.properties (Management Server 環境設定ファイル) の
webservice.connector.ajp13.port について記載されている個所を参照してください。

エージェント接続ポート番号

運用管理エージェントで使用するポート番号を 1 ~ 65535 の整数で指定します。
設定項目の詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」の
adminagent.properties (運用管理エージェントプロパティファイル) の
adminagent.adapter.port について記載されている個所を参照してください。

[Web Server] タブの画面の構成

[Web Server] タブを選択した場合の [簡易セットアップ - その他の設定] 画面を次に示します。



[Web Server] タブを選択した場合の [簡易セットアップ - その他の設定] 画面の構成を説明します。

Web ブラウザからのリクエスト受付ポート番号

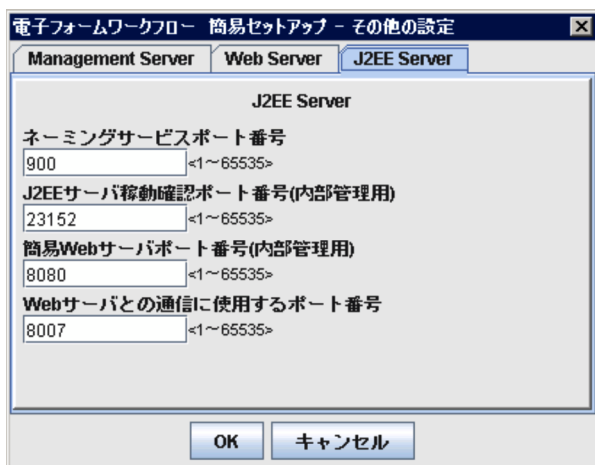
Web サーバからのリクエストを受け付けるポート番号を 1 ~ 65535 の整数で指定します。

設定項目の詳細については、マニュアル「Hitachi Web Server」の K, L で始まるディレクティブの Listen [IP アドレス :] ポート番号について記載されている個所を参照してください。

[J2EE Server] タブの画面の構成

[J2EE Server] タブを選択した場合の [簡易セットアップ - その他の設定] 画面を次に示します。

6. 簡易セットアップツールを利用したシステム構築



[J2EE Server] タブを選択した場合の [簡易セットアップ - その他の設定] 画面の構成を説明します。

ネーミングサービスポート番号

J2EE サーバがネーミングサービスとして利用する CORBA ネーミングサービスのポート番号を 1 ~ 65535 の整数で指定します。

設定項目の詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」の `usrconf.properties` (J2EE サーバ用ユーザプロパティファイル) の `ejbserver.naming.port` について記載されている個所を参照してください。

J2EE サーバ稼働確認ポート番号 (内部管理用)

J2EE サーバが利用する RMI レジストリのポート番号を 1 ~ 65535 の整数で指定します。

設定項目の詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」の `usrconf.properties` (J2EE サーバ用ユーザプロパティファイル) の `ejbserver.rmi.naming.port` について記載されている個所を参照してください。

簡易 Web サーバポート番号 (内部管理用)

簡易 Web サーバのポート番号を 1 ~ 65535 の整数で指定します。

設定項目の詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」の `usrconf.properties` (J2EE サーバ用ユーザプロパティファイル) の `ejbserver.http.port` について記載されている個所を参照してください。

Web サーバとの通信に使用するポート番号

Web サーバとの通信に使用するポート番号を 1 ~ 65535 の整数で指定します。

設定項目の詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」の `usrconf.properties` (J2EE サーバ用ユーザプロパティファイル) の `webserver.connector.ajp13.port` について記載されている個所を参照してください。

6.5.3 簡易セットアップツール実行後の設定

簡易セットアップツールを利用して環境を構築した場合、Cosminexus の環境管理ファイルに次の環境名が登録されます。

電子FWFの環境名: BLC2

簡易セットアップツールを利用してシステム構築したあとに設定される項目および設定値（デフォルト値）を次の表に示します。変更可否列が の設定項目は、簡易セットアップツールの [簡易セットアップ] 画面で設定した値で構築されています。

表 6-3 簡易セットアップツールを利用して構築したシステムの設定値

項番	分類	設定項目	設定内容	設定値 (デフォルト値)	変更可否
組み込みデータベース関連の設定					
1	ユーザ ID およびパスワード	ユーザ ID	テーブル所有者の認識別子	BLC	×
2		パスワード	テーブル所有者のパスワード	BLC	×
3	名称	ホスト名	組み込みデータベースのホスト名	localhost	×
4	ポート番号	接続先データベースのポート番号	組み込みデータベースで使用するポート番号 (組み込みデータベースの環境変数 PDNAMEPORT)	22200	
5	その他	RD エリアの作成ディレクトリパス	RD エリアを作成するディレクトリおよびシステムファイルを作成するディレクトリ (660MB 以上必要) ¹	<BLC2 のインストールディレクトリ>¥rdarea	
6		構築するデータベースの領域サイズ	構築するデータベースの領域サイズ (組み込みデータベースの環境変数 DB_SIZE)	L (660MB)	×
7		文字コード	構築する組み込みデータベースの文字コード	Shift-JIS	×
Management Server 関連の設定					
8	ユーザ ID およびパスワード	管理ユーザ ID	Management Server ヘログインするための管理ユーザ ID (mngsvrutil コマンドの <管理ユーザ ID> などで使用できます。)	admin	×
9		パスワード	Management Server ヘログインするためのパスワード (mngsvrutil コマンドの <管理パスワード> などで使用できます。)	admin	×

6. 簡易セットアップツールを利用したシステム構築

項番	分類	設定項目	設定内容	設定値 (デフォルト値)	変更可否
10	ポート番号	リモート管理機能アクセスのためのポート番号	Manager リモート管理機能への外部接続ポート番号 (mserver.properties ファイルの com.cosminexus.mngsvr.management.port キー) Server Plug-in で、Management Server のリモート管理機能にログインするときに必要になります。	28099	
11		論理サーバ運用ポート番号	Management Server への接続用 HTTP ポート番号 (mserver.properties ファイルの webserver.connector.http.port キー)	28080	
12		終了要求受信ポート番号 (内部管理用)	Management Server の終了要求受信時に使用するポート番号 (mserver.properties ファイルの webserver.shutdown.port)	28005	
13		内部通信ポート番号 (内部管理用)	Management Server の内部で通信用として使用するポート番号 (mserver.properties ファイルの webserver.connector.ajp13.port キー)	28009	
14	名称	ホスト名	Management Server のホスト名 (mngsvrutil コマンドの <ホスト名> などで使用できます。)	localhost	×
15		サーバ名	Management Server のサーバ名 (Web コンテナのサーバ名)	cosmi_m	×
16		Web システム名	Web システム (構築する J2EE サーバや Web サーバを含めたシステム) の名称	BLC2	×
17	サービス定義	Management Server の自動起動	マシン起動時に Management Server を自動起動する設定 (サービスの自動開始)	-	×
18	統合ユーザ管理フレームワーク	パスワードの暗号の形式	平文	-	×
運用管理エージェントの設定					
19	ポート番号	エージェント接続ポート番号	運用管理エージェントで使用するポート番号 (adminagent.properties ファイルの adminagent.adapter.port キー)	20295	
20	サービス定義	運用管理エージェントの自動起動	マシン起動時に運用管理エージェントを自動起動する設定 (サービスの自動開始)	-	×
Web サーバ関連の設定					

項番	分類	設定項目	設定内容	設定値 (デフォルト値)	変更可否
2 1	ポート番号	Web ブラウザからのリクエスト受付ポート番号	Web サーバがリクエストを受け付けるポート番号 (httpd.conf ファイルの Port ディレクティブおよび Listen ディレクティブ)	80	
2 2	名称	論理サーバ名	Web サーバ名称	Web_SERV	×
J2EE サーバ関連の設定					
2 3	ポート番号	ネーミングサービス受付ポート番号	J2EE サーバがネーミングサービスとして利用する CORBA ネーミングサービスのポート番号 (usrconf.properties ファイルの ejbserver.naming.port キー)	900	
2 4		J2EE サーバ稼働確認ポート番号 (内部管理用)	J2EE サーバが利用する RMI レジストリのポート番号 (usrconf.properties ファイルの ejbserver.rmi.naming.port キー)	23152	
2 5		簡易 Web サーバポート番号 (内部管理用) 2	簡易 Web サーバのポート番号 (usrconf.properties ファイルの ejbserver.http.port キー)	8080	
2 6		Web サーバとの通信に使用するポート番号	Web サーバとの通信に使用するポート番号 (usrconf.properties ファイルの webserver.connector.ajp13.port キー)	8007	

6. 簡易セットアップツールを利用したシステム構築

項番	分類	設定項目	設定内容	設定値 (デフォルト値)	変更可否
27	名称	論理サーバ名	J2EE サーバ名称 (cjstartsv コマンドの<サーバ名>などで使用できます。)	J2EE_SERV	×
28		CSCIWManagementServer 用 DB Connector 名 (CSCIWManagementServer 用リソースアダプタ名)	対象となる DB Connector の RAR ファイルの表示名 (cjdeployrar コマンドの<リソースアダプタ名>などで使用できます。)	DB_Connector_for_Manager	×
29		Web 帳票アプリケーション用 DB Connector 名 (Web 帳票アプリケーション用リソースアダプタ名)		DB_Connector_for_Executer	×
30		CSCIW のアプリケーション	CSCIW のアプリケーション名	CSCIWManagementServer	×
31			案件運用操作のアプリケーション名	CSCIWAdminServlet	×
32		サンプル帳票アプリケーション	BLC がサンプルで提供している Web 帳票アプリケーション名	BLC2Sample	×
33	コネクションプール	CSCIWManagementServer 用 DB Connector のコネクションプール数	DB Connector のコネクションプールでプールするコネクション数	最大値：1 最小値：1	×
34		Web 帳票アプリケーション用 DB Connector のコネクションプール数		最大値：5 最小値：5	×
PRF 関連の設定					
35	名称	論理サーバ名	PRF の論理サーバ名	PRF	×
CSCIW 関連の設定					
36	案件運用操作	ユーザ ID	案件運用操作へログインするためのユーザ ID	admin	×
37		パスワード	案件運用操作へログインするためのパスワード	admin	×
38	CSCIW	システム ID	CSCIW のシステム ID	BLC	×

項番	分類	設定項目	設定内容	設定値 (デフォルト値)	変更可否
Portal Framework 関連の設定					
39	リポジトリ	リポジトリの種類	アクセス制御やパーソナライズをするための設定情報格納先の種別	DB	×
40		接続先名称	接続先リポジトリの名称	BLC	×
41		構成名称	Portal Framework 用のリポジトリ構成情報の名称	PORTAL_USER	×
42			BLC 用のリポジトリ構成情報の名称	BLC_USER	×
EUR Form 関連の設定					
43	送信ユニット情報	EUR 連携帳票の送信先 URL のホスト名または IP アドレス	簡易セットアップを実行する自マシンのホスト名または IP アドレス (EUR Form 連携帳票の [送信ユニットのプロパティ] - [送信先 URL] で指定するホスト名または IP アドレス)	localhost	3
BLC					
44	名称	サンプル帳票アプリケーションの展開先ディレクトリ	展開ディレクトリ形式でアプリケーションをデプロイする場合に使用する展開先ディレクトリ ⁴	<BLC2 のインストールディレクトリ>¥ble¥simpleform¥deploy	
45		かんたん開発用作業ディレクトリ	かんたん開発機能で使用する作業ディレクトリ	<BLC2 のインストールディレクトリ>¥ble¥simpleform¥work	

(凡例)

- : 設定値を変更できることを表します。
- ×: 設定値を変更できないことを表します。
- : 該当する値がないことを表します。

注 1

簡易セットアップツールで構築した環境では、次の用途で LOB 列格納用 RD エリアを使用しています。

- ・RLOB1: Portal Framework のパーソナライズ情報の格納
- ・RLOB2: 添付ファイルの情報の格納

注 2

簡易 Web サーバは、管理用サーバとしてシステム内部だけで使用しているため、クライアントは意識する必要はありません。

注 3

6. 簡易セットアップツールを利用したシステム構築

設定値（デフォルト値）を変更することを推奨します。

注 4

簡易セットアップを実行すると、本ディレクトリの下に EAR のルートディレクトリ（<BLC2 のサンプル帳票アプリケーション名> ディレクトリ）が作成されます。

6.6 プログラム動作確認環境の運用

クライアントへの EUR Form Client の配布について説明します。また、プログラム動作確認環境でのプログラムの起動、停止方法、およびサンプルプログラムの実行手順について説明します。

(1) クライアントへの EUR Form Client のインストール

クライアントで EUR Form 連携帳票を表示させるには、各クライアントに EUR Form Client をインストールする必要があります。EUR Form Client の配布方法については「4.7 EUR Form Client のインストール」を参照してください。

(2) プログラムの起動と停止

簡易セットアップツールを実行して正常にシステム構築できた場合、プログラムは起動状態となっています。そのまま、「(3) サンプルプログラムの実行手順」に進んでください。

プログラムの起動、停止手順については、「付録 B プログラムとサービスの起動順序」を参照してください。

(3) サンプルプログラムの実行手順

簡易セットアップツールで構築した環境で、サンプルプログラム「販売契約稟議 EUR」およびサンプルプログラム「かんたん帳票のサンプル業務」を実行する手順について説明します。

操作手順

1. Web ブラウザを起動して次の URL にアクセスします。
`http://<ホスト名>:<Web ブラウザからのリクエスト受付ポート番号>/blc/`
 - <ホスト名>
簡易セットアップツールの [簡易セットアップ] 画面で設定した「自マシンのホスト名または IP アドレス」の値を入力してください。
 - <Web ブラウザからのリクエスト受付ポート番号>
簡易セットアップツールの [簡易セットアップ - その他の設定] 画面の [Web Server] タブで設定した「Web ブラウザからのリクエスト受付ポート番号」の値を入力してください。
2. 簡易セットアップで登録した任意のサンプルユーザでログインします。
 サンプルユーザについては、次のファイルを参照してください。
`<BLC2のインストールディレクトリ>`
`>¥tools¥sample¥sampleuser¥sql¥hirdb¥sample.txt`
 パスワードについては、「付録 A.1(2) 組織およびユーザのサンプルデータ」を参照してください。

6. 簡易セットアップツールを利用したシステム構築

ログイン後、次の機能を利用できます。

- 帳票の登録
- 宛先の登録
- 申請
- 案件の確認
- かんたん帳票のサンプル業務

利用手順については、「4.8 帳票の登録と確認」、および「4.8.2 かんたん帳票のサンプル業務の登録と確認」を参照してください。

(4) ポータル画面の設定変更

ユーザの環境や用途に合わせて、Portal Framework のポータル画面に表示するタブおよびポートレットのレイアウトを変更できます。ポータル画面の設定変更については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework ユーザーズガイド」を参照してください。

(5) システム構築前の状態に戻す方法

システム構築前の状態に戻す場合は、簡易セットアップツールのアンセットアップ機能を使用してください。アンセットアップ機能を実行して失敗した場合は、「6.9.4 障害からの回復方法（システム削除時）」を参照して環境を回復してください。

6.7 プログラム開発環境の設定

プログラム開発環境を利用するための設定、およびサンプルプログラムを利用して Web アプリケーションを開発する方法について説明します。

(1) プログラム開発環境の利用

プログラム開発環境を利用するには、Eclipse、MyEclipse、およびプラグインの環境設定が必要です。Eclipse、MyEclipse のインストールやプラグインの組み込み、設定については、マニュアル「Cosminexus アプリケーション開発ガイド」、およびマニュアル「Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド」を参照してください。ただし、マニュアル「Cosminexus アプリケーション開発ガイド」にあるインスタントセットアップは使用しないでください。

また、アプリケーションは展開ディレクトリ形式でデプロイします。MyEclipse を利用した展開ディレクトリ形式のデプロイ方法については、「5.6.4 Web アプリケーションの生成」を参照してください。

(2) Eclipse を利用した Web アプリケーションの開発

Eclipse を利用して Web アプリケーション開発する場合、Eclipse で Web プロジェクトを作成し、<Web ルート・フォルダー> 下に次に示すフォルダをコピーして、ルートディレクトリとして設定してください。

<BLC2 のインストールディレクトリ>¥blc¥setup¥blc2easyssetup¥work¥webSample

プログラム開発環境の構築については、「5.6 Web アプリケーションの作成」を参照してください。

(3) ポートレットの管理

ポータル画面上で登録および削除することで、ユーザごとに利用できるポートレットを指定できます。ポートレットの登録および削除の手順については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド」を参照してください。

6.8 構築したシステムの削除

簡易セットアップツールを利用して構築したシステムは、簡易セットアップツールを利用して削除できます。

簡易セットアップツールを利用してシステムを削除するときの前提条件、削除対象、初期化されるファイル、および削除手順について説明します。また、簡易セットアップツールのシステム構築に失敗した環境を削除した場合に出力される、警告メッセージへの対処方法についても説明します。

(1) 簡易セットアップツールの前提条件（システム削除時）

簡易セットアップツールを利用してシステムを削除するときの前提条件を示します。

- 簡易セットアップツールの実行ユーザは、Administrator 権限または管理者特権を持っていること。
- 簡易セットアップツール実行対象のマシンのロケールは日本語環境（JA）であること。
- 前提製品のインストールディレクトリ、および各機能で使用または生成されるディレクトリのパスが次の条件を満たしていること。

ディレクトリのパスの中で使用できる文字列

半角英数字、スペース、「_（アンダーバー）」、「-（ハイフン）」、「.（ドット）」

ディレクトリのパスの条件

- 「.（ドット）」から始まるディレクトリを含まないこと
- ネットワークドライブ以下のパスを使用しないこと
- RD エリアをドライブ直下に作成しないこと
- 削除対象となる環境は、バージョン 07-60 の簡易セットアップツールで構築した環境であること。
- 削除対象となる環境は、簡易セットアップツールで構築した状態から各種パラメタを変更していないこと。
- Management Server および運用管理エージェントが起動していること。なお、簡易セットアップツールで構築した環境の場合、どちらのサービスも自動起動設定になっています。
- 削除対象となる環境で利用しているデータベースのサービスが起動していること。
- 削除対象となるディレクトリやファイルなどを閉じた状態にしていること。

(2) 簡易セットアップツールの削除対象

簡易セットアップツールでは、簡易セットアップツールを利用して構築したシステムを削除できます。ただし、削除対象となるプログラムのログは削除されません。

削除対象については、「6.1(2) 簡易セットアップツールが提供する機能」を参照してください。

(3) 初期化されるファイル

簡易セットアップツールでアンセットアップを実行すると、次のファイルが初期化されます。簡易セットアップツール実行時に設定した値も初期化されますので、注意してください。

表 6-4 初期化されるファイルの一覧（簡易セットアップツールのアンセットアップ）

分類	ファイル名	説明
Cosminexus	<Cosminexus のインストールディレクトリ >%manager%config%msserver.xml	管理ユーザアカウント設定 ファイル
	<Cosminexus のインストールディレクトリ >%manager%config%adminagent.properties	運用管理エージェントプロパ ティファイル
	<Cosminexus のインストールディレクトリ >%manager%config%msserver.properties	Management Server 環境設 定ファイル
	<Cosminexus のインストールディレクトリ >%manager%config%mmmodel.xml	Management Server で管理 するデータソース情報ファ イル
Portal Framework	<Portal Framework のインストールディレク トリー >%conf%jetspeed-config.jcfc	ポータル定義ファイル
	<Portal Framework のインストールディレク トリー >%conf%Repository.xml	リポジトリ設定ファイル
	<Portal Framework のインストールディレク トリー >%conf%controllers.xml	レイアウト形式設定ファイル
	<Portal Framework のインストールディレク トリー >%psml%group%default%homeHTML.psml	拡張レイアウト設定ファイル

注

簡易セットアップツールのアンセットアップ実行時に、<BLC2 のインストールディレクトリ
>%blc%setup%blc2easysetup%log%backup フォルダ下にバックアップが作成されます。
そのほかのファイルについては、必要に応じて手動でバックアップを作成してください。

(4) システムの削除手順（簡易セットアップツール）

簡易セットアップツールを利用して、システムを削除する手順を説明します。

削除手順

1. 簡易セットアップツールを起動します。
起動方法については、「6.5.1 簡易セットアップツールの起動」を参照してください。
2. 削除するシステムの情報を設定します。
[簡易セットアップ]画面および[簡易セットアップ-その他の設定]画面で削除するシステムの情報を設定します。
[簡易セットアップ]画面の設定項目については「6.5.2(2) [簡易セットアップ]画面の構成」を、[簡易セットアップ-その他の設定]画面の設定項目については

6. 簡易セットアップツールを利用したシステム構築

「6.5.2(3) [簡易セットアップ - その他の設定] 画面の構成」を参照してください。

3. [簡易セットアップ] 画面の [アンセットアップ] ボタンをクリック, または [操作] メニューから [アンセットアップ] を選択します。
4. [簡易セットアップ - 確認] ダイアログが表示されるので, [OK] ボタンをクリックします。

設定した情報のシステムが削除されます。

削除を実行しない場合は, [キャンセル] ボタンをクリックして, 処理をキャンセルしてください。 [キャンセル] ボタンをクリックすると, [簡易セットアップ] 画面に戻ります。

注意事項

かんたん開発機能を利用していない環境を削除した場合

簡易セットアップ機能で構築した環境でかんたん開発機能を利用していない場合, 簡易セットアップ機能で環境を削除時に「KDLC6130-W Hitachi Business Logic - Container2 の削除に失敗しました。」という警告メッセージが出力されます。この警告メッセージは, かんたん開発用作業ディレクトリ下にファイルがないために出力されるメッセージなので, 対処する必要はありません。

システムの構築に失敗した環境を削除した場合

簡易セットアップツールを利用してシステムを削除すると, 構築されたシステムの状態に関係なく, 削除対象となるすべての項目に対して削除処理が実行されます。不要な削除処理も実行されるため, 「KDLC6009-I 簡易セットアップツールのアンセットアップを終了します。」というメッセージが表示されても警告メッセージが出力されます。「(5) 警告メッセージの対処の判断方法」を参照して, 出力された警告メッセージが不要な処理によるものかどうか判断してください。

(5) 警告メッセージの対処の判断方法

システム構築時にエラーが発生していた環境を削除した場合は, 警告メッセージが出力されます。次の手順で, 出力された警告メッセージの対処が必要かどうか判断してください。

判断手順

1. 次に示す簡易セットアップメッセージログを参照します。

```
<BLC2 のインストールディレクトリ >¥blc¥setup¥blc2easyssetup¥log¥message[n]  
.log
```

注

[n] はファイルの面数を表します。

2. システム構築時に出力されたエラーメッセージを確認します。
3. 手順 2. で確認したエラーメッセージよりも前に出力されたメッセージのうち, 最後に出力されている表 6-5 のメッセージ (メッセージ ID(-I)) を確認します。

4. 次に示す表で、手順 3. で確認したメッセージ ID とシステム削除時に出力された警告メッセージ (メッセージ ID(W)) の交わる欄を参照します。

参照した欄が「 」の場合は、表 6-5 の下にある対処手順に従って対処してください。

表 6-5 システム削除時に出力された警告メッセージの対処の要否

メッセージ ID(I)	出力された警告メッセージ (メッセージ ID(W))										
	6121	6122	6123	6124	6125	6126	6127	6128	6129	6130	6131
データベースサーバの設定											
6027	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
6030	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
Management Server の設定											
6035	x	x	x	x		x	x	x	x	x	
6038	x	x		x		x	x	x	x	x	
6041	x						x	x	x	x	
6090	x						x	x	x	x	
6044							x	x	x	x	
6047							x	x	x	x	
6050							x	x	x	x	
CSCIW のセットアップ											
6055								x	x	x	
6058								x	x	x	
6061								x	x	x	
6064								x	x	x	
6067								x	x	x	
Portal Framework のセットアップ											
6095								x	x	x	

6. 簡易セットアップツールを利用したシステム構築

メッセージ ID(I)	出力された警告メッセージ (メッセージ ID(W))										
	6121	6122	6123	6124	6125	6126	6127	6128	6129	6130	6131
6098										×	
6601										×	
6604										×	
6607										×	
BLC のセットアップ											
6072										×	
6075										×	
6655										×	
6078											
6081											
6084											

(凡例) : 対処する必要がある。 × : 対処する必要はない。

対処が必要な場合は、次の手順で対処してください。

対処手順

- 次に示す簡易セットアップメッセージログを参照します。

<BLC2 のインストールディレクトリ>¥blc¥setup¥blc2easyssetup¥log¥message[n].log

注

[n] はファイルの面数を表します。

- 環境削除時に出力された簡易セットアップメッセージログを参照して、対処が必要な警告メッセージに関する警告メッセージをすべて確認します。
- 環境削除時に出力された簡易セットアップメッセージログを参照して、手順 2. で確認したメッセージの中で最初に出力されている警告メッセージを確認します。
- 手順 3. で確認したメッセージに対応する手順で、障害から回復します。
回復手順については、「6.9.4 障害からの回復方法 (システム削除時)」を参照してください。

ださい。

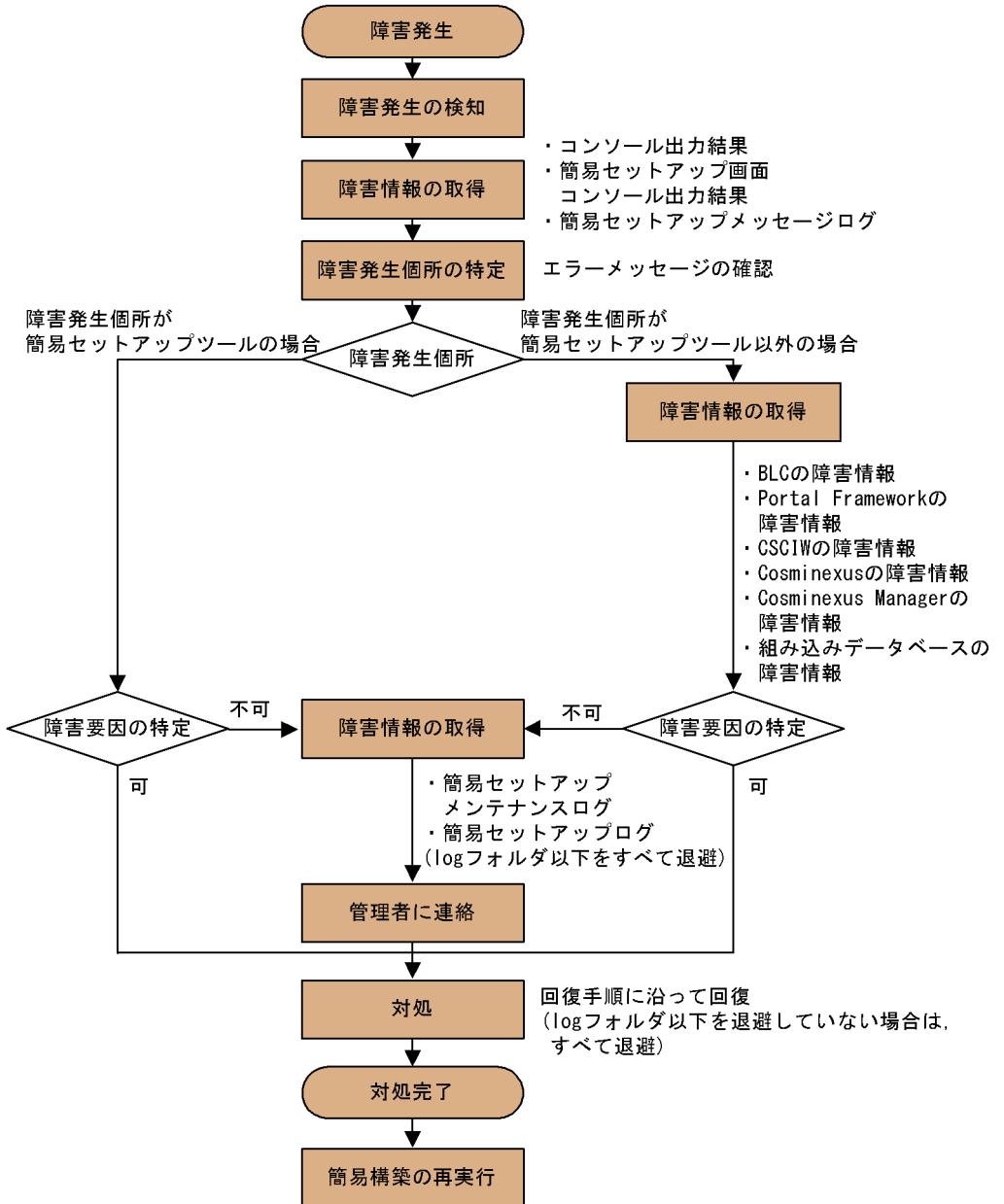
6.9 簡易セットアップツール実行時に発生した障害の対策

簡易セットアップツールの実行中に障害が発生したときの対処方法について説明します。

6.9.1 障害対策の流れ

簡易セットアップツールの実行中に障害が発生したときの対処の流れを示します。

図 6-3 障害発生時の対処の流れ（簡易セットアップ）



< 図の説明 >

障害発生を検知

簡易セットアップツールでシステム構築を実行したときに障害が発生すると、コンソール（標準エラー出力）または [簡易セットアップ] 画面のコンソールに、エラーメッセージが表示されます。

簡易セットアップツールでシステム削除を実行したときに障害が発生すると、コン

6. 簡易セットアップツールを利用したシステム構築

ソール（標準エラー出力）または [簡易セットアップ] 画面のコンソールに警告メッセージとエラーメッセージが表示されます。

障害情報の取得

[簡易セットアップ] 画面のコンソールに出力されるメッセージと同様のメッセージが、簡易セットアップメッセージログに出力されます。簡易セットアップメッセージログに日付や時間などの情報が出力されるため、この情報を基に障害の原因を調査できます。

障害発生個所の特定

コンソール（標準エラー出力）、[簡易セットアップ] 画面のコンソール、または簡易セットアップメッセージログに出力されるメッセージを確認し、どの手順でエラーが発生しているかを確認します。

障害発生個所が簡易セットアップツールの場合か、簡易セットアップツール以外の場合かを判断するには、簡易セットアップメッセージログを基に現在どの処理を実行しているかを参照し、出力されたエラー情報から判断する必要があります。

障害発生個所が簡易セットアップツールの場合、その障害要因を調査します。障害発生個所が簡易セットアップツール以外の場合、関連するプログラムの障害情報を取得し、障害要因を調査します。

障害要因の特定

障害要因が特定できない場合、簡易セットアップメンテナンスログ、および簡易セットアップログを取得し、管理者に連絡します。

注意事項

簡易セットアップを再実行すると、log フォルダ以下の一部の実行結果が初期化されます。簡易セットアップツールを再実行する前に、log フォルダ以下のファイルおよびフォルダをすべて退避してください。

対処

障害要因を取り除き、「6.9.3 障害からの回復方法（システム構築時）」または「6.9.4 障害からの回復方法（システム削除時）」に記載された内容に従って回復します。

簡易セットアップの再実行

回復作業が完了したら、簡易セットアップツールを再実行します。

6.9.2 障害要因の特定に必要な情報

簡易セットアップ中に障害が発生した場合、障害の原因を特定するために、次の情報が必要になります。なお、管理者に連絡する場合は、次の情報を取得してから連絡してください。

簡易セットアップログすべて

<BLC2 のインストールディレクトリ >¥blc¥setup¥blc2easyssetup¥log フォルダ以下のすべてのファイルを取得します。

- 簡易セットアップメッセージログ (message[n] .log)
- 簡易セットアップメンテナンスログ (maintenance[n] .log)
- 簡易セットアップログ (log¥setup フォルダ以下のすべてのファイル)

BLC の障害情報

障害の原因を特定するために次の情報が必要です。

- BLC トレースファイル
- BLC プロパティファイル

BLC トレースファイルは、BLC プロパティファイルに指定したディレクトリに出力されます。

BLC の障害情報を取得する方法については、マニュアル「Hitachi Business Logic - Container 2」を参照してください。

Portal Framework の障害情報

Portal Framework の障害情報を取得する方法については、マニュアル「uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド」を参照してください。

CSCIW の障害情報

CSCIW の障害情報を取得する方法については、マニュアル「uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow システム構築・運用ガイド」を参照してください。

Cosminexus の障害情報

障害の原因を特定するために次の情報が必要です。

- snapshot ログ
- J2EE サーバログ
 - <J2EE サーバログの出力先 >¥cjmessage[n] .log
 - <J2EE サーバログの出力先 >¥cjexception[n] .log
- コマンドのログ
 - <Cosminexus のインストールディレクトリ >¥CC¥admin¥logs

Cosminexus の障害情報を取得する方法については、マニュアル「Cosminexus システム運用ガイド」を参照してください。

Cosminexus Manager の障害情報

Cosminexus Manager のログを取得します。Cosminexus Manager のログの取得先を次に示します。

<Cosminexus のインストールディレクトリ >¥manager¥log

Cosminexus Manager のログを取得する方法については、マニュアル「Cosminexus システム運用ガイド」を参照してください。

組み込みデータベースの障害情報

組み込みデータベースのログを取得します。組み込みデータベースのログの取得先を次に示します。

<Cosminexus のインストールディレクトリ >¥DB¥SPool

6. 簡易セットアップツールを利用したシステム構築

注

[n] はファイルの面数を表します。

6.9.3 障害からの回復方法（システム構築時）

簡易セットアップツールでシステム構築を実行中に障害が発生し、システム構築に失敗した場合、簡易セットアップツールを再実行できるようにするために、簡易セットアップツールを実行する前の状態に戻す必要があります。

簡易セットアップツールを実行する前の状態に戻すには、簡易セットアップツールのアンセットアップ機能を使用してください。アンセットアップ機能を実行して失敗した場合は、「6.9.4 障害からの回復方法（システム削除時）」を参照して環境を回復してください。

ここでは、アンセットアップ機能を使用しないで、簡易セットアップツールを実行する前の状態に戻す方法について説明します。

（1）簡易セットアップメッセージログの確認

最初に、次の手順で簡易セットアップメッセージログを確認します。

確認手順

1. 次に示す簡易セットアップメッセージログを参照します。

```
<BLC2のインストールディレクトリ>%blc%¥setup¥blc2easyssetup¥log¥message[n]  
.log
```

注

[n] はファイルの面数を表します。

2. エラーメッセージが出力された個所を探します。
3. エラーメッセージが出力された時点よりも前のメッセージを順番にさかのぼり、次に示す 5 種類のメッセージのうち、最初に出現するものを確認します。
最初に出現したメッセージの回復方法に従い、対処してください。各メッセージに対応する回復方法を次の表に示します。

表 6-6 簡易セットアップメッセージログで確認するメッセージ（システム構築に失敗した場合）

メッセージ ID	内容	回復方法
KDLC6068-I	Hitachi Business Logic - Container 2 に関する構築を開始します。	「(2) 障害回復手順（システム構築時）」の手順 5. 手順 4. 手順 3. 手順 2. 手順 6. ~ 手順 12. の順番に実行してください。

メッセージ ID	内容	回復方法
KDLC6091-I	uCosminexus Portal Framework に関する構築を開始します。	「(2) 障害回復手順 (システム構築時)」の手順 5. 手順 4. 手順 3. 手順 6. ~手順 12. の順番に実行してください。
KDLC6051-I	uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow に関する構築を開始します。	「(2) 障害回復手順 (システム構築時)」の手順 5. 手順 4. 手順 6. ~手順 12. の順に実行してください。
KDLC6031-I	Cosminexus Manager に関する構築を開始します。	「(2) 障害回復手順 (システム構築時)」の手順 5. ~手順 12. を実行してください。
KDLC6023-I	DB に関する構築を開始します。	「(2) 障害回復手順 (システム構築時)」の手順 8. 手順 1. を実行してください。

メッセージを探す範囲は、簡易セットアップツールを利用してシステムを構築したときのログの範囲になります。以前に簡易セットアップツールを利用してシステムを構築したことがあり、そのときのログ情報が残っていても、それらは対象外です。

なお、該当するメッセージ ID が見つからなかった場合、「(2) 障害回復手順 (システム構築時)」を実行する必要はありません。

(2) 障害回復手順 (システム構築時)

簡易セットアップメッセージログで確認した内容を基に、簡易セットアップツールを実行する前の状態に戻します。

回復手順

1. <Cosminexus のインストールディレクトリ>¥CC¥spool¥cscsfwlist.txt ファイルをエディタで開き、文字列「BLC2」を削除します。
ファイル内に「BLC2」がない、またはファイル自体がない場合、処理は不要です。
2. 次のディレクトリを削除します。
削除するディレクトリをデフォルトのディレクトリパスで示します。なお、すでに削除されている場合は、この手順は不要です。
 - BLC のサンプルアプリケーション展開先ディレクトリ
<BLC2 のインストールディレクトリ>¥blc¥simpleform¥deploy¥BLC2Sample
 - かんたん開発用作業ディレクトリ下のディレクトリ
<BLC2 のインストールディレクトリ>¥blc¥simpleform¥work¥form
<BLC2 のインストールディレクトリ>¥blc¥simpleform¥work¥WEB-INF
3. 次に示すファイルを <Portal Framework のインストールディレクトリ>¥samples¥projects¥conf ディレクトリ下に上書きコピーします。
 - コピー元ファイル

6. 簡易セットアップツールを利用したシステム構築

<Portal Framework のインストールディレクトリ>%conf%jetspeed-config.jcfg

注

<Portal Framework のインストールディレクトリ>%admin%conf ディレクトリは、ディレクトリごと削除してください。

4. コマンドプロンプトで「<CSCIW のインストールディレクトリ>%bin」に移動し、次のコマンドを実行します。

```
>ciwsetenv -sid BLC -del
```

5. コマンドプロンプトで「<Cosminexus のインストールディレクトリ>%manager%bin」に移動し、次のコマンドを実行します。

```
>cmx_stop_target -m localhost -u admin -p admin -verbose -mode ALL -s BLC2
```

[簡易セットアップ - その他の設定] 画面の [Management Server] タブにある [論理サーバ運用ポート番号] の値をデフォルト値から変更している場合は、-m オプションには「localhost: 指定したポート番号」という形式で指定してください。

6. コマンドプロンプトで「<Cosminexus のインストールディレクトリ>%manager%bin」に移動し、次のコマンドを実行します。

```
>mngsvrctl stop
```

7. コマンドプロンプトで「<Cosminexus のインストールディレクトリ>%manager%bin」に移動し、次のコマンドを実行します。

```
>adminagentctl stop
```

8. コマンドプロンプトで「<BLC2 のインストールディレクトリ>%blc%setup%blc2easysetup%DB%bats」に移動し、次のコマンドを実行します。

```
>cddbdelete
```

9. Cosminexus をアンインストールします。

10. マシンを再起動します。

11. Cosminexus のインストールディレクトリをディレクトリごとすべて削除します。
必要に応じて、削除対象のファイルなどは退避してください。

12. Cosminexus を再インストールします。

これで障害回復は完了です。

なお、回復のために実行したコマンドが失敗した場合、コマンドで正しく指定しているかを確認し、誤りがなければ次の手順に進んでください。

6.9.4 障害からの回復方法（システム削除時）

簡易セットアップツールを利用してシステムを削除しているときに障害が発生し、システム削除に失敗した場合、手動で環境を削除する必要があります。

ここでは、システム削除時の簡易セットアップメッセージログの内容を基に、手動で環境を削除する方法について説明します。

（１）簡易セットアップメッセージログの確認

最初に、次の手順で簡易セットアップメッセージログを確認します。

確認手順

- 次に示す簡易セットアップメッセージログを参照します。

```
<BLC2 のインストールディレクトリ>\%ble%\setup\%ble2easysetup\%log¥message[n]
.log
```

注

[n] はファイルの面数を表します。

- 最初に出力された警告メッセージを確認します。
最初に出現したメッセージの削除方法に従い、対処してください。各メッセージに対応する削除方法を次の表に示します。

表 6-7 簡易セットアップメッセージログで確認するメッセージ（システム削除に失敗した場合）

メッセージ ID	内容	削除方法
KDLC6121-W	論理サーバの停止に失敗しました。	「(2) 障害回復手順（システム削除時）」の手順 1. ~ 手順 2. を実行したあと、「6.9.3(2) 障害回復手順（システム構築時）」の手順 5. 手順 4. 手順 3. 手順 2. 手順 6. ~ 手順 12. を実行してください。
KDLC6122-W	論理サーバの削除に失敗しました。	「6.9.3(2) 障害回復手順（システム構築時）」の手順 4. 手順 3. 手順 2. 手順 6. ~ 手順 12. を実行してください。
KDLC6123-W	Cosminexus Manager の停止に失敗しました。	
KDLC6124-W	Cosminexus Manager のバックアップに失敗しました。	「6.9.3(2) 障害回復手順（システム構築時）」の手順 4. 手順 3. 手順 2. 手順 8. ~ 手順 12. を実行してください。
KDLC6125-W	Cosminexus Manager の初期化に失敗しました。	
KDLC6126-W	Cosminexus Manager の削除に失敗しました。	
KDLC6127-W	CSCIWManagementServer の削除に失敗しました。	

6. 簡易セットアップツールを利用したシステム構築

メッセージ ID	内容	削除方法
KDLC6128-W	uCosminexus Portal Framework の初期化に失敗しました。	「6.9.3(2) 障害回復手順 (システム構築時)」の手順 8. 手順 3. 手順 2. 手順 1. を実行してください。
KDLC6129-W	uCosminexus Portal Framework の削除に失敗しました。	
KDLC6130-W	Hitachi Business Logic - Container 2 の削除に失敗しました。	「6.9.3(2) 障害回復手順 (システム構築時)」の手順 8. 手順 2. 手順 1. を実行してください。ただし、KDLC6131-W メッセージが出力されていない場合は、手順 8. は不要です。
KDLC6131-W	組み込み DB の削除に失敗しました。	「6.9.3(2) 障害回復手順 (システム構築時)」の手順 8. 手順 1. を実行してください。

メッセージを探す範囲は、簡易セットアップツールでシステム削除を実行したときのログの範囲になります。以前に簡易セットアップツールでシステム削除を実行したことがあり、そのときのログ情報が残っていても、それらは対象外です。

なお、簡易セットアップツールのシステム構築に失敗し、さらにシステム削除でも失敗した場合は、対処する必要のない警告メッセージも出力されます。「6.8(5) 警告メッセージの対処の判断方法」を参照して、警告メッセージの対処の必要性を判断してから、削除手順を実行してください。

(2) 障害回復手順 (システム削除時)

簡易セットアップメッセージログで確認した内容を基に、簡易セットアップツールを実行する前の状態に戻します。

回復手順

1. <BLC2 のインストールディレクトリ >%blc%setup%blc2easyssetup%log%backup ディレクトリにあるすべてのファイルを <Cosminexus のインストールディレクトリ >%manager%config に上書きコピーします。
2. コマンドプロンプトで「<Cosminexus のインストールディレクトリ >%manager%bin」に移動し、次のコマンドを実行します。

```
>adminagentctl start
>mngsvrctl start
```

以降の手順については、「6.9.3(2) 障害回復手順 (システム構築時)」を参照してください。

6.9.5 簡易セットアップメッセージログ

簡易セットアップツール実行時の進捗状況などを表す情報（インフォメーション）や、障害発生時の情報（エラー）が簡易セットアップメッセージログに出力されます。なお、ほかのプログラムのコマンドで出力されるメッセージについても、簡易セットアップツールのメッセージとして出力されます。

ここでは、簡易セットアップメッセージログの出力先、出力内容について説明します。

簡易セットアップメッセージログの出力先

```
<BLC2のインストールディレクトリ>%blc%¥setup¥blc2easysetup¥log¥message[n].log
```

注

[n] はファイルの面数を表します。

なお、簡易セットアップメッセージログの文字コードは、デフォルトエンコーディング（MS932）に従います。

簡易セットアップメッセージログの出力内容

簡易セットアップメッセージログは次の形式で出力されます。

番号	日付	時刻	AP名	pid	tid	メッセージID	メッセージテキスト	改行コード
----	----	----	-----	-----	-----	---------	-----------	-------

各出力項目の出力内容を次に示します。

表 6-8 簡易セットアップメッセージログの出力内容

出力項目	長さ（バイト）	出力内容
番号	4	簡易セットアップメッセージログの出力通番
日付	10	簡易セットアップメッセージログの取得日付（yyyy/mm/dd）
時刻	12	簡易セットアップメッセージログの取得時刻（hh:mm:ss.sss）
AP名	16	メッセージ出力元のアプリケーションの識別子（blc2easysetup）
pid	8	プロセスを識別するための ID
tid	8	スレッドを識別するための ID
メッセージ ID	10	メッセージ ID（KDLcnnnn-Z）
メッセージテキスト	0 ~ 4,095	簡易セットアップメッセージログの内容
改行コード	2	レコード終端記号

注

上限値を超えた場合は切り捨てられます。

6. 簡易セットアップツールを利用したシステム構築

参考

簡易セットアップツールを実行したときの情報の出力

簡易セットアップツール実行時の進行状況や、障害発生時の情報は、簡易セットアップツール実行時のコマンドプロンプト（標準出力 / 標準エラー出力）および [簡易セットアップ] 画面のコンソールにも表示されます。ただし、番号、日付、時刻、AP 名、pid、tid については、簡易セットアップツール実行時のコンソールに出力されません。

6.10 システム移行時の注意事項

ディベロッパセットをバージョン 07-50 からバージョン 07-60 に移行するときの注意事項について説明します。

なお、構築したシステムの移行手順については、移行情報に関するドキュメントを参照してください。

(1) 移行した環境で簡易セットアップツールを利用したい場合

移行した環境で簡易セットアップツールを利用したい場合は、次の手順でバージョン 07-60 をインストールし、環境設定をしてください。

移行手順

1. バージョン 07-50 で構築した環境を削除します。
2. バージョン 07-50 のディベロッパセットをアンインストールします。
3. バージョン 07-60 のディベロッパセットをインストールします。

(2) 簡易セットアップツールを利用してアンセットアップする場合

バージョン 07-50 で構築した環境は、バージョン 07-60 の簡易セットアップツールから削除できません。手動で削除してください。

付録

付録 A BLC のサンプルデータ

付録 B プログラムとサービスの起動順序

付録 C メモリ使用量の測定方法

付録 D システム構築時に使用する属性ファイル

付録 E フィルタリングによる HTTP レスポンスの圧縮

付録 F Portal Framework のリポジトリファイル

付録 G エラーコードの参照先

付録 H 簡易セットアップ時に出力されるメッセージ

付録 I このマニュアルの参考情報

付録 J 用語解説

付録 A BLC のサンプルデータ

BLC が提供するサンプルデータは、次のとおりです。

- ユーザのサンプルデータ
- かんたん帳票のサンプル業務
- BLC サンプル帳票

ここでは、BLC が提供するサンプルデータについて説明します。

付録 A.1 ユーザのサンプルデータ

BLC が提供するサンプルデータの格納先、サンプルデータの内容、およびサンプルデータの登録方法について説明します。

(1) サンプルデータの格納先

BLC が提供するサンプルデータの格納先を示します。ここでは、パスワードの形式がデフォルト（平文）の場合に使用するサンプルデータの格納先を示します。

HiRDB を利用する場合

```
<BLC2 のインストールディレクトリ  
>%tools%\sample%\sampleuser%\sql%\hirdb%\sample.txt
```

Oracle を利用する場合

```
<BLC2 のインストールディレクトリ  
>%tools%\sample%\sampleuser%\sql%\oracle%\sample.txt
```

SQL Server を利用する場合

```
<BLC2 のインストールディレクトリ  
>%tools%\sample%\sampleuser%\sql%\sqlserver%\sample.txt
```

パスワード形式を MD5 または SHA-1 に変更した場合に使用するサンプルデータの格納先については、次を参照してください。

- HiRDB を利用する場合：「3.4.6(2) MD5 または SHA-1 の場合」
- Oracle を利用する場合：「3.5.5(2) MD5 または SHA-1 の場合」
- SQL Server を利用する場合：「3.6.6(2) MD5 または SHA-1 の場合」

(2) 組織およびユーザのサンプルデータ

サンプルデータを使用した場合に登録される組織およびユーザについて示します。紙面の都合上、ここでは次に示す情報ごとに表で示します。

1. ユーザ ID、パスワード、および従業員番号
2. 役職、管理者権限、代行権限、およびログイン可否

ただし、会社名、部名、課名、およびユーザ名については、各表に記載しています。

表 A-1 BLC のサンプルデータ（組織およびユーザ）(1)

会社名	部名	課名	ユーザ名	ユーザID	パスワード	従業員番号				
A 株式会社 A-COM	-	-	社長 太郎	A00001	P_A00001	A00001				
			取締役 次郎	A00002	P_A00002	A00002				
	総務部 SOMU0000	-	-	総務 太郎	A01001	P_A01001	A01001			
				庶務課 SOM1SHOM	庶務 良子	A01101	P_A01101	A01101		
					庶務 和子	A01102	P_A01102	A01102		
					庶務 幸子	A01103	P_A01103	A01103		
				経理課 SOM2KEIR	経理 一郎	A01201	P_A01201	A01201		
					経理 二郎	A01202	P_A01202	A01202		
					経理 三郎	A01203	P_A01203	A01203		
				開発部 DEVLP000	-	-	日立 太郎	A02001	P_A02001	A02001
							開発 1 課 DEVLP100	日立 二郎	A02101	P_A02101
	日立 三郎	A02102	P_A02102					A02102		
	日立 四郎	A02103	P_A02103					A02103		
	開発 2 課 DEVLP200	開発 一郎	A02201				P_A02201	A02201		
		開発 二郎	A02202				P_A02202	A02202		
開発 三郎		A02203	P_A02203				A02203			
営業部 EIGYO000	-	-	営業 太郎	A03001	P_A03001	A03001				
			営業 1 課 EIGYO100	営業 二郎	A03101	P_A03101	A03101			

会社名	部名	課名	ユーザ名	ユーザ ID	パスワード	従業員番号
			営業三郎	A03102	P_A03102	A03102
			営業四郎	A03103	P_A03103	A03103
		営業 2 課 EIGYO200	営業花子	A03201	P_A03201	A03201
			営業一男	A03202	P_A03202	A03202
			営業次男	A03203	P_A03203	A03203
	情報システム部 JOHO0000	-	情報太郎	A07001	P_A07001	A07001
		システム課 SYSTEM00	情報花子	A07101	P_A07101	A07101
			情報幸子	A07103	P_A07103	A07103

(凡例)

- : 該当しません。

表 A-2 BLC のサンプルデータ (組織およびユーザ) (2)

会社名	部名	課名	ユーザ名	役職	管理者権限	代行権限	ログイン可否	
A 株式会社 A-COM	-	-	社長太郎	社長	一般	振替作業		
			取締役次郎	取締役	一般	振替作業		
	総務部 SOMU0000	-	総務太郎	部長	一般	振替作業		
			庶務課 SOM1SHOM	庶務良子	課長	一般	代行者	
				庶務和子	主任	一般	利用者	
		庶務幸子		社員	一般	利用者		
		経理課 SOM2KEIR	経理一郎	課長	一般	代行者		
			経理二郎	主任	一般	利用者		

会社名	部名	課名	ユーザ名	役職	管理者権限	代行権限	ログイン可否	
			経理 三郎	社員	一般	利用者		
	開発部 DEVLP000	-	日立 太郎	部長	一般	振替作業		
		開発1課 DEVLP100	日立 二郎	課長	一般	代行者		
			日立 三郎	主任	一般	利用者		
			日立 四郎	社員	一般	利用者		
		開発2課 DEVLP200	開発 一郎	課長	一般	代行者		
			開発 二郎	主任	一般	利用者		
			開発 三郎	社員	一般	利用者		
		営業部 EIGYO000	-	営業 太郎	部長	一般	振替作業	
			営業1課 EIGYO100	営業 二郎	課長	一般	代行者	
	営業 三郎			主任	一般	利用者		
	営業 四郎			社員	一般	利用者		
	営業2課 EIGYO200		営業 花子	課長	一般	代行者		
			営業 一男	主任	一般	利用者		
			営業 次男	社員	一般	利用者	×	
	情報システム部 JOHO0000		-	情報 太郎	部長	システム 管理者	振替作業	
			システム課 SYSTEM00	情報 花子	課長	システム 管理者	代行者	
		情報 幸子		社員	システム 管理者	代行者		

(凡例)

- ：ログインできます。 ×：ログインできません。
- ：該当しません。

(3) 役職のサンプルデータ

サンプルデータを使用した場合に登録される役職を次に示します。

表 A-3 BLC のサンプルデータ (役職)

役職コード	役職名	役職略称
00000100	代表取締役社長	社長
00000400	取締役	取締役
00002000	事業部長	事業部長
00002100	副事業部長	副事業部長
00003000	部長	部長
00003100	副部長	副部長
00003200	部長代理	部長代理
00004000	課長	課長
00004100	課長代理	課長代理
00005000	係長	係長
00005100	主任	主任
00010000	社員	社員

(4) 帳票管理グループのサンプルデータ

サンプルデータを使用した場合に登録される帳票管理グループを次に示します。

表 A-4 BLC のサンプルデータ (帳票管理グループ)

グループ名	組織	役職
総務関連帳票	総務部	主任以上
	庶務課	
	経理課	
情報システム関連帳票	情報システム部	全員
	システム課	

(5) 宛先のサンプルデータ

サンプルデータを使用した場合に登録される宛先を次に示します。

表 A-5 BLC のサンプルデータ (宛先)

ユーザ ID	宛先
A01103	A01102
	A01101
	A01001
A01102	A01102
	A01001
A01101	A01001
	A00002
	A00001
A01001	A00002
	A00001

(6) 代行設定のサンプルデータ

サンプルデータを使用した場合に登録される代行設定を次に示します。

表 A-6 BLC のサンプルデータ (代行設定)

ユーザ ID	代行者
A01001	A01101

(7) サンプルデータを登録する SQL 文の例

次に示す対象テーブルごとに、サンプルデータを登録する SQL 文の例を示します。

- BLC_ORG_T テーブル (組織の管理)
- BLC_JOB_TITLE_T テーブル (役職の管理)
- BLC_USER_INFO_T テーブル (ユーザ情報の管理)
- BLC_FORMCONTROL_GROUP_T テーブル (帳票管理グループの管理)
- BLC_TARGET_USER_T テーブル (宛先の管理)
- BLC_AGENT_INFO_T テーブル (代行者の管理)
- BLC_PORTAL_INFO_T テーブル (ポータルログイン認証用ユーザの管理)

なお、ここではパスワードの形式がデフォルト (平文) の場合の例を示します。

パスワード形式を MD5 または SHA-1 に変更した場合に使用するサンプルデータの格納先については、次を参照してください。

- HiRDB を利用する場合 : 「3.4.6(2) MD5 または SHA-1 の場合」
- Oracle を利用する場合 : 「3.5.5(2) MD5 または SHA-1 の場合」
- SQL Server を利用する場合 : 「3.6.6(2) MD5 または SHA-1 の場合」

(a) BLC_ORG_T テーブル

組織を登録するときのSQL文を示します。

```
insert into BLC_ORG_T(CDORG,NMORG,NMORGFULL,CDPARENTORG)
values('組織コード','組織略称','組織名','上位組織コード');
```

組織の登録例を示します。

(例1) 最上位組織(会社名)の登録

```
insert into BLC_ORG_T(CDORG,NMORG,NMORGFULL,CDPARENTORG)
values ('A-COM','A(株)','A株式会社','$root');
```

(例2) 部門の登録

```
insert into BLC_ORG_T(CDORG,NMORG,NMORGFULL,CDPARENTORG)
values ('SOMU0000','総務','総務部','A-COM');
```

(例3) 課の登録

```
insert into BLC_ORG_T(CDORG,NMORG,NMORGFULL,CDPARENTORG)
values ('SOM1SHOM','総務庶務','総務部庶務課','SOMU0000');
```

(b) BLC_JOB_TITLE_T テーブル

役職を登録するときのSQL文を示します。

```
insert into
BLC_JOB_TITLE_T(CDJOBTITLE,NUORDER,NMJOBTITLEFULL,NMJOBTITLE,NMNAMEK,NMNAMEE)
values ('役職コード','役職順序','役職名漢字','役職略称','役職名カナ','役職名英字');
```

役職の登録例を示します。

```
insert into
BLC_JOB_TITLE_T(CDJOBTITLE,NUORDER,NMJOBTITLEFULL,NMJOBTITLE,NMNAMEK,NMNAMEE)
values ('00000100',00000100,'代表取締役社長','社長','シャチョウ','President');
```

(c) BLC_USER_INFO_T テーブル

ユーザを登録するときのSQL文を示します。なお、ユーザを登録する場合は、BLC_PORTAL_INFO_T テーブルにポータルログイン認証用のユーザも登録してください。ポータルログイン認証用のユーザの登録については、「(g) BLC_PORTAL_INFO_T テーブル」を参照してください。

```
insert into BLC_USER_INFO_T
(CDUSER, CDLOGINPASSWORD, CDPERSONALNO, NMLASTNAMEJ, NMFIRSTNAMEJ, NMLASTNAMEK, NMFIRSTNAMEK, NMLASTNAMEE, NMFIRSTNAMEE, CDBELONGTO, CDJOBTITLE, NMMAILADDRESS, NMTELOUTSIDE, NMTELEXTENSION, NUADMINAUTHORITY, NUALTERNATEAUTHORITY, CFLOGINSTATUS, CFSHARESTATUS)
values ('ユーザID', 'パスワード', '従業員番号', '氏名漢字名字', '氏名漢字名前', '氏名カナ名字', '氏名カナ名前', '氏名英字名字', '氏名英字名前', '所属する組織コード', '役職コード', 'メール(e-Mail)', 'TEL外線', 'TEL内線', '管理者権限', '代行者権限', 'ログイン可否ステータス', '共有トレイステータス');
```

ユーザの登録例を示します。

```
insert into BLC_USER_INFO_T
(CDUSER, CDLOGINPASSWORD, CDPERSONALNO, NMLASTNAMEJ, NMFIRSTNAMEJ, NMLASTNAMEK, NMFIRSTNAMEK, NMLASTNAMEE, NMFIRSTNAMEE, CDBELONGTO, CDJOBTITLE, NMMAILADDRESS, NMTELOUTSIDE, NMTELEXTENSION, NUADMINAUTHORITY, NUALTERNATEAUTHORITY, CFLOGINSTATUS, CFSHARESTATUS)
values ('A00001', 'P_A00001', 'A00001', '社長', '太郎', 'シャチョウ', 'タロウ', 'syacho', 'taro', 'A-COM', '00000100', 'A00001@a-kaisyu.com', '0000-0000-0000', '777-0000', '0', '2', '0', '0');
```

(d) BLC_FORMCONTROL_GROUP_T テーブル

帳票管理グループを登録するときの SQL 文を示します。

```
insert into BLC_FORMCONTROL_GROUP_T
(CDGROUP, NMGROUPNAME, CDJOBTITLE, CDORG)
values ('グループコード', 'グループ名', '役職コード', '組織コード');
```

帳票管理グループの登録例を示します。

```
insert into BLC_FORMCONTROL_GROUP_T
(CDGROUP, NMGROUPNAME, CDJOBTITLE, CDORG)
values ('00000001', '帳票管理運用グループ', '00000010', 'JOHO0000');
```

注意事項

CDGROUP 列 (グループコード) の値は、BLC_UNIQUE_ID_T テーブル (ユニーク ID 管理テーブル) の NUCURRENTID 列 (採番番号) の値と重複しないように指定してください。

なお、BLC_UNIQUE_ID_T テーブルの NUCURRENTID 列の値は、初期値 0 で Web ブラウザから帳票管理グループを登録するたびに 1 ずつインクリメントされます。NUCURRENTID 列の値と CDGROUP 列の値が重複する可能性がある場合は、次の SQL 文を実行して、BLC_UNIQUE_ID_T テーブルも更新してください。

ここでは、CDGROUP 列に「10」を指定して登録した場合の例を示します。

```
update      BLC_UNIQUE_ID_T      set      NUCURRENTID=10      where
NMUNIQUEKEY='cmFormCtrlGroup';
```

なお、BLC_UNIQUE_ID_T テーブルの詳細は、マニュアル「Hitachi Business Logic - Container 2」を参照してください。

(e) BLC_TARGET_USER_T テーブル

宛先を登録するときの SQL 文を示します。

```
insert into BLC_TARGET_USER_T (CDUSER, CDTARGET) values ('ユーザID', '宛先ユーザID');
```

宛先の登録例を示します。

```
insert into BLC_TARGET_USER_T (CDUSER, CDTARGET) values ('A01103', 'A01102');
```

(f) BLC_AGENT_INFO_T テーブル

代行者を登録するときの SQL 文を示します。

```
insert into BLC_AGENT_INFO_T (CDUSER, CDSUBUSER) values ('ユーザIDまたは共有トレイID', '代行者のユーザID');
```

代行者の登録例を示します。

```
insert into BLC_AGENT_INFO_T (CDUSER, CDSUBUSER) values ('A01001', 'A01101');
```

(g) BLC_PORTAL_INFO_T テーブル

ポータルログイン認証用のユーザを登録するときの SQL 文を示します。

BLC_USER_INFO_T テーブルにユーザを登録した場合は、必ずこの作業を実施してください。

```
insert into BLC_PORTAL_INFO_T (CDUSER) VALUES ('ユーザID');
```

ポータルログイン認証用のユーザの登録例を示します。

```
insert into BLC_PORTAL_INFO_T (CDUSER) VALUES ('A00001');
```

付録 A.2 かんたん帳票のサンプル業務

初めてかんたん開発をするユーザのために、次に示すサンプル業務を提供しています。これらのサンプル業務を使用することで、かんたん帳票の機能を理解できます。

表 A-7 かんたん帳票のサンプル業務の一覧

業務名	内容
社内英検申し込み	メール連携機能を利用しているかんたん帳票のサンプル業務です。
連絡票	添付ファイルがあるかんたん帳票のサンプル業務です。

かんたん帳票の使用方法については、マニュアル「電子フォームワークフローセット 作ってみよう かんたん帳票」を参照してください。

付録 A.3 BLC サンプル帳票

BLC では、販売契約稟議 EUR 以外でサンプル帳票を提供しています。

ここでは、BLC サンプル帳票で利用する機能、および BLC サンプル帳票を利用する場合に必要な手順を示します。

表 A-8 BLC サンプル帳票と利用する機能

BLC サンプル帳票	利用する機能	マニュアル「Hitachi Business Logic - Container 2」の参照箇所
議事録	添付ファイル	<ul style="list-style-type: none"> 「提供する添付ファイル用サンプルデータ」 「添付ファイルの使用方法」
販売契約稟議 EUR	-	「提供する EUR Form 連携帳票用のサンプルデータ」
販売契約稟議 EUR2	引き戻し	<ul style="list-style-type: none"> 「引き戻し用 EUR Form 帳票のサンプルデータ」 「引き戻し機能」
販売契約稟議	-	「提供する BLC 帳票サンプルデータ」
DB 入出力のサンプル	DB アクセス検索	

(凡例)

- : 利用する機能がないことを表します。

表 A-9 BLC サンプル帳票を利用する場合に必要な手順

BLC サンプル帳票	手順				
	テーブルの作成	BLSG の生成	ビジネスプロセス定義の登録	JSP の追加	BLC 帳票の登録
議事録				×	
販売契約稟議 EUR	×			×	
販売契約稟議 EUR2					

BLC サンプル帳票	手順				
	テーブルの作成	BLSG の生成	ビジネスプロセス定義の登録	JSP の追加	BLC 帳票の登録
販売契約稟議	×			×	
DB 入出力のサンプル			×	×	

(凡例)

：手順が必要なことを表します。

×：手順が不要なことを表します。

注

手順の詳細は、マニュアル「Hitachi Business Logic - Container 2」を参照してください。

注

簡易セットアップツールで環境構築をした場合は不要です。

付録 B プログラムとサービスの起動順序

電子フォームワークフローシステムで利用するプログラムとサービスの起動順序について説明します。

(1) プログラムとサービスの起動順序

プログラムとサービスの起動・開始状態の確認順序と確認方法、およびプログラムとサービスの起動順序、および起動方法を示します。

(a) 起動・開始状態の確認順序

プログラムとサービスを起動する前に、プログラムとサービスの起動・開始状態を確認します。プログラムとサービスの起動・開始状態の確認順序、および確認方法を示します。

表 B-1 プログラムおよびサービスの起動・開始状態の確認順序

順番	確認対象	確認方法
1	データベースのサービス	[スタート] - [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、データベースのサービスが開始していることを確認します。
2	データベース	コマンドを使用して、データベースが開始していることを確認します。組み込みデータベースの場合は、次の手順で確認します。 1. [スタート] - [プログラム] - [Cosminexus] - [Application Development Plug-in] - [組み込み DB プロンプト] を選択して、コマンドプロンプトを開きます。 2. pdls コマンドを実行して、「STATUS」が「ACTIVE」になっていることを確認します。

順番	確認対象	確認方法
3	Management Server	<p>コマンド (Cosminexus のサーバ管理コマンド) ¹ を使用して、運用管理エージェントおよび Management Server が起動していることを確認します。</p> <p>< 運用管理エージェントの場合 ></p> <ol style="list-style-type: none"> adminagentcheck コマンドを実行します。 <p>(例)</p> <pre>"%COSMINEXUS_HOME%\¥manager¥bin¥adminagentcheck"</pre> <p>なお、 %COSMINEXUS_HOME%\¥manager¥config¥adminagent.properties ファイルの adminagent.adapter.port キーをデフォルト (20295) から変更した場合は、ポート番号を指定してください。</p> <p>(例)</p> <pre>"%COSMINEXUS_HOME%\¥manager¥bin¥adminagentcheck" localhost:20296</pre> <ol style="list-style-type: none"> echo コマンドを実行して、運用管理エージェントが起動されていることを確認します。 <p>(例)</p> <pre>echo %ERRORLEVEL%</pre> <p>注 コマンドの実行結果が「0」の場合、起動しています。</p> <p>< ManagementServer の場合 ></p> <ol style="list-style-type: none"> mngsvrutil コマンドを実行します。 <p>(例)</p> <pre>"%COSMINEXUS_HOME%\¥manager¥bin¥mngsvrutil" -m localhost -u admin -p admin check mngsvr</pre> <p>なお、%COSMINEXUS_HOME%\¥manager¥config¥mserver.properties ファイルの com.cosminexus.mngsvr.management.port キーをデフォルト (28099) から変更した場合は、-m オプションでポート番号を指定してくだ さい。</p> <p>(例)</p> <pre>"%COSMINEXUS_HOME%\¥manager¥bin¥mngsvrutil" -m localhost:28091 -u admin -p admin check mngsvr</pre> <ol style="list-style-type: none"> echo コマンドを実行して、ManagementServer が起動されていることを確認します。 <p>(例)</p> <pre>echo %ERRORLEVEL%</pre> <p>注 コマンドの実行結果が「0」の場合、起動しています。</p>

順番	確認対象	確認方法
4	論理サーバ	<p>コマンド (Smart Composer 機能) ² または Server Plug-in を使用して、論理サーバが起動していることを確認します。</p> <p>< コマンド (Smart Composer 機能) > cmx_list_status コマンドを実行します。</p> <p>(例) "%COSMINEXUS_HOME%\¥manager¥bin¥cmx_list_status" -m localhost -u admin -p admin -s BLC2</p> <p>なお、%COSMINEXUS_HOME%\¥manager¥config¥mserver.properties ファイルの webserver.connector.http.port キーをデフォルト (28080) から変更した場合は、-m オプションでポート番号を指定してください。</p> <p>(例) "%COSMINEXUS_HOME%\¥manager¥bin¥cmx_list_status" -m localhost:28081 -u admin -p admin -verbose -s BLC2</p> <p><Server Plug-in> マニュアル「Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド」の論理サーバの通常起動について記載されている個所を参照してください。</p>
5	リソースアダプタ <ul style="list-style-type: none"> • DB_Connector_for_Executer • DB_Connector_for_Manager 	<p>コマンド (Cosminexus のサーバ管理コマンド) ¹ または Server Plug-in を使用して、リソースアダプタが開始状態であることを確認します。</p> <p>< コマンド (Cosminexus のサーバ管理コマンド) > cjlistrar コマンドを実行します。</p> <p>(例) "%COSMINEXUS_HOME%\¥CC¥admin¥bin¥cjlistrar" J2EE_SERV</p> <p><Server Plug-in> マニュアル「Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド」の J2EE リソースアダプタの開始について記載されている個所を参照してください。</p>
6	アプリケーション <ul style="list-style-type: none"> • CSCIWManagementServer • CSCIWAdminServlet • Web 帳票アプリケーション • uastartup 	<p>コマンド (Cosminexus のサーバ管理コマンド) ¹ または Server Plug-in を使用して、各アプリケーションが開始状態であることを確認します。</p> <p>< コマンド (Cosminexus のサーバ管理コマンド) > cjlistapp コマンドを実行します。</p> <p>(例) "%COSMINEXUS_HOME%\¥CC¥admin¥bin¥cjlistapp" J2EE_SERV</p> <p><Server Plug-in> マニュアル「Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド」の J2EE アプリケーションの開始について記載されている個所を参照してください。</p>

注 1

Cosminexus のサーバ管理コマンドについては、マニュアル「Cosminexus リファレンス コマンド編」を参照してください。

注 2

Smart Composer 機能については、マニュアル「Cosminexus 簡易構築・運用ガイド」のコマンドについて記載されている個所を参照してください。

(b) 起動順序

プログラムとサービスの起動順序、および起動方法を示します。

表 B-2 プログラムおよびサービスの起動順序

順番	起動対象	起動方法
1	データベースのサービス	データベースのサービスを開始します。
2	データベース	<p>コマンドを使用してデータベースを開始します。 組み込みデータベースの場合は、自動起動が設定されていないため、次のコマンドを実行して起動してください。</p> <pre><Cosminexus のインストールディレクトリ >%\$SCC%\$DB%\$bats%\$cddbstart</pre> <p>なお、組み込みデータベースを開始する方法については、マニュアル「Cosminexus アプリケーション開発ガイド」を参照してください。</p>
3	Management Server	<p>次のコマンド（Cosminexus のサーバ管理コマンド）¹を実行して、Management Server および運用管理エージェントを開始します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. "%COSMINEXUS_HOME%¥manager¥bin¥adminagentctl" start 2. "%COSMINEXUS_HOME%¥manager¥bin¥mngsvrctl" start
4	論理サーバ	<p>コマンド（Smart Composer 機能）²または Server Plug-in を使用して、論理サーバを一括起動します。</p> <p>< コマンド（Smart Composer 機能） > cmx_start_target コマンドを実行します。</p> <p>(例) "%COSMINEXUS_HOME%¥manager¥bin¥cmx_start_target" -m localhost -u admin -p admin -verbose -mode ALL -s BLC2</p> <p>なお、%COSMINEXUS_HOME%¥manager¥config¥msserver.properties ファイルの webservice.connector.http.port キーをデフォルト（28080）から変更した場合は、-m オプションでポート番号を指定してください。</p> <p>(例) "%COSMINEXUS_HOME%¥manager¥bin¥cmx_start_target" -m localhost:28081 -u admin -p admin -mode ALL -s BLC2</p> <p><Server Plug-in> マニュアル「Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド」の論理サーバの通常起動について記載されている個所を参照してください。</p>

順番	起動対象	起動方法
5	リソースアダプタ <ul style="list-style-type: none"> • DB_Connector_for_Executer • DB_Connector_for_Manager 	<p>コマンド (Cosminexus のサーバ管理コマンド) ¹ または Server Plug-in を使用して、リソースアダプタを開始します。</p> <p>< コマンド (Cosminexus のサーバ管理コマンド) > cjstartrar コマンドを実行します。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> • "%COSMINEXUS_HOME%\¥CC¥admin¥bin¥cjstartrar" J2EE_SERV -resname DB_Connector_for_Executer ³ • "%COSMINEXUS_HOME%\¥CC¥admin¥bin¥cjstartrar" J2EE_SERV -resname DB_Connector_for_Manager ³ <p>%COSMINEXUS_HOME%\¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥J2EE_SERV¥usrconf.properties ファイルの ejbserver.naming.port キーをデフォルト (900) から変更した場合は、-nameserver オプションが必要になります。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> • "%COSMINEXUS_HOME%\¥CC¥admin¥bin¥cjstartrar" J2EE_SERV -nameserver corbaname::localhost:901 -resname DB_Connector_for_Executer • "%COSMINEXUS_HOME%\¥CC¥admin¥bin¥cjstartrar" J2EE_SERV -nameserver corbaname::localhost:901 -resname DB_Connector_for_Manager <p><Server Plug-in> マニュアル「Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド」の J2EE リソースアダプタの開始について記載されている個所を参照してください。</p>

順番	起動対象	起動方法
6	<p>アプリケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> • CSCIWManagementServer • CSCIWAdminServlet • Web 帳票アプリケーション • uastartup 	<p>コマンド (Cosminexus のサーバ管理コマンド) ¹ または Server Plug-in を使用して、アプリケーションを開始します。</p> <p><コマンド (Cosminexus のサーバ管理コマンド)> cjstartapp コマンドを実行します。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> • "%COSMINEXUS_HOME%\%CC%\admin\bin\cjstartapp" J2EE_SERV -name CSCIWManagementServer • "%COSMINEXUS_HOME%\%CC%\admin\bin\cjstartapp" J2EE_SERV -name CSCIWAdminServlet • "%COSMINEXUS_HOME%\%CC%\admin\bin\cjstartapp" J2EE_SERV -name BLC2Sample ⁴ • "%COSMINEXUS_HOME%\%CC%\admin\bin\cjstartapp" J2EE_SERV -name uastartup <p>なお、 %COSMINEXUS_HOME%\%CC%\server\usrconf\ejb\J2EE_SERV\usrconf.properties ファイルの ejbserver.naming.port キーをデフォルト (900) から変更した場合は、-nameserver オプションが必要になります。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> • "%COSMINEXUS_HOME%\%CC%\admin\bin\cjstartapp" J2EE_SERV -nameserver corbaname::localhost:901 -name CSCIWManagementServer • "%COSMINEXUS_HOME%\%CC%\admin\bin\cjstartapp" J2EE_SERV -nameserver corbaname::localhost:901 -name CSCIWAdminServlet • "%COSMINEXUS_HOME%\%CC%\admin\bin\cjstartapp" J2EE_SERV -nameserver corbaname::localhost:901 -name BLC2Sample ⁴ • "%COSMINEXUS_HOME%\%CC%\admin\bin\cjstartapp" J2EE_SERV -nameserver corbaname::localhost:901 -name uastartup <p><Server Plug-in> マニュアル「Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド」の J2EE アプリケーションの開始について記載されている箇所を参照してください。</p>

注 1
Cosminexus のサーバ管理コマンドについては、マニュアル「Cosminexus リファレンス コマンド編」を参照してください。

注 2
Smart Composer 機能については、マニュアル「Cosminexus 簡易構築・運用ガイド」のコマンドについて記載されている箇所を参照してください。

注 3
設定したリソースアダプタの名称が、リソースアダプタ名になります。

注 4
設定した Web 帳票アプリケーションの名称が、J2EE アプリケーション名になります。

(2) プログラムとサービスの停止順序

プログラムとサービスを停止する場合、起動したときの逆の順序で停止します。プログラムとサービスの停止順序、および停止方法を示します。

表 B-3 プログラムとサービスの停止順序

順番	停止対象	停止方法
1	アプリケーション <ul style="list-style-type: none"> • uastartup • Web 帳票アプリケーション • CSCIWAdminServlet • CSCIWManagementServer 	<p>コマンド (Cosminexus のサーバ管理コマンド) ¹ または Server Plug-in を使用して、アプリケーションを停止します。</p> <p>< コマンド (Cosminexus のサーバ管理コマンド) > cjstopapp コマンドを実行します。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> • "%COSMINEXUS_HOME%\¥CC¥admin¥bin¥cjstopapp" J2EE_SERV -name uastartup • "%COSMINEXUS_HOME%\¥CC¥admin¥bin¥cjstopapp" J2EE_SERV -name BLC2Sample ² • "%COSMINEXUS_HOME%\¥CC¥admin¥bin¥cjstopapp" J2EE_SERV -name CSCIWAdminServlet • "%COSMINEXUS_HOME%\¥CC¥admin¥bin¥cjstopapp" J2EE_SERV -name CSCIWManagementServer <p>なお、 %COSMINEXUS_HOME%\¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥J2EE_SERV¥usrconf.properties ファイルの ejbserver.naming.port キーをデフォルト (900) から変更した場合は、-nameserver オプションが必要になります。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> • "%COSMINEXUS_HOME%\¥CC¥admin¥bin¥cjstopapp" J2EE_SERV -nameserver corbaname::localhost:901 -name uastartup • "%COSMINEXUS_HOME%\¥CC¥admin¥bin¥cjstopapp" J2EE_SERV -nameserver corbaname::localhost:901 -name BLC2Sample ² • "%COSMINEXUS_HOME%\¥CC¥admin¥bin¥cjstopapp" J2EE_SERV -nameserver corbaname::localhost:901 -name CSCIWAdminServlet • "%COSMINEXUS_HOME%\¥CC¥admin¥bin¥cjstopapp" J2EE_SERV -nameserver corbaname::localhost:901 -name CSCIWManagementServer <p><Server Plug-in> マニュアル「Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド」の J2EE アプリケーションの停止について記載されている個所を参照してください。</p>

順番	停止対象	停止方法
2	リソースアダプタ • DB_Connector_for_Executer • DB_Connector_for_Manager	<p>コマンド (Cosminexus のサーバ管理コマンド) ¹ または Server Plug-in を使用して、リソースアダプタを停止します。</p> <p>< コマンド (Cosminexus のサーバ管理コマンド) > cjstoprar コマンドを実行します。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> • "%COSMINEXUS_HOME%\%CC%\admin\bin\cjstoprar" J2EE_SERV -resname DB_Connector_for_Executer ³ • "%COSMINEXUS_HOME%\%CC%\admin\bin\cjstoprar" J2EE_SERV -resname DB_Connector_for_Manager ³ <p>なお、%COSMINEXUS_HOME%\%CC%\server\usrconf\ejb\J2EE_SERV\usrconf.properties ファイルの ejbserver.naming.port キーをデフォルト (900) から変更した場合は、-nameserver オプションが必要になります。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> • "%COSMINEXUS_HOME%\%CC%\admin\bin\cjstoprar" J2EE_SERV -nameserver corbaname::localhost:901 -resname DB_Connector_for_Executer ³ • "%COSMINEXUS_HOME%\%CC%\admin\bin\cjstoprar" J2EE_SERV -nameserver corbaname::localhost:901 -resname DB_Connector_for_Manager ³ <p><Server Plug-in> マニュアル「Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド」の J2EE リソースアダプタの停止について記載されている個所を参照してください。</p>
3	論理サーバ	<p>コマンド (Smart Composer 機能) ⁴ または Server Plug-in を使用して、論理サーバを一括停止します。</p> <p>< コマンド (Smart Composer 機能) > cmx_start_target コマンドを実行します。</p> <p>(例)</p> <pre>"%COSMINEXUS_HOME%\%manager%\bin\cmx_stop_target" -m localhost -u admin -p admin -mode ALL -s BLC2</pre> <p>なお、%COSMINEXUS_HOME%\%manager%\config\msserver.properties ファイルの webserver.connector.http.port キーをデフォルト (28080) から変更した場合は、-m オプションでポート番号を指定してください。</p> <p>(例)</p> <pre>"%COSMINEXUS_HOME%\%manager%\bin\cmx_stop_target" -m localhost:28081 -u admin -p admin -verbose -mode ALL -s BLC2</pre> <p><Server Plug-in> マニュアル「Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド」の論理サーバの通常停止について記載されている個所を参照してください。</p>

順番	停止対象	停止方法
4	Management Server	次のコマンド (Cosminexus のサーバ管理コマンド) ¹ を実行して、Management Server および運用管理エージェントを停止します。 1. "%COSMINEXUS_HOME%\¥manager¥bin¥mngsvrctl" stop 2. "%COSMINEXUS_HOME%\¥manager¥bin¥adminagentctl" stop
5	データベース	コマンドを使用してデータベースを停止します。 組み込みデータベースの場合は、次のコマンドを実行して停止します。 <Cosminexus のインストールディレクトリ >¥SCC¥DB¥bats¥cddbstop なお、組み込みデータベースを停止する方法については、マニュアル「Cosminexus アプリケーション開発ガイド」を参照してください。

注 1

Cosminexus のサーバ管理コマンドについては、マニュアル「Cosminexus リファレンス コマンド編」を参照してください。

注 2

設定した Web 帳票アプリケーションの名称が、J2EE アプリケーション名になります。

注 3

設定したリソースアダプタの名称が、リソースアダプタ名になります。

注 4

Smart Composer 機能については、マニュアル「Cosminexus 簡易構築・運用ガイド」のコマンドについて記載されている個所を参照してください。

参考

システム全体を停止する場合、アプリケーションの停止およびリソースアダプタの停止 (順番 1 および順番 2) を省略し、論理サーバの停止 (順番 3) から実行できます。

なお、リソースアダプタを停止する場合は、アプリケーションが停止されていることが前提になります。

付録 C メモリ使用量の測定方法

ここでは、1 リクエストのメモリ使用量を測定する方法について説明します。

(1) EUR Form Service の設定

EUR Form Service の環境設定ファイルの EfdBufferSize キーで、帳票ファイルのサイズを設定してください。EfdBufferSize キーの設定については、マニュアル「電子フォームシステム EUR Form uCosminexus EUR Form システム設計・管理」を参照してください。

(2) サーバの環境設定

J2EE サーバおよび Hitachi Web Server を起動する前に、次の設定および確認をしてください。

Management Server への設定追加

Management Server の [J2EE サーバの基本設定] 画面の [コンテナ] タブを選択し、J2EE の拡張パラメタに次の値を追加します。

```
add.jvm.arg=-XX:+HitachiVerboseGC
add.jvm.arg=-XX:HitachiVerboseGCIntervalTime=0
```

この設定は、メモリ使用量を測定するときだけに設定します。

Hitachi Web Server の定義ファイルの確認

Hitachi Web Server の定義ファイルのパスに、次の値が設定されているか確認してください。

- 定義ファイルのパス

<Cosminexus のインストールディレクトリ >%httpspd¥conf¥httpspd.conf

- 確認内容

LogLevel に info が設定されていることを確認してください。

(3) メモリ使用量の取得

GC (ガーベージコレクション) の発生時のログファイルを出力し、リクエスト入力前と入力後のメモリ使用量の増分値を計算します。メモリ使用量の取得手順を示します。

取得手順

1. J2EE サーバ、Web サーバなどを起動し、Web 帳票アプリケーションが実行できる状態にします。
2. 次に示すコマンド (javagc) を実行して、GC 発生前後のメモリ使用量をログファイルに出力します。
コマンドの実行を契機に、FullGC が発生します。

```
%COSMINEXUS_HOME%¥jdk¥jre¥bin¥javagc.exe -p <cjstartsvのプロセスID>
```

javagc コマンドについては、マニュアル「Cosminexus リファレンス コマンド編」を参照してください。

3. クライアントからリクエストを入力し、業務処理を実行します。
4. 手順 2. と同じコマンドを実行して、GC 発生前後のメモリ使用量をログファイルに出力します。
5. ログファイルからメモリ使用量を取得します。
更新日時が新しいログファイルをテキストエディタなどで開いてください。ログファイルのパスを示します。
<Cosminexus のインストールディレクトリ>¥CC¥server¥public¥ejb¥< サーバ名 >¥logs¥javalogXX .log

注

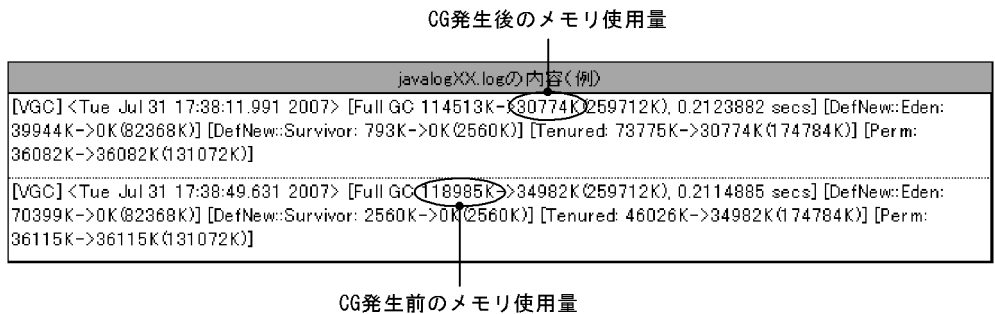
XX は 01 から始まる 2 けたの通番です。

6. 取得したメモリ使用量を基に、メモリ使用量の増分を計算します。
7. メモリ使用量の測定が完了したら、追加した値を削除し、設定情報を配布します。

(4) メモリ使用量の算出例

次に示すログファイルの例を基に、メモリ使用量の算出方法について説明します。

図 C-1 リクエスト入力前と入力後のログファイル



この例では、リクエスト入力前のメモリ使用量（GC 発生後）は 30,774KB で、リクエスト入力後（GC 発生前）のメモリ使用量は 118,985KB です。リクエスト入力前と入力後の増分を計算すると次のようになります。

118,985 - 30,774=88,211（単位は KB）

計算の結果、1 リクエスト当たりのメモリ使用量は 88,211KB となります。

メモリについては、マニュアル「Cosminexus システム設計ガイド」の JavaVM の

チューニングを参考にして検討してください。

付録 D システム構築時に使用する属性ファイル

システム構築時に使用する属性ファイルの編集例を示します。

付録 D.1 Connector 属性ファイル

HiRDB, Oracle, および SQL Server の場合に分けて, Connector 属性ファイルの編集例を示します。

(1) Connector 属性ファイル (HiRDB)

HiRDB を使用している場合の Connector 属性ファイルの編集例を示します。指定内容については、「4.6.10(1)(c) Connector 属性ファイルの編集」を参照してください。

```
<?xml version="1.0" encoding="MS932"?>

<!DOCTYPE hitachi-connector-property PUBLIC "-//Hitachi, Ltd.//DTDConnector
Property 7.6//EN" 'file:///C:/Program Files/HITACHI/Cosminexus/CC/admin/dtds/
hitachi-connector-property_7_6.dtd' >

<hitachi-connector-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <display-name xml:lang="en">DB_Connector_for_XXXXX</display-name>

  <icon xml:lang="en">    <small-icon></small-icon>
    <large-icon></large-icon>
  </icon>
  <vendor-name>Hitachi, Ltd.</vendor-name>
  <spec-version>1.0</spec-version>
  <eis-type>JDBC Database</eis-type>
  <version>07-60_HIRDB_TYPE4_CP</version>

  <resourceadapter>    <outbound-resourceadapter>
    <connection-definition>
      <managedconnectionfactory-class>

com.hitachi.software.ejb.connector.jdbc.HiRDBType4CPManagedConnectionFactoryIm
pl
</managedconnectionfactory-class>

    <config-property>
      <description xml:lang="en"></description>
      <config-property-name>description</config-property-name>
      <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
      <config-property-value>22200</config-property-value>
    </config-property>

    <config-property>
      <description xml:lang="en"></description>
      <config-property-name>DBHostName</config-property-name>
      <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
      <config-property-value>XXXXX</config-property-value>
    </config-property>
  </outbound-resourceadapter>
</resourceadapter>
</hitachi-connector-property>
```

```
<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>environmentVariables</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value></config-property-value>
</config-property>

<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>loginTimeout</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
  <config-property-value>8</config-property-value>
</config-property>

<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>encodeLang</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value></config-property-value>
</config-property>

<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>JDBC_IF_TRC</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Boolean</config-property-type>
  <config-property-value>false</config-property-value>
</config-property>

<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>TRC_NO</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
  <config-property-value>500</config-property-value>
</config-property>

<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>uapName</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value></config-property-value>
</config-property>

<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>LONGVARBINARY_Access</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>LOCATOR</config-property-value>
</config-property>

<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>SQLInNum</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
  <config-property-value>300</config-property-value>
</config-property>

<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>SQLOutNum</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
  <config-property-value>300</config-property-value>
</config-property>
```



```
<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>SQLWarningLevel</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>SQLWARN</config-property-value>
</config-property>

<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>SQLWarningIgnore</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Boolean</config-property-type>
  <config-property-value>>false</config-property-value>
</config-property>

<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>HiRDBCursorMode</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Boolean</config-property-type>
  <config-property-value>>false</config-property-value>
</config-property>

<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>maxBinarySize</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
  <config-property-value>0</config-property-value>
</config-property>
<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>

  <config-property-name>LONGVARBINARY_AccessSize</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
  <config-property-value>0</config-property-value>
</config-property>
<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>

  <config-property-name>LONGVARBINARY_TruncError</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Boolean</config-property-type>
  <config-property-value>>true</config-property-value>
</config-property>
<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>

  <config-property-name>PreparedStatementPoolSize</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
  <config-property-value>10</config-property-value>
</config-property>
<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>

  <config-property-name>CallableStatementPoolSize</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
  <config-property-value>10</config-property-value>
</config-property>

<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>CancelStatement</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Boolean</config-property-type>
  <config-property-value>>true</config-property-value>
</config-property>
```

```
<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>logLevel</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>ERROR</config-property-value>
</config-property>

<connectionfactory-interface>javax.sql.DataSource</
connectionfactory-interface>

<connectionfactory-impl-class>com.hitachi.software.ejb.connector.jdbc.DataSou
ceImpl</connectionfactory-impl-class>
  <connection-interface>java.sql.Connection</connection-interface>

<connection-impl-class>com.hitachi.software.ejb.connector.jdbc.HiRDBType4Conne
ctionImpl</connection-impl-class>
  <connector-runtime>

    <property>
      <property-name>MaxPoolSize</property-name>
      <property-type>int</property-type>
      <property-value>20</property-value>
      <property-default-value>10</property-default-value>
    </property>

    <property>
      <property-name>MinPoolSize</property-name>
      <property-type>int</property-type>
      <property-value>20</property-value>
      <property-default-value>10</property-default-value>
    </property>

    <property>
      <property-name>LogEnabled</property-name>
      <property-type>boolean</property-type>
      <property-value></property-value>
      <property-default-value>true</property-default-value>
    </property>

    <property>
      <property-name>User</property-name>
      <property-type>String</property-type>
      <property-value>BLC</property-value>
    </property>

    <property>
      <property-name>Password</property-name>
      <property-type>String</property-type>
      <property-value>BLC</property-value>
    </property>

    <property>
      <property-name>ValidationType</property-name>
      <property-type>int</property-type>
      <property-value></property-value>
      <property-default-value>1</property-default-value>
    </property>

    <property>
      <property-name>ValidationInterval</property-name>
      <property-type>int</property-type>
      <property-value></property-value>
      <property-default-value>3600</property-default-value>
    </property>
```

```
<property>
  <property-name>RetryCount</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>0</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>RetryInterval</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>10</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>RequestQueueEnable</property-name>
  <property-type>boolean</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>true</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>RequestQueueTimeout</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>30</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>ConnectionTimeout</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>0</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>SweeperInterval</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>0</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>WatchEnabled</property-name>
  <property-type>boolean</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>true</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>WatchInterval</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>30</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>WatchThreshold</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>80</property-default-value>
</property>
```

```

    <property>
      <property-name>WatchWriteFileEnabled</property-name>
      <property-type>boolean</property-type>
      <property-value></property-value>
      <property-default-value>>true</property-default-value>
    </property>

    <property>
      <property-name>ConnectionPoolAdjustmentInterval</property-name>
      <property-type>int</property-type>
      <property-value></property-value>
      <property-default-value>600</property-default-value>
    </property>

    <property>
      <property-name>Warmup</property-name>
      <property-type>boolean</property-type>
      <property-value></property-value>
      <property-default-value>true</property-default-value>
    </property>

    <property>
      <property-name>NetworkFailureTimeout</property-name>
      <property-type>boolean</property-type>
      <property-value></property-value>
      <property-default-value>true</property-default-value>
    </property>

  </connector-runtime>
</connection-definition>
<transaction-support>LocalTransaction</transaction-support>
<reauthentication-support>>false</reauthentication-support>
</outbound-resourceadapter>
</resourceadapter></hitachi-connector-property>

```

(2) Connector 属性ファイル (Oracle)

Oracle を使用している場合の Connector 属性ファイルの編集例を示します。指定内容については、「4.6.10(2)(c) Connector 属性ファイルの編集」を参照してください。

```

<?xml version="1.0" encoding="MS932"?>

<!DOCTYPE hitachi-connector-property PUBLIC "-//Hitachi, Ltd.//DTD Connector
Property 7.6//EN" 'file:///G:/products/Cosmi/CC/admin/dtds/
hitachi-connector-property_7_6.dtd'>

<hitachi-connector-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <display-name xml:lang="en">DB_Connector_for_XXXXX</display-name>
  <icon xml:lang="en">
    <small-icon></small-icon>
    <large-icon></large-icon>
  </icon>

  <vendor-name>Hitachi, Ltd.</vendor-name>
  <spec-version>1.0</spec-version>
  <eis-type>JDBC Database</eis-type>
  <version>07-60_Oracle_CP</version>
  <resourceadapter>
    <outbound-resourceadapter>

```

```
<connection-definition>

<managedconnectionfactory-class>com.hitachi.software.ejb.connector.jdbc.Oracle
CPManagedConnectionFactoryImpl</managedconnectionfactory-class>

  <config-property>
    <description xml:lang="en"></description>
    <config-property-name>databaseName</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
    <config-property-value>BLCDB</config-property-value>
  </config-property>

  <config-property>
    <description xml:lang="en"></description>
    <config-property-name>serverName</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
    <config-property-value>XXXXX</config-property-value>
  </config-property>

  <config-property>
    <description xml:lang="en"></description>
    <config-property-name>portNumber</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
    <config-property-value>1521</config-property-value>
  </config-property>

  <config-property>
    <description xml:lang="en"></description>
    <config-property-name>url</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
    <config-property-value></config-property-value>
  </config-property>

  <config-property>
    <description xml:lang="en"></description>
    <config-property-name>loginTimeout</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
    <config-property-value>8000</config-property-value>
  </config-property>

  <config-property>
    <description xml:lang="en"></description>
    <config-property-name>PreparedStatementPoolSize</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
    <config-property-value>10</config-property-value>
  </config-property>

  <config-property>
    <description xml:lang="en"></description>
    <config-property-name>CallableStatementPoolSize</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
    <config-property-value>10</config-property-value>
  </config-property>

  <config-property>
    <description xml:lang="en"></description>
    <config-property-name>CancelStatement</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.Boolean</config-property-type>
    <config-property-value>true</config-property-value>
  </config-property>

</connection-definition>
```

```

<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>ConnectionIDUpdate</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Boolean</config-property-type>
  <config-property-value>>false</config-property-value>
</config-property>

<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>logLevel</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>ERROR</config-property-value>
</config-property>

<connectionfactory-interface>javax.sql.DataSource</
connectionfactory-interface>

<connectionfactory-impl-class>com.hitachi.software.ejb.connector.jdbc.DataSou
ceImpl</connectionfactory-impl-class>
  <connection-interface>java.sql.Connection</connection-interface>

<connection-impl-class>com.hitachi.software.ejb.connector.jdbc.ConnectionImpl<
/connection-impl-class>
  <connector-runtime>

    <property>
      <property-name>MaxPoolSize</property-name>
      <property-type>int</property-type>
      <property-value>20</property-value>
      <property-default-value>10</property-default-value>
    </property>

    <property>
      <property-name>MinPoolSize</property-name>
      <property-type>int</property-type>
      <property-value>20</property-value>
      <property-default-value>10</property-default-value>
    </property>

    <property>
      <property-name>LogEnabled</property-name>
      <property-type>boolean</property-type>
      <property-value></property-value>
      <property-default-value>true</property-default-value>
    </property>

    <property>
      <property-name>User</property-name>
      <property-type>String</property-type>
      <property-value>BLC</property-value>
    </property>

    <property>
      <property-name>Password</property-name>
      <property-type>String</property-type>
      <property-value>BLC</property-value>
    </property>

    <property>
      <property-name>ValidationType</property-name>
      <property-type>int</property-type>
      <property-value></property-value>
      <property-default-value>1</property-default-value>
    </property>

```

```
<property>
  <property-name>ValidationInterval</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>3600</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>RetryCount</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>0</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>RetryInterval</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>10</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>RequestQueueEnable</property-name>
  <property-type>boolean</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>true</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>RequestQueueTimeout</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>30</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>ConnectionTimeout</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>0</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>SweeperInterval</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>0</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>WatchEnabled</property-name>
  <property-type>boolean</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>true</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>WatchInterval</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>30</property-default-value>
</property>
```

```

    <property>
      <property-name>WatchThreshold</property-name>
      <property-type>int</property-type>
      <property-value></property-value>
      <property-default-value>80</property-default-value>
    </property>

    <property>
      <property-name>WatchWriteFileEnabled</property-name>
      <property-type>boolean</property-type>
      <property-value></property-value>
      <property-default-value>true</property-default-value>
    </property>

    <property>
      <property-name>ConnectionPoolAdjustmentInterval</property-name>
      <property-type>int</property-type>
      <property-value></property-value>
      <property-default-value>600</property-default-value>
    </property>

    <property>
      <property-name>Warmup</property-name>
      <property-type>boolean</property-type>
      <property-value></property-value>
      <property-default-value>true</property-default-value>
    </property>

    <property>
      <property-name>NetworkFailureTimeout</property-name>
      <property-type>boolean</property-type>
      <property-value></property-value>
      <property-default-value>true</property-default-value>
    </property>

  </connector-runtime>
</connection-definition>
<transaction-support>LocalTransaction</transaction-support>
<reauthentication-support>>false</reauthentication-support>
</outbound-resourceadapter>
</resourceadapter>
</hitachi-connector-property>

```

(3) Connector 属性ファイル (SQL Server)

SQL Server を使用している場合の Connector 属性ファイルの編集例を示します。指定内容については、「4.6.10(3)(c) Connector 属性ファイルの編集」を参照してください。

```

<?xml version="1.0" encoding="MS932"?>

<!DOCTYPE hitachi-connector-property PUBLIC "-//Hitachi, Ltd.//DTD Connector
Property 7.6//EN" 'file:///G:/products/Cosmi/CC/admin/dtds/
hitachi-connector-property_7_6.dtd'>

<hitachi-connector-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <display-name xml:lang="en">DB_Connector_for_XXXXX</display-name>

```



```

<icon xml:lang="en">
  <small-icon></small-icon>
  <large-icon></large-icon>
</icon>
<vendor-name>Hitachi, Ltd.</vendor-name>
<spec-version>1.0</spec-version>
<eis-type>JDBC Database</eis-type>

<version>07-60_SQLServer2005_CP</version>
<resourceadapter>
  <outbound-resourceadapter>
    <connection-definition>

<managedconnectionfactory-class>com.hitachi.software.ejb.connector.jdbc.SQLSer
ver2005CPManagedConnectionFactoryImpl</managedconnectionfactory-class>

  <config-property>
    <description xml:lang="en"></description>
    <config-property-name>databaseName</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
    <config-property-value>BLCDB</config-property-value>
  </config-property>

  <config-property>
    <description xml:lang="en"></description>
    <config-property-name>serverName</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
    <config-property-value>XXXXX</config-property-value>
  </config-property>

  <config-property>
    <description xml:lang="en"></description>
    <config-property-name>applicationName</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
    <config-property-value></config-property-value>
  </config-property>

  <config-property>
    <description xml:lang="en"></description>
    <config-property-name>instanceName</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
    <config-property-value></config-property-value>
  </config-property>

  <config-property>
    <description xml:lang="en"></description>
    <config-property-name>lastUpdateCount</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.Boolean</config-property-type>
    <config-property-value>true</config-property-value>
  </config-property>

  <config-property>
    <description xml:lang="en"></description>
    <config-property-name>lockTimeout</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
    <config-property-value>-1</config-property-value>
  </config-property>

  <config-property>
    <description xml:lang="en"></description>
    <config-property-name>loginTimeout</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
    <config-property-value>8</config-property-value>
  </config-property>

```

```
<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>portNumber</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
  <config-property-value>1433</config-property-value>
</config-property>

<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>selectMethod</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>cursor</config-property-value>
</config-property>

<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>sendStringParametersAsUnicode</
config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Boolean</config-property-type>
  <config-property-value>>true</config-property-value>
</config-property>

<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>workstationID</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value></config-property-value>
</config-property>

<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>xopenStates</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Boolean</config-property-type>
  <config-property-value>>false</config-property-value>
</config-property>

<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>failoverPartner</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value></config-property-value>
</config-property>

<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>integratedSecurity</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Boolean</config-property-type>
  <config-property-value>>false</config-property-value>
</config-property>

<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>packetSize</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
  <config-property-value>4096</config-property-value>
</config-property>

<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>PreparedStatementPoolSize</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
  <config-property-value>10</config-property-value>
</config-property>
```

```
<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>CallableStatementPoolSize</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
  <config-property-value>10</config-property-value>
</config-property>

<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>CancelStatement</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.Boolean</config-property-type>
  <config-property-value>true</config-property-value>
</config-property>

<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>logLevel</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>ERROR</config-property-value>
</config-property>

  <connectionfactory-interface>javax.sql.DataSource</
connectionfactory-interface>

<connectionfactory-impl-class>com.hitachi.software.ejb.connector.jdbc.DataSour
ceImpl</connectionfactory-impl-class>
  <connection-interface>java.sql.Connection</connection-interface>

<connection-impl-class>com.hitachi.software.ejb.connector.jdbc.ConnectionImpl<
/connection-impl-class>
  <connector-runtime>

    <property>
      <property-name>MaxPoolSize</property-name>
      <property-type>int</property-type>
      <property-value>20</property-value>
      <property-default-value>10</property-default-value>
    </property>

    <property>
      <property-name>MinPoolSize</property-name>
      <property-type>int</property-type>
      <property-value>20</property-value>
      <property-default-value>10</property-default-value>
    </property>

    <property>
      <property-name>LogEnabled</property-name>
      <property-type>boolean</property-type>
      <property-value></property-value>
      <property-default-value>true</property-default-value>
    </property>

    <property>
      <property-name>User</property-name>
      <property-type>String</property-type>
      <property-value>BLC</property-value>
    </property>

    <property>
      <property-name>Password</property-name>
      <property-type>String</property-type>
      <property-value>BLC</property-value>
    </property>
```

```
<property>
  <property-name>ValidationType</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value>0</property-value>
  <property-default-value>1</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>ValidationInterval</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>3600</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>RetryCount</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>0</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>RetryInterval</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>10</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>RequestQueueEnable</property-name>
  <property-type>boolean</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>true</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>RequestQueueTimeout</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>30</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>ConnectionTimeout</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>0</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>SweeperInterval</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>0</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>WatchEnabled</property-name>
  <property-type>boolean</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>true</property-default-value>
</property>
```

```

<property>
  <property-name>WatchInterval</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>30</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>WatchThreshold</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>80</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>WatchWriteFileEnabled</property-name>
  <property-type>boolean</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>true</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>ConnectionPoolAdjustmentInterval</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>600</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>Warmup</property-name>
  <property-type>boolean</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>true</property-default-value>
</property>

<property>
  <property-name>NetworkFailureTimeout</property-name>
  <property-type>boolean</property-type>
  <property-value></property-value>
  <property-default-value>true</property-default-value>
</property>

</connector-runtime>
</connection-definition>
<transaction-support>LocalTransaction</transaction-support>
<reauthentication-support>>false</reauthentication-support>
</outbound-resourceadapter>
</resourceadapter>
</hitachi-connector-property>

```

付録 D.2 CSCIWManagementServer の属性ファイル

CSCIWManagementServer の属性ファイルの編集例を示します。指定内容については、「4.6.11(4) CSCIWManagementServer の属性ファイルの編集」を参照してください。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>

<!DOCTYPE hitachi-application-all-property PUBLIC "-//Hitachi, Ltd.//DTD
Application All Property 7.6//EN" 'file:///C:/Program Files/HITACHI/Cosminexus/
CC/admin/dtds/hitachi-application-all-property_7_6.dtd'>

<hitachi-application-all-property>
  <hitachi-application-property>
    <description></description>

    <icon>
      <small-icon></small-icon>
      <large-icon></large-icon>
    </icon>
    <lookup-name>CSCIWManagementServer</lookup-name>
    <security-prop>
      <security-method>no_security_for_methods_without_roles</security-method>
      <default-security-role></default-security-role>
    </security-prop>

    <start-order>0</start-order>
    <scheduling-unit>Application</scheduling-unit>
    <scheduling>
      <queue-name>CSCIWManagementServer</queue-name>
      <parallel-count>1</parallel-count>
      <queue-length></queue-length>
    </scheduling>
    <managed-by-ctm>>false</managed-by-ctm>
    <method-observation-recovery-mode></method-observation-recovery-mode>
  </hitachi-application-property>

  <ejb-jar>
    <hitachi-ebj-jar-property>
      <description xml:lang="en">Cosminexus Service Coordinator Interactive
Workflow Copyright (C) 2006 Hitachi, Ltd.</description>
      <display-name xml:lang="en">csciw_ejb</display-name>
      <icon xml:lang="en">
        <small-icon></small-icon>
        <large-icon></large-icon>
      </icon>

      <security-role>
        <description xml:lang="en"></description>
        <role-name>csciwdef</role-name>
        <linked-to>csciwdef</linked-to>
      </security-role>
      <ejb-client-jar></ejb-client-jar>
    </hitachi-ebj-jar-property>
    <hitachi-session-bean-property>
      <description xml:lang="en"></description>
      <display-name xml:lang="en">DefinitionServer EJB</display-name>

      <icon xml:lang="en">
        <small-icon></small-icon>
        <large-icon></large-icon>
      </icon>
      <session-type>Stateless</session-type>
      <transaction-type>Bean</transaction-type>
      <session-runtime>
        <lookup-name>CSCIWDefinitionServer</lookup-name>
        <optional-name></optional-name>
        <local-optional-name></local-optional-name>
        <maximum-sessions>0</maximum-sessions>
      </session-runtime>
    </hitachi-session-bean-property>
  </ejb-jar>

```

```

<stateless>
  <pooled-instance>
    <minimum>0</minimum>
    <maximum>0</maximum>
  </pooled-instance>
  <instance-timeout>0</instance-timeout>
</stateless>
<enable-scheduling>>false</enable-scheduling>
<pass-by-reference>>false</pass-by-reference>

<scheduling>
  <queue-name>CSCIWDefinitionServer</queue-name>
  <parallel-count>1</parallel-count>
  <queue-length></queue-length>
</scheduling>
<front-ejb>>false</front-ejb>
</session-runtime>
<start-order>10</start-order>
</hitachi-session-bean-property>
<hitachi-session-bean-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <display-name xml:lang="en">AuthenticationManager EJB</display-name>

  <icon xml:lang="en">
    <small-icon></small-icon>
    <large-icon></large-icon>
  </icon>
  <session-type>Stateless</session-type>
  <transaction-type>Bean</transaction-type>
  <security-role-ref>
    <description xml:lang="en"></description>
    <role-name>csciwdef</role-name>
    <role-link>csciwdef</role-link>
  </security-role-ref>

<session-runtime>
  <lookup-name>CSCIWAuthenticationManager</lookup-name>
  <optional-name></optional-name>
  <local-optional-name></local-optional-name>
  <maximum-sessions>0</maximum-sessions>
  <stateless>
    <pooled-instance>
      <minimum>0</minimum>
      <maximum>0</maximum>
    </pooled-instance>
    <instance-timeout>0</instance-timeout>
  </stateless>

  <enable-scheduling>>false</enable-scheduling>
  <pass-by-reference>>false</pass-by-reference>
  <scheduling>
    <queue-name>CSCIWAuthenticationManager</queue-name>
    <parallel-count>1</parallel-count>
    <queue-length></queue-length>
  </scheduling>
  <front-ejb>>false</front-ejb>
</session-runtime>
<start-order>10</start-order>
</hitachi-session-bean-property>

<hitachi-session-bean-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <display-name xml:lang="en">IDStore EJB</display-name>
  <icon xml:lang="en">
    <small-icon></small-icon>
    <large-icon></large-icon>
  </icon>
  <session-type>Stateless</session-type>
  <transaction-type>Bean</transaction-type>

```

```

<session-runtime>
  <lookup-name>IDStoreEJB</lookup-name>
  <optional-name></optional-name>
  <local-optional-name></local-optional-name>
  <maximum-sessions>0</maximum-sessions>
  <stateless>
    <pooled-instance>
      <minimum>0</minimum>
      <maximum>0</maximum>
    </pooled-instance>

    <instance-timeout>0</instance-timeout>
  </stateless>
  <enable-scheduling>>false</enable-scheduling>
  <pass-by-reference>>false</pass-by-reference>
  <front-ejb>>false</front-ejb>
</session-runtime>
<start-order>10</start-order>
</hitachi-session-bean-property>
</ejb-jar>

<war>
  <hitachi-war-property>
    <description xml:lang="en">Cosminexus Service Coordinator Interactive
Workflow Copyright (C) 2006 Hitachi, Ltd.</description>
    <display-name xml:lang="en">CSCIW Web</display-name>
    <icon xml:lang="en">
      <small-icon></small-icon>
      <large-icon></large-icon>
    </icon>

    <session-config>
      <session-timeout>30</session-timeout>
    </session-config>
    <env-entry>
      <description xml:lang="en"></description>
      <env-entry-name>JMSUseFlag</env-entry-name>
      <env-entry-type>java.lang.Boolean</env-entry-type>
      <env-entry-value>>false</env-entry-value>
    </env-entry>

    <ejb-local-ref>
      <description xml:lang="en"></description>
      <ejb-ref-name>ejb/CSCIWIDStore</ejb-ref-name>
      <ejb-ref-type>Session</ejb-ref-type>
      <local-home>jp.co.Hitachi.soft.csciw.resource.id.ejb.IDStoreHome</
local-home>
      <local>jp.co.Hitachi.soft.csciw.resource.id.ejb.IDStore</local>
      <ejb-link>IDStoreEJB</ejb-link>
    </ejb-local-ref>

    <resource-ref>
      <description xml:lang="en"></description>
      <res-ref-name>jdbc/CSCIWDataSource</res-ref-name>
      <res-type>javax.sql.DataSource</res-type>
      <res-auth>Container</res-auth>
      <res-sharing-scope>Shareable</res-sharing-scope>
      <linked-to>DB_Connector_for_Manager</linked-to>
    </resource-ref>

    <war-runtime>
      <context-root>csciw</context-root>
    </war-runtime>
    <http-request>
      <encoding></encoding>
    </http-request>
    <http-response>
      <encoding></encoding>
    </http-response>
    <jsp>
      <page-encoding></page-encoding>
    </jsp>

```



```

<http-session>
  <http-session-max-number>-1</http-session-max-number>
  <resource-watcher>
    <watcher-threshold>80</watcher-threshold>
    <watcher-interval>30</watcher-interval>
    <watcher-enabled>true</watcher-enabled>
    <watcher-writefile-enabled>true</watcher-writefile-enabled>
  </resource-watcher>
</http-session>
<start-notify-error>true</start-notify-error>
<start-order>10</start-order>
</hitachi-war-property>

<hitachi-servlet-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <display-name xml:lang="en">CSCIW Servlet</display-name>
  <icon xml:lang="en">
    <small-icon></small-icon>
    <large-icon></large-icon>
  </icon>
  <load-on-startup>1</load-on-startup>
  <url-pattern>/Servlet</url-pattern>
  <method-observation-timeout>0</method-observation-timeout>
</hitachi-servlet-property>
</war>
</hitachi-application-all-property>

```

付録 D.3 案件運用操作の属性ファイル

案件運用操作の属性ファイルの編集例を示します。指定内容については、「4.6.12(4) 案件運用操作の属性ファイルの編集」を参照してください。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>

<!DOCTYPE hitachi-application-all-property PUBLIC "-//Hitachi, Ltd.//DTD
Application All Property 7.6//EN" 'file:///&cosminexus.install.dir.slash&/CC/
admin/dtlds/hitachi-application-all-property_7_6.dtd'>

<hitachi-application-all-property>
  <hitachi-application-property>
    <description></description>
    <icon>
      <small-icon></small-icon>
      <large-icon></large-icon>
    </icon>
    <lookup-name>CSCIWAdminServlet</lookup-name>

    <security-prop>
      <security-method>no_security_for_methods_without_roles</security-method>
      <default-security-role></default-security-role>
    </security-prop>
    <start-order>10</start-order>
    <scheduling-unit>Application</scheduling-unit>
    <managed-by-ctm>false</managed-by-ctm>
    <method-observation-recovery-mode></method-observation-recovery-mode>
  </hitachi-application-property>

```

```
<war>
  <hitachi-war-property>
    <description xml:lang="en">Cosminexus Service Coordinator Interactive
Workflow Copyright (C) 2007 Hitachi, Ltd.</description>
    <display-name xml:lang="en">CSCIW Admin</display-name>
    <icon xml:lang="en">
      <small-icon></small-icon>
      <large-icon></large-icon>
    </icon>
    <session-config>
      <session-timeout>30</session-timeout>
    </session-config>
    <welcome-file-list>
      <welcome-file>index.jsp</welcome-file>
    </welcome-file-list>
    <error-page>
      <error-code>400</error-code>
      <location>/jsp/CIWBadRequest.jsp</location>
    </error-page>
    <error-page>
      <error-code>404</error-code>
      <location>/jsp/CIWNotFound.jsp</location>
    </error-page>

    <security-constraint>
      <display-name xml:lang="en">CSCIW Security Constraint</display-name>
      <web-resource-collection>
        <description xml:lang="en">Define the context-relative URL(s) and
methods to be protected.</description>
        <web-resource-name>Protected Area</web-resource-name>
        <url-pattern>/jsp/protect/*</url-pattern>
        <url-pattern>/servlets/*</url-pattern>
        <http-method>DELETE</http-method>
        <http-method>GET</http-method>
        <http-method>POST</http-method>
        <http-method>PUT</http-method>
      </web-resource-collection>

      <auth-constraint>
        <description xml:lang="en">Anyone with one of the listed roles can
access this area.</description>
        <role-name>csciwadmin</role-name>
      </auth-constraint>
      <original-name>CSCIW Security Constraint</original-name>
    </security-constraint>
    <login-config>
      <auth-method>FORM</auth-method>
      <form-login-config>
        <form-login-page>/jsp/CIWLogin.jsp</form-login-page>
        <form-error-page>/jsp/CIWLogin.jsp?auth-error=true</form-error-page>
      </form-login-config>
    </login-config>
  </war>
```

```

    <security-role>
      <description xml:lang="en">This role is used in /jsp/protect and /
servlets.</description>
      <role-name>csciwadmin</role-name>
      <linked-to>csciwadmin</linked-to>
    </security-role>
    <resource-ref>
      <description xml:lang="en"></description>
      <res-ref-name>jdbc/CSCAdminIWDDataSource</res-ref-name>
      <res-type>javax.sql.DataSource</res-type>
      <res-auth>Container</res-auth>
      <res-sharing-scope>Shareable</res-sharing-scope>
      <linked-to>DB_Connector_for_Executer</linked-to>
    </resource-ref>

    <war-runtime>
      <context-root>CSCIWAdminServlet</context-root>
    </war-runtime>
    <http-request>
      <encoding></encoding>
    </http-request>
    <http-response>
      <encoding></encoding>
    </http-response>
    <jsp>
      <page-encoding></page-encoding>
    </jsp>

    <http-session>
      <http-session-max-number>-1</http-session-max-number>
      <resource-watcher>
        <watcher-threshold>80</watcher-threshold>
        <watcher-interval>30</watcher-interval>
        <watcher-enabled>true</watcher-enabled>
        <watcher-writefile-enabled>true</watcher-writefile-enabled>
      </resource-watcher>
    </http-session>
    <start-notify-error>true</start-notify-error>
    <start-order>10</start-order>
  </hitachi-war-property>

  <hitachi-servlet-property>
    <description xml:lang="en"></description>
    <display-name xml:lang="en">CSCIW Admin Servlet</display-name>
    <icon xml:lang="en">
      <small-icon></small-icon>
      <large-icon></large-icon>
    </icon>
    <load-on-startup>1</load-on-startup>
    <url-pattern>/servlets/*</url-pattern>
    <method-observation-timeout>0</method-observation-timeout>
  </hitachi-servlet-property>
</war>
</hitachi-application-all-property>

```

付録 D.4 Web 帳票アプリケーションの属性ファイル

Web 帳票アプリケーションの属性ファイルの編集例を示します。指定内容については、「4.6.13(3) Web 帳票アプリケーションの属性ファイルの編集」を参照してください。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!--All Rights Reserved. Copyright (C) 2007, 2008, Hitachi, Ltd.-->
<!--This file is for the easy setup tool of Hitachi Business Logic - Container
2.-->

<!DOCTYPE hitachi-application-all-property PUBLIC "-//Hitachi, Ltd.//DTD
Application All Property 7.6//EN" 'file:///C:/Program Files/HITACHI/Cosminexus/
CC/admin/dtds/hitachi-application-all-property_7_6.dtd'>

<hitachi-application-all-property>
  <hitachi-application-property>
    <description></description>
    <icon>
      <small-icon></small-icon>
      <large-icon></large-icon>
    </icon>
    <lookup-name>BLC2Sample</lookup-name>

    <security-prop>
      <security-method>no_security_for_methods_without_roles</security-method>
      <default-security-role></default-security-role>
    </security-prop>
    <start-order>10</start-order>
    <scheduling-unit>Application</scheduling-unit>
    <managed-by-ctm>>false</managed-by-ctm>
    <method-observation-recovery-mode></method-observation-recovery-mode>
  </hitachi-application-property>
  <war>

  <hitachi-war-property>
    <description xml:lang="en"></description>
    <display-name xml:lang="en">bhc_war</display-name>
    <icon xml:lang="en">
      <small-icon></small-icon>
      <large-icon></large-icon>
    </icon>
    <session-config>
      <session-timeout>30</session-timeout>
    </session-config>

    <taglib>
      <taglib-uri>http://soft.hitachi.co.jp/portal/urlutils</taglib-uri>
      <taglib-location>/WEB-INF/cosmi/portal/taglib/urlutils.tld</
taglib-location>
    </taglib>
    <taglib>
      <taglib-uri>http://soft.hitachi.co.jp/portal/portalac</taglib-uri>
      <taglib-location>/WEB-INF/cosmi/portal/taglib/portalac.tld</
taglib-location>
    </taglib>
  </hitachi-war-property>
</war>

```

```

    <taglib>
      <taglib-uri>http://soft.hitachi.co.jp/portal/utils</taglib-uri>
      <taglib-location>/WEB-INF/cosmi/portal/taglib/utils.tld</
taglib-location>
    </taglib>
    <taglib>
      <taglib-uri>http://soft.hitachi.co.jp/portal/standard</taglib-uri>
      <taglib-location>/WEB-INF/templates/jsp/tld/template.tld</
taglib-location>
    </taglib>
    <taglib>
      <taglib-uri>http://soft.hitachi.co.jp/portal/scriptutil</taglib-uri>
      <taglib-location>/WEB-INF/cosmi/portal/taglib/scriptutil.tld</
taglib-location>
    </taglib>

    <taglib>
      <taglib-uri>http://soft.hitachi.co.jp/portal/webssomodule</taglib-uri>
      <taglib-location>/WEB-INF/cosmi/portal/taglib/webssomodule.tld</
taglib-location>
    </taglib>
    <taglib>
      <taglib-uri>http://soft.hitachi.co.jp/portal/api/csdc</taglib-uri>
      <taglib-location>/WEB-INF/cosmi/portal/taglib/csdc.tld</taglib-location>
    </taglib>
    <taglib>
      <taglib-uri>http://soft.hitachi.co.jp/portal/api/navigationbar</
taglib-uri>
      <taglib-location>/WEB-INF/cosmi/portlets/navigationmenu/navimenu.tld</
taglib-location>
    </taglib>

    <ejb-ref>
      <description xml:lang="en"></description>
      <ejb-ref-name>CSCIWAuthenticationManager</ejb-ref-name>
      <ejb-ref-type>Session</ejb-ref-type>

<home>jp.co.Hitachi.soft.csciw.definer.server.AuthenticationManagerHome</home>
<remote>jp.co.Hitachi.soft.csciw.definer.server.AuthenticationManager</
remote>
      <ejb-link>corbaname::localhost:900#HITACHI_EJB/SERVERS/J2EE_SERV/EJB/
CSCIWManagementServer/CSCIWAuthenticationManager</ejb-link>
    </ejb-ref>

    <ejb-ref>
      <description xml:lang="en"></description>
      <ejb-ref-name>CSCIWDefinitionServer</ejb-ref-name>
      <ejb-ref-type>Session</ejb-ref-type>
      <home>jp.co.Hitachi.soft.csciw.definer.server.DefinitionServerHome</
home>
      <remote>jp.co.Hitachi.soft.csciw.definer.server.DefinitionServer</
remote>
      <ejb-link>corbaname::localhost:900#HITACHI_EJB/SERVERS/J2EE_SERV/EJB/
CSCIWManagementServer/CSCIWDefinitionServer</ejb-link>
    </ejb-ref>

```

```

<resource-ref>
  <description xml:lang="en"></description>
  <res-ref-name>BLC</res-ref-name>
  <res-type>javax.sql.DataSource</res-type>
  <res-auth>Container</res-auth>
  <res-sharing-scope></res-sharing-scope>
  <linked-to>DB_Connector_for_Executer</linked-to>
</resource-ref>
<war-runtime>
  <context-root>/blc</context-root>
</war-runtime>

<http-request>
  <encoding></encoding>
</http-request>
<http-response>
  <encoding></encoding>
</http-response>
<jsp>
  <page-encoding></page-encoding>
</jsp>
<http-session>

  <http-session-max-number>-1</http-session-max-number>
  <resource-watcher>
    <watcher-threshold>80</watcher-threshold>
    <watcher-interval>30</watcher-interval>
    <watcher-enabled>true</watcher-enabled>
    <watcher-writefile-enabled>true</watcher-writefile-enabled>
  </resource-watcher>
</http-session>
<start-notify-error>true</start-notify-error>
<start-order>10</start-order>
</hitachi-war-property>

<hitachi-servlet-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <display-name xml:lang="en">HPTLContainerController</display-name>
  <icon xml:lang="en">
    <small-icon></small-icon>
    <large-icon></large-icon>
  </icon>
  <load-on-startup>1</load-on-startup>
  <method-observation-timeout>0</method-observation-timeout>
</hitachi-servlet-property>

<hitachi-servlet-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <display-name xml:lang="en">jetspeed</display-name>
  <icon xml:lang="en">
    <small-icon></small-icon>
    <large-icon></large-icon>
  </icon>
  <init-param>
    <description xml:lang="en"></description>
    <param-name>properties</param-name>
    <param-value>C:/Program Files/HITACHI/CosmiPortal/conf/
TurbineResources.properties</param-value>
  </init-param>

```

```

    <init-param>
      <description xml:lang="en"></description>
      <param-name>classname</param-name>
    </init-param>
  <param-value>org.apache.jetspeed.services.resources.VariableResourcesService</
  param-value>
  </init-param>
  <load-on-startup>2</load-on-startup>
  <url-pattern>/portal/*</url-pattern>
  <url-pattern>/jetspeed/*</url-pattern>
  <method-observation-timeout>0</method-observation-timeout>
</hitachi-servlet-property>

<hitachi-servlet-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <display-name xml:lang="en">csdc</display-name>
  <icon xml:lang="en">
    <small-icon></small-icon>
    <large-icon></large-icon>
  </icon>
  <load-on-startup>-1</load-on-startup>
  <url-pattern>/js/csdc.js</url-pattern>
  <method-observation-timeout>0</method-observation-timeout>
</hitachi-servlet-property>

<hitachi-servlet-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <display-name xml:lang="en">HPTLPortletFilterAgent</display-name>
  <icon xml:lang="en">
    <small-icon></small-icon>
    <large-icon></large-icon>
  </icon>
  <load-on-startup>-1</load-on-startup>
  <url-pattern>/WEB-INF/portlet/filter/servlet/HPTLPortletFilterAgent</
url-pattern>
  <method-observation-timeout>0</method-observation-timeout>
</hitachi-servlet-property>

<hitachi-servlet-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <display-name xml:lang="en">BLCEURFormCooperation</display-name>
  <icon xml:lang="en">
    <small-icon></small-icon>
    <large-icon></large-icon>
  </icon>
  <load-on-startup>-1</load-on-startup>
  <method-observation-timeout>0</method-observation-timeout>
</hitachi-servlet-property>

<hitachi-servlet-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <display-name xml:lang="en">BLCDownloadServlet</display-name>
  <icon xml:lang="en">
    <small-icon></small-icon>
    <large-icon></large-icon>
  </icon>
  <load-on-startup>-1</load-on-startup>
  <method-observation-timeout>0</method-observation-timeout>
</hitachi-servlet-property>

```

```
<hitachi-servlet-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <display-name xml:lang="en">BLCSimpleItemSettingServlet</display-name>
  <icon xml:lang="en">
    <small-icon></small-icon>
    <large-icon></large-icon>
  </icon>
  <load-on-startup>-1</load-on-startup>
  <method-observation-timeout>0</method-observation-timeout>
</hitachi-servlet-property>

<hitachi-servlet-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <display-name xml:lang="en">BLCSimpleRouteServlet</display-name>
  <icon xml:lang="en">
    <small-icon></small-icon>
    <large-icon></large-icon>
  </icon>
  <load-on-startup>-1</load-on-startup>
  <method-observation-timeout>0</method-observation-timeout>
</hitachi-servlet-property>

<hitachi-servlet-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <display-name xml:lang="en">BLCSimpleRegistServlet</display-name>
  <icon xml:lang="en">
    <small-icon></small-icon>
    <large-icon></large-icon>
  </icon>
  <load-on-startup>-1</load-on-startup>
  <method-observation-timeout>0</method-observation-timeout>
</hitachi-servlet-property>

<hitachi-servlet-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <display-name xml:lang="en">BLCSimpleListServlet</display-name>
  <icon xml:lang="en">
    <small-icon></small-icon>
    <large-icon></large-icon>
  </icon>
  <load-on-startup>-1</load-on-startup>
  <method-observation-timeout>0</method-observation-timeout>
</hitachi-servlet-property>

<hitachi-servlet-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <display-name xml:lang="en">BLCSimpleSaveServlet</display-name>
  <icon xml:lang="en">
    <small-icon></small-icon>
    <large-icon></large-icon>
  </icon>
  <load-on-startup>-1</load-on-startup>
  <method-observation-timeout>0</method-observation-timeout>
</hitachi-servlet-property>
```



```
<hitachi-servlet-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <display-name xml:lang="en">BLCSimpleRepositoryServlet</display-name>
  <icon xml:lang="en">
    <small-icon></small-icon>
    <large-icon></large-icon>
  </icon>
  <load-on-startup>-1</load-on-startup>
  <method-observation-timeout>0</method-observation-timeout>
</hitachi-servlet-property>

<hitachi-servlet-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <display-name xml:lang="en">BLCSimpleChoiceEditServlet</display-name>
  <icon xml:lang="en">
    <small-icon></small-icon>
    <large-icon></large-icon>
  </icon>
  <load-on-startup>-1</load-on-startup>
  <method-observation-timeout>0</method-observation-timeout>
</hitachi-servlet-property>

<hitachi-servlet-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <display-name xml:lang="en">BLCSimpleChoiceListServlet</display-name>
  <icon xml:lang="en">
    <small-icon></small-icon>
    <large-icon></large-icon>
  </icon>
  <load-on-startup>-1</load-on-startup>
  <method-observation-timeout>0</method-observation-timeout>
</hitachi-servlet-property>

<hitachi-servlet-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <display-name xml:lang="en">BLCSimpleFormServlet</display-name>
  <icon xml:lang="en">
    <small-icon></small-icon>
    <large-icon></large-icon>
  </icon>
  <load-on-startup>-1</load-on-startup>
  <method-observation-timeout>0</method-observation-timeout>
</hitachi-servlet-property>

<hitachi-servlet-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <display-name xml:lang="en">BLCSimpleServlet</display-name>
  <icon xml:lang="en">
    <small-icon></small-icon>
    <large-icon></large-icon>
  </icon>
  <load-on-startup>-1</load-on-startup>
  <method-observation-timeout>0</method-observation-timeout>
</hitachi-servlet-property>
```

```
<hitachi-servlet-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <display-name xml:lang="en">BLCSimpleFormSettingServlet</display-name>
  <icon xml:lang="en">
    <small-icon></small-icon>
    <large-icon></large-icon>
  </icon>
  <load-on-startup>-1</load-on-startup>
  <method-observation-timeout>0</method-observation-timeout>
</hitachi-servlet-property>

<hitachi-servlet-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <display-name xml:lang="en">BLCSimplePreviewServlet</display-name>
  <icon xml:lang="en">
    <small-icon></small-icon>
    <large-icon></large-icon>
  </icon>
  <load-on-startup>-1</load-on-startup>
  <method-observation-timeout>0</method-observation-timeout>
</hitachi-servlet-property>
</war>
</hitachi-application-all-property>
```

付録 E フィルタリングによる HTTP レスポンスの圧縮

サーブレット、JSP、および静的コンテンツへの HTTP リクエストに対する HTTP レスポンスを圧縮する機能を利用できます。この機能を利用することによって、Web コンテナと Web クライアント（ブラウザなど）の間の HTTP レスポンス通信に掛かる時間を削減できます。

HTTP レスポンス圧縮機能については、マニュアル「Cosminexus 機能解説」およびマニュアル「Cosminexus システム構築ガイド」を参照してください。

ここでは、HTTP レスポンス圧縮機能を使用する場合の実装例を示します。

実装例の説明

実装例では、Media-Type が application/efd かつ圧縮しきい値が 100 バイト以上の HTTP レスポンスに対して gzip 形式で圧縮して通信します。使用している環境に合わせて設定を変更してください。詳細は、マニュアル「Cosminexus 機能解説」およびマニュアル「Cosminexus システム構築ガイド」を参照してください。

実装例の内容

太字部分が変更箇所になります。

```
<?xml version="1.0" encoding="SHIFT_JIS"?>

<!DOCTYPE web-app PUBLIC "-//Sun Microsystems, Inc.//DTD Web Application 2.3//
EN" "http://java.sun.com/dtd/web-app_2_3.dtd">

<web-app>
  <display-name>blc_war</display-name>
  <filter>

    <filter-name>com.hitachi.software.was.web.ResponseCompressionFilter</
    filter-name>
    <filter-class>com.hitachi.software.was.web.ResponseCompressionFilter</
    filter-class>
    <init-param>
      <param-name>url-mapping</param-name>
      <param-value>/*=rule1;</param-value>
    </init-param>

    <init-param>
      <param-name>rule1</param-name>
      <param-value>application/efd:100;</param-value>
    </init-param>
  </filter>
  <filter-mapping>
    <filter-name>com.hitachi.software.was.web.ResponseCompressionFilter</
    filter-name>
    <url-pattern>/*</url-pattern>
  </filter-mapping>
```

```

<servlet>
  <servlet-name>HPTLContainerController</servlet-name>
  <display-name>HPTLContainerController</display-name>
  <servlet-class>jp.co.hitachi.soft.portal.container.ContainerController</
servlet-class>
  <load-on-startup>1</load-on-startup>
</servlet>

<servlet>
  <servlet-name>jetspeed</servlet-name>
  <display-name>jetspeed</display-name>
  <servlet-class>org.apache.turbine.Turbine</servlet-class>
  <init-param>
    <param-name>properties</param-name>
    <param-value>C:/Program Files/HITACHI/CosmiPortal/conf/
TurbineResources.properties</param-value>
  </init-param>

  <init-param>
    <param-name>classname</param-name>

<param-value>org.apache.jetspeed.services.resources.VariableResourcesService</
param-value>
  </init-param>
  <load-on-startup>2</load-on-startup>
</servlet>

<servlet>
  <servlet-name>csdc</servlet-name>
  <display-name>csdc</display-name>
  <jsp-file>/js/csdc.jsp</jsp-file>
</servlet>
<servlet>
  <servlet-name>HPTLPortletFilterAgent</servlet-name>
  <display-name>HPTLPortletFilterAgent</display-name>

<servlet-class>jp.co.hitachi.soft.portal.portlet.filter.FilterAgentForIFrame</
servlet-class>
</servlet>
<servlet>
  <servlet-name>BLCEURFormCooperation</servlet-name>
  <display-name>BLCEURFormCooperation</display-name>
  <servlet-class>jp.co.Hitachi.soft.blc.BLCEURFormCooperation</servlet-class>
</servlet>

<servlet>
  <servlet-name>BLCDownloadServlet</servlet-name>
  <display-name>BLCDownloadServlet</display-name>
  <servlet-class>jp.co.Hitachi.soft.blc.BLCDownloadServlet</servlet-class>
</servlet>
<servlet>
  <servlet-name>BLCSimpleItemSettingServlet</servlet-name>
  <display-name>BLCSimpleItemSettingServlet</display-name>

<servlet-class>jp.co.Hitachi.soft.blc.simpleform.BLCSimpleItemSettingServlet</
servlet-class>
</servlet>
<servlet>
  <servlet-name>BLCSimpleRouteServlet</servlet-name>
  <display-name>BLCSimpleRouteServlet</display-name>
  <servlet-class>jp.co.Hitachi.soft.blc.simpleform.BLCSimpleRouteServlet</
servlet-class>
</servlet>

```

```
<servlet>
  <servlet-name>BLCSimpleRegistServlet</servlet-name>
  <display-name>BLCSimpleRegistServlet</display-name>
  <servlet-class>jp.co.Hitachi.soft.blc.simpleform.BLCSimpleRegistServlet</
servlet-class>
</servlet>
<servlet>
  <servlet-name>BLCSimpleListServlet</servlet-name>
  <display-name>BLCSimpleListServlet</display-name>

  <servlet-class>jp.co.Hitachi.soft.blc.simpleform.BLCSimpleListServlet</
servlet-class>
</servlet>
<servlet>
  <servlet-name>BLCSimpleSaveServlet</servlet-name>
  <display-name>BLCSimpleSaveServlet</display-name>
  <servlet-class>jp.co.Hitachi.soft.blc.simpleform.BLCSimpleSaveServlet</
servlet-class>
</servlet>

<servlet>
  <servlet-name>BLCSimpleRepositoryServlet</servlet-name>
  <display-name>BLCSimpleRepositoryServlet</display-name>

<servlet-class>jp.co.Hitachi.soft.blc.simpleform.BLCSimpleRepositoryServlet</
servlet-class>
</servlet>
<servlet>
  <servlet-name>BLCSimpleChoiceEditServlet</servlet-name>
  <display-name>BLCSimpleChoiceEditServlet</display-name>

<servlet-class>jp.co.Hitachi.soft.blc.simpleform.BLCSimpleChoiceEditServlet</
servlet-class>
</servlet>
<servlet>
  <servlet-name>BLCSimpleChoiceListServlet</servlet-name>
  <display-name>BLCSimpleChoiceListServlet</display-name>

<servlet-class>jp.co.Hitachi.soft.blc.simpleform.BLCSimpleChoiceListServlet</
servlet-class>
</servlet>
<servlet>
  <servlet-name>BLCSimpleFormServlet</servlet-name>
  <display-name>BLCSimpleFormServlet</display-name>
  <servlet-class>jp.co.Hitachi.soft.blc.simpleform.BLCSimpleFormServlet</
servlet-class>
</servlet>

<servlet>
  <servlet-name>BLCSimpleServlet</servlet-name>
  <display-name>BLCSimpleServlet</display-name>
  <servlet-class>jp.co.Hitachi.soft.blc.simpleform.BLCSimpleServlet</
servlet-class>
</servlet>
<servlet>
  <servlet-name>BLCSimpleFormSettingServlet</servlet-name>
  <display-name>BLCSimpleFormSettingServlet</display-name>

<servlet-class>jp.co.Hitachi.soft.blc.simpleform.BLCSimpleFormSettingServlet</
servlet-class>
</servlet>
<servlet>
  <servlet-name>BLCSimplePreviewServlet</servlet-name>
  <display-name>BLCSimplePreviewServlet</display-name>
  <servlet-class>jp.co.Hitachi.soft.blc.simpleform.BLCSimplePreviewServlet</
servlet-class>
</servlet>
```



```
<home>jp.co.Hitachi.soft.csciw.definer.server.AuthenticationManagerHome</home>
<remote>jp.co.Hitachi.soft.csciw.definer.server.AuthenticationManager</remote>
</ejb-ref>
<ejb-ref>
  <ejb-ref-name>CSCIWDefinitionServer</ejb-ref-name>
  <ejb-ref-type>Session</ejb-ref-type>

  <home>jp.co.Hitachi.soft.csciw.definer.server.DefinitionServerHome</home>
  <remote>jp.co.Hitachi.soft.csciw.definer.server.DefinitionServer</remote>
</ejb-ref>
</web-app>
```

付録 F Portal Framework のリポジトリファイル

Portal Framework のリポジトリファイルに次の内容を追加してください。

表 F-1 Portal Framework のリポジトリファイルへの追加項目

項目	属性	設定値
connection-info	name	BLC
	dbms	<ul style="list-style-type: none"> • HiRDB の場合 HiRDB • Oracle の場合 Oracle • SQL Server の場合 SQLServer
	type	DB
jndi		java:comp/env/BLC
waittime		0
resource	name	PORTAL_USER
	type	DB
connection		BLC
table	name	BLC_USER_INFO_T
	key	CDUSER
resource	name	BLC_USER
	type	DB
connection		BLC
table	name	BLC_USER_INFO_T
	key	CDUSER
portal-mapping		

項目	属性	設定値
portalUser		
	Mapping	cosmi
		dest LOGIN_NAME
		src CDUSER
	Mapping	PORTAL_USER
		options multivalue=zip
		dest PersonalizeKey
		type string
		src BNPERSONALIZEINFO
	Mapping	BLC_USER
		dest BLC_USERLASTNAME
		type string
		src NMLASTNAMEJ
	Mapping	BLC_USER
		dest BLC_USERFIRSTNAME
		type string
		src NMFIRSTNAMEJ

(凡例)

空欄：属性および設定値がないことを表します。

データベースに HiRDB を利用した場合のリポジトリファイルの例を示します。

```

<?xml version="1.0" encoding="Windows-31J"?>
<!--All Rights Reserved. Copyright (C) 2008, Hitachi, Ltd.-->
<!--This file is for the easy setup tool of Hitachi Business Logic - Container
2.-->

<repository version="0200" xmlns="http://portal.soft.hitachi.co.jp/portal/
Repository2">
  <connection-info name="BLC" dbms="HiRDB" type="DB">
    <jndi>java:comp/env/BLC</jndi>
    <waittime>0</waittime>
  </connection-info>
  <resource name="cosmi" type="cosminexus"/>
  <resource name="PORTAL_USER" type="DB">
    <connection>BLC</connection>
    <table name="BLC_PORTAL_INFO_T" key="CDUSER"/>
  </resource>
  <resource name="BLC_USER" type="DB">
    <connection>BLC</connection>
    <table name="BLC_USER_INFO_T" key="CDUSER"/>
  </resource>
  <portal-mapping>
    <portalUser>
      <Mapping dest="LOGIN_NAME" src="CDUSER">cosmi</Mapping>
      <Mapping options="multivalue=zip" dest="PersonalizeKey" type="string"
src="BNPERSONALIZEINFO">PORTAL_USER</Mapping>
      <Mapping dest="BLC_USERLASTNAME" type="string"
src="NMLASTNAMEJ">BLC_USER</Mapping>
      <Mapping dest="BLC_USERFIRSTNAME" type="string"
src="NMFIRSTNAMEJ">BLC_USER</Mapping>
    </portalUser>
  </portal-mapping>
</repository>

```

付録 G エラーコードの参照先

電子フォームワークフローシステムの構築時に出力されるエラーコードごとに、参照先のマニュアルについて示します。

表 G-1 エラーコードの参照先

エラーコード	エラー対象	参照マニュアル
KDIW	CSCIW	uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow メッセージ
KDJE	Cosminexus	Cosminexus メッセージ 1 KAWS / KDAL / KDJE 編
KDSS,KEOS,KFC B	Cosminexus	Cosminexus メッセージ 2 KEOS / KEUC / KFCB 編
KFCT,KFDB,KFDJ	Cosminexus	Cosminexus メッセージ 3 KFCT / KFDB / KFDJ 編
KDLC	BLC	Hitachi Business Logic - Container 2
KDLG	BLSG	Hitachi Business Logic - Container 2
KFPA ~ KFPZ	HiRDB	スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 メッセージ
KEEV	EUR Form Service	電子フォームシステム EUR Form uCosminexus EUR Form サーバプログラム開発
KEEX	EUR Form Client	電子フォームシステム EUR Form uCosminexus EUR Form クライアント操作
KDPF	Portal Framework	uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド

付録 H 簡易セットアップ時に出力されるメッセージ

簡易セットアップ時に出力されるメッセージについて説明します。

付録 H.1 メッセージの形式

簡易セットアップ時に出力されるメッセージの形式について説明します。

(1) メッセージの形式

簡易セットアップ時に出力されるメッセージは、メッセージ ID とそれに続くメッセージテキストから構成されます。メッセージの形式を次に示します。

KDLCnnnn-Z メッセージテキスト

メッセージの意味を次に示します。

KDLC

BLC で出力されたことを表します。

nnnn

メッセージの番号です。

Z

メッセージの種類を表します。次にその意味を示します。

I：システムの動作を通知します。

E：障害が発生したので、処理を中断します。

W：処理は続行しますが、障害が発生したので警告します。

メッセージテキスト

メッセージの内容を説明しています。

(2) マニュアルのメッセージの見方

このマニュアルでは、メッセージをメッセージ ID の番号順に並べています。各メッセージは、メッセージテキスト、要因、対応の順に説明してあります。

付録 H.2 KDLC6001 ~ KDLC6100

KDLC6001-I

簡易セットアップツールのセットアップを開始します。

要因

簡易セットアップツールのセットアップを開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6002-I

簡易セットアップツールのセットアップを終了します。

要因

簡易セットアップツールのセットアップを終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6003-I

スクリプトファイル編集を開始します。

要因

スクリプトファイルの編集を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6004-I

スクリプトファイル編集を終了します。

要因

スクリプトファイルの編集を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6005-I

指定した値を表示します。(プロパティ = [< プロパティ名 >], 値 = [< 入力値 >])

要因

簡易セットアップ画面で指定した値を表示します。

対処

必要ありません。

KDLC6006-I

コマンド応答 : ([< 標準出力 / 標準エラー出力の内容 >])

要因

簡易セットアップツールで実行したコマンドの応答を表示します。

対処

必要ありません。

KDLC6007-I

書式 : blc2easysetup

要因

簡易セットアップツール (blc2easysetup) の使用方法を表示します。

対処

簡易セットアップツール (blc2easysetup) の使用方法を確認してください。

KDLC6008-I

簡易セットアップツールのアンセットアップを開始します。

要因

簡易セットアップツールのアンセットアップを開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6009-I

簡易セットアップツールのアンセットアップを終了します。

要因

簡易セットアップツールのアンセットアップを終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6021-I

メッセージを表示します。(メッセージ = [<メッセージ >])

要因

メッセージを表示します。

対処

必要ありません。

KDLC6022-I

ファイル編集を実行します。(詳細情報 = [<編集対象のファイル名 >])

要因

ファイルの編集を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6023-I

DB に関する構築を開始します。

要因

データベースに関する環境の構築を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6024-I

DB に関する構築を終了します。

要因

データベースに関する環境の構築を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6025-I

組み込み DB の構築を開始します。

要因

組み込みデータベースの構築を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6026-I

組み込み DB の構築を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

組み込みデータベースの構築を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6027-I

組み込み DB の構築を終了します。

要因

組み込みデータベースの構築を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6028-I

DB テーブル作成とサンプルデータ登録を開始します。

要因

データベースのテーブルの作成とサンプルデータの登録を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6029-I

DB テーブル作成とサンプルデータ登録を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

データベースのテーブルの作成とサンプルデータの登録を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6030-I

DB テーブル作成とサンプルデータ登録を終了します。

要因

データベースのテーブルの作成とサンプルデータの登録を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6031-I

Cosminexus Manager に関する構築を開始します。

要因

Cosminexus Manager に関する環境の構築を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6032-I

Cosminexus Manager に関する構築を終了します。

要因

Cosminexus Manager に関する環境の構築を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6033-I

Cosminexus Manager の構築を開始します。

要因

Cosminexus Manager の構築を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6034-I

Cosminexus Manager の構築を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

Cosminexus Manager の構築を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6035-I

Cosminexus Manager の構築を終了します。

要因

Cosminexus Manager の構築を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6036-I

Cosminexus Manager の起動を開始します。

要因

Cosminexus Manager の起動を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6037-I

Cosminexus Manager の起動を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

Cosminexus Manager の起動を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6038-I

Cosminexus Manager の起動を終了します。

要因

Cosminexus Manager の起動を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6039-I

論理サーバの構築を開始します。

要因

論理サーバの構築を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6040-I

論理サーバの構築を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

論理サーバの構築を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6041-I

論理サーバの構築を終了します。

要因

論理サーバの構築を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6042-I

論理サーバの起動を開始します。

要因

論理サーバの起動を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6043-I

論理サーバの起動を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

論理サーバの起動を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6044-I

論理サーバの起動を終了します。

要因

論理サーバの起動を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6045-I

DB Connector の構築を開始します。

要因

DB Connector の構築を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6046-I

DB Connector の構築を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

DB Connector の構築を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6047-I

DB Connector の構築を終了します。

要因

DB Connector の構築を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6048-I

DB Connector の開始を開始します。

要因

DB Connector を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6049-I

DB Connector の開始を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

DB Connector の開始を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6050-I

DB Connector の開始を終了します。

要因

DB Connector の開始を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6051-I

uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow に関する構築を開始します。

要因

CSCIW に関する環境の構築を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6052-I

uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow に関する構築を終了します。

要因

CSCIW に関する環境の構築を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6053-I

uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow の設定を開始します。

要因

CSCIW の設定を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6054-I

uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow の設定を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

CSCIW の設定を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6055-I

uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow の設定を終了します。

要因

CSCIW の設定を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6056-I

CSCIWManagementServer の構築を開始します。

要因

CSCIWManagementServer の構築を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6057-I

CSCIWManagementServer の構築を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

CSCIWManagementServer の構築を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6058-I

CSCIWManagementServer の構築を終了します。

要因

CSCIWManagementServer の構築を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6059-I

CSCIWManagementServer の開始を開始します。

要因

CSCIWManagementServer を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6060-I

CSCIWManagementServer の開始を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

CSCIWManagementServer の開始を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6061-I

CSCIWManagementServer の開始を終了します。

要因

CSCIWManagementServer の開始を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6062-I

案件運用操作の構築を開始します。

要因

案件運用操作の構築を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6063-I

案件運用操作の構築を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

案件運用操作の構築を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6064-I

案件運用操作の構築を終了します。

要因

案件運用操作の構築を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6065-I

案件運用操作の開始を開始します。

要因

案件運用操作を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6066-I

案件運用操作の開始を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

案件運用操作の開始を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6067-I

案件運用操作の開始を終了します。

要因

案件運用操作の開始を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6068-I

Hitachi Business Logic - Container 2 に関する構築を開始します。

要因

BLC に関する環境の構築を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6069-I

Hitachi Business Logic - Container 2 に関する構築を終了します。

要因

BLC に関する環境の構築を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6070-I

振り分けルール定義の登録を開始します。

要因

振り分けルール定義の登録を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6071-I

振り分けルール定義の登録を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

振り分けルール定義の登録を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6072-I

振り分けルール定義の登録を終了します。

要因

振り分けルール定義の登録を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6073-I

ビジネスプロセス定義の登録を開始します。

要因

ビジネスプロセス定義の登録を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6074-I

ビジネスプロセス定義の登録を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

ビジネスプロセス定義の登録を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6075-I

ビジネスプロセス定義の登録を終了します。

要因

ビジネスプロセス定義の登録を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6076-I

サンプル帳票アプリケーションの環境構築を開始します。

要因

サンプルで提供している Web 帳票アプリケーションの環境構築を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6077-I

サンプル帳票アプリケーションの環境構築を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

サンプルで提供している Web 帳票アプリケーションの環境構築を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6078-I

サンプル帳票アプリケーションの環境構築を終了します。

要因

サンプルで提供している Web 帳票アプリケーションの環境構築を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6079-I

サンプル帳票アプリケーションの構築を開始します。

要因

サンプルで提供している Web 帳票アプリケーションの構築を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6080-I

サンプル帳票アプリケーションの構築を実行します。(詳細情報 = [<実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

サンプルで提供している Web 帳票アプリケーションの構築を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6081-I

サンプル帳票アプリケーションの構築を終了します。

要因

サンプルで提供している Web 帳票アプリケーションの構築を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6082-I

サンプル帳票アプリケーションの開始を開始します。

要因

サンプルで提供している Web 帳票アプリケーションを開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6083-I

サンプル帳票アプリケーションの開始を実行します。(詳細情報 = [<実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

サンプルで提供している Web 帳票アプリケーションの開始を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6084-I

サンプル帳票アプリケーションの開始を終了します。

要因

サンプルで提供している Web 帳票アプリケーションの開始を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6085-I

ファイルコピーを実行します。(詳細情報 = [< コピー対象のファイル名 >])

要因

ファイルコピーを実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6086-I

ファイルの削除を実行します。(詳細情報 = [< 削除対象のファイル名 >])

要因

ファイルの削除を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6087-I

ディレクトリの削除を実行します。(詳細情報 = [< 削除対象のディレクトリ名 >])

要因

ディレクトリの削除を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6088-I

論理サーバの設定を開始します。

要因

論理サーバの設定を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6089-I

論理サーバの設定を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

論理サーバの設定を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6090-I

論理サーバの設定を終了します。

要因

論理サーバの設定を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6091-I

uCosminexus Portal Framework に関する構築を開始します。

要因

Portal Framework に関する環境の構築を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6092-I

uCosminexus Portal Framework に関する構築を終了します。

要因

Portal Framework に関する環境の構築を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6093-I

CosmiPortal の設定を開始します。

要因

Portal Framework の設定を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6094-I

CosmiPortal の設定を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

Portal Framework の設定を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6095-I

CosmiPortal の設定を終了します。

要因

Portal Framework の設定を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6096-I

ポータルプロジェクトの設定を開始します。

要因

ポータルプロジェクトの設定を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6097-I

ポータルプロジェクトの設定を実行します。(詳細情報 = [<実行するコマンド名またはバッチ名>])

要因

ポータルプロジェクトの設定を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6098-I

ポータルプロジェクトの設定を終了します。

要因

ポータルプロジェクトの設定を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6099-I

ポートレットの作成を開始します。

要因

ポートレットの作成を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6100-I

ポートレットの作成を実行します。(詳細情報 = [<実行するコマンド名またはバッチ名>])

要因

ポートレットの作成を実行します。

対処

必要ありません。

付録 H.3 KDLC6101 ~ KDLC6200

KDLC6101-W

ホスト名に localhost を指定して構築しています。(プロパティ = [< プロパティ名 >])

要因

ホスト名に localhost を指定して構築しています。
ホスト名または IP アドレスを指定するのではなく、localhost を指定して簡易セットアップを実行する場合は、構築後に使用できる機能に制限があります。

対処

必要ありません。

KDLC6102-W

メッセージログの終了処理に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

メッセージログの終了処理に失敗しました。

対処

メッセージログの終了処理に失敗しましたが、処理を継続します。メッセージログの出力先の状態を見直して、障害要因を取り除いてください。

KDLC6103-W

メンテナンスログの終了処理に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

メンテナンスログの終了処理に失敗しました。

対処

メンテナンスログの終了処理に失敗しましたが、処理を継続します。メンテナンスログの出力先の状態を見直して、障害要因を取り除いてください。

KDLC6104-W

簡易セットアップツールのアンセットアップに失敗しました。

要因

簡易セットアップツールのアンセットアップに失敗しました。

対処

出力されたメッセージを参照して、エラー要因の対策が必要かどうか判断してください。必要な場合は、対策をしてください。
エラー要因の判断方法については、「6.8(5) 警告メッセージの対処の判断方法」を参照してください。

KDLC6105-W

ファイル操作の終了処理に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

ファイル操作の終了処理に失敗しました。

対処

ファイル操作の終了処理に失敗しましたが、処理を継続します。

KDLC6121-W

論理サーバの停止に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

論理サーバの停止に失敗しました。

対処

論理サーバの停止に失敗しましたが、処理を継続します。

出力されたほかのメッセージも参照して、エラーへの対策が必要かどうか判断し、必要な場合は対策をしてください。対策が必要かどうか判断する方法については、「6.8(5) 警告メッセージの対処の判断方法」を参照してください。

KDLC6122-W

論理サーバの削除に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

論理サーバの削除に失敗しました。

対処

論理サーバの削除に失敗しましたが、処理を継続します。

出力されたほかのメッセージも参照して、エラーへの対策が必要かどうか判断し、必要な場合は対策をしてください。対策が必要かどうか判断する方法については、「6.8(5) 警告メッセージの対処の判断方法」を参照してください。

KDLC6123-W

Cosminexus Manager の停止に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

Cosminexus Manager の停止に失敗しました。

対処

Cosminexus Manager の停止に失敗しましたが、処理を継続します。

出力されたほかのメッセージも参照して、エラーへの対策が必要かどうか判断し、必要な場合は対策をしてください。対策が必要かどうか判断する方法については、「6.8(5) 警告メッセージの対処の判断方法」を参照してください。

KDLC6124-W

Cosminexus Manager のバックアップに失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

Cosminexus Manager のバックアップに失敗しました。

対処

Cosminexus Manager のバックアップに失敗しましたが、処理を継続します。
出力されたほかのメッセージも参照して、エラーへの対策が必要かどうか判断し、
必要な場合は対策をしてください。対策が必要かどうか判断する方法については、
「6.8(5) 警告メッセージの対処の判断方法」を参照してください。

KDLC6125-W

Cosminexus Manager の初期化に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

Cosminexus Manager の停止に失敗しました。

対処

Cosminexus Manager の停止に失敗しましたが、処理を継続します。
出力されたほかのメッセージも参照して、エラーへの対策が必要かどうか判断し、
必要な場合は対策をしてください。対策が必要かどうか判断する方法については、
「6.8(5) 警告メッセージの対処の判断方法」を参照してください。

KDLC6126-W

Cosminexus Manager の削除に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

Cosminexus Manager の停止に失敗しました。

対処

Cosminexus Manager の削除に失敗しましたが、処理を継続します。
出力されたほかのメッセージも参照して、エラーへの対策が必要かどうか判断し、
必要な場合は対策をしてください。対策が必要かどうか判断する方法については、
「6.8(5) 警告メッセージの対処の判断方法」を参照してください。

KDLC6127-W

CSCIWManagementServer の削除に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

CSCIWManagementServer の削除に失敗しました。

対処

CSCIWManagementServer の削除に失敗しましたが、処理を継続します。
出力されたほかのメッセージも参照して、エラーへの対策が必要かどうか判断し、
必要な場合は対策をしてください。対策が必要かどうか判断する方法については、

「6.8(5) 警告メッセージの対処の判断方法」を参照してください。

KDLC6128-W

uCosminexus Portal Framework の初期化に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

Portal Framework の初期化に失敗しました。

対処

Portal Framework の初期化に失敗しましたが、処理を継続します。

出力されたほかのメッセージも参照して、エラーへの対策が必要かどうか判断し、必要な場合は対策をしてください。対策が必要かどうか判断する方法については、「6.8(5) 警告メッセージの対処の判断方法」を参照してください。

KDLC6129-W

uCosminexus Portal Framework の削除に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

Portal Framework の削除に失敗しました。

対処

Portal Framework の削除に失敗しましたが、処理を継続します。

出力されたほかのメッセージも参照して、エラーへの対策が必要かどうか判断し、必要な場合は対策をしてください。対策が必要かどうか判断する方法については、「6.8(5) 警告メッセージの対処の判断方法」を参照してください。

KDLC6130-W

Hitachi Business Logic - Container 2 の削除に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

BLC の削除に失敗しました。

対処

BLC の削除に失敗しましたが、処理を継続します。

出力されたほかのメッセージも参照して、エラーへの対策が必要かどうか判断し、必要な場合は対策をしてください。対策が必要かどうか判断する方法については、「6.8(5) 警告メッセージの対処の判断方法」を参照してください。

KDLC6131-W

組み込み DB の削除に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

組み込みデータベースの削除に失敗しました。

対処

組み込みデータベースの削除に失敗しましたが、処理を継続します。

出力されたほかのメッセージも参照して、エラーへの対策が必要かどうか判断し、必要な場合は対策をしてください。対策が必要かどうか判断する方法については、「6.8(5) 警告メッセージの対処の判断方法」を参照してください。

付録 H.4 KDLC6201 ~ KDLC6600

KDLC6201-E

簡易セットアップツールのセットアップに失敗しました。

要因

簡易セットアップツールのセットアップに失敗しました。

対処

直前に出力されたエラーメッセージの内容から障害要因を特定し、除去してください。また、「6.9.3 障害からの回復方法（システム構築時）」に示す環境の回復方法に従って構築環境を初期状態に戻し、再度セットアップを実行してください。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。

KDLC6202-E

ファイルの読み込みに失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

ファイルの読み込みに失敗しました。

対処

出力されたメッセージを参照してエラー要因の対策をしてください。

KDLC6203-E

ファイルの書き込みに失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

ファイルの書き込みに失敗しました。

対処

出力されたメッセージを参照してエラー要因の対策をしてください。

KDLC6204-E

ディレクトリの指定が不正です。(プロパティ = [< プロパティ名 >], 値 = [< 不正なディレクトリ >])

要因

ディレクトリの指定が不正です。

対処

正しいディレクトリを指定してください。

KDLC6205-E

ポート番号が不正です。(プロパティ = [< プロパティ名 >], 値 = [< 不正なポート番号 >])

要因

ポート番号が不正です。

対処

正しいポート番号を指定してください。

KDLC6206-E

プロパティで指定した指定値が範囲外です。(プロパティ = [< プロパティ名 >], 値 = [< 不正な値 >])

要因

プロパティで指定した指定値が範囲外です。

対処

プロパティに正しい値を指定してください。

KDLC6207-E

パラメタで指定した文字列の長さが不正です。(プロパティ = [< プロパティ名 >], 文字列長 = [< 文字列長 >])

要因

パラメタで指定した文字列の長さが不正です。

対処

プロパティに正しい文字列を指定してください。

KDLC6208-E

プロパティの値が指定されていません。(プロパティ = [< プロパティ名 >])

要因

プロパティの値が指定されていません。

対処

プロパティに正しい値を指定してください。

KDLC6209-E

プロパティに指定した値が不正です。(プロパティ = [< プロパティ名 >], 値 = [< 不正な値 >])

要因

プロパティに指定した値が不正です。次の要因が考えられます。

- 文字を選択するプロパティに、選択対象外の文字を指定した場合
- 数字を指定するプロパティに、数字ではない文字を指定した場合
- 数字を指定するプロパティに、-2,147,483,648 ~ 2,147,483,647 の範囲外の文字を指定した場合

対処

プロパティに正しい値を指定してください。

KDLC6210-E

指定がディレクトリではありません。(詳細情報 = [<ディレクトリ名 >])

要因

ディレクトリが指定されていません。

対処

ディレクトリを指定してください。

KDLC6211-E

ディレクトリの作成に失敗しました。(詳細情報 = [<ディレクトリ名 >])

要因

ディレクトリの作成に失敗しました。

対処

ディレクトリを作成できない原因を取り除いてください。

KDLC6212-E

ディレクトリの削除に失敗しました。(詳細情報 = [<ディレクトリ名 >])

要因

ディレクトリの削除に失敗しました。

対処

ディレクトリを削除できない原因を取り除いてください。

KDLC6213-E

ファイルの削除に失敗しました。(詳細情報 = [<ファイル名 >])

要因

ファイルの削除に失敗しました。

対処

ファイルを削除できない原因を取り除いてください。

KDLC6214-E

プロパティが指定されていません。(プロパティ = [<プロパティ名 >])

要因

プロパティが指定されていません。

対処

プロパティを指定してください。

KDLC6215-E

メッセージログの初期化に失敗しました。(詳細情報 = [<エラーの詳細情報 >])

要因

メッセージログの初期化に失敗しました。

対処

メッセージログの出力先の状態を見直して、障害要因を取り除いてください。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。

KDLC6216-E

メンテナンスログの初期化に失敗しました。(詳細情報 = [<エラーの詳細情報 >])

要因

メンテナンスログの初期化に失敗しました。

対処

ログ出力先の状態を見直して障害要因を取り除いてください。
問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。

KDLC6217-E

引数が不正です。

要因

引数が不正です。

対処

コマンドの書式を確認してください。

KDLC6218-E

フレームワークがエラーリターンしました。(詳細情報 = [<エラーの詳細情報 >])

要因

フレームワークがエラーリターンしました。

対処

管理者に連絡してください。

KDLC6219-E

プロパティ名が不正です。(プロパティ = [<プロパティ名 >])

要因

不正なプロパティ名が指定されています。

対処

正しいプロパティ名を指定してください。

KDLC6220-E

簡易セットアップツールの起動に失敗しました。

要因

簡易セットアップツールの起動に失敗しました。

対処

直前に出力されたエラーメッセージの内容から障害要因を取り除いてください。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。

KDLC6221-E

ファイル編集に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

ファイル編集に失敗しました。

対処

詳細情報を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6222-E

ファイルのコピーに失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

ファイルのコピーに失敗しました。

対処

詳細情報を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6223-E

組み込み DB の構築に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

組み込みデータベースの構築に失敗しました。

対処

この前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6224-E

DB テーブル作成とサンプルデータ登録に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

データベースのテーブル作成とサンプルデータの登録に失敗しました。(詳細情報 = [エラーの詳細情報])

対処

この前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り

除いてください。

KDLC6225-E

Cosminexus Manager の構築に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

Cosminexus Manager の構築に失敗しました。

対処

この前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6226-E

Cosminexus Manager の起動に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

Cosminexus Manager の起動に失敗しました。

対処

この前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6227-E

論理サーバの構築に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

論理サーバの構築に失敗しました。

対処

この前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6228-E

論理サーバの起動に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

論理サーバの起動に失敗しました。

対処

この前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6229-E

DB Connector の構築に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

DB Connector の構築に失敗しました。

対処

この前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6230-E

DB Connector の開始に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

DB Connector の開始に失敗しました。

対処

この前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6231-E

uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow の設定に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

CSCIW の設定に失敗しました。

対処

この前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6232-E

CSCIWManagementServer の構築に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

CSCIWManagementServer の構築に失敗しました。

対処

この前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6233-E

CSCIWManagementServer の開始に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

CSCIWManagementServer の開始に失敗しました。

対処

この前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6234-E

案件運用操作の構築に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

案件運用操作の構築に失敗しました。

対処

この前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6235-E

案件運用操作の開始に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

案件運用操作の開始に失敗しました。

対処

この前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6236-E

振り分けルール定義の登録に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

振り分けルール定義の登録に失敗しました。

対処

この前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6237-E

ビジネスプロセス定義の登録に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

ビジネスプロセス定義の登録に失敗しました。

対処

この前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6238-E

サンプル帳票アプリケーションの環境構築に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

サンプルで提供している Web 帳票アプリケーションの環境構築に失敗しました。

対処

この前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6239-E

サンプル帳票アプリケーションの構築に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

サンプルで提供している Web 帳票アプリケーションの構築に失敗しました。

対処

この前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6240-E

サンプル帳票アプリケーションの開始に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

サンプルで提供している Web 帳票アプリケーションの開始に失敗しました。

対処

この前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6241-E

電子フォームワークフロー 簡易セットアップ以外でセットアップされた環境が存在します。

セットアップされている環境をアンセットアップしてください。

要因

下記機能などにより、別の環境が構築されている可能性があります。

- Cosminexus のインスタントセットアップ機能

対処

すでに構築されていた環境を削除して、前提ソフトウェアが使用されていない状態に戻してください。

KDLC6242-E

別の簡易セットアップツールが起動中です。

要因

別の簡易セットアップツールが起動中です。

対処

すでに起動していた簡易セットアップツールの処理が終了してから再度実行してください。

KDLC6243-E

簡易セットアップ画面の起動モードが不正です。

要因

簡易セットアップ画面の起動モードが不正です。

対処

管理者に連絡してください。

KDLC6244-E

ファイルロック取得処理で異常を検知しました。

要因

ファイルロック取得処理で異常を検知しました。

対処

ファイルロック処理が実行できない要因を取り除いてください。

KDLC6245-E

ファイルの削除に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

ファイルの削除に失敗しました。

対処

詳細情報を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6246-E

ディレクトリの削除に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

ディレクトリの削除に失敗しました。

対処

詳細情報を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6247-E

論理サーバの設定に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

論理サーバの設定に失敗しました。

対処

このメッセージの前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6248-E

CosmiPortal の設定に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

Portal Framework の設定に失敗しました。

対処

このメッセージの前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6249-E

ポータルプロジェクトの設定に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

ポータルプロジェクトの設定に失敗しました。

対処

このメッセージの前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6250-E

ポートレットの作成に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

ポートレットの作成に失敗しました。

対処

このメッセージの前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6251-E

ポートレットの登録に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

ポートレットの登録に失敗しました。

対処

このメッセージの前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6252-E

統合ユーザ管理機能の設定に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

統合ユーザ管理機能の設定に失敗しました。

対処

このメッセージの前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6253-E

Management Server アクセス用環境の設定に失敗しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

Management Server アクセス用環境の設定に失敗しました。

対処

この前に出力されている KDLC6006-I メッセージの内容を参照し、障害要因を取り除いてください。

KDLC6254-E

環境変数が設定されていません。(詳細情報 = [< 環境変数名 >])

要因

環境変数が設定されていません。

対処

環境変数を設定してください。

KDLC6501-E

ファイルが存在しません。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

ファイルの参照に失敗しました。

対処

インストールプログラムまたはシステム環境変数を見直してください。

KDLC6502-E

権限の判定中にエラーが発生しました。

要因

メモリが不足している可能性があります。

対処

空きメモリを増やしてから、再度コマンドを実行してください。

KDLC6503-E

管理者特権が無いためコマンドを実行できません。

要因

管理者特権が無いためコマンドを実行できません。

対処

管理者として実行したコマンドプロンプト上で、コマンドを再度実行してください。

付録 H.5 KDLC6601 ~ KDLC6999

KDLC6601-I

ポートレットの作成を終了します。

要因

ポートレットの作成を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6602-I

ポートレットの登録を開始します。

要因

ポートレットの登録を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6603-I

ポートレットの登録を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

ポートレットの登録を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6604-I

ポートレットの登録を終了します。

要因

ポートレットの登録を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6605-I

統合ユーザ管理機能の設定を開始します。

要因

統合ユーザ管理機能の設定を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6606-I

統合ユーザ管理機能の設定を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

統合ユーザ管理機能の設定を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6607-I

統合ユーザ管理機能の設定を終了します。

要因

統合ユーザ管理機能の設定を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6608-I

論理サーバに関する削除を開始します。

要因

論理サーバに関する環境の削除を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6609-I

論理サーバに関する削除を終了します。

要因

論理サーバに関する環境の削除を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6610-I

論理サーバの停止を開始します。

要因

論理サーバの停止を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6611-I

論理サーバの停止を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

論理サーバの停止を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6612-I

論理サーバの停止を終了します。

要因

論理サーバの停止を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6613-I

論理サーバの削除を開始します。

要因

論理サーバの削除を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6614-I

論理サーバの削除を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

論理サーバの削除を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6615-I

論理サーバの削除を終了します。

要因

論理サーバの削除を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6616-I

Cosminexus Manager に関する削除を開始します。

要因

Cosminexus Manager に関する環境の削除を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6617-I

Cosminexus Manager に関する削除を終了します。

要因

Cosminexus Manager に関する環境の削除を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6618-I

Cosminexus Manager の停止を開始します。

要因

Cosminexus Manager の停止を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6619-I

Cosminexus Manager の停止を実行します。(詳細情報 = [<実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

Cosminexus Manager の停止を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6620-I

Cosminexus Manager の停止を終了します。

要因

Cosminexus Manager の停止を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6621-I

Cosminexus Manager のバックアップを開始します。

要因

Cosminexus Manager のバックアップを開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6622-I

Cosminexus Manager のバックアップを実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

Cosminexus Manager のバックアップを実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6623-I

Cosminexus Manager のバックアップを終了します。

要因

Cosminexus Manager のバックアップを終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6624-I

Cosminexus Manager の初期化を開始します。

要因

Cosminexus Manager の初期化を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6625-I

Cosminexus Manager の初期化を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

Cosminexus Manager の初期化を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6626-I

Cosminexus Manager の初期化を終了します。

要因

Cosminexus Manager の初期化を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6627-I

Cosminexus Manager の削除を開始します。

要因

Cosminexus Manager の削除を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6628-I

Cosminexus Manager の削除を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

Cosminexus Manager の削除を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6629-I

Cosminexus Manager の削除を終了します。

要因

Cosminexus Manager の削除を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6630-I

uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow に関する削除を開始します。

要因

CSCIW に関する環境の削除を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6631-I

uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow に関する削除を終了します。

要因

CSCIW に関する環境の削除を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6632-I

CSCIWManagementServer の削除を開始します。

要因

CSCIWManagementServer の削除を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6633-I

CSCIWManagementServer の削除を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

CSCIWManagementServer の削除を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6634-I

CSCIWManagementServer の削除を終了します。

要因

CSCIWManagementServer の削除を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6635-I

uCosminexus Portal Framework に関する削除を開始します。

要因

Portal Framework に関する環境の削除を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6636-I

uCosminexus Portal Framework に関する削除を終了します。

要因

Portal Framework に関する環境の削除を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6637-I

uCosminexus Portal Framework の初期化を開始します。

要因

Portal Framework の初期化を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6638-I

uCosminexus Portal Framework の初期化を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

Portal Framework の初期化を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6639-I

uCosminexus Portal Framework の初期化を終了します。

要因

Portal Framework の初期化を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6640-I

uCosminexus Portal Framework の削除を開始します。

要因

Portal Framework の削除を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6641-I

uCosminexus Portal Framework の削除を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

Portal Framework の削除を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6642-I

uCosminexus Portal Framework の削除を終了します。

要因

Portal Framework の削除を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6643-I

Hitachi Business Logic - Container 2 に関する削除を開始します。

要因

BLC に関する環境の削除を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6644-I

Hitachi Business Logic - Container 2 に関する削除を終了します。

要因

BLC に関する環境の削除を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6645-I

Hitachi Business Logic - Container 2 の削除を開始します。

要因

BLC の削除を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6646-I

Hitachi Business Logic - Container 2 の削除を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

BLC の削除を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6647-I

Hitachi Business Logic - Container 2 の削除を終了します。

要因

BLC の削除を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6648-I

DB に関する削除を開始します。

要因

データベースに関する環境の削除を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6649-I

DB に関する削除を終了します。

要因

データベースに関する環境の削除を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6650-I

組み込み DB の削除を開始します。

要因

組み込みデータベースの削除を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6651-I

組み込み DB の削除を実行します。(詳細情報 = [<実行するコマンド名またはバッチ名>])

要因

組み込みデータベースの削除を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6652-I

組み込み DB の削除を終了します。

要因

組み込みデータベースの削除を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6653-I

Management Server アクセス用環境の設定を開始します。

要因

Management Server アクセス用環境の設定を開始します。

対処

必要ありません。

KDLC6654-I

Management Server アクセス用環境の設定を実行します。(詳細情報 = [< 実行するコマンド名またはバッチ名 >])

要因

Management Server アクセス用環境の設定を実行します。

対処

必要ありません。

KDLC6655-I

Management Server アクセス用環境の設定を終了します。

要因

Management Server アクセス用環境の設定を終了します。

対処

必要ありません。

KDLC6999-E

予期しないエラーが発生しました。(詳細情報 = [< エラーの詳細情報 >])

要因

予期しないエラーが発生しました。

対処

管理者に連絡してください。

付録I このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

付録 I.1 関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

- 電子フォームワークフローセット アプリケーション開発ガイド (3020-3-N67)
電子フォームワークフローセットおよび電子フォームワークフロー ディベロッパセットを利用して Web 帳票アプリケーションを開発する方法について説明しています。
- Hitachi Business Logic - Container 2 (3020-3-N68)
BLC の機能, 操作方法, および運用方法について説明しています。
- Hitachi Business Logic - Container 2 Java™ クラスリファレンス (3020-3-N69)
BLC が提供する Java クラスおよびオブジェクトについて説明しています。
- 電子フォームワークフローセット 作ってみよう かんたん帳票 (3020-3-N70)
電子フォームワークフローのかんたん開発機能を利用して, かんたん帳票を作成する方法について説明しています。かんたん帳票を初めて作る人を対象とした内容です。
- Cosminexus 機能解説 (3020-3-M03)
アプリケーションサーバ (Cosminexus) の概要と提供する機能について説明しています。
- Cosminexus システム設計ガイド (3020-3-M04)
アプリケーションサーバ (Cosminexus) のシステム設計時に, システムの目的に応じたシステム構成や運用方法を検討するための指針について説明しています。また, チューニングの方法についても説明しています。
- Cosminexus 簡易構築・運用ガイド (3020-3-M05)
セットアップウィザードおよび Smart Composer 機能を使用して, アプリケーションサーバ (Cosminexus) を構築・運用する手順について説明しています。また, セットアップウィザードおよび Smart Composer 機能が提供するコマンドやファイルについて説明しています。
- Cosminexus システム構築ガイド (3020-3-M06)
アプリケーションサーバ (Cosminexus) のシステム構築時に必要な機能の設定方法について説明しています。
- Cosminexus システム運用ガイド (3020-3-M07)
アプリケーションサーバ (Cosminexus) の運用方法のうち, Smart Composer 機能を使用する運用以外の方法について説明しています。
- Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド (3020-3-M08)
Cosminexus が提供するサーバ管理コマンド, および Server Plug-in を使用した操作について説明しています。
- Cosminexus リファレンス コマンド編 (3020-3-M10)

アプリケーションサーバ (Cosminexus) を構築・運用するときに使用するコマンドについて説明しています。

- Cosminexus リファレンス 定義編 (3020-3-M11)
アプリケーションサーバ (Cosminexus) を構築・運用するときに使用するファイルの形式について説明しています。
- Hitachi Web Server (3020-3-M15)
Web サーバ (Hitachi Web Server) の構築, 管理方法について説明しています。
- Cosminexus メッセージ 1 KAWS / KDAL / KDJE 編 (3020-3-M20),
Cosminexus メッセージ 2 KEOS / KEUC / KFCB 編 (3020-3-M21),
Cosminexus メッセージ 3 KFCT / KFDB / KFDJ 編 (3020-3-M22)
Cosminexus で出力されるメッセージについて説明しています。
- Cosminexus アプリケーション開発ガイド (3020-3-M41)
アプリケーションサーバ (Cosminexus) 上で動作させる, アプリケーションの開発方法について説明しています。
- uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow システム構築・運用ガイド (3020-3-M80)
uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow (CSCIW) の概要およびシステムの構築・運用方法について説明しています。
- uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow メッセージ (3020-3-M83)
uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow (CSCIW) で出力されるメッセージについて説明しています。
- uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow コマンド (3020-3-M84)
uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow (CSCIW) の環境構築および運用で使用するコマンドについて説明しています。
- uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド (3020-3-H71)
uCosminexus Portal Framework 全体の機能およびポータル構築方法について説明しています。
ポータルを構築する管理者を対象とした内容です。
- uCosminexus Portal Framework ユーザーズガイド (3020-3-H74)
エンドユーザがポータルを使用するときの操作方法 (ポータルへのログイン方法, ポータル画面のカスタマイズ方法, およびナビゲーションメニューの操作方法) について説明しています。
- 帳票作成機能 EUR EUR 帳票設計 (EUR Form 帳票) (3020-7-482)
EUR Form 帳票を設計する方法について説明しています。また, EUR Form 帳票に埋め込むスクリプトファイルのリファレンスについても説明しています。
- 帳票作成機能 EUR EUR メッセージ (3020-7-485)
EUR Form 帳票設計時に表示されるメッセージについて説明しています。
- 電子フォームシステム EUR Form uCosminexus EUR Form システム設計・管理 (3020-7-491)
EUR Form の概要, 機能, システム設計, およびシステム構築について説明しています。また, トラブルシューティングについても説明しています。

- 電子フォームシステム EUR Form uCosminexus EUR Form サーバプログラム開発 (3020-7-492)
EUR Form 帳票を使用した業務を実現するためのサーバプログラム開発について説明しています。
- 電子フォームシステム EUR Form uCosminexus EUR Form クライアント操作 (3020-7-493)
uCosminexus EUR Form Client を使用して、EUR Form 帳票ファイルにデータを入力して送信するまでの基本的な手順について説明しています。
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)(3020-6-352)
HiRDB の導入およびチューニング方法や、HiRDB システムの設計方法について説明しています。
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム定義 (Windows(R) 用) (3020-6-353)
HiRDB のシステム定義について説明しています
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 UAP 開発ガイド (3020-6-356)
HiRDB で UAP を開発、実行する方法について説明しています。
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 SQL リファレンス (3020-6-357)
HiRDB の操作に使用する SQL の文法について説明しています。
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 メッセージ (3020-6-358)
HiRDB が出力するメッセージについて説明しています。

付録 I.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名を次のように表記しています。

製品名	表記
Hitachi Business Logic - Container 2	BLC
Hitachi Business Logic - Container - Script Generator	BLSG
uCosminexus Service Coordinator Interactive Workflow	CSCIW
EUR : イーユーアール Form Client	EUR Form Client
uCosminexus EUR : イーユーアール Form Service	EUR Form Service
HiRDB/Parallel Server Version 8 HiRDB/Single Server Version 8	HiRDB
Hitachi Network Objectplaza Trace Library	HNTRLib
Java™	Java
JDK™	JDK

製品名	表記
Oracle 10g	Oracle
uCosminexus Portal Framework	Portal Framework
uCosminexus Application Server Standard	uCosminexus Application Server
uCosminexus Developer Professional	uCosminexus Developer

uCosminexus Application Server および uCosminexus Developer を総称して Cosminexus と表記することがあります。

付録 1.3 英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	英字での表記
CORBA	<u>C</u> ommon <u>O</u> bject <u>R</u> equest <u>B</u> roker <u>A</u> rchitecture
DB	<u>D</u> ata <u>b</u> ase
DTD	<u>D</u> ocument <u>T</u> ype <u>D</u> efinition
EAR	<u>E</u> nterprise <u>A</u> rchive
EIS	<u>E</u> nterprise <u>I</u> nformation <u>S</u> ystem
EJB	<u>E</u> nterprise <u>J</u> ava <u>B</u> eans TM
GC	<u>G</u> arbage <u>C</u> ollection
GUI	<u>G</u> raphical <u>U</u> ser <u>I</u> nterface
HTML	<u>H</u> yper <u>T</u> ext <u>M</u> arkup <u>L</u> anguage
JAAS	<u>J</u> ava TM <u>A</u> uthentication and <u>A</u> uthorization <u>S</u> ervice
JAR	<u>J</u> ava TM <u>A</u> rchive
JDK	<u>J</u> ava TM <u>D</u> evelopment <u>K</u> it
JIS	<u>J</u> apanese <u>I</u> ndustrial <u>S</u> tandards
JSP	<u>J</u> ava <u>S</u> erver <u>P</u> ages TM
OS	<u>O</u> perating <u>S</u> ystem
UAP	<u>U</u> ser <u>A</u> pplication <u>P</u> rogram
URL	<u>U</u> niform <u>R</u> esource <u>L</u> ocator
UTF	<u>U</u> CS <u>T</u> ransformation <u>F</u> ormat
WAR	<u>W</u> eb <u>A</u> rchive
Web	World Wide <u>W</u> eb
XML	<u>E</u> xtensible <u>M</u> arkup <u>L</u> anguage

付録 I.4 常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは、常用漢字を使用することを基本としていますが、次に示す用語については、常用漢字以外の漢字を使用しています。

宛先（あてさき） 個所（かしよ） 進捗（しんちよく） 貼り付け（はりつけ） 汎用（はんよう） 稟議（りんぎ）

付録 I.5 KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）、1MB（メガバイト）、1GB（ギガバイト）、1TB（テラバイト）はそれぞれ $1,024$ バイト、 $1,024^2$ バイト、 $1,024^3$ バイト、 $1,024^4$ バイトです。

付録 J 用語解説

(英字)

BLC

ワークフローに対応する帳票アプリケーションの開発と実行を支援するソフトウェアです。JSP 形式の帳票アプリケーションを自動生成する帳票ジェネレータ (BLSG) 機能と、帳票アプリケーションを実行する BLC 実行環境機能で構成されています。

CSCIW

対話ワークフローを実現するための機能を提供するソフトウェアです。対話ワークフローの実行環境を構築・運用したり、ワークフロー上の案件を Web ブラウザから操作したりする機能を提供しています。

CSCIWManagementServer

アプリケーションサーバでの CSCIW の初期化・終了処理を提供している J2EE アプリケーションです。

Eclipse

Eclipse プロジェクト (eclipse.org) が提供するオープンソースの統合開発環境です。ソースコードの編集支援機能やデバッグ機能など、アプリケーションの開発効率を向上させる各種機能を備えています。

EUR Form 帳票

EUR Form で BLC 連携用帳票として生成した帳票です。EUR Form 帳票定義ファイル (*.efs) から生成したファイルです。ファイルの拡張子は efd です。

EUR Form 帳票定義ファイル

バックグラウンドや配置した帳票コントロールの情報など、EUR Form 帳票の定義情報を保存したファイルです。ファイルの拡張子は efs です。

EUR Form 帳票名

EUR Form 帳票を格納フォルダ内でユニークになるように識別する名称です。EUR Form 帳票を EUR Form 帳票ファイル名で管理する場合は、指定は任意です。

EUR Form 連携帳票

EUR Form 帳票の送信ユニット情報の一覧表を入力として帳票ジェネレータ (BLSG) で生成した、EUR Form 帳票を表示するための連携帳票です。

Management Server

Cosminexus の運用管理を実現するサーバプログラムです。複数のマシンに配置されたアプリケーションサーバの運用管理を一括で実行できます。

MyEclipse

Java アプリケーションの開発環境です。Eclipse でアプリケーションを開発するときに使用するブ

ログインがまとめられています。MyEclipse を使用するとアプリケーションの作成、J2EE サーバへのアプリケーションのデプロイ、J2EE サーバの起動・停止などができます。

Server Plug-in

アプリケーションの実行環境および運用環境で使用する Eclipse 用のプラグインです。Server Plug-in を組み込むことで、アプリケーションを実行するときに必要なプロパティの設定や、論理サーバの起動、停止などの一連の操作が Eclipse 上で実行できるようになります。

Smart Composer 機能

Cosminexus を使用してアプリケーションサーバを構築する場合に、一般的な 3 階層モデルのアプリケーションサーバのシステムを、一括で構築および運用できるよう支援する機能です。

uCosminexus Application Server

Cosminexus の実行環境を構築する基盤製品です。

uCosminexus Developer

Cosminexus の開発環境を提供する製品です。アプリケーションの開発からデバッグまでを支援します。

uCosminexus Interactive Workflow Development Plug-in

ビジネスプロセスを定義、管理および運用するビジネスプロセス管理ツールのことです。

uCosminexus Portal Framework

企業ポータルを構築および運用するフレームワークです。企業の内外にある多種多様なコンテンツまたは業務システムの情報を集約する機能や、集約した情報をユーザー一人一人に対して最適な情報になるように組み合わせて提供する機能などを備えています。

Web サーバ

Web ブラウザからのリクエスト受信および Web ブラウザへのデータ送信に関連する処理を実行するプログラムです。

(ア行)

案件

ビジネスプロセスの開始から終了までを一つの単位とする、業務の実例（ビジネスプロセスインスタンス）のことです。

案件運用操作

案件の運用状況を監視したり、必要に応じて案件、業務ステップ、および作業の状態を操作したりする J2EE アプリケーションです。

案件名

同一ビジネスプロセスの案件を識別するための識別子です。ユーザが設定することができます。案件キーともいいます。

(カ行)

簡易セットアップツール

プログラムの動作確認や開発で利用するシステムの一括構築および一括削除を実現するツールです。前提ソフトウェアのセットアップや、Web 帳票アプリケーションのデプロイ / 開始などが一括ででき、サンプルプログラム「販売契約稟議 EUR」および「かんたん帳票のサンプル業務」が実行できる状態になります。

業務ステップ

ビジネスプロセス定義の構成要素の一つです。業務の状態を表し、ある状態での作業の集合として定義されます。

組み込みデータベース

uCosminexus Developer で標準提供されているデータベースです。アプリケーションの開発やテストで使用できます。

(サ行)

作業

業務ステップ中に定義する業務処理の単位です。

送信ユニット

EUR Form 帳票に入力され、指定された送信先に送信されるデータです。

送信ユニット情報の一覧

EUR Professional Edition - Form Option で出力した一覧表です。

(タ行)

帳票定義

帳票の内容を帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で定義したものです。

帳票ファイル

帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で生成した、帳票アプリケーションの JSP ファイルです。

(ハ行)

ビジネスプロセス (BP)

業務を実行するための作業の流れです。

ビジネスプロセス定義

業務の流れ (ビジネスプロセス) をビジネスプロセス管理で定義したものです。BLC では、帳票ジェネレータ (BLSG) 機能で帳票アプリケーションを作成する際に、ビジネスプロセス定義の情報

(プロセス定義情報)を入力する必要があります。

振り分けルール

作業者を決定するためのルールです。作業者は、ビジネスプロセス定義の各作業に指定した振り分けルールを適用することで決定します。

分岐ノード

制御ノードの一つです。次の業務ステップとしてあらかじめ定義された複数の業務ステップから、条件に従って一つの業務ステップを選択し、開始します。

(ラ行)

リソースアダプタ

J2EE Connector Architecture によって、J2EE サーバと EIS を接続するための接続機能です。

(ワ行)

ワーク管理

CSCIW の中でビジネスプロセス定義に従い遷移を行うワークフローのエンジンのことです。

ワーク管理システム

業務の進行を「完成に至るまでの業務の状態変化」としてとらえ、状態変化を統括的に管理することで業務の進行状況を管理する、ワークフロー型汎用アプリケーションの構築基盤です。CSCIW で構築したワークフローシステムを指します。

ワーク管理データベース

CSCIW が扱う情報を管理するデータベースです。

ワークフロー定義

ビジネスプロセス定義および振り分けルール定義の総称です。

索引

B

BLC〔用語解説〕 318
BLC.BLCproperties の作成と編集 62
BLCcommand.BLCproperties の作成および編集 63
BLC サンプル帳票 217
BLC テーブルの作成 (HiRDB) 29
BLC テーブルの作成 (Oracle) 37
BLC テーブルの作成 (SQL Server) 45
BLC のサンプルデータ 208
BLC の設定 62
BLC プロパティファイル 62

C

cmxdefcombinedmodel.xml 68
[Connector 属性] タブでの設定値 (HiRDB) 146
[Connector 属性] タブでの設定値 (Oracle) 148
[Connector 属性] タブでの設定値 (SQL Server) 150
Connector 属性ファイル (HiRDB) 231
Connector 属性ファイル (Oracle) 236
Connector 属性ファイル (SQL Server) 240
Connector 属性ファイルの取得 (HiRDB) 81
Connector 属性ファイルの取得 (Oracle) 86
Connector 属性ファイルの取得 (SQL Server) 91
Connector 属性ファイルの設定値 (HiRDB) 82
Connector 属性ファイルの設定値 (Oracle) 87
Connector 属性ファイルの設定値 (SQL Server) 92
Connector 属性ファイルの反映 (HiRDB) 83
Connector 属性ファイルの反映 (Oracle) 88

Connector 属性ファイルの反映 (SQL Server) 93
Connector 属性ファイルの編集 (HiRDB) 82
Connector 属性ファイルの編集 (Oracle) 87
Connector 属性ファイルの編集 (SQL Server) 92
CSCIW〔用語解説〕 318
CSCIWManagementServer 96
CSCIWManagementServer〔用語解説〕 318
CSCIWManagementServer アクセス用環境の設定 79
CSCIWManagementServer のインポート 97
CSCIWManagementServer のインポート (Server Plug-in) 153
CSCIWManagementServer の開始 98
CSCIWManagementServer の開始 (Server Plug-in) 154
CSCIWManagementServer の設定 96
CSCIWManagementServer の設定 (開発環境) 153
CSCIWManagementServer の属性ファイル 245
CSCIWManagementServer の属性ファイルの取得 97
CSCIWManagementServer の属性ファイルの反映 98
CSCIWManagementServer の属性ファイルの編集 98
CSCIWManagementServer のプロパティの設定 (Server Plug-in) 153
CSCIW の環境構築ファイルの編集 60
CSCIW のコマンド用環境設定ファイルの編集 59
CSCIW の実行環境の初期化 60
CSCIW の設定 66
CSCIW のセットアップ 58
CSCIW のセットアッププロパティファイルの編集 58

E

EAR プロジェクトの作成 136
 EAR プロジェクトのプロパティの設定値 136
 Eclipse〔用語解説〕318
 Eclipse の起動と設定 128
 EUR Form Client のインストール 105
 EUR Form Service の環境設定ファイルの設定 120
 EUR Form 帳票〔用語解説〕318
 EUR Form 帳票定義ファイル〔用語解説〕318
 EUR Form 帳票名〔用語解説〕318
 EUR Form 連携帳票 115
 EUR Form 連携帳票〔用語解説〕318

H

HiRDB SQL Executer のインストール 22
 HiRDB のインストール 21
 HiRDB の簡易セットアップ 25
 HiRDB の設定 25
 HTTP レスポンス圧縮機能 259

J

[J2EE Server] タブの画面の構成（〔簡易セットアップ - その他の設定〕画面）177
 J2EE サーバの設定 142

M

Management Server〔用語解説〕318
 [Management Server] タブの画面の構成（〔簡易セットアップ - その他の設定〕画面）175
 Management Server の起動 56
 Management Server の自動起動 54
 Management Server の設定 54
 Management Server のセットアップ 54
 Management Server のプロパティファイルの編集 54
 Management Server への接続（開発環境）142

Management Server へのログイン（Server Plug-in）143
 Microsoft SQL Server Management Studio の起動 42
 Microsoft SQL Server Management Studio の終了 44
 MyEclipse〔用語解説〕318

N

Net Configuration Assistant の設定 35

O

Oracle のインストール 22
 Oracle の設定 35

P

Portal Framework の設定 77
 Portal Framework 作業ディレクトリ 118

S

SecurityManager 定義ファイルの設定 75
 Server Plug-in〔用語解説〕319
 Server Plug-in のパースペクティブの表示 142
 Smart Composer 機能 65
 Smart Composer 機能〔用語解説〕319
 Smart Composer 機能の簡易構築定義ファイル 67
 SQL Server の設定 41
 SQL スクリプトファイルの変更内容（HiRDB）28
 SQL スクリプトファイルの変更内容（Oracle）37
 SQL スクリプトファイルの変更内容（SQL Server）44

U

uCosminexus Application Server〔用語解説〕319
 uCosminexus Developer〔用語解説〕319

uCosminexus Interactive Wrokflow
 Development Plug-in [用語解説] 319
 uCosminexus Portal Framework [用語解
 説] 319

W

[Web Server] タブの画面の構成 ([簡易セッ
 トアップ - その他の設定] 画面) 177
 Web アプリケーションの作成 128
 Web アプリケーションの生成 138
 Web サーバ [用語解説] 319
 Web システム定義の作成 67
 Web システムの一括起動 76
 Web システムの稼働状態の確認 77
 Web システムの構築 75
 Web システムの構築の流れ 66
 Web 帳票アプリケーション (webSample)
 の作成 117
 Web 帳票アプリケーションのインポート
 102
 Web 帳票アプリケーションのインポート
 (Server Plug-in) 156
 Web 帳票アプリケーションの開始 104
 Web 帳票アプリケーションの開始 (Server
 Plug-in) 158
 Web 帳票アプリケーションのコピー 130
 Web 帳票アプリケーションの作成 115
 Web 帳票アプリケーションの設定 102
 Web 帳票アプリケーションの設定 (開発環
 境) 156
 Web 帳票アプリケーションの属性ファイル
 251
 Web 帳票アプリケーションの属性ファイルの
 取得 103
 Web 帳票アプリケーションの属性ファイルの
 反映 104
 Web 帳票アプリケーションの属性ファイルの
 編集 103
 Web 帳票アプリケーションのプロパティの設
 定 (Server Plug-in) 157
 Web 帳票アプリケーション用作業ディレクト
 リ 118
 Web プロジェクトの生成 128

Web プロジェクトの設定 132
 Web プロジェクトのプロパティの設定値
 129

あ

宛先の登録 (かんたん帳票のサンプル業務)
 108
 宛先の登録 (販売契約稟議 EUR) 106
 アプリケーションサーバ構築時の設定値一覧
 65
 アプリケーションサーバの構築 65
 アプリケーションサーバの構築の流れ 50
 アプリケーションサーバの設定 53
 案件 [用語解説] 319
 案件運用操作 99
 案件運用操作 [用語解説] 319
 案件運用操作のインポート 100
 案件運用操作のインポート (Server Plug-in)
 155
 案件運用操作の開始 101
 案件運用操作の開始 (Server Plug-in) 156
 案件運用操作の設定 99
 案件運用操作の設定 (開発環境) 154
 案件運用操作の属性ファイル 249
 案件運用操作の属性ファイルの取得 100
 案件運用操作の属性ファイルの反映 101
 案件運用操作の属性ファイルの編集 101
 案件運用操作のプロパティの設定 (Server
 Plug-in) 155
 案件名 [用語解説] 319

い

移行した環境で簡易セットアップツールを利
 用したい場合 205
 移行時の注意事項 (簡易セットアップツ
 ール) 205

え

エラーコードの参照先 267

か

開発環境のインストール 111
 開発環境の構築の流れ 110
 開発環境の設定 114
 [簡易セットアップ-その他の設定]画面の構成 175
 [簡易セットアップ]画面の構成 172
 簡易セットアップ時に出力されるメッセージ 268
 簡易セットアップツール〔用語解説〕320
 簡易セットアップツールが提供する機能 162
 簡易セットアップツール実行時に発生した障害の対策 194
 簡易セットアップツールの起動 171
 簡易セットアップツールの前提条件(システム構築時)165
 簡易セットアップツールの前提条件(システム削除時)188
 簡易セットアップツールの目的 162
 簡易セットアップツールを利用して構築したシステムの設定値 179
 簡易セットアップメッセージログ 203
 簡易セットアップメッセージログの確認(システム構築時)198
 簡易セットアップメッセージログの確認(システム削除時)201
 かんたん帳票のサンプル業務 216

き

起動・開始状態の確認順序 219
 起動順序 222
 業務ステップ〔用語解説〕320
 業務の開発とテスト 159

く

組み込みデータベース〔用語解説〕320

こ

構成ソフトウェア一覧 3
 コントローラ定義ファイルのコピー 77

コンフィグレーションファイルの設定 (JAAS) 54
 コンフィグレーションファイルの設定(統合ユーザ管理フレームワーク)55

さ

作業〔用語解説〕320
 作業ディレクトリの作成 118
 サンプル帳票のコピー 115
 サンプル帳票の作成 115
 サンプル帳票の追加 119
 サンプル帳票ファイルの生成 117
 サンプルデータ(宛先)213
 サンプルデータ(組織およびユーザ)(1)209
 サンプルデータ(組織およびユーザ)(2)210
 サンプルデータ(代行設定)213
 サンプルデータ(帳票管理グループ)212
 サンプルデータ(役職)212
 サンプルデータの格納先 208
 サンプルデータを登録するSQL文の例 213
 サンプルプログラムの実行手順 185
 サンプルユーザの登録(HiRDB)32
 サンプルユーザの登録(Oracle)39
 サンプルユーザの登録(SQL Server)47

し

システム環境変数の設定(CSCIW)58
 システム環境変数の設定(アプリケーションサーバ)53
 システム環境変数の設定(簡易セットアップツール)169
 システム構成(簡易セットアップツール)164
 システム構成例(ディベロッパセット)15
 システム構成例(電子フォームワークフローセット)11
 システム構築の前提条件 6
 システム構築の適用範囲 6
 システム構築の流れ(簡易セットアップツール)165

システム構築の流れ (ディベロッパセット) 16
 システム構築の流れ (電子フォームワークフローセット) 13
 システム構築前の状態に戻す方法 186
 システム削除時に出力された警告メッセージの対処の要否 191
 システムに必要なソフトウェア 3
 システムの構築手順 (簡易セットアップツール) 171
 システムの削除手順 (簡易セットアップツール) 189
 障害からの回復方法 (システム構築時) 198
 障害からの回復方法 (システム削除時) 201
 障害発生時の対処の流れ (簡易セットアップ) 195
 障害要因の特定に必要な情報 196
 初期化されるファイルの一覧 (簡易セットアップツールのアンセットアップ) 189
 申請 (かんたん帳票のサンプル業務) 108
 申請 (販売契約稟議 EUR) 107

す

スキーマの作成 (HiRDB) 28
 スキーマの作成 (SQL Server) 43

せ

セキュリティ構成の設定 (SQL Server) 41
 セキュリティロールの設定
 (CSCIWManagementServer) 96
 セキュリティロールの設定 (Server Plug-in) 155
 セキュリティロールの設定 (案件運用操作) 99
 接続先 Management Server の設定 (Server Plug-in) 142
 接続先リポジトリファイルの編集 77

そ

送信ユニット [用語解説] 320
 送信ユニット情報の一覧 [用語解説] 320
 送信ユニット情報の変更 115

ソフトウェアのインストール (アプリケーションサーバの構築) 51
 ソフトウェアのインストール (簡易セットアップツール) 167
 ソフトウェアのデフォルトのインストール先 (開発環境) 112
 ソフトウェアの分類 (簡易セットアップツール) 165
 ソフトウェアの分類 (ディベロッパセット) 15
 ソフトウェアの分類 (電子フォームワークフローセット) 12

ち

帳票定義 [用語解説] 320
 帳票の登録 (かんたん帳票のサンプル業務) 107
 帳票の登録 (販売契約稟議 EUR) 106
 帳票ファイル [用語解説] 320
 帳票ファイル生成時のエンコードの設定 116

て

ディベロッパセット 2
 データベースサーバの構築の流れ 20
 データベースのインストール 21
 データベースのサービスの起動 24
 データベースの作成 (SQL Server) 42
 データベースの接続 (Oracle) 35
 デバッグ 160
 電子フォームワークフローセット 2

と

統合ユーザ管理機能のインポート 79
 統合ユーザ管理フレームワークのコンフィグレーションファイルの設定 (ログインパスワード) 56

は

バッチファイル (createTables.bat) の編集内容 (HiRDB) 30

バッチファイル (createTables.bat) の編集内容 (Oracle) 38
 バッチファイル (createTables.bat) の編集内容 (SQL Server) 46

ひ

ビジネスプロセス (BP)〔用語解説〕 320
 ビジネスプロセス定義〔用語解説〕 320
 ビジネスプロセス定義の登録 125
 表領域の作成 (Oracle) 36

ふ

ファイルグループの作成 (SQL Server) 43
 フィルタリングによる HTTP レスポンスの圧縮 259
 フォルダ構成 (Web 帳票アプリケーションを含む Web プロジェクト) 131
 フォルダ構成 (Web プロジェクト) 130
 振り分けルール〔用語解説〕 321
 振り分けルール定義の登録 126
 プログラム開発環境 162
 プログラム開発環境の設定 187
 プログラム動作確認環境 162
 プログラム動作確認環境の運用 185
 プログラムとサービスの起動順序 219
 プログラムとサービスの停止順序 225
 プロトコルの確認 (SQL Server) 41
 分岐ノード〔用語解説〕 321

ほ

ポータル画面の設定変更 186
 ポータル動作ファイルの設定 78
 ポートレットの作成 (blcmenu ポートレット・blcworkflow ポートレット) 118
 ポートレットのサンプルファイルのコピー 118
 ポートレットのデプロイ (blcmenu ポートレット・blcworkflow ポートレット) 119
 ポートレット配置情報ファイルのコピー 78

め

メッセージの形式 268
 メモリ使用量の測定方法 228

ゆ

ユーザのサンプルデータ 208
 ユーザの登録 (HiRDB) 27
 ユーザの登録 (Oracle) 36
 ユーザの登録 (SQL Server) 42

り

リソースアダプタ〔用語解説〕 321
 リソースアダプタのインポート (HiRDB) 81
 リソースアダプタのインポート (Oracle) 86
 リソースアダプタのインポート (Server Plug-in) 144
 リソースアダプタのインポート (SQL Server) 91
 リソースアダプタの開始 (HiRDB) 85
 リソースアダプタの開始 (Oracle) 90
 リソースアダプタの開始 (Server Plug-in) 152
 リソースアダプタの開始 (SQL Server) 95
 リソースアダプタの接続テスト (HiRDB) 85
 リソースアダプタの接続テスト (Oracle) 90
 リソースアダプタの接続テスト (Server Plug-in) 152
 リソースアダプタの接続テスト (SQL Server) 95
 リソースアダプタの設定 81
 リソースアダプタの設定 (開発環境) 144
 リソースアダプタのデプロイ (HiRDB) 84
 リソースアダプタのデプロイ (Oracle) 89
 リソースアダプタのデプロイ (Server Plug-in) 145
 リソースアダプタのデプロイ (SQL Server) 94
 リソースアダプタのプロパティの設定 (Server Plug-in) 146

リポジトリファイル (Portal Framework)
264

わ

ワーク管理〔用語解説〕 321
ワーク管理システム〔用語解説〕 321
ワーク管理データベース〔用語解説〕 321
ワーク管理テーブルの作成 (HiRDB) 28
ワーク管理テーブルの作成 (Oracle) 36
ワーク管理テーブルの作成 (SQL Server)
44
ワークフロー定義〔用語解説〕 321

ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内

1. マニュアル情報ホームページ

ソフトウェアマニュアルの情報をインターネットで公開しています。

URL <http://www.hitachi.co.jp/soft/manual/>

ホームページのメニューは次のとおりです。

マニュアル一覧	日立コンピュータ製品マニュアルを製品カテゴリ、マニュアル名称、資料番号のいずれかから検索できます。
CD-ROMマニュアル	日立ソフトウェアマニュアルと製品群別CD-ROMマニュアルの仕様について記載しています。
マニュアルのご購入	マニュアルご購入時のお申し込み方法を記載しています。
オンラインマニュアル	一部製品のマニュアルをインターネットで公開しています。
サポートサービス	ソフトウェアサポートサービスお客様向けページでのマニュアル公開サービスを記載しています。
ご意見・お問い合わせ	マニュアルに関するご意見、ご要望をお寄せください。

2. インターネットでのマニュアル公開

2種類のマニュアル公開サービスを実施しています。

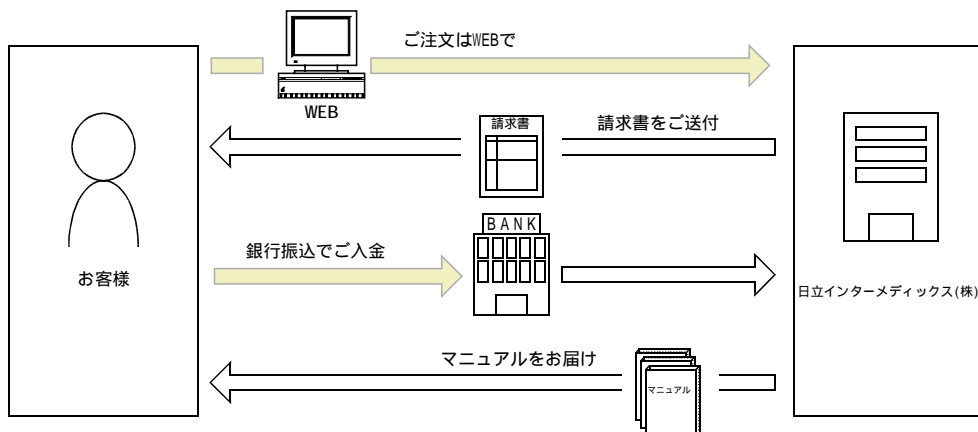
(1) マニュアル情報ホームページ「オンラインマニュアル」での公開

製品をよりご理解いただくためのご参考として、一部製品のマニュアルを公開しています。

(2) ソフトウェアサポートサービスお客様向けページでのマニュアル公開

ソフトウェアサポートサービスご契約のお客様向けにマニュアルを公開しています。公開しているマニュアルの一覧、本サービスの対象となる契約の種別などはマニュアル情報ホームページの「サポートサービス」をご参照ください。

3. マニュアルのご注文



マニュアル情報ホームページの「マニュアルのご購入」にアクセスし、お申し込み方法をご確認のうえWEBからご注文ください。ご注文先は日立インターメディアックス(株)となります。

ご注文いただいたマニュアルについて請求書をお送りします。

請求書の金額を指定銀行へ振り込んでください。

入金確認後7日以内にお届けします。在庫切れの場合は、納期を別途ご案内いたします。